令和5年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業

協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に関する調査研究

報告書

令和6(2024)年3月

一般社団法人 全国食支援活動協力会

# 目次

目次・・・	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		•••••	•••••		1
第1章	調査研究事業	業の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・				3
1 事	幕の目的・・・・				• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	3
2 事	業の内容・・・・					8
第2章	事例調査①	(ヒアリング調査)・・	•••••			20
1	調査の概要	<u>.</u>		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		20
2	調査の結果	<u> </u>		• • • • • • • • • •		23
	事例 1	青森県五所川原市・・・			• • • • • • • • • •	23
	事例 2	福岡県北九州市	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •			30
	事例3	鳥取県鳥取市・・・・・・・	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •	•••••	• • • • • • • • • • • •	38
	事例調査②	(アンケート調査)・・				46
1	調査の概要	<u>.</u>		• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		46
2	アンケート	調査から見えてきたこ	٤	• • • • • • • • • •		••••47
笠 2 幸	711.收入「仚	<b>~</b> ○ +ゝトシ フ →² = ↓ →		<b>π版会」</b> の	3 <b>6</b> / <del>L</del>	F.1
		でつながるプラットフ  的・・・・・・				
1						
2	開催概要・		•••••	• • • • • • • • • • • • • • • • • • • •		51
3	プログラム	<b>,</b>			• • • • • • • • • •	52
Δ	参加者アン	·ケートの結里・・・・・・・				55

第4	章 成果報告会「食でつながるプラットフォームづくり全国研修会」の開催・・・・・・64	
	1 研修会の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・64	
	2 開催概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	3 プログラム・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	4 参加者アンケートの結果・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
第5	章「食」でつながる支援プラットフォーム形成ガイドブックの作成・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	1 作成の目的・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
	2 内容・・・・・・・・・71	
【資	<b>F</b> 料集】	
1	アンケート調査票(行政・社会福祉協議会向け)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	
2	アンケート調査票 (活動団体向け)資料-014	
3	アンケート調査票 集計結果一覧	
4	研修会チラシ (鳥取会場) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料-043	
5	研修会チラシ (北九州会場) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料-045	
6	研修会チラシ (五所川原会場) ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料-047	
7	研修会資料(鳥取会場)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料-049	
8	研修会資料(北九州会場)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・資料-077	
9	研修会資料 (五所川原会場)	
10	成果発表会チラシ(オンライン)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	

#### 第1章

# 調査研究事業の概要

## 1 事業の目的

#### 1) 事業の企画趣旨

令和4年度に本会が実施した事業「生活支援コーディネーターによる住民主体の『食』関連生活支援サービスの開発支援方策と持続可能な事業実施・展開に関する調査研究」でも調査・提示したように、高齢者による食に関連する活動は、生活支援、介護予防、コミュニティ創出において多面的な価値・効用をもたらすものである。その一方、高齢者を主体とした活動は担い手不足/高齢化や資金不足を課題としており、その活動継続が困難な状況にあることも調査より明らかとなった。地域における食活動の継続には、生活支援コーディネーター及び第1層・第2層協議体を中心とした活動環境の整備が重要だが、実際には地域資源の把握・整理にとどまり、体制整備まで進んでいない地域が多い。これには、地域の企業や協同組合、商工会など福祉分野に限らない多様な機関・団体や、地域外あるいは全国的なネットワークや仕組みとの有機的な連携の構築が進んでいないことが要因の一つだと考える。本事業では、生活支援コーディネーターがプラットフォーム(協議体を含む)形成に向けたコーディネート力を発揮できるようになることを目的に、モデルとして取り上げた地域において、食活動の継続を支援するための体制整備に至るプロセス、とくに多様な機関・団体・ネットワーク等との関係構築のプロセスを中心に調査・分析し報告書にまとめるとともに、生活支援体制整備に関わる方を対象に成果発表やガイドブック作成という形で報告する。

## 2) 食支援プラットフォームとは

本研究事業で形成を目指す食支援プラットフォームについて解説する。

#### (1)食支援プラットフォーム形成の背景と意義

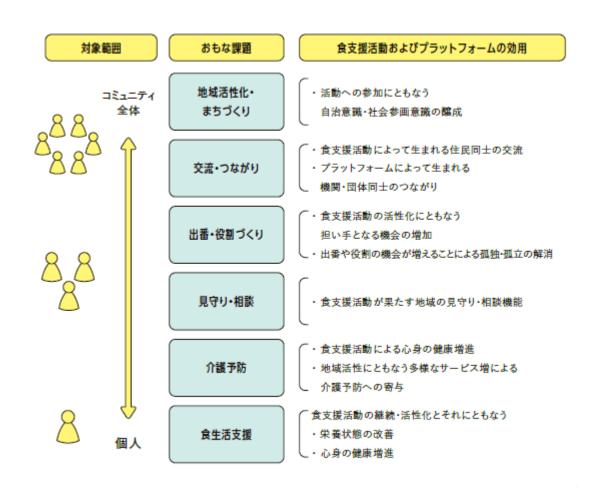
地域で実施される「食支援活動」は、孤独・孤立を予防し互助を促すとともに生活支援、介護予防の効果をもち、その価値には多面性がある。こども食堂や多世代型地域食堂が広がりをみせる一方、高齢者を対象とした活動は担い手不足や継続のためのリソースの不足を課題としており、多くの地域で活動継続が危ぶまれる状況にある。生活支援体制整備が期待される協議体においても、活用する資源の多くが地域内にとどまり、多様なアイデアが活動に生かされにくい現状がある。

支え合いの活動創出に関わる行政所管・社協・生活支援コーディネーター等がその力を発揮して活動を活性化していくためには、多様な分野からの資源調達を図っていく必要がある。福祉/保健/まちづくり等の行政関連所管間の価値観の共有や、食支援活動団体同士の連携の促進、さらに域外や他分野のリソースとのつながりを促すしくみの構築=プラットフォーム構築が課題解決策のひとつと考える。特に、企業や協同組合、商工会など福祉分野に限らない多様な機関・団体や、地域外の広域ネットワークとの有機的な連携がカギとなると考える。

そこで当会では、「食支援活動」(配食サービス・会食会・地域食堂・こども食堂・フードパントリー、食育活動など)の創出と地域展開に向けた環境整備のために、人・場・モノ/資金、情報等の資源の開拓・活用や循環を目的とした機能をもつ会議体(協議体)を「食支援プラットフォーム」と位置づけ、社会課題の解決を目指す。

食支援プラットフォームが解決を目指す社会課題としては、狭義の意味では個人の食生活支援が活性 化・継続されることにより栄養状態の改善、心身の健康へつながり、担い手の増加へ寄与する。 また、活動が活性化されると担い手となる機会も増え、地域において出番や役割が増えることにより 孤独孤立の解消へつながり、介護予防にも寄与する。

広義の意味では、自発的な活動を通じて支え合いが広がり暮らし続けられる地域づくりに寄与できる。そこから自治意識、社会参画意識が醸成され、助けあいのあるまちになる。課題が見える化されることで多様なサービスが増え、介護予防にもつながる。これらがプラットフォームとなることで参画している組織にとっても良い循環が起こり得ると考える。



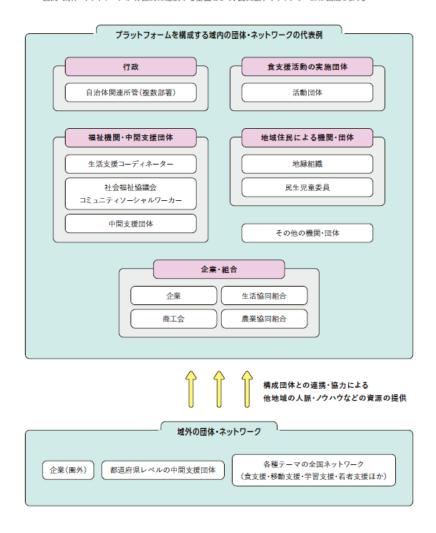
## ②食支援プラットフォームの構成案

域内の構成団体、メンバー案

- ・自治体関連所管、生活支援コーディネーター、社会福祉協議会コミュニティソーシャルワーカー、 活動団体、地縁組織、民生児童委員、中間支援団体、商工会、企業、生協、農協等
- 域外の構成団体、メンバー案
- ・他自治体、福祉分野に限らない機関・団体、広域ネットワーク等(企業、県レベルの中間支援、テーマ別の全国ネットワーク等)

#### プラットフォームの構成メンバー相関図

食支援プラットフォームは、福祉分野に限らないさまざまな分野の機関・団体などによって構成されます。 また、地域外の機関・団体や広域ネットワークとの連携も重要な要素です。下図に示したように、多様な 機関・団体・ネットワークが有機的に連携する基盤として、食支援プラットフォームは機能します。



#### ③食支援プラットフォームに期待される効果

#### (1)活動団体

食料調達による活動の継続・発展へつながる担い手の増加、新たな課題解決のためのアクションへつながる。

#### (2)行政

財源が枯渇・縮小している中でも、地域の人が自発的に参画する活動が広がることにより地域課題の解決へつながる。また、縦割りの現状を解消し、部署を横断した地域課題の解決に取り組むことができる。

## (3)社会福祉協議会

多様なリソースにつながることにより、課題解決の手法が増え、地域活動が活性化される。また、 サロン活動の発展・継続・担い手の発掘へつながる。

#### (4)企業など

SDGS に関する取り組みが求められる中、地域貢献のハードルがさがり、物品のみならずノウハウを地域づくりへ活かすことができる。地域で活動を継続できる。

# 食支援プラットフォームに期待される効果

食支援プラットフォームに参画することで、構成団体にとってもよい効果・循環が起こることが考えられます。

#### 活動団体·地域

- 活動継続・安定のためのノウハウ・ 支援者獲得
- 安定的な食材の確保
- 担い手の増加
- 活動リソースの充実にともなう 新たなアクションの創出

# 社会福祉協議会

地域課題に取り組む団体が連携する ことによる、多様な福祉ニーズの充足

# 行政

- 部署を横断した協働や民間団体との 連携による、地域課題の解決に向けた 協働の促進
- 活用できる社会資源の拡充

#### 企業など

- 地域課題を把握した、 自社の強みを生かせる地域づくりへの参加
- 商材、人的資源、ノウハウなどの貢献
- 活動との適切なマッチング

④食支援プラットフォーム形成・醸成のモデル

立ち上げ機関は行政・社会福祉協議会の所管、中間支援機関、地域団体の連絡組織等を想定。 下記に形成と醸成のプロセスを記載する。

(1)現状の確認 (課題の把握)

活動団体へのアンケートやヒアリング調査の実施、行政・社会福祉協議会の福祉計画の確認等を行い、課題を把握する。

(2)仕組みづくり(会議体・協議体の設置)

お互いの情報交換(現場視察含む)を行い、地域資源の可視化を試みる。

(3)課題に応じた協議・参加の場づくり

課題の共有や解決方法の検討をする場をつくり、課題に応じた協議を行う。

(4)基盤の醸成(資源の開拓・活用と循環)

資源の開拓・活用と循環を推進するために、ステークホルダーとなりうる多様な関係者に参画を呼び 掛け、連絡会・イベント・会議等を通して情報共有を図る。

# 食支援プラットフォーム形成・醸成の実践モデル

行政・社協の所管、地域団体の連絡組織などが、次のようなプロセスで形成・醸成することを想定しています。

# 現状の確認



#### 課題の把握

- 活動団体へのアンケートやヒアリング調査の実施
- 行政・社協の福祉計画を確認

#### 仕組みづくり



#### 会議体(協議体)の設置

- 情報交換(現場視察含む)や地域資源の可視化を試みる
- 福祉分野に限らない機関・団体や広域ネットワークも参画

# 課題に応じた協議・参加の場づくり





# 基盤の醸成

#### 課題の共有/解決策の検討

● 抽出された課題を共有し、向かうべき方向性や解決策を協議する

#### 資源の開拓・活用と循環

- ステークホルダーとなりうる多様な関係者に参画を呼び掛け、 連絡会・イベント・会議などを通じて情報共有を図る
- 域内外のステークホルダーが協力関係を構築し、 既存資源の運用や資源循環を促すことがポイント

# 2 事業の内容

## 1) 研究委員会、作業部会の設置

自治体、社会福祉協議会、生活支援コーディネーター、有識者、食関連の生活支援サービス提供団体からなる研究委員会を設置する。研究事業全体の方針・計画の確定、調査の企画・方針の策定、調査の実施・結果の分析、および報告書内容の検討を行う研究委員会を6回実施した。

また事例検討、調査の設計解析、研修会プログラムの検討のために作業部会を6回実施した。

# (1) 研究委員会・委員

# 第1回研究委員会

日時:6月26日(月)10:00~12:00

場所:飯田橋レインボービル 2B会議室(東京都新宿区)、Zoom

内容:・事業のねらい・概要

・調査対象活動について

・ヒアリングについて

#### 第2回研究委員会

日時:7月24日(月)18:00~20:00

場所:Zoom

内容:・訪問調査の報告

・ヒアリング内容の検討

・調査地の選定について

# 第3回研究委員会

日時:8月21日(月)10:00~12:00

場所:Zoom

内容:・訪問調査の報告

・研修会企画案の検討

#### 第4回研究委員会

日時:10月10日(火)10:00~12:00

場所:Zoom

内容:・訪問調査の報告

・研修会企画案の検討

#### 第5回研究委員会

日時:11月8日(水)19:00~20:30

場所:Zoom

内容: · 事業概略図、目次素案

・地域版研修会について

・東京研修会について

#### 第6回研究委員会

日時:2月7日(水)17:00~18:00

場所:Zoom

内容:・研修会の実施報告

・手引書 事例集についての共有、報告

#### <研究委員会委員>

◎委員長	内藤 佳津雄	日本大学文理学部	数 揺	(注 ) 理車	)
──安貝女	77.膝 1土/丰/旺	口个八子又垤子心 ?	3人7人	【広八埕事	)

委 員 秋山 由美子 特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 理事(外部委員)

委員 荒井 崇宏 稲城市福祉部高齢福祉課高齢福祉係 係長(外部委員)

委 員 石田 惇子 一般社団法人全国食支援活動協力会 代表理事

委員 日下 直和 社会福祉法人香川県社会福祉協議会 事務局長(外部委員)

委 員 近藤 博子 一般社団法人ともしび at だんだん 代表理事(外部委員)

委員 清水 洋行 千葉大学大学院人文科学研究院 教授(法人理事)

委 員 隅田 耕史 特定非営利活動法人フェリスモンテ 事務局長(法人理事)

委員 高橋 良太 社会福祉法人全国社会福祉協議会地域福祉部 部長(外部委員)

委 員 田中 将太 琉球大学人文社会学部 専任講師(法人理事)

委員中島智人 産業能率大学経営学部教授(法人監事)

委 員 原田 晃樹 立教大学コミュニティ福祉学部 教授(外部委員)

委 員 目﨑 智恵子 高崎市第1層生活支援コーディネーター(外部委員)

主管課:高崎市福祉部長寿社会課

委 員 川口 寿弘 鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター所長(外部委員)

委員明石卓也 北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課長

委 員 平山 博文 社会福祉法人五所川原市社会福祉協議会事務局長

委 員 平野 覚治 一般社団法人全国食支援活動協力会 専務理事

#### (2) 作業部会・作業部会委員

第1回作業部会

日時:7月7日(金)18:00~20:00

場所:Zoom

内容:・ヒアリング調査内容の確認

・今後のヒアリング候補について

第2回作業部会

日時:7月26日(木)18:00~19:30

場所:Zoom

内容:・ヒアリング調査報告

・今後のヒアリング候補について

第3回作業部会

日時:9月1日(水)9:30~11:30

場所:Zoom

内容:・ヒアリング調査報告

・今後のヒアリング候補について

・研修会企画について

第4回作業部会

日時:9月6日(水)10:00~12:00

場所:Zoom

内容:・ヒアリング調査報告

・今後のヒアリング候補について

・研修会企画について

第5回作業部会

日時:10月23日(月)18:00~19:30

場所:Zoom

内容:・ヒアリング調査報告

・今後のヒアリング候補について

・研修会企画について

・事業概要概略図について

第6回作業部会

日時:12月13日(水)18:30~20:00

場所:Zoom

内容:・研修会の実施内容

・手引書、事例集についての協議

#### <作業部会委員>

〇部会長 平野 覚治 一般社団法人全国食支援活動協力会 専務理事

委 員 清水 洋行 千葉大学大学院人文科学研究院 教授(法人理事)

委 員 中島 智人 産業能率大学経営学部 教授(法人監事)

委 員 原田 晃樹 立教大学コミュニティ福祉学部 教授(外部委員)

委 員 目﨑 智恵子 高崎市第1層生活支援コーディネーター(外部委員)

主管課:高崎市福祉部長寿社会課

委員 田中将太 琉球大学人文社会学部 専任講師(法人理事)

# 2) 事例調査(第2章)

#### ①ヒアリング調査

#### (1) ヒアリング事例の選定

食活動の継続を支えるプラットフォームを形成している、あるいはプラットフォーム形成や拡張を 試みている地域をモデル事例として選定した。

モデルとして取り上げた3地域において、食活動の継続を支援するための体制整備に至るプロセス、とくに多様な機関・団体・ネットワーク等との関係構築のプロセスのヒアリング調査を実施した。

#### (2) ヒアリングの概要

先進的に生活支援コーディネーターと協議体が食活動の継続を支えるプラットフォームを形成している、あるいはプラットフォーム形成や拡張を試みている地域の体制整備の過程やそれにより得たリソースとその活用について調査を行った。

#### ①調査実施地域

鳥取県鳥取市、福岡県北九州市、青森県五所川原市

#### ②調査対象

- ・自治体高齢部局の生活支援体制整備事業担当者 (施策担当者)
- ・第1層生活支援コーディネーター

(地域で食支援活動事業を推進する担当者を統括する者)

- ・第2層生活支援コーディネーター(地域で食支援活動事業を推進する担当者)
- ・食支援プラットフォーム担当者
- ・食支援活動団体の代表者、連携企業

#### ③調査項目

- ・地域の課題
- ・生活支援体制整備の状況
- ・食支援活動の状況
- ・住民活動の状況
- ・活用可能なアセット等地域の連携体制

# ④訪問調査地・日時・応対者等

# [1] 鳥取県鳥取市

日時	団体	応対者	調査担当
2023 年	ロートリー   ロートリー   ロートリー     ロートリー     ロートリー     ロートリー   ロートリ	川口寿弘氏	清水委員
7月25日	No. Control of the second seco	7,11,17,3,2,20	中島委員
オンライン			田中委員
			平野委員
			谷山
			小嶋
2023 年	・鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター	川口寿弘氏	中島委員
8月7日	・鳥取市地域福祉課	山内健氏	目﨑委員
	・鳥取市長寿社会課	橋本渉氏	平野委員
	(同上)	増田和人氏	谷山
	・鳥取市社会福祉協議会支え合い支援課	松本美智恵氏	小嶋
	(同上)	西尾宏美氏	
	(同上)	株本裕成氏	
2023 年	社会福祉法人鳥取福祉会	松下稔彦氏	川口委員
8月8日		坪上徹雄氏	平野委員
		上根拓也氏	谷山
		山本茉歩氏	小嶋
	社会福祉法人新温泉町社会福祉協議会	小南かおる氏	
		平澤佐知子氏	
2023 年	   一般社団法人鳥取県トラック協会	中山知則氏	平野委員
10月12日		中澤和也氏	谷山
		川瀬亮彦氏	
	(同上)	永田敦美氏	
	・鳥取県生活協同組合、	岡田安弘氏	
	・鳥取県隣保館連絡協議会	大門康裕氏	
	・社会福祉法人鳥取福祉会	山本茉歩氏	
	  ・労働者協同組合ワーカーズコープ·センター事業団	福安潤一氏	
	・NPO 法人地域共生とっとり	竹本匡吾氏	
	・鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター	川口寿弘氏	
	・麒麟のまち地域食堂ネットワーク	山根恒氏	
	・有限会社大塚運送	大塚茜氏	
	・鳥取環境大学	門木秀幸氏	

	・鳥取大学	菰田レエ也氏	
	・鳥取県循環型社会推進課	尾川成彰氏	
2023 年	・鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター	川口寿弘氏	平野委員
10月13日	・鳥取市河原人権福祉センター	大門康裕氏	谷山
	· 社会福祉法人鳥取県社会福祉協議会	川瀬亮彦氏	
	(同上)	永田敦美氏	
	· 社会福祉法人鳥取市社会福祉協議会	松本美智恵氏	
	· 社会福祉法人新温泉町社会福祉協議会	平澤佐知子氏	
	(同上)	小松歩未氏	

# [2]福岡県北九州市

日時	団体	応対者	調査担当
2023 年	北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課	明石卓也氏	清水委員
7月12日			田中委員
オンライン			平野委員
			谷山
			小嶋
2023 年	北九州市保健福祉局地域福祉部地域支援担当課	古野由美子氏	清水委員
7月18日			原田委員
			田中委員
			平野委員
			谷山
			小嶋
2023 年	北九州市食生活改善推進員協議会	小畑由紀子氏	清水委員
7月19日			原田委員
	NPO 法人フードバンク北九州ライフアゲイン	原田昌樹氏	田中委員
			平野委員
	北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課	明石卓也氏	谷山
	社会福祉法人北九州市社会福祉協議会地域福祉部	平野謙太氏	小嶋
	クラレイ株式会社	福住太一氏	
2023 年	北九州市食生活改善推進員協議会	小畑由紀子氏	清水委員
9月25日	社会福祉法人北九州市社会福祉協議会地域福祉部地	藤永恭子氏	田中委員
	域支援課		平野委員
	北九州市地域振興課	田爪康隆氏	谷山
		岩村秀喜氏	小嶋
	- たぶょうラくケ姗峨云 - ・子ども食堂ピッコロ	福谷美緒氏	
	」この成主にノゴロ	他们大相以	

2023 年	・北九州市地域福祉部地域福祉推進課	明石卓也氏	清水委員
9月26日	・北九州市子育て支援課	広村直美氏	平野委員
	· 社会福祉法人北九州市社会福祉協議会	平野謙太氏	谷山
	・NPO 法人フードバンク北九州ライフアゲイン	原田昌樹氏	小嶋
	·認定 NPO 法人抱撲	中間あやみ氏	
	(同上)	下田佳奈氏	
	・一般社団法人コミュニティシンクタンク北九州	西村健司氏	

# [3]青森県五所川原市

日時	団体	応対者	調査担当
2023 年	社会福祉法人五所川原市社会福祉協議会	平山博文氏	平野委員
7月21日	(同上)	柳生崇子氏	谷山
オンライン			小嶋
2023 年	・青森県健康福祉部高齢福祉保険課	簗田陽子氏	目崎委員
8月25日	(同上)	福沢奈央子氏	田中委員
	(同上)	佐藤留美氏	平野委員
	・社会福祉法人青森県社会福祉協議会	葛西裕美氏	谷山
	(同上)	須藤亜樹子氏	小嶋
	・五所川原市地域包括支援課	笠原美香氏	
	・社会福祉法人五所川原市社会福祉協議会	平山博文氏	
	五所川原市社会福祉協議会地域福祉課	柳生崇子氏	
2023 年	いとか学園こども食堂	水島康雄氏	目崎委員
8月26日	子ども食堂ここまる	川村沙織氏	田中委員
			平野委員
			谷山
			小嶋
2023 年	中柏木なかよし会	成田よし子氏	田中委員
10月16日	五所川原市健康推進課	齋藤綾子氏	平野委員
	(同上)	相馬遥佳氏	谷山
	南広田町内会長	菊池義孝氏	小嶋
	三好みんなの家	藤林秀氏	
2023 年	みどりの風こども園ひろた	渡邊建道氏	田中委員
10月17日			平野委員
			谷山
			小嶋

# ②アンケート調査(第2章)

#### (1) アンケート調査の概要

食のある居場所づくり支援のスキームを構築するために、現状と課題を把握する「食」を伴う居場 所づくりの支援に関するアンケート調査を実施した。

アンケートは「県市区町村、社会福祉協議会向け」と「食を通じた居場所づくりに取り組む活動団体向け」の2種類実施した。

#### ①調查実施地域

青森県、千葉県、香川県、徳島県、高知県、愛媛県、福岡県、宮崎県、長崎県、一部近隣地域

#### ②調査対象

- (1)県市区町村、社会福祉協議会向け
- ・県下市町の関連する部局、地域包括支援センター、社会福祉協議会他
- ・市民自治、協働推進、NPO促進、地域福祉関係、介護保険関係、 子育て支援・子ども関係学校教育・社会教育・生涯学習関係、 環境関係(消費リサイクル含む)、地域振興・街づくり等の部局
- (2) 食を通じた居場所づくりに取り組む活動団体向け

「食」を伴う居場所づくり活動(団体)

- ・こども食堂、こども配食、こども宅食
- ・子どもの居場所(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
- ・学習支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
- ・就労支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
- ・引きこもりなど若者支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
- ・フードパントリー
- ・配食サービス
- 会食会
- ・地域食堂、多世代食堂、コミュニティカフェ
- ・高齢者を主な対象とする居場所(サロンを含む)

(「食」にかかわる取り組みを含むもの)

- ・移動サポート(「食」をともなう居場所の送迎)
- ・その他の「食」をともなう居場所や「食」に関する支援

#### ③調査項目

- (1)県市区町村、社会福祉協議会向け
- ・組織の概略について
- ・支援対象及び内容について
- ・居場所支援に関する体制について
- ・評価(価値)について

# (2)食を通じた居場所づくりに取り組む活動団体向け

- ・団体の概略について
- ・活動の概略について
- ・活動の課題と支援について
- ・行政との連携について
- ・価値について

## 3)研修会の開催(第3章)

地域外のリソースの共有とネットワーク形成支援を目的とした研修会を3日程で開催した。 結果は第3章に記載した。

#### (1)目的

- ・地域で活動する食のある居場所づくり支援にかかわる団体が一堂に会することで、地域にあるアセット(地域にある活動や資源)を共有する
- ・他の地域や活動と連携することで関係者(コミュニティソーシャルワーカー、生活支援コーディネーター、包括支援センター、福祉の相談員、社会福祉協議会、行政支援員など)が情報を共有し、ゆるく連携する。

#### (2) 対象

生活支援コーディネーター、自治体、社協、NPO、地域福祉コーディネーター等、生活支援体制整備事業の関係者

#### (3) 開催地・日時

#### ■鳥取市

日時:2023年11月6日 13:00~16:30

会場: 鳥取市人権交流プラザ 現地とZoomによるハイブリッド開催

参加者:50名

#### ■北九州市

日時:2023年11月17日 13:00~16:30

会場: 北九州市国際会議場 6階特別会議室

参加者:60名

#### ■五所川原市

日時:2023年11月21日 14:00~17:00

開催方法: 五所川原市民学習情報センター 大教室

参加者:53名

#### (4) プログラム

以下の3部構成とした。

【講義】モデル地域で取り組まれている食支援プラットフォーム形成や拡張の事例

【事例】食に関わる団体の実践事例の共有 4~6事例の発表と事例の解説

【演習】「食でつながるプラットフォームをつくるためには」をテーマにディスカッションを実施した

## 4) 成果報告会の開催(第4章)

モデル地域の事例共有と食支援プラットフォーム形成支援を目的とした研修会を開催した。 結果は第4章に記載した。

#### (1)目的

- ・モデル地域の事例を共有することで、食活動を支援するための体制整備やプラットフォーム形成に 関してのノウハウを全国に広げる。
- ・モデル地域のノウハウを活かし、全国で食を通じたプラットフォーム形成が推進される。
- ・全国で食に関する活動を行う団体が情報を共有し合う。

#### (2) 対象

行政職員(食支援、地域福祉、地域包括支援センター等)、社会福祉協議会、生活支援コーディネーター等、中間支援を行うNPO法人等

#### (3) 開催地・日時

#### ■全 国

日時:2023年1月22日 14:00~16:20

開催方法:Zoomを利用したオンライン開催

参加者:130名

#### (4) プログラム

以下の3部構成とした。

【講義】食支援プラットフォームの概要、アンケート調査の結果報告

【事例】モデル地域で取り組まれている食支援プラットフォーム形成や拡張の事例

#### 【演習】情報交換会

事例発表者への質疑応答/意見交換等を通して事例報告者と参加者の交流を図った。

## 4)「食」でつながる支援プラットフォーム形成ガイドブックの作成(第5章)

食支援活動の意義や実態についてヒアリング調査やアンケート調査に基づいて説明をし、食支援プラットフォームの定義やその形成方法を実際のモデル事例とともに解説した冊子を作成した。

作成した冊子は関係者、研修会参加者、希望者に配布するとともに、当会ホームページにて電子版で公表する。カラー冊子は第5章に収載した。

# 第2章

# 事例調査① ヒアリング調査

# 1 調査の概要

#### 1)目的

モデルとして取り上げた3地域において、食活動の継続を支援するための体制整備に至るプロセス、とくに多様な機関・団体・ネットワーク等との関係構築のプロセスの調査を実施した。

# 2)調査内容

「食」関連の生活支援サービスを運営する団体/団体への支援や連携を行っている生活支援コーディネーター・市区町村・NPO 支援センター・社会福祉協議会・地域包括支援センター・企業等の担当者や自治体、社会福祉協議会の職員等に対して下記の項目に関して聞き取りを行った。

## I 「食」関連の生活支援サービスを運営する活動団体に向けた質問項目

- 1. 支援対象地域の特徴
- 2.「食」を伴う居場所支援に関する現状と課題
- (1) 運営・活動にかんすること
- ① 活動内容
- ② 団体運営の方法
- ③ 活動のノウハウ
- ④ 担い手の育成・確保
- ⑤ 活動広報 他
- (2) 資源の確保にかかわること
- ① 人的な資源
- ② 物的な資源(拠点の確保含む)
- ③ 活動資金
- (3) 利用者への支援(アセスメントとマネジメント、地域アセス)に関すること 運営要綱等、アセスメントシート等ご活用されている書類
- (4) 活動の指標は設定していますか
- (5) その他

- 3. 「食」を伴う居場所に関して検討・相談する機関・組織・支援者について
- 4. 関わっているネットワークやプラットフォームに関して
- ・具体的な活動内容、ネットワークの種類、
- ・受けている支援
- ・期待している(望まれる)こと
- 5. 地域内の他団体との関係について
- ・他、団体とどのように出会うか
- •他支援団体と地域の支援ニーズをどのように把握・共有しているか
- 6. 今後について
- (1) 活動団体の課題と今後必要とされる支援方策について
  - ・貴団体の運営について
  - ・行政、中間支援組織などの支援方策について
- (2) 当団体(当職)の今後の展望について
- ・どのような団体になっていきたいか
- ・行政、企業、中間支援組織とつながりたいか。また何を望むのか
- Ⅱ 団体を支援する生活支援コーディネーター・市区町村・NPO 支援センター・社会福祉協議会・地域包括支援センターの担当者等に向けた質問項目
  - 1. 地域の特徴
  - 2. 支援対象としている「食」を伴う居場所団体支援と支援対象団体数
  - 3. 居場所支援に関わる支援体制について
    - ※支援相談窓口の設置の有無、担当者の有無、支援体制、研修メニューの有無
  - 4. 貴団体で関わっている食のある居場所に関りのあるネットワークやプラットフォーム について
    - ・支援団体・組織の有無
    - ・ある場合の具体的な活動内容、ネットワークの種類、キーパーソン(または活動)
    - ・活動の課題
    - ・必要とされる支援とは
  - 5. 団体支援の課題について
  - (1) 今後必要とされる支援とは(例、人・物・金・ネットワーク)

- (2) 貴団体の今後の展望について
- ・どのような中間支援組織(機能)が必要か
- ・どのような支援メニューが必要か
- ・どのようなところ(専門機関、中間支援組織、企業等)とのつながりが必要か
- 6. 行政と生活支援コーディネーター(SC)の関わり方に関して
- 6-1協議体について
- ・協議体の設置状況、エリアごとの特徴
- ・協議体の活動における課題
- 6-2 第1層・第2層生活支援コーディネーター(SC) の配置状況
- ·委託先
- ・生活支援体制整備事業に対する SC の役割・意義
- ·SC の地域活動支援に関する望まれる支援について
- ・参考になさっている他行政での協議体や SC の実践事例
- 7. SC や協議体向け研修について
- ・現状の研修メニューについて教えて下さい。
- ・これからの地域ニーズに対応するためにどのような研修が必要だとお考えですか?
- 8.貴課では、居場所の支援に関して、日頃、どのような人たちと検討したり、どのような人たちに助言を求めたりしていますか。

# 2 調査の結果

3事例を対象に行った聞き取り結果の概要を以下にまとめた。詳細についてはガイドブックに掲載した。

# 事例1 青森県五所川原市

(1) 地域について

#### ■自治体情報

#### <五所川原市>

·住民人口:50,869人

・高齢化率:37.0%

・青森県の津軽平野のほぼ中央に位置する自然に恵まれた市。

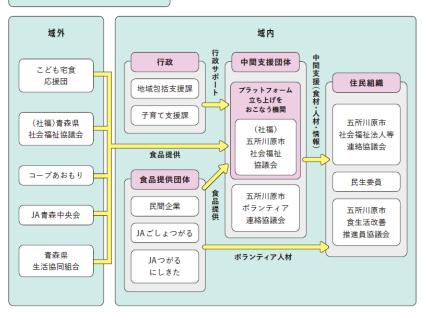
※人口は五所川原市公式HPより。高齢化率は五所川原市高齢保健福祉計画より。





(2) 五所川原市における食支援プラットフォームの構成メンバーとモデル図

#### プラットフォームの構成メンバー相関図



#### (3) 食支援プラットフォーム形成前の課題について

- ①自治体、社会福祉協議会、NPO法人等、地域で活動している「食」をともなう団体が"点"で活動している。
- ②生活支援体制整備事業が生活支援コーディネーターに活動に対する迷いが生じて滞留している現状がある。



共働き世帯の増加や単身高齢者の増加により子育てや介護の支援がこれまで以上に必要となっている。特に、青森県では自殺率が高く、糖尿病罹患者も多い現状である。医療介護の担い手不足が課題となっている一方、地域住民同士のつながりの希薄化によるソーシャルキャピタルが脆弱化している状況である。また、各地の協議体が未成熟な状況であるなど生活支援体制整備事業が滞留している現状もあり、生活支援コーディネーターは活動に迷いが生じている。

自治体、社会福祉協議会、NPO法人等、地域で活動している「食」をともなう団体を見える化し、「食」の魅力を活かした"つながり"の継続、孤独孤立の予防を実現する必要がある。

#### (4) 食支援プラットフォーム形成のねらいについて

五所川原市における食支援プラットフォーム形成のねらいは以下である。

①食や居場所に関する団体が情報共有や連携を行うことができる。

今まで個別で活動をしていた団体同士をつなげることで活動の課題解決や発展を促し、支援の幅を広げていく。

②食を通じて多世代が集う居場所、地域のつながりをつくる。

「食」を通じて子ども、高齢者等に限らず地域の誰もが参加できるような居場所をつくることで、人 と人との温かなつながりをつくり、地域の交流を促進していく。

③合意形成の場づくり



#### (5) プラットフォーム形成に向けたアクション

五所川原市では本事業をきっかけに食支援プラットフォーム形成拡大に取り組んでおり、現在形成の 準備をしている段階である。準備段階で実施したことを以下に記載する。

① 食に関わる活動を行っている団体へのヒアリング

食支援プラットフォーム形成にあたり五所川原市社会福祉協議会と連携・協力している活動団体にヒアリングを行った。かねてより食支援活動に取り組んできた五所川原市社会福祉協議会、食をツールに課題解決を企画していた市の地域包括支援課が中心となり、食に関わる活動を行っている団体へ活動内容や課題等のヒアリングを行った。ヒアリングを実施したのは下記の団体である。

(1) 社会福祉法人五所川原市社会福祉協議会

<主な活動>おすそ分け便

#### 「子ども宅食おすそわけ便」を通した多様な社会参加の入り口

- ・五所川原市で 2 か月に一度隔月開催。未実施月にはオムツ配布会など、実用品の配布会を開催。五 所川原市社会福祉協議会が事務局を務め、青森県社会福祉協議会と連携して実施している。
- ・フードドライブ(物資収集)と物資仕分けは五所川原市社会福祉協議会が担当し、当日のパントリー 運営(受付・会場設営・駐車場整理他)、拠点配達・受け渡し、戸別配布は、民生委員、食生活改善推 進協議会、子ども食堂、福祉法人、JA・コープ、企業・団体・個人ボランティアが担う。
- ・全体のコーディネートを第2層生活支援コーディネーター(兼務)が担当。

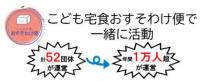
#### 「成果」元気シニアの社会参加・介護予防の観点から

- ・元気シニアボランティア(民生委員含む)にとって、活動参加や戸別配布などを通して多世代交流・ 関係形成の機会となっている。
- ・主な産業が 1 次産業の地域であり高齢就業者も多く、地域活動への参加が少ない高齢者も農作物等の提供を通じて社会参加の機会となっている。
- ・福祉法人の公益的活動に加え、企業従業員ボランティアなど就労者の社会参加にもなっており、定 年後など社会とのつながりづくりの機会が期待される。









# 食品配布・駐車場整理・自宅配達

- ●第一生命保険株式会社青森支社の 各営業所の皆さん ●コープあおもりの組合員の皆さん
- ●モリレイさん



(13月) 青春県社会福祉会議会資料より扱利

#### (2)五所川原市地域包括支援課

<主な活動>お昼ごはんの会

市主導の通いの居場所未実施地域における「お昼ごはんの会」開催

#### [ねらいと対象]

- ・青森県の男性の特徴として、口数が少ない・プライドが高い・社会的交流が少なく孤立しがち・飲酒量が多い。
- ・「食」の魅力(役割豊富・食卓を囲む等)を用いて、利用と活動の両方に働きかける。
- ・会食会の定着を図り、高齢者サロンへの移行をねらう。
- ・利用対象は、70歳以上の独居高齢者及び夫婦のみ世帯。1回20名程度。

#### [内容]

- ・理学療法士等による介護予防に資するレクリエーション (簡単な運動) を取り入れ、管理栄養士による栄養講話と昼食会を開催。
- ・昼食づくりは食生活改善推進委員が担当。
- ・市地域包括支援課、包括支援センター、在宅介護支援センター、生活支援コーディネーター、民生委員で運営。



#### (3) いとか学園こども食堂

#### <主な活動>

#### おすそ分け便

・おすそ分け便の受取拠点として活動。2ヶ月に1度、約15名に配布している。

#### こども食堂

- ・市内初のこども食堂として平成30年より実施。
- ・月に1度、最終土曜日に実施。1度に約20名参加している。
- ・食育活動も積極的に行っており、毎月テーマとなっている食材について調べたものを発表する等、

イベントや日本文化の学習を通してこども同士や世代間交流に取り組んでいる。





#### (4)社会福祉法人青森県社会福祉協議会

#### 「青森県社会福祉協議会の取り組み」

「みんなの居場所」ネットワーク

- ・子ども食堂・認知症カフェ・地域サロンの交流の場づくり\_68か所登録(2023.8)
- ・企業からの寄付金と青森県社会福祉協議会の独自財源でスタートアップ助成を実施している。

#### あおもり「子どもの居場所」ネットワーク

- ・相談支援、情報提供、ネットワーク、食品等の分配、資金助成 67か所登録(2023.8)
- ・子どもの居場所コーディネーター養成講座を実施。地域の開設希望者と社会資源を結び付けるコーディネーター養成に取り組んでいる。

#### あおもりフードバンク

・企業、団体、個人から、日用品、文房具や書籍など生活に必要な品々を無償で提供いただき、食品等を必要とする方々に無償で配布する活動。食品等の配布にあたっては、こども食堂や困窮者支援組織のほか、さまざまな中間支援組織を通じて行っている。

#### こども宅食おすそわけ便

- ・県内4地域で約50団体が運営する食品等の配布活動。
- ①フードパントリー、②拠点での受取、③自宅配達を選ぶことができる。

# 青森しあわせネットワーク\_

- ・県内121/500の参画社会福祉法人(約1,000事業所)による「制度の狭間」への対応をしている。
- ・具体的な取り組み

トータルサポート (総合相談)、ライフサポート (経済的援助)、フードサポート (食料等の提供)、ワークサポート (就労・社会参加)、保証人確保支援 (居住支援)、青森しあわせパッケージ、しあわせサンタ&しあわせNEW⇒YEAR



制度ではない(公的な支援ではない) 民間の非営利活動 (20) 800年10日1日 (20)



②食支援プラットフォーム形成に向けての会議体への参加依頼

上記ヒアリング時に本事業と食支援プラットフォームの概要について説明をし、五所川原市社会福祉 協議会を中心とした食支援プラットフォームへの参加を依頼した。

③食でつながるプラットフォームづくり五所川原市研修会の開催

「五所川原市内で食にかんする活動を行う団体が情報を共有し合い、ゆるくつながるプラットフォーム形成のきっかけとなること」を目的に研修会を開催。

自治体・社会福祉協議会・NPO法人等、55名が参加し、市内で食に関する活動を行っている団体の活動紹介やワークショップ等を通じて相互理解を深めた。

研修会の詳細は第3章に記載している。

(6) 食支援プラットフォームを形成したことで起きた変化

「食」をともなう団体が"線"になった。

今回、五所川原市内の食に関心のある人が集い、情報共有と議論をすることにより、地域にある、人、物、情報、ネットワークなど、点在していた資源が結束し、横のゆるいつながり(食支援プラットフォーム)ができた。食を通じた居場所は、少子高齢化、担い手不足などの地域課題解決に役立つと考えられる。

多様な職種や団体と食に関する活動状況を共有することで、地域内での食に関する点の活動が線となり、地域全体のゆるくつながるプラットフォームの基盤が形成された。

# 食支援プラットフォーム形成後の変化

#### 「食」をともなう団体が"線"になった。



#### (7) 今後の展開について

市役所(第1層生活支援コーディネーター)、社協、地域ボランティア、民生委員、町内会、保健協力員、食生活改善推進員など、それぞれが横の連携をとり、協働しながら、多世代が交流し、笑顔になれる場所(食を通した多世代交流の場)の必要性について共通認識を持つことができ、今後の地域活動において発展していくことが期待される。

今後の展開予定事業は以下である。

- ①食への関心を入り口にしたつながり、相談のきっかけの気軽さ、アウトリーチ的な活動を考えてい く。
- ②食のパワーを活かした居場所やつながりの場、集いの場を広げ、誰もが参加できるような働き掛けをしていく。
- ③食の魅力を提供し続けられる情報提供や物資支援、人材の連携の拡大と啓発。

# 市のビジョン keyword: Well-being

「市民が元気で夢や生きがいを持ち、幸福を感じ、住み続けたいと思う地域社会の 実現」に向け、「食」の魅力を生かしたつながりづくりをすることで、地域が力を 合わせて幸せと笑顔あふれる五所川原を目指していく。

#### 事例 2 福岡県北九州市

#### (1) 地域について

#### ■自治体情報

#### <北九州市>

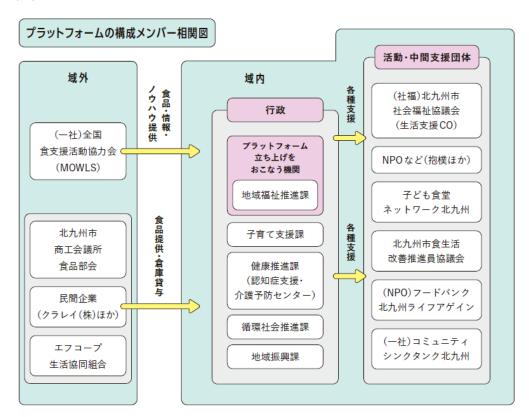
・住民人口:915,951人 ・高齢化率:31.2%

・1963年2月10日に5市の対等合併により誕生した九州初の政令指定都市。

#### ※北九州市公式HPより



(2) 北九州市における食支援プラットフォームの構成メンバーとモデル図



#### (3) 食支援プラットフォーム形成前の課題について

地域コミュニティの希薄化、自治会加入率の低下、地域住民の高齢化等に伴い地縁組織が脆弱化する一方で、NPOや任意団体等の新しい活動が活発に行われるようになってきたが、双方の連携が充分に取れているとは言いがたい状況である。また、福祉の地域づくりの中心である校(地)区社会福祉協議会と第1層協議体の連携体制が充分とは言えず、個別課題を市域全体の取組みに反映させることが難しいと感じていた。自治会、社会福祉協議会、NPO法人等、地域で活動している団体同士がお互いの活動を知らず連携につながっていない現状を「食」を通じてつなげることで、縦割りになっている各活動や組織を横につなぐ取り組みを実施していく必要がある。

#### (4) 食支援プラットフォーム形成のねらいについて

北九州市における食支援プラットフォーム形成のねらいは以下である。

①食や居場所に関する団体間の情報共有や連携

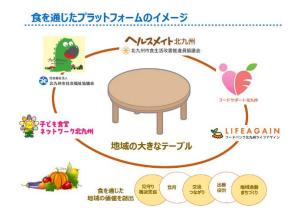
今まで個別に活動をしていた団体同士をつなげることで活動の課題解決や発展を促し、支援の幅を広げていく。

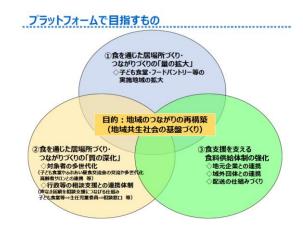
- ②食を通じた多世代が集う居場所、地域のつながりの創出(大きな食卓を囲む家族のような地域へ) 「食」を通じて子ども、高齢者等に限らず地域の誰もが参加できるような居場所をつくることで、人 と人との温かなつながりをつくり、地域の交流を促進していく。
- ③生活困窮者自立支援、子育て支援、地域福祉などでの行政と民間団体の連携促進

生活困窮者自立支援事業における食料支援の活用、子ども食堂等と行政の相談機能の連携など、行政 課題の解決に資する民間団体との連携を促進する。

#### ④食品ロス対策、SDGsの推進

民間企業との連携を図り、フードロス対策で食料が循環していくように、思いやりが循環していく社会を目指す。困っているときほど一人ではないと思える誰一人取り残されない社会、持続可能な社会を作っていく。





# (5) 食支援プラットフォーム形成の具体的な流れについて

北九州市では本事業をきっかけに食支援プラットフォーム形成に取り組んでおり、現在形成の準備を している段階である。

準備段階で実施したことを下記に記載する。

①食に関わる活動を行っている団体へのヒアリング

食支援プラットフォーム形成にあたり主要メンバーとなっていただきたい活動団体にヒアリングを行った。かねてより食支援活動に取り組んできた市の地域福祉部地域福祉推進課と一般社団法人コミュニティシンクタンク北九州が中心となり、食に関わる活動を行っている団体へ活動内容や課題等のヒアリングを行った。ヒアリングを実施したのは下記の団体である。

#### (1)社会福祉法人北九州市社会福祉協議会

<主な活動>ふれあいネットワーク活動

市内すべての 155 校(地)区社会福祉協議会が中心となって、「見守り」、「話し合い」、「助け合い」の 3 つのしくみを進める住民主体の小地域福祉活動。福祉協力員、民生委員、児童委員、ニーズ対応員(チーム)が活動に関わっており、生活支援コーディネーター (16人)が地域での話し合いや計画づくりをサポートしている。

#### 【見守り】

福祉協力員(概ね 50~100 世帯に 1人)が民生委員・児童委員等と連携し、支援が必要と思われる世帯を見守っている。

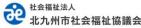
#### 【話し合い】

見守りや助け合いで把握した困りごとを共有・解決するために、校(地)区社協が中心となって関係機関・団体と一緒に話し合いを行う。(連絡調整会議)

# 【助け合い】

見守りで発見した生活の困りごとに対し、ニーズ対応員等地域住民が手助けをしている。ニーズ対応 チーム (おたすけ隊等)を立ち上げている校(地)区社協もある。







#### (2)北九州市食生活改善推進員協議会

<主な活動>ふれあい昼食交流会

高齢者が食を通して他世代と交流することで、高齢者が生きがいを見出し、食生活の改善を図っていくことを目的として開催。・対象は65歳以上の一人暮らし・夫婦のみ世帯で、公民館・市民センター等で毎月1回開催されている。会員数は 令和5年度時点で1,053人。





#### (3)子ども食堂ネットワーク北九州

民間を主体とした子ども食堂の活動が継続した取組としてさらに広がるよう、子ども食堂に関心のある個人や団体が横のつながりを持ち、継続した活動として取り組める環境を整える事を目的に設立。 事務局は市の子育て支援課と民間団体が共同で担っている。

現在は主に市内の子ども食堂が加盟し、子ども食堂同士の意見交換や情報交換の場の提供、寄付金や寄付食材の分配、衛生管理等の研修会の開催といった運営サポートを行っている。「私達の健康は私達の手で~のばそう健康寿命 つなごう郷土の食~」をスローガンに 子どもから高齢者まで食を通した健康づくり活動をしている。





# (4)フードサポート北九州

物価高騰対策、生活困窮者支援として令和4年度から実施。

「食を通じた地域づくりと支え合い」をテーマに支援が必要な世帯に食料を配布している。

拠点型フードパントリー事業と地域交流型フードパントリー事業の2種類を実施。

<拠点型フードパントリー事業>

北九州市孤独・孤立対策等連携協議会の NPO 等 14 団体と実行委員会を設置。

広く食料を必要としている人を対象としており、食料配布を通してNPOや市、社協などの相談支援 機関につなげている。

#### 1 拠点型フードパントリー開催

# 対象者 広く食料を必要としている人 (低所得世帯、単身高齢者 ひとり親世帯、外国人市民、 大学生など) 大学生など) か原型 フードパントリー (食料配布を通して 相談窓口とつながる) 和談窓口とつながる) アクロ制談窓口 など

# <地域交流型フードパントリー事業>

校区社会福祉協議会が中心となって各地区の民生委員や福祉協力員をはじめとする地域の見守りネットワークや食品を提供するフードバンクなどの関係機関と連携して実施。

地域で食料を必要としている人を対象に、食料配布を通して地域の見守りネットワークやNPO法人等につないでいる。

#### 2 地域型フードパントリー開催



# (5)フードバンク北九州ライフアゲイン

#### <主な活動>フードバンク事業

「もったいない」を「ありがとう」へをコンセプトに、食品関連事業者や地域の方々と連携してフード バンク事業を実施。

約150団体を通じて生活困窮者やひとり親世帯、社会福祉施設、子ども食堂等に支援を行っている。







②食支援プラットフォーム形成に向けての会議体への参加依頼、会議の実施 ヒアリング時に食支援プラットフォーム形成に向けての会議体への参加を呼びかけ、ヒアリングを行った団体を中心に食支援プラットフォーム形成に向けた会議を9月と11月の2回実施した。

# (1) 第1回目

【日時】2023年9月26日

【場所】北九州市生涯学習総合センター

#### 【内容】

- ・食支援プラットフォームとは
- 一般社団法人全国食支援活動協力会専務理事 平野覚治氏
- ・北九州市における食支援プラットフォーム形成について
- 北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課長 明石卓也氏
- ・多世代が食でつながるコミュニティづくりについて
- 一般社団法人コミュニティシンクタンク北九州理事 西村健司氏
- ・参加団体の活動紹介

#### 【参加団体】

- ・NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン
- ·NPO法人抱樸
- ・一般社団法人コミュニティシンクタンク北九州
- ・社会福祉法人北九州市社会福祉協議会
- ・北九州市子育て支援課
- · 北九州市地域福祉推進課
- (2) 第2回目

【日時】2023年11月16日

【場所】北九州市生涯学習総合センター

# 【内容】

- ・食支援プラットフォーム形成に関しての意見交換
- ・北九州市で実施する研修会(食でつながるプラットフォームづくり北九州市研修会)について

#### 【参加団体】

・NPO法人フードバンク北九州ライフアゲイン

- ·NPO法人抱樸
- ・一般社団法人コミュニティシンクタンク北九州
- · 社会福祉法人北九州市社会福祉協議会
- · 北九州市地域振興課
- ・北九州市子育て支援課
- · 北九州市地域福祉推進課



## ③食でつながるプラットフォームづくり北九州市研修会の開催

「北九州市内で食にかんする活動を行う団体が情報を共有し合い、ゆるくつながるプラットフォーム 形成のきっかけとなること」を目的に研修会を開催。

自治体・社会福祉協議会・NPO法人等、約60名が参加し、市内で食に関する活動を行っている団体の活動紹介やワークショップ等を通じて相互理解を深めた。

研修会の詳細は第3章に記載している。

#### (6) 食支援プラットフォームを形成したことで起きた変化

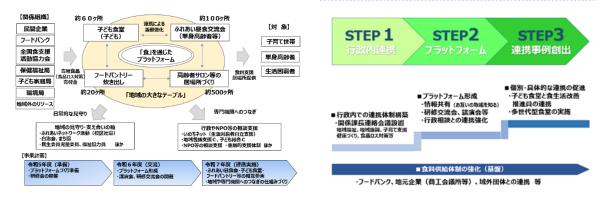
子ども食堂、食生活改善推進員、フードバンクなど、地域づくりを進める上での地域資源が見える化できた。生活支援コーディネーターが中心となった協議体の推進体制の充実につながった。また、これまで個別に活動していた団体同士の交流により、今後の連携につながる機運の醸成ができた。特に食生活改善推進員の活動実績やノウハウは、子ども食堂関係者にとって新鮮に映ったとの感想が寄せられ、子ども食堂の進化に向けた今後の連携が期待される。

さらに地域福祉、子育て支援、健康推進などに関わる行政組織が交流する機会となった。今後定期的 に情報交換できるプラットフォームができれば、施策の効果的な連携が進むことが期待できる。

#### (7) 今後の展開について

- ・行政内での体制の構築(関係課長・係長会議等)・研修会、交流会等の開催
- ・個別施策での連携の展開
  - (1)子ども食堂やふれあい昼食交流会などの連携促進
  - (2)生活困窮者自立支援事業での食料支援活用に向けたフードバンクとの連携強化
  - (3)地域でのフードパントリーの展開
- ・ふれあい昼食交流会や子ども食堂での個別課題の発見、相談支援等へのつなぎの仕組みづくり
- ・食や物流に関する民間企業との連携強化(食品ロス対策・SDGs推進)

# プラットフォーム推進のステップ



# 事例3 鳥取県鳥取市

# (1) 地域について

# ■自治体情報

## <鳥取市>

・住民人口:181,516人 ・高齢化率:29.7%

・鳥取県の県庁所在地及び人口が最多の市で、中核市に指定されている

※鳥取市公式HPより。

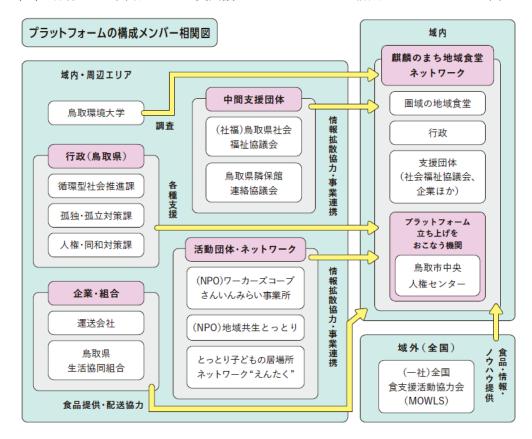
#### ■活動地域

# <麒麟のまち連携中枢都市圏>

- ・鳥取市と周辺4町(岩美町、八頭町、若桜町、智頭町)、兵庫県2町(新温泉町、香美町)で形成
- ・圏域全体の地域食堂への支援と推進体制を構築している。



#### (2) 麒麟のまち圏域における食支援プラットフォームの構成メンバーとモデル図



# (3) 食支援プラットフォーム形成前の課題について

①寄付食品が多様かつ大量になってくる中で、一時保管場所や配送の問題が出てきた。

民間助成金を活用し、業務用の冷蔵庫・冷凍庫・お米を保管できる冷蔵庫の3点を市町の公共施設に 設置。経費は市町が負担している。

また、休眠預金事業を活用しロジ・ハブ拠点を整備。物流ネットワークを構築し、広域の食支援プラットフォームを形成することで配送問題の解決にも取り組んでいる。

②急激な人口減少、高齢化が進行する中での食支援活動の持続可能性を維持する仕組みづくりが必要になった。

③生活支援コーディネーター同士の横のつながりができていない状況があった。

麒麟のまち圏域における食支援プラットフォーム形成では、まず生活支援コーディネーターや地域の 活動団体、支援企業等を広くつなげ、小さい連携づくりに取り組んでいる。

# (4) 食支援プラットフォーム形成のねらいについて

麒麟のまち圏域における食支援プラットフォーム形成のねらいは以下である。

#### ①魅力あるまちづくり

さまざまな機能をもつ地域食堂の取り組みを住民の生活圏域において展開することで、 高齢者・障がい者・子どもをはじめ多様な人たちが住みやすい魅力あるまちづくりを行う。



#### ②効果的な仕組みづくり

中枢中核都市に集中する企業をはじめとする社会資源により得られる支援等を広域的に活用し、 さらに、近隣町のそれぞれの強みを生かした効果的な支援の仕組みづくりを行う。



#### ③縦割り、分野を超える

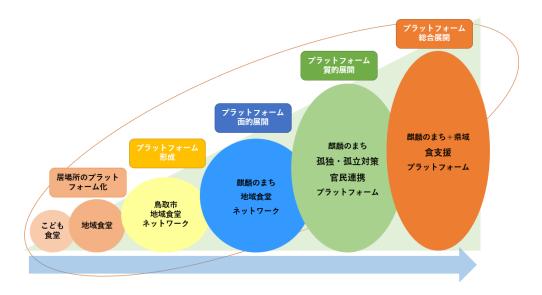
分野が違っても同じ地域課題を把握しているため、巧みな制度設計に苦心するよりも、分かり合う努力をすることが大切である。線引きしない支え合いづくり

#### ④強み、知見、経験の共有

モノとカネだけでなく、つながることで解決できる課題も多い。

# (5) 食支援プラットフォーム形成の具体的な流れについて

麒麟のまち圏域では、以下の概略図の流れで食支援プラットフォームを形成、発展させていった。



#### ①居場所のプラットフォーム化

子どもを中心に地域の様々な人が集う居場所、 多様な人や社会資源が繋がる場として鳥取市内で開始。現在は麒麟のまち圏域で展開されている。地域の多様かつ多世代の交流拠点となっており、困難を抱える人・世帯に関わっていくことを基本としながら、地域の誰もが気軽に行ける「だれでも食堂」=「地域食堂」として展開している。高齢者の孤独防止や子どもの貧困を防ぎ、社会的弱者の尊厳の確保を図るという点で、地域のコンパクトなベーシック・サービスの基盤となり得ると考えている。現在小学校区の充足率は70%に達しており、100%を目指して取り組みを続けている。

# <地域食堂の4要件>

- (1)サードプレイスとして安心して過ごせる「居場所」であること
- (2)食育・食文化の観点をもって「『食』を提供すること|
- (3)"つぶやき"を相談支援に引き上げること
- (4)受けて=利用者、支えて=スタッフという一方向の閉じた取組としない。地域の多様な人々が関わること



#### ②プラットフォーム形成

地域食堂が継続的・安定的に運営を行うため、運営団体、支援団体、行政が連携し互いに支え合う仕組みを構築し、地域共生社会をめざすために2017年11月に鳥取市地域食堂ネットワーク(官民連携による地域食堂への支援)を設立。

社会福祉法人鳥取福祉会(支援団体)・河原共助会(運営団体)・鳥取市(行政)の3者が共同代表を務めており、共同代表・運営・支援各団体による運営委員会を設置して運営を行っている。

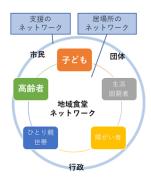
2019年11月から麒麟のまち圏域での活動展開を開始。

2023年7月から麒麟のまち地域食堂ネットワークへ改称。

2023年11月時点で、運営団体が41食堂、支援団体が55団体、行政7市町が運営団体となっている。

## <活動内容>

- ・寄付や提供食材等の共同管理、ボランティア等の人材確保の支援
- ・情報交換会の開催及び活動の情報発信
- ・衛生管理に関する情報や衛生用品の無償提供や講習会の開催
- ・感染防止、衛生管理ガイドラインの作成
- ・立上げに関する支援、他



本事業では、共同代表を務める社会福祉法人鳥取福祉会にヒアリングを行った。

<団体名>社会福祉法人鳥取福祉会

・設立:1978年7月

·職員:670名(2023年8月時点)

· 事業内容:

鳥取市で児童福祉施設9ヶ所、幼保連携型認定こども園1ヶ所、老人福祉施設15ヶ所、母子支援施設 1ヶ所、障がい者福祉施設2ヶ所を運営。

・地域食堂ネットワークとの関わり

松下理事長がこども食堂を見学に行ったところから地域食堂ネットワークに支援団体として参画。 各施設が交代で送迎車を使用し、地域食堂へ食材の配達を行っている。約50社の支援団体・民間企業・行政と連携し、誰も取り残さない地域づくりに寄与している。





## ③プラットフォームの面的展開

2019年11月より鳥取市と周辺4町(岩美町、八頭町、若桜町、智頭町)、兵庫県2町(新温泉町、香美町)で「麒麟のまち連携中枢都市圏」を形成し、圏域全体の地域食堂への支援と推進体制を構築している。

2022年からは麒麟のまち地域食堂等推進のための「食のネットワーク 整備プロジェクト事業」により、圏域にロジ・ハブ拠点を整備している。各ロジ・ハブ拠点は市町村設置の施設内に大型冷蔵・冷凍庫を設置し、生鮮品や冷凍品を保管できる。ロジ拠点において毎月約3トンの食材等を集荷し、各ハブ拠点を通じて各地域食堂をはじめ母子支援施設、更生支援施設などへも提供している。

2023年7月に「鳥取市地域食堂ネットワーク」から「麒麟のまち地域食堂ネットワーク」に改称。





本事業では、麒麟のまち地域食堂ネットワークに参画している社会福祉法人新温泉町社会福祉協議会にヒアリングを行った。

<団体名>社会福祉法人新温泉町社会福祉協議会

自治体情報 < 兵庫県美方郡新温泉町 >

・人口:12,405名(2023年12月時点)

・高齢化率: 41.3% (2023年3月時点)

・平成17年に浜坂町と温泉町が合併して誕生

· 自治会数:113(浜坂81 温泉32)

生活支援コーディネーターは第1層に1名(包括支援センター所属)、第2層に2名(社会福祉協議会所属)、食に関する活動を実施。

・いきいきサロン活動

高齢者の居場所づくりをメインに町内で48か所(浜坂27、温泉21)実施。

#### ・麒麟のまち地域食堂ネットワークとの関わり

令和3年2月に町内初の地域食堂立ち上げのため、鳥取市中央人権福祉センターの研修会に参加したことがきっかけとなり麒麟のまち地域食堂ネットワークと出会った。地域食堂立ち上げ前に新型コロナウイルスが流行し地域食堂立ち上げは中止になったが、研修会での出会いをきっかけに麒麟のまち地域食堂ネットワークのハブ拠点として、食品の配布やネットワークの拡大に寄与している

0

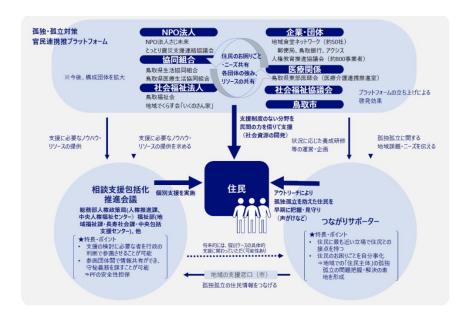




#### ④プラットフォームの質的展開

2023年2月より鳥取市孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを立ち上げ。

2023年11月より、麒麟のまち連携中枢都市圏事業として既に実施している「地域食堂」事業を基盤に、圏域の6町(岩美町、八頭町、若桜町、智頭町、新温泉町、香美町)と連携をしながら「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業」を進めている。



#### ⑤プラットフォームの総合展開

2023年10月に「食支援プラットフォーム形成に向けた情報交換会」を実施し、麒麟のまち及び鳥取県中部・西部のロジ・ハブ拠点をフードドライブ拠点として活用することを決定。さらに「麒麟のまち+県域食支援プラットフォーム推進会議(仮称)」を立ち上げることを確認し、準備を進めている。



#### (6) 食支援プラットフォームを形成したことで起きた変化

鳥取市では食支援プラットフォーム形成後にさらに県域で広く展開していくため、県域で食に関する活動を行っている自治体職員・社会福祉協議会職員・NPO法人・生活支援コーディネーター等を対象に「食でつながるプラットフォームづくり麒麟のまち研修会」を開催した。食支援プラットフォームについての理解促進と団体同士の連携を生み出すことを目的に開催したこの研修会には約50名が参加し、各団体の活動紹介やワークショップを通じて相互理解を深め、新たな連携も生まれた。詳細は第3章に記載。

また、食支援プラットフォームのメンバーが中心となり、多様な食支援に係る団体が集まり、議論することで社会課題の把握と活動の継続・発展に向けたノウハウを得ることを目的に、2023年12月15日に「食でつながるフェスタin鳥取2023」を開催し、同イベントの中で食支援プラットフォームの芳醇化をテーマにシンポジウムを実施した。登壇者は以下である。

コーディネーター:鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター所長 川口寿弘氏

パネラー: 一般社団法人全国食支援活動協力会専務理事 平野覚治氏 社会福祉法人新温泉町社会福祉協議会 平澤佐知子氏 有限会社大塚運輸代表取締役社長 大塚茜氏

鳥取県隣保館連絡協議会 大門康裕氏

自治体職員、社会福祉協議会職員、大学生等、約30名の方が参加し、食支援プラットフォームの芳醇 化について広く周知した。





# (7) 今後の展開について

農林水産省の食品アクセス確保対策推進事業を活用し、麒麟のまち圏域+鳥取県域での食支援プラットフォーム芳醇化を進め、あらゆる地域課題の解決に寄与できる仕組みづくりを継続していく予定である。さらに、鳥取県からつながる島根県、岡山県への拠点整備に向けた動きが進展中である。





# 事例調査② アンケート調査

## 1 調査の概要

本調査は、「食」をともなう居場所づくりへの支援のスキームを構築するため、食支援活動にかんする支援の実態とニーズ、活動団体および支援団体のネットワーク・価値観などを把握することを目的とし、青森県、福岡県を含む9県(一部その近隣地域を含む)にて、①市町村および社会福祉協議会の居場所づくりに関連する諸部局向けの行政・社協調査と、②「食」をともなう居場所づくりに取り組む団体向けの活動団体調査を実施しました。有効回答は、①行政・社協調査が 268 活動、②活動団体調査が 313 活動でした。回答機関・団体の内訳について多い順に3つまであげると、①行政・社協調査は社会福祉協議会が 86 活動(32.3%)、福祉・介護関係部局が 71 活動(27.2%)、子ども関係部局が 37 活動(14.2%)、②活動団体調査は、こども食堂が 134 活動(42.8%)と大きな割合を占め、続いて地域食堂 44 活動(14.1%)、フードパントリー33 活動(10.5%)でした。

# 2 アンケート調査から見えてきたこと

# 回答活動の概略

まず、活動団体調査の回答活動の輪郭を簡単におさえておきたいと思います。

- ・活動頻度… 1 か月あたり 1 回の活動が約半数です。週に 1 回未満で区切ると約 3 分の 2 の活動が含まれます。
- ・利用人数…50 人未満が約6割です。100人未満で区切ると8割以上の活動が含まれます。
- ・ボランティアの人数…10人未満が約6割です。20人未満で区切ると8割以上の活動が含まれます。なお、ここではボランティアがいない活動(7%)を除いています。

高齢者との関係について少し詳しくみておきましょう(図表 1)。回答活動がこども食堂など子ども関係が中心であることもあり、利用者に 65 歳以上の人がいない活動が約 3 分の 1 を占めています。また、高齢者向けの居場所や会食会等からの回答もあることから、利用者すべてが 65 歳以上の活動も 7 %ほどあります。全体からこれらを除いた約 6 割が利用者に 65 歳以上の人を含む活動です。同様にボランティアでは、65 歳以上の人がいない活動が 2 割弱、全員が 65 歳以上の活動が 5 %ほどで、全体からこれらを除いた約 4 分の 3 がボランティアに 65 歳以上の人を含む活動です。すなわち、利用者とボランティアのいずれについても、高齢者を含む多世代の活動が大きな比重を占めていることがわかります。





# 行政・社協から活動への支援について

「食」をともなう居場所やそれに関連する活動に対する行政・社協による支援について、活動団体調査と行政・社協調査で共通する 10 項目についてたずねました。 [図表 2] は活動団体における課題感や支援のニーズ状況、行政や社協における活動支援状況を集約した表の一部です。ここで注目したい点は次の 3 点です。

#### ①資金の確保に関する支援

活動に課題があり、支援を受けた活動も一定程度ありつつ、今後も受けたい割合が高く、行政・社協も取り組んでいる傾向にあります。つまり資金の確保に関する支援は、活動の継続のため今後も引き続き必要な支援といえるでしょう。

#### ②先行事例の紹介や活動のやり方に関する支援

活動に課題がややあったが、今後は支援を受けたい割合が小さい傾向にあり、立ち上げ支援として必要と考えられます。この支援は、行政・社協が取り組んでいる傾向にあることから、今後も支援の継続が求められます。

#### ③担い手募集に関する支援と活動の備品に関する支援

これらの支援の特徴は、活動団体は今後支援を受けたい傾向がみられるのに対して、行政・社協が取り組んでいる割合が小さいことです。このうち活動拠点の備品に関する支援は、行政・社協によって取り組まれていない傾向がより強いといえます。支援の提供が行政・社協で難しい場合は、食支援関係の中間支援組織などとの連携も有益と考えます。

	_			
		活動団体		行政·社協
	ここ3年間、 課題がな かった	ここ3年間に 行政や社協 から支援を 受けた	活動の継 続や発展 に向けて、 今後、行政 や社協を ら支援を 受けたい	取り組んで いる
資金の確保に関する支援	26.2	44.1	59.4	61.3
先行事例の紹介や活動のやり方に関する支援	37.1	31.3	22.0	51.7
担い手の募集に関する支援	38.7	18.8	46.0	33.3
活動拠点の備品に関する支援	41.2	17.3	45.0	19.9
利用者への支援の質的向上や量的拡大	42.5	20.4	25.9	43.7

活動の課題と、行政や社協による活動支援

# 図表 2

# ネットワークについて

いずれもここ3年間について、活動団体には「支援を受けたり、連携・協力したりした」相手、行政・社協には「支援や、支援のあり方・進め方の検討にあたり、日頃、かかわりをもっている」相手を選んでもらいました。ネットワークの相手について、17の団体・個人をあげ、それぞれが「市町村内」「県内」「県外」の3つのスケールの内のどこにあてはまるのかもたずねました。図表を簡略化するため、ここでは行政・社協についてはスケールの区別を省略しました。図表3は、活動団体からの回答について相手と連携や関わりのあった割合の多いものから順に並べた表の一部です。ここでは、3点ほど指摘したいと思います。

(1) 社協と行政は、活動団体、行政・社協の双方ともに関わりのある傾向が強い。特に行政・

社協どうしはその傾向がより強いといえます。

- (2) 食支援の中間支援団体・ネットワーク、フードバンク、企業、NPOセンター、生協・農協・ 漁協は、他の選択肢と比較して、市町村外の団体とつながっている傾向がみられます。
- (3) 図表で赤文字にしてある団体は、行政・社協よりも活動団体の方がそれらと関わりをもっている傾向にあります。

以上のことから、活動団体は行政・社協と比べて上記(2)にあるような市町村外の団体との関わりを通じて市町村外の資源を市町村内に導入している傾向がみられます。市町村内に十分にない資源を補完するうえで、行政・社協が市町村外の団体と連携していくことも有益であると考えられます。

【活動団体】支援を受けたり、連携・協力したりした相手 【行政・社協】支援や、支援のあり方・進めた方の検討にあたり、日頃、関わりをもって いる個人・団体(1/2)(複数回答。政令市を除く)

#### 図表3

	団体(N=257)				枚・社協 =215)	
	市町村内	県内の他 の市町村	県外	いずれか あり		ずれか あり
社会福祉協議会	57.6	13.6	1.2	63.8	<	76.7
行政(行政は自課以外の部局や機関について)	54.9	14.4	1.2	61.1	<	73.0
食支援の中間支援団体・ネットワーク	37.7	23.7	10.5	61.1	>	36.3
フードバンク	40.1	24.5	4.7	59.9	>	39.1
企業	40.5	14.4	7.4	51.0	>	25.6
小中学校·高校、PTA	34.6	4.3	0.4	48.6	>	27.4
NPOセンター	34.6	15.6	4.7	47.1	>	36.3
生協·農協·漁協	28.4	11.3	1.9	36.6	>	21.4
まちづくり協議会、コミュニティ協議会	28.4	2.7	0.0	30.7		32.6

# 活動がもつ価値について

図表 4 は、活動団体に対しては活動が「担い手」にとってもつ価値を、行政・社協に対しては「市民」にとってもつ価値をたずねた結果です。2 点ほど指摘します。

- (1) 活動団体と行政・社協の両方が多くあげている項目は「他の人と交流できる」です。これは、「食」をともなう居場所づくりにあたり活動団体と行政・社協との連携・協力の基盤となる価値と考えられます。
- (2) 他方で、「出番や役割を得られる」「学びの機会になる」という項目は、活動団体が比較的多くあげている一方で行政・社協は少ない傾向にあります。反対に、「孤立解消のきっかけ」や「栄養を摂ることができる」という項目は行政・社協の方が多い傾向にあります。これらのギャップの背景を考えると、いずれの項目においても行政・社協が「市民」として「利用者」を念頭において回答されたものと推察されます。したがって「食」をともなう居場所づくりにあたり活動団体と行政・社協が連携・協力を進めるうえで、食支援の活動が利用者に対してとともに担い手にとっても価値を有している点を共有していく必要があると考えます。

図表4

【 活動団体(N=301) 】活動が担い手にとってもつ価値 【行政・社協(N=268)】 活動が市民とってもつ価値 (3つまで選択) 他の人と交流できる 出番や役割を得られる 42.5 14.2 学びの機会になる 30.6 8.6 心のよりどころになる 27.9 25 食事を楽しむことができる 23.9 「孤立解消」のきっかけとなる 20.6 45.5 食育の機会になる 19.6 地域や社会の情報を 得られる 18.3 8.6 困りごとを相談・発信できる 11.3 28.7 経済的な支援になる 6.6 17.9 栄養を摂ることができる 5.6 30.6

3.0

望ましい生活リズムや生活習慣が身につく

- 49 -

最後に「活動が地域や社会にとって持つ価値」についてまとめたものが図表 5 です。こちらは活動団体調査と行政・社協調査で同じ質問をしています。この中で「住民同士のつながりができる」という項目が、活動団体と行政・社協のいずれも数値が比較的大きくなっています。住民参加によって「食」をともなう居場所を地域に広げていくうえで活動団体と行政・社協の共通の基盤となる価値となると考えます。

【活動団体、行政・社協】活動が地域や社会にとってもつ価値 (3つまで選択)

#### 図表5

	団体 (N=312)	行政·社協 (N=268)
住民どうしのつながりができる	47.4	48.9
子どもが健やかに成長できる	43.6	18.3
多世代が交流できる	42.3	25.0
活動を通じて孤立解消につながる	31.1	48.9
行政では対応できないニーズに対応できる	27.9	24.6
困りごとのある人とつながれる	23.7	20.1
地域の課題を発見する機会になる	18.3	22.4
食生活の改善になる	14.7	17.2
引きこもりや生きづらさをかかえた人とつなが る	13.5	10.1
食品ロスが減らせる	12.2	6.7
高齢となっても住み慣れた地域で暮らせる	10.3	31.7
経済的格差が減少する	3.5	1.5

# 第3章 研修会

# 「食でつながるプラットフォームづくり研修会」の開催

# 1 研修会の目的

- ・地域で活動する食のある居場所づくり支援にかかわる団体が一堂に会することで、地域にあるアセット(地域にある活動や資源)を共有する。
- ・他の地域や活動と連携することで関係者(コミュニティソーシャルワーカー、生活支援コーディネーター、包括支援センター、福祉の相談員、社会福祉協議会、行政支援員など)が情報を共有し、ゆるく連携する。

# 2 開催概要 (開催日・場所)

# (1) 開催地・日時

## ■鳥取市

日時: 2023年11月6日 13:00~16:30

会場: 鳥取市人権交流プラザ 現地とZoomによるハイブリッド開催

参加者:50名

#### ■北九州市

日時:2023年11月17日 13:00~16:30

会場: 北九州市国際会議場 6階特別会議室

参加者:60名

#### ■五所川原市

日時:2023年11月21日 14:00~17:00

開催方法: 五所川原市民学習情報センター 大教室

参加者:53名

# 3 プログラム

# ■鳥取市

【講演】麒麟のまち圏域における食支援プラットフォーム形成、芳醇化について 鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター所長 川口寿弘氏

# 【来賓挨拶】

厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課地域づくり推進室 室長補佐 岸英二氏

【報告】事業概要と他地域における食のある居場所づくり支援の事例について MOWLSの仕組みについて

一般社団法人全国食支援活動協力会専務理事 平野覚治氏

【事例報告】北九州市における食を通じたプラットフォームの取り組みについて 北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課長 明石卓也氏

【活動紹介】麒麟のまち圏域での食に関する活動の取り組みについて

①生活支援コーディネーターの取り組みについて 新温泉町社会福祉協議会生活支援コーディネーター 平澤佐知子氏

②隣保館、地域食堂の取り組みについて 鳥取市河原人権福祉センター所長 大門康裕氏 鳥取市社会福祉協議会地域支え合い推進員 西尾宏氏

- ③地域食堂と大学生の取り組み、調査結果について 鳥取大学地域学部講師 菰田レエ也氏
- ④地域食堂とフレイル予防との連携について 鳥取市フレイル予防ネットワーク推進会議会長 森下昇氏
- ⑤鳥取県社会福祉協議会の取り組みについて 鳥取県社会福祉協議会地域福祉部生活福祉資金室室長 川瀬亮彦氏

【ワークショップ】食でつながるプラットフォームをつくるためには ファシリテーター:琉球大学人文社会学部社会福祉学コース講師 田中将太氏





# ■北九州市 (写真追加必要)

【講演】北九州市における食支援プラットフォーム形成について 北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課長 明石卓也氏

【報告①】事業概要と他地域における食のある居場所づくり支援の事例について 一般社団法人全国食支援活動協力会専務理事 平野覚治氏

【報告②】訪問調査からみえてきた地域の特徴と課題について 千葉大学人文科学研究院教授 清水洋行氏

【事例報告】鳥取市における食を通じたプラットフォームの取り組みについて 鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター所長 川口寿弘氏

【活動紹介】北九州市内での食に関する活動の取り組みについて

①北九州市食生活改善推進員協議会会長 小畑由紀子氏

②北九州市子ども家庭局子育て支援課子ども食堂担当係長 上島未知人氏

③NPO 法人フードバンク北九州ライフアゲイン理事長 原田昌樹氏

④北九州市社会福祉協議会地域福祉部部長 平野謙太氏

# 【ワークショップ】

ファシリテーター: 一般社団法人コミュニティシンクタンク北九州理事 西村健司氏

テーマ:①他の団体に提供できること

②今後やりたいこと

③他の団体に協力してほしいこと





#### ■五所川原市

#### 【開会挨拶】

五所川原市社会福祉協議会会長 乗田孝一氏

【報告】本事業の概要と訪問調査から見えてきた地域の特徴と課題について 一般社団法人全国食支援活動協力会専務理事 平野覚治氏

【報告】五所川原市の今後の展望について 五所川原市社会福祉協議会事務局長 平山博文氏 五所川原市福祉部地域包括支援課課長 笠原美香氏

【事例報告】鳥取市における食を通じたプラットフォームの取り組みについて 鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター所長 川口寿弘氏

#### 【来賓挨拶】

厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課地域づくり推進室 室長補佐 岸英二氏 五所川原市市長 佐々木孝昌氏

【活動紹介】五所川原市内での食に関する活動の取り組み事例

- ①五所川原市ボランティア連絡協議会会長 黒滝久志氏
- ②五所川原市社会福祉協議会地域福祉課主事 柳生崇子氏 五所川原市食生活改善推進員会会長 鈴木優美子氏
- ③NPO 法人ほほえみの会 藤林秀氏
- ④みなみ広田町内会会長 菊池義孝氏

【ワークショップ】みんなで一緒に考え、つながり、仲間を増やす ファシリテーター:群馬県高崎市第1層生活支援コーディネーター 目﨑智恵子氏





# 4 参加者アンケートの結果

各会場のアンケート結果は以下のとおりであった。

■鳥取市研修会参加者アンケート結果 (11/6 対面+オンライン)

N = 15

#### Q1) ご自身のご所属を教えて下さい

行政職員	8
社会福祉協議会	3
活動団体	1
民間企業	1
その他(教育現場、生活協同組合)	2

### Q2) 研修プログラム全体の満足度をお聞かせください

大変満足	7
満足	6
普通	1
不満足	1
大変不満足	0

Q3) ビジョンの共有や報告(全国食支援活動協力会)を通して、食でつながるプラットフォームに ついて理解を深めることができましたか。

できた	6
まあまあできた	7
どちらともいえない	1
あまりできなかった	1
できなかった	0

- Q4) 他地域の事例報告(北九州市)から学んだことをお聞かせください。
- ・多くの食の団体の連携
- ・地域レベル、行政区レベル、市レベルと小地域から大地域までをもれなく、うまくカバーしているネットワークだと感じた。
- ・地域での結びつきが弱くなって、行政等でのサービスが広がっていること。その中でも地域の支え 合いのベースは小学校区で見て行くことと、そこに地域資源のあること。
- ・現状と課題を視覚化し、目指したい姿も分かりやすかったです。同じ自治体としての、庁内連携上の 課題も共有しましたし、ネットワーク構築の重要性も再認識しました。

- ・食を通じた地域づくりを他機関協働で実践されている仕組みを教えていただき、大変参考になりました。
- ・共生社会・重層的支援へ向かっていると感じた
- ・それぞれが色々な取り組みをされている事を知る事が出来ました。
- Q5)活動紹介(麒麟のまち圏域で活動されている団体)の満足度をお聞かせください。

大変満足	9
満足	3
普通	3
不満足	0
大変不満足	0

- Q6)よろしければ理由をお聞かせください。また、特に良いと感じた取り組みがございましたらご記載ください。
- ・他分野の連携
- ・体制や仕組みだけでなく、人というのをすごく感じた。役割(仕事)を持ってからかもしれないが、人が繋がり広がってる、そのことでさらに出来ることが広がるといった、いい連鎖を感じとることができた。
- ・やはり、中央人権福祉センターの取り組みはすごいなと思います。
- ・どの取り組みも住民主体で考えておられる視点が良いと感じました。
- ・県を超えた取組や、地域食堂(子供からお年寄りまでの取組)
- Q7) ワークショップの満足度をお聞かせください。

大変満足	4
満足	5
普通	3
不満足	2
大変不満足	1

Q 8 ) ワークショップやプログラム全体を通して、食でつながるプラットフォームをつくるための アイデアは得られましたか。

得られた	5
少し得られた	7
どちらともいえない	2
あまり得られなかった	1
得られなかった	0

- Q9) よろしければ具体的な内容をお聞かせください。
- ・強制ではなく関係性を築いてから自主性を重んじる支え方
- ・やはり、人の繋がりだと思った。地域の中での見守り、支援を視点に、どんな繋がりを持てるか、いろいろなところに出来るだけ出かけてみようと思う。もっともっともがいてここにあった(ここでできる)ことを見つけたい。
- ・"すでにプラットフォームの役割を担っている、あるいは担いつつある地域食堂との連携は、今まで保健分野ではなかなか出会えなかった人ともつながっていける可能性を感じました。

また、市や県を超えて繋がっていくことの重要性について、その知見も得ることができた。"

- ・課題ではなく、得意な事を引き出す。伴走型の視点がとても重要と感じました。
- ・他の機関の取組や内容が聞けて良かった。
- ・多世代間での地域食堂を通じての関わりのヒントが得られた。
- Q10) 研修会全体へのご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。
- ・ありがとうございました。
- ・"一つの講演が終わるごとの Q&A の方がわかりやすいのではないかと感じた。
- ・グループワークの満足度がなく、焦点を当てる内容が明確でないためファシリテーターが大変そうだった。"
- ・なにが大切かが感じられる集まりでした。間違いなく広がってると実感できました。ありがとうご ざいました。
- ・色んな方の意見が聞けて勉強になりました。
- ・盛りだくさんの内容に関わらず柔軟性のある、有意義な会でした。
- ・研修会では、アットホームな場で非常に発表しやすかった。そして、多くの方々とつながることが出来た会でした。ありがとうございました。
- ・事例が多かったほか、子どもだけでなく、高齢者やボランティア、地域づくりなどさまざまな分野の アクターが参加し、方向性を合わせる貴重な機会になっていたと感じた。

他の団体の取組や内容が聞け勉強になりました。

・大変盛りだくさんの内容でもっとじっくり活動紹介の時間があると良かったなと思いました。ワークショップは特に、参加しなかったらお話できなかった方たちとの出会いもあり、大変有意義な時間が過ごせました。ありがとうございました。

N = 10

# Q1) ご自身のご所属を教えて下さい

自治体職員	6
市社会福祉協議会(地域支援コーディネーター他)	1
子ども食堂関係団体、フードバンク等	3

#### Q2)研修プログラム全体の満足度をお聞かせください

大変満足	6
満足	4
不通	0
不満足	0
大変不満足	0

# Q3) ビジョンの共有や講演を通して、食でつながるプラットフォームについて理解を深める ことができましたか。

できた	3
まあまあできた	7
どちらともいえない	0
あまりできなかった	0
できなかった	0

#### Q4) 他地域の事例報告から学んだことをお聞かせください。

- ・目の前の課題を解決するためにやっていたことが、結果的にひとつの形になったと、現場を大切に されているかたのお話が聞けて勉強になりました。
- ・北九州市でも食でつながる居場所を拡大するためにプラットフォームづくりは必須だと感じました。
- ・鳥取の事例は、まさに今私達がやろうとしていること。もっと詳しく具体的にノウハウを学んで、 このまちに実践していきたい
- ・鳥取の子ども食堂の取り組み
- ・鳥取の事例から、人と「つながる」ことに食がきっかけになること、地域活動の展開につなげられることを学べた。
- ・官民が連携して広域な取組みに発展している事例において、分かりあう努力が大切である事を学ん だ。
- ・鳥取市の取組はとても理想的なだと思いました。
- ・食を通じて地域、人がつながる、食のもつ力。核となる人、役割分担。

・魅力的な取り組みをされていることを知り、「北九州市でもできるのかも」と可能性を感じた。

#### Q5)活動紹介の満足度をお聞かせください。

大変満足	5
満足	4
不通	1
不満足	0
大変不満足	0

- Q6)よろしければ理由をお聞かせください。また、特に良いと感じた取り組みがございましたら ご記載ください。
- ・サロンやヘルスメイトさんの役割を知ることができた。
- ・食進さんの活動を詳しく聞けて良かった。連携できる切り口が少し見えた
- ・それぞれの活動について知ることができた
- ・フードサポート事業は食を通じて人や地域のつながりを作り、食品ロス対策にもつながっていると ても良い取組みだと感じた。
- ・他自治体の取組について発表いただけた点が良かった。
- ・生活困窮者支援、子ども対象と限定せず、誰もが対象。継続できる仕組みづくり、サポート体制。 北九州市にこんなに食に関する活動をされてる人がいたことを知らなかったし、沢山の方と知り合う ことができた。食生活改善推進員さんの誕生のきっかけや目標なども今回の研修会に参加しなければ 知り得なかった。

# Q7) ワークショップの満足度をお聞かせください。

大変満足	4
満足	6
不通	0
不満足	0
大変不満足	0

Q8) ワークショップやプログラム全体を通して、食でつながるプラットフォームをつくるための イメージやアイデアは得られましたか。

得られた	1
少し得られた	7
どちらともいえない	2
あまり得られなかった	0
得られなかった	0

- Q9)よろしければ具体的な内容をお聞かせください。
- ・具体的なところまではいかなかったけれど、いろんなかたとお話できたので今後に繋がると思います。
- ・グループワークの中で次々とひらめきが出てきた。サロンやふれあい昼食会は地域でしっかり根付いている。それぞれの居場所を子ども食堂と連携していったり、市民センターでまずはフードパントリーや軽食で開催して子ども食堂を認知してもらうなど、全市で取り組みができればいいと思います。
- ・具体的な案は浮かばないけど、イメージとして、社会資源をうまく融合させることができればよい ことは分かった
- ・活動での困り事の解決には、互いに知合い、地域の活動団体のマッチングができる支援が必要であることがわかった。
- ・地域には様々な資源(人)がある。つながり、知り合う、学びあう。それぞれができることを続けられる範囲で。

## Q10) 研修会全体へのご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

- ・もっと横で繋がって連携したら良いものが生まれそう、ということをそれぞれの立場でみなさん感じていらっしゃったことがよかったです。ただ、それぞれの現場に持ち帰ると、いろいろな壁や障害がたくさんあることも事実だと思います。今日の気持ちを忘れず、また同じように考えている仲間がいることが財産だと思うので、今後に活かしていけたらと思います。
- ・研修やって終わりではなく、今日出た意見を実現できるように、期待しています。
- ・ありがとうございました。みんなで手をつないで輪を広げていきたいです
- ・またこのようなメンバーで集まり、実際に事業を興すことを目的に次のステップに進んでいけたら よいと思いました。
- ・盛りだくさんの内容で、新たな情報を得ることができた。今回の学びを業務の中でも意識していき たいと思った。
- ・他の自治体の方のお話が参考になりましたし、WS を通じて他の団体と繋がる機会ができたことは、とても有意義でした。"
- ・様々な立場、でも皆さん熱い想いをもった方々と前向きな議論ができてとても有意義でした。仲間がいる心強さを感じました。
- ・"フードバンクとフードサポート事業や子ども食堂などのお話を伺うことで、イメージが変わった。少しでも助けてあげたいという経験者と困っていてどうしたら良いか分からない人をつなげるプラットフォームの必要性、食を通して人と人をつなぐ活動の大切さを学んだ。
- ・今回の研修で、困った~を相談できる先輩を見つけた人を多く見かけた。参加できて良かった。"

N = 10

# Q1) ご自身のご所属を教えて下さい

行政職員	2
社会福祉協議会	2
活動団体	2
民間企業	2
その他中間支援団体	1
病院	1

## Q2)研修プログラム全体の満足度をお聞かせください

大変満足	5
満足	4
普通	1
不満足	0
大変不満足	0

# Q3) ビジョンの共有や講演を通して、食でつながるプラットフォームについて理解を深める ことができましたか。

できた	3
まあまあできた	6
どちらともいえない	1
あまりできなかった	0
できなかった	0

# Q4) 他地域の事例報告から学んだことをお聞かせください。

- ベンチの設置など
- ・これから自分達で何かできることを考えて行動してみる事が大事なのではないかと思いました。
- ・地域のネットワーク作り、地域運営組織の必要性について考えさせられました。また、後方支援の タイミングについて知ることができました。
- ・五所川原市がモデル事業となっていること、市役所・社協が行っている高齢者の居場所作り、各サロンでの活動事例
- ・地域で先頭に立つ人材がいる事が継続に繋がっていると感じた

Q5)活動紹介の満足度をお聞かせください。

大変満足	4
満足	6
不通	0
不満足	0
大変不満足	0

- Q6)よろしければ理由をお聞かせください。また、特に良いと感じた取り組みがございましたら ご記載ください。
- ・五所川原市は活動が盛んで驚いた。自分の住む市町村はどのような取り組みがあるのか、どのような課題があるのかを知りたいと思えた。また、いきいきサロン三好のベンチの設置やチラシをゴミ集積所に掲示するといったちょっとした工夫が大切だと感じた。
- ・鳥取のプラットフォームができるまでの様子がとてもよかったです。
- ・各地域で皆様が頑張っている様子を知ることができて良かった。
- ・広田町内会サロン活動、やってみたい、やりたいの声に沿いアクションができている。また、それ に対して後方支援もスピーディー対応であること。
- ・それぞれが意味のある事なので全部が良いと感じた
- Q7) ワークショップの満足度をお聞かせください。

大変満足	5
満足	4
不通	1
不満足	0
大変不満足	0

Q8) ワークショップやプログラム全体を通して、食でつながるプラットフォームをつくるための イメージやアイデアは得られましたか。

得られた	2
少し得られた	4
どちらともいえない	3
あまり得られなかった	1
得られなかった	0

- Q9)よろしければ具体的な内容をお聞かせください。
- ・他の分野で働いている職種の方々となかなか話し合える場が少なかったためとてもよい機会だった。同じグループの方々は健康の話は聞きたがっているという言葉を聞いて医療従事者として携われ そうだと感じた。
- ・"他団体との横のつながりがとても大切だと思うしこの機会に少しのことでもつながって何かができたらと思います。"
- ・色々な取り組みを更に組み合わせることで、もっと効果的に事業を展開していける可能性を感じた。
- ・横のつながり、ネットワークが大事と感じた

#### **010**) 研修会全体へのご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。

- ・"企業の方、食改の方と一緒になるような研修が中々なかったので、とても勉強になりました。
- ・この場でのつながりを今後に活かせればと思います"
- ・市長と距離が近く意見交換ができる研修会で素晴らしいと感じました。小さい子どもにも優しく対応してくださって大変助かりました。ありがとうございました。
- ・なかなか出来ないつながりの場をもらい研修に参加できてよかったと思いました。これから自分た ちのところで何かできることがないかをみんなで話しあっていきたいと思います。
- ・色々な取り組みをしている方々のアイデアを吸収したいので、もっと開催回数を多くしていただき たい。
- ・"全体的にわかりやすく、気軽に参加できたもの三時間があっと言う間でした。
- ・ワークショップ楽しかったです。
- ・貴重な機会提供ありがとうございました。"
- ・参加者の多職種も含め今後の活動に生かせる研修でした。定期的に開催してほしいです。

# 第4章 成果報告会

# 「食でつながるプラットフォームづくり全国研修会」の開催

# 1 研修会の目的

- ・モデル地域の事例を共有することで、食活動を支援するための体制整備やプラットフォーム形成に 関してのノウハウを全国に広げる。
- ・モデル地域のノウハウを活かし、全国で食を通じたプラットフォーム形成が推進される。
- ・全国で食に関する活動を行う団体が情報を共有し合う。

# 2 開催概要 (開催日・場所)

(1) 開催地・日時

#### ■全 国

日時: 2023年1月22日 14:00~16:20

開催方法:Zoomを利用したオンライン開催

参加者:130名

# 3 プログラム

# ■全国

#### 【来賓挨拶】

厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課地域づくり推進室 室長補佐 岸英二氏

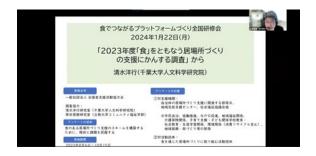
【報告】本事業の概要について

一般社団法人全国食支援活動協力会専務理事 平野覚治氏

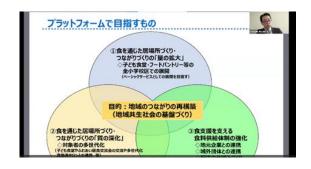
- 【報告】「食」を伴う居場所づくりの支援に関するアンケート調査結果について 千葉大学人文科学研究院教授 清水洋行氏
- 【事例報告①】麒麟のまち圏域における食を通じたプラットフォーム形成について 鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター所長 川口寿弘氏
- 【事例報告②】北九州市における食を通じたプラットフォーム形成について 北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課長 明石卓也氏
- 【事例報告③】五所川原市における食を通じたプラットフォーム形成について 五所川原市社会福祉協議会事務局長 平山博文氏 五所川原市福祉部地域包括支援課課長 笠原美香氏
- 【コメント】食支援プラットフォームの価値について 産業能率大学経営学部教授 中島智人氏 千葉大学人文科学研究院教授 清水洋行氏

# 群馬県高崎市第1層生活支援コーディネーター 目崎智恵子氏 【情報交換会】モデル地域ごとにグループに分かれ交流会

















# 4 参加者アンケートの結果

参加者のアンケート結果は以下のとおりであった。

■全国研修会参加者アンケート結果 (1/22 オンライン)

N = 83

# Q1) ご自身の属性を教えて下さい

行政職員	21
社会福祉協議会	22
生活支援コーディネーター	21
中間支援団体	4
その他	15

# Q2)研修プログラム全体の満足度をお聞かせください

大変満足	26
満足	32
普通	24
不満足	1
大変不満足	0

# Q3) 事業概要の説明やアンケート調査の報告を通して、食でつながるプラットフォームについて理解を深めることができましたか。

できた	22
まあまあできた	34
どちらともいえない	24
あまりできなかった	3
できなかった	0

# Q4) 各地域の事例報告の満足度をお聞かせください。

大変満足	32
満足	32
普通	16
不満足	3
大変不満足	0

# Q5)よろしければその理由や学んだこと等をお聞かせください。

・各地域の食支援活動が点であったものが線になり、面になっていくことがプラットフォームあることの概念を、各地域のご発表により実態を伴って理解することができました。ありがとうございます。

- ・いざ活動するとなると準備等大変だったと思いますが、地域性の特徴が出ていて参考になりました。
- ・食でつながる効果を理解できた
- ・食がキーワードでの地域支援の方法がわかりやすかった。課題はあるが地域の取り組みが活発に行われていることがわかった。
- ・やはり協議体が大切な場なんだと思いました。今後、役立てていけそうな情報が多く、勉強になりま した。
- ・プラットフォーム作りをしてみたいと感じた。
- ・自分や地域にも同じことができるかもしれないという可能性を感じました
- ・「食」ということからの活動の広がりを感じた。
- ・食に関する資源を有機的に連携していくことの重要性を理解できたため
- ・本当の顔の見えるつながりを作った後、どうすべきかをあらためて考えさせられた。PF は目的ではない。
- ・食のプラットフォームが、さまざまなテーマでの地域活性化や課題解決のためのプラットフォーム に応用可能なこと
- ・プラットフォームで様々な団体、組織が顔を合わせることにより、より有益な活動が可能になる。 地域食堂と協議会の連携の重要性が理解できた。
- ・食でつながる事の効果を地域や行政がしっかり理解できていると思った。
- ・食の居場所がアウトリーチ機能を持ち、個別支援に繋がっていく事を学べました。また行政と団体 の活動における意識の違いが、大変興味深かったです。
- ・10 分のボリュームでなくもう少し具体的に説明いただきたかった
- ・課題に対して、組織に横串を刺す
- ・五所川原の活動の中で、地域の資源が点在化している事が上がっていたが、当町もまだまだつながっていないと感じた。地域の活動を点から線、面へと広げるために話す場を次年度考えたい。
- ・食は誰においても大切なテーマであり、基盤となること。各実践報告から、プラットフォームの形や 役割を知り、団体とのつながり方等学ばせていただきました。
- ・生活支援体制整備事業・重層的支援体制整備事業など国から降りてきている事業が様々あるなか、 それぞれを1つにとりまとめ、イニシアティブをとっていく行政職員が重要であるように感じました。 プラットフォーム形成の方法や、重要な価値観を学ぶことが出来た
- ・食支援の重要性が高まる中、行政や社協、各団体がどのような取組を行っているのか知ることができ、非常に有意義な研修であったと感じております。
- ・社協や、行政のかたの発表だ、行政の本気度によるものなので、正直、私の自治体では、乗り気度が弱いので、3 発表団体に行き着くまで、あまり、道筋は見えませんでした。でも、取り組みを知れたのは良かったと思っています。すごいなぁ、いいなぁ、うちの行政もここまで本気でやってくらないかなぁとため息出ました
- ・事例として参考にはなったが、現時点において当自治体で実行できる内容ではなかったため。

Q6)交流会の満足度をお聞かせください。

大変満足	8
満足	17
普通	25
不満足	5
大変不満足	0

- 07)交流会のご感想をお聞かせください。
- ・直接、質問させていただく機会があり、具体的なアドバイスをもらえました。ありがとうございます。
- とても勉強になりました。
- ・ファシリテーターの方がうまく話を振ってくれ、より深い話を伺うことができました。
- ・関係者への事前ききとりなどそのような手段を通じて研修会への参画等をえることができたのか
- ・どの交流会においても同じではあるが、どうしても社協→自治体への思いが多くなってしまうため。
- ・短い時間でしたが、ファシリテーターの方や回答者の方が聞きたいこと等を聞いてくださいました。
- ・事例報告に関する詳しい説明やプラットフォームづくりの経緯を伺うことができて良かった。
- ・プラットフォーム形成について、他地域の様々意見を聞き、今後は自らの圏域でも活かしていきた いと思いました。
- ・私自身、地域包括支援センターに勤めながら、自宅を開放してコミュニティカフェを運営しています。高齢化の進む郊外の住宅街に住みながらその地域の包括の職員という立場で社会福祉協議会や市役所、その他子ども食堂などの団体のことはよく存じ上げていますが、今まであまりプラットフォームが必要とは考えていませんでした。個別支援に関しては、自分が直接その団体にお願いするという立場であり、また直接自分や支援センター職員が自分の運営するカフェで行っている様々な催しや集まりについて情報提供したりお誘いをしたりする支援をすることが多々あります。プラットフォームというよりはお互いの連携や情報交換はしてもよいかなとは思いました。
- ・当自治体では社協にお願いしたいことが多い反面、また温度差があり、熱量のある社協のご意見を 今後に反映しにくい。
- ・もっと多様な意見が欲しかった。
- ・現場レベルでの話がもっと聞きたかった。
- ・北九州の子ども食堂関連の参加が少なく残念でした。
- ・少し時間が短いように感じました。
- Q8)本日の研修会の内容を踏まえ、ご自身の活動地域での食支援プラットフォーム形成・芳醇化に向けて、ご希望される支援がございましたらご回答ください。

フードバンクや食に関する活動を行っている団体とのつながりづくり	33
食に関する中間支援団体、企業とのつながりづくり	
行政職員、社会福祉協議会対象の研修会の開催支援	
食支援プラットフォーム形成に関しての個別相談会	

事例報告地域への視察・登壇依頼など	10
その他	3

- Q9)研修会全体へのご意見・ご感想がありましたらお聞かせください。
- ・五所川原だけではない青森県内の地域課題にもつながるので参考にさせていただきたいと思いました。
- ・初めて参加させていただきました。子ども食堂を中心として子どもを対象にした活動が広がる中で、 高齢者を対象にした活動が不足しているというのが、最近とても感じているところだったので、今回 のお話はとても興味深く聞かせていただきました。ありがとうございました。
- ・SC としての活動で食の支援が全然できておらず、今後どういう風に動いていけばいいのかも分からないことが多いです。研修で学ぶことは多いですが、実際に行動に移せないまま時間だけが過ぎて行っているので、配食や食に関するニーズに合わせた動きを地域で考える機会を作りたいと思います。また、今後もいろいろな情報を発信していただきたいです。ありがとうございました。
- ・小規模自治体のため、五所川原の状況に近く、色々な資源が点と点である状態ですので、課題を共有 したいメンバーで意見交換をおこなったり、地域の特性を集めるところからだと思いました。ぜひ、立 ち上げのノウハウを学びたく、個別に相談したいと思いました。
- ・大変参考になるお話ありがとうございました。市内の地域包括支援センター、社会福祉協議会、自治体等とも情報共有を行った上、ご相談させていただく機会があればと思います。
- ・また機会があれば参加をしたいと思います。
- ・本日は誠にありがとうございました。北九州の交流会に参加させていただき、より活動を理解する ことができました。
- ・それぞれの団体がしっかりした活動をされていると思うがその活動や目的などの把握はどうしたら いいのか
- ・業務の関係で遅れての参加となりましたが、どの事例発表も大変わかりやすく、今後に向けて学びの大きい研修でした。今後とも、皆様から情報もいただきながら、当市でのプラットフォームづくりに向けて進んでいけたらと思います。ありがとうございました。
- ・初めて参加させていただきました。わからないこともありましたが、今後の活動のヒントをいただけました。事務局のみなさま、登壇者のみなさま、ありがとうございました。
- ・地域食堂に関する認識が変わりました。
- ・活動団体としてはどんな情報、支援が一番欲しいかと言うとやはり、助成金や自分たちの活動の PR の場所、講演会、直接的な支援としては参加者の紹介や事業として持続可能なアドバイスなどで、そのような情報が集まるプラットフォームが欲しいです。
- ・地域包括支援センターや生活支援体制整備事業など、既存の制度との関連での取組みがみんな理解 しやすいんだろうなと思いました。人口規模が近い行政や社協が興味あると思うので、今後は小さい 町村などもターゲットにしたいと感じたところです。社協と行政の取組み発表みたいなもの、ニーズ あると思いました。
- ・とても勉強になりました。このような機会があればまた参加させていただきたいと思います。
- ・食品関連企業の参加が増えると良いですね

- ・今回の研修もとても参考になりました。地域食堂や食を通じた集いの場と地域や協賛団体とのつながりづくりを大切にして活動をしていきたち思います。
- ・改善点があるとしたら、アンケート結果が今日の研修との関連が薄い印象になってしまって残念でした。実施したことは評価できても、もっと事例報告とか、やりとりを聞きたいと思ったのではないかと思います。

#### 第5章

#### 「食」でつながる支援プラットフォーム形成ガイドブックの作成

#### 1 作成の目的

以下の3点を目的として作成した。

- ①食支援のためのプラットフォーム・ネットワーク構築の意義と構築方法を理解する。
- ②市町村や圏域をまたいだ食支援のためのプラットフォーム・ネットワーク形成と活用方法の基礎材料となる。
- ③モデル地域の変遷プロセスを通じて、S C がコーディネート力を発揮するための環境整備の参考としていただく。

#### 2 内容

次頁より、本事業の成果物として作成したカラー冊子「食」でつながる支援プラットフォーム形成 ガイドブックの作成を収載する。

#### ■構成

#### ①導入

食支援でつながる広域・他業種連携の可能性について、短いコピーと図で示した。

#### ②問題提起

専門家による現状の課題整理、および食支援でつながる域外の組織を含めた他業種のネットワーク 構築がもつ意義・可能性について提言した。

#### ③課題整理

本事業で実施したアンケート調査の結果をもとに現状の課題を整理して明記した。

#### ④提言

域外や業界外の組織・団体と連携することの意義や可能性について専門家より提言した。

#### ⑤事業説明

「食支援プラットフォーム」の定義・解決を目指す社会課題の射程・組織構成・期待される効果・ 食支援プラットフォーム形成と醸成のモデル等、「食支援プラットフォーム」の概要・意義について 図解を交えて紹介をした。

#### ⑥事例紹介

モデル地域である五所川原市・北九州市・鳥取市の食支援プラットフォーム形成・醸成のプロセスを各地域の特色に合わせて紹介した。

#### ⑦まとめ

食支援でつながる多様な協議体によるプラットフォーム形成とその未来について明記した。

生活支援体制整備を促進する

「食」でつながる支援 プラットフォーム形成 **ガイドブック**  ネットワークの可能性実践事例と共に考えるモデル地域の



# 目次

(INTRODUCTION) 食でつながる支援プラットフォームがつくる未来
食支援活動の例 6
いま何が問題か
「2023年度「食」をともなう居場所づくりの支援にかんする調査」から 10
食支援活動を通じて浮き彫りとなる自治体職員のあり方
外に開くことで生まれる可能性
食支援プラットフォームとは何か?
モデル事例 ① 青森県五所川原市 20
モデル事例 ② 福岡県北九州市 24
モデル事例 (3) 鳥取県鳥取市
食支援でつながる多様な協議体によるプラットフォーム形成とその未来
段階別でわかる! 食支援プラットフォームの形成・醸成に関わってほしい団体リスト 38

本ガイドブックの役立て方 こんな人・こんな時に

#### こんな行政職員の方に

- 社会資源が不足しており、新たに立ち上げるにも予算やヒューマンパワーが足りていないと感じている
- 属性・世代を超えた居場所づくりや制度の 狭間にあるケースの支援などを検討中

#### こんな社会福祉協議会 職員の方に

- 食に関する困りごとやニーズがあり、どう取り組ん でいけばいいか検討したいが、やり方が分からない
- 食糧支援だけでは解決できない課題を感じている
- 子どもと大人・高齢者などが分かれているため、地域の新たなつながりが生まれるような取組みをは じめたい

#### こんな中間支援団体の方に

物価高騰によって十分な食品を買えない層が増え ているといったニーズを聞き、次のアクションを模 索している

# はじめに

生活支援体制整備事業では、地域住民、NPOをはじめとした民間の活動団体、中間支援団体、企業など、多様なプレイヤーが協働し、地域における日常生活上の支援の充実・強化と高齢者の社会参加がうながされる体制構築が必要とされています。そして、事業実施の方法に関しては、全国一律の決まりがあるわけではなく、各自治体による試行錯誤がおこなわれています。

このガイドブックは、すべての人に関わるテーマである「食」にフォーカスし、 食でつながる支援プラットフォームを形成することによって、地域における生活 支援体制整備を促進する可能性を探った一冊です。

日本各地でさまざまな食支援活動(配食サービス、会食会、地域食堂・こども食堂、フードパントリー、食育活動など)が実施されています。食にまつわるこうした活動は、生きる糧である食に対する人々のアクセスを確保するのみならず、生活支援や介護予防、コミュニティ創出など、さまざまな価値や可能性をもっています。すでに実施されている食支援活動を出発点に、地域の内外に存在する多様なプレイヤーや社会資源をつなぐことで、地域の可能性がひらかれていくのです。

本書では、食でつながる支援プラットフォーム形成の意義や形成方法とともに、 プラットフォーム形成に取り組む3つのモデル地域の変遷プロセスを紹介して います。3つのモデル地域は、その特性もプラットフォームの形成度合いも異な り、ご自身の地域の実情にあわせて参考にしていただくことができます。地域 の生活支援体制整備の促進に、本書の内容をお役立ていただけたら幸いです。

#### 食でつながる支援プラットフォームがつくる未来

# 「食」でつながる支援プラットフォームがもたらすもの

食を支援することは、単に食べ物を 提供する以上の意味を持っています。

食生活の支援は、栄養状態の改善のみならず、地域の人々に 心身の健康と安心感をもたらし、支援の受け手だった人々もふくめ、 潜在的な担い手を増やすことにも寄与します。

食を提供する場は、地域における人々の居場所となり、 人と人との新たなつながりも生み出します。

食にまつわる支援活動が活性化することで、 多様な人が参加できる場が増えるとともに 担い手としての参加機会も確実に増えていきます。 その結果、高齢者をふくむこれまで支援の担い手として 想定されていなかった人たちの役割や出番の機会が増え (=ソーシャル・インクルージョン/社会的包摂)、

孤独・孤立の解消や介護予防につながる可能性があります。

さらに、担い手として活動に参加することは、

地域住民の自治意識や社会参画意識を醸成します。

そんな食にまつわる支援活動(=食支援活動)を 継続・活性化する土台となるのが、 食でつながる支援プラットフォームです。

プラットフォームによって活性化された 食支援活動は、人々の食を支えるのみならず、 支え合いに対する人々の行動や意識を変え、 地域の姿を変容させていくのです。



# 困りごとを抱えた人と つながるきっかけとしての「食」

食を支援する活動の第一の目的が、 必要としている人に食べ物を届けることである。 それは間違いありません。

しかし、食の支援がもつ可能性は、 栄養状態の改善にとどまりません。 「同じ釜の飯を食う」という言葉が示すように、 食には人と人との距離を近づける力があります。 食と関わりをもつ地域のつながりは、 さまざまな課題を解決する原動力となります。

また、困りごとを抱えているにも関わらず SOSを発することが難しい人たちに対して、 食をきっかけとすることで、相談に対するハードルを下げ、 支援につなげている事例が各地で見られます。

地域食堂やフードパントリーをはじめとした 地域の食支援活動は、地域住民のつぶやきとして 発せられる困りごとをキャッチする機能においても 大きな可能性を秘めています。

# さまざまな領域をまたぎ「食」支援でつながる

食には、さまざまな領域で活動する主体をつなげる力があります。

福祉・保健、環境、防災、まちづくりなど、 一見すると関わりの薄い領域の主体同士が、 食支援活動を中心に据えることによって 問題意識を共有し、つながり合うことが可能となります。

また、企業や協同組合、商工会など、福祉分野に限らない 多様な機関・団体が、食の支援を目的に、 連携する事例が各地で生まれはじめています。

-74-

# 住民、行政、民間企業・団体が一体となり みんなで取り組む食支援へ

食支援活動を継続・活性化するうえで問題になるのが、 人、食品、物品・備品、拠点、資金など、さまざまな社会資源。 資源不足が原因で、活動継続が危ぶまれる状況が各地で生まれています。

社会資源不足を単独の活動団体や行政の一部署で 解決することは困難なケースが多いでしょう。 そんな状況に対する突破口となりうるのが、立場を超えた連携です。

支援活動に取り組む住民たちと、それを支える行政機関、社会福祉協議会、 教育機関、医療機関、企業、協同組合、NPOなど、地域に存在している 多様な機関や団体が集まることで、社会資源調達の可能性は大きく広がります。

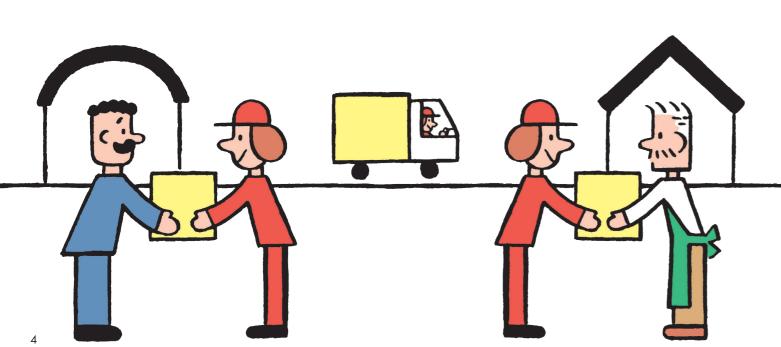


# 担当分野の壁を超える

プラットフォームを通じて、分野が異なる多様な主体が集まることは、 社会資源の調達のほかにもさまざまな効果を生みます。

福祉分野に限らず、異なる分野の主体が、 それぞれの強みや経験、知見を生かすことで、 従来ではできなかった課題解決が可能となります。

分野を超えて集まり、課題を共有し、解決策を共に考える。 ことばにすると単純なことが、課題解決やより大きな 支援の仕組みづくりのために大きな力を発揮するのです。



# 地域の枠を超えた

# 広域連携によってさらに広がる可能性

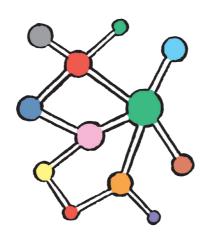
ひとつの自治体のなかにある組織や社会資源だけで すべての問題を解決しなければいけないわけではありません。

自治体の枠を超えて事業をおこなう企業、

都道府県レベルの中間支援組織、テーマ別の全国ネットワークなど、 広域的な連携をおこなうことで、よりスムーズで持続可能な 社会資源の調達や活動のための知見を得ることが可能となります。



# 生きたネットワークにするために



立場を超えて多様な分野の関係者が集まり、食支援活動の 実践を知るとともに、食でつながる支援プラットフォームを 形成することは、あくまでスタート地点にすぎません。 活動が豊かに展開していくためには、支援プラットフォームを 立ち上げた後もステークホルダーとなりうる関係者に参画を呼び掛け、 ネットワーク内の多様性を豊かにしていくことも必要です。

また、連絡会、イベント、会議などを通じて、参加した主体同士が協力関係を構築したり、さらにネットワークを拡大したりすることによって、社会資源の開拓・活用・循環を促進し、生きたネットワークにしていくことが何よりも大切です。



# 一緒に食べる

# 高齢者を主な対象とする会食会、 食の提供があるサロン・居場所

ひとりで食事をすることが多い高齢者などを対象に、 会話を楽しみながら誰かと一緒に食事をする機会 を提供する取組み。栄養バランスのとれた献立や 食を通じた交流は、健康づくりや仲間づくりにもつ ながります。こども食堂と連携した多世代交流など、 多様な取組みがおこなわれています。

#### 地域食堂、多世代食堂、こども食堂

多様な世代を対象にした、自由に出入りができ、無 料もしくは安価に食事ができる地域の居場所は 2010年代から各地で広がっています。来たい人が 自由に参加できる自由度の高さも参加のハードル を下げています。孤食の解消、困窮者支援、共食体 験の提供、学習支援など、その目的やテーマもさま ざまです。



# 食を届ける

#### 配食サービス

利用者の自宅まで食事を配達する取組み。その目的 は、安否確認と在宅における生活状況の把握、そして バランスの良い食事を通じた栄養状態の改善を推進 することです。おおむね1980年代から、社会福祉施 設や住民団体による先駆的な取組みがおこなわれる ようになり、現在では民間企業も多く参入しています。

#### こども配食、こども宅食

ひとり親家庭をはじめ、生活支援を必要としている子 育て世帯などを対象とした配食サービス・食料品の宅 配支援。定期的に食品を届けることによってつながり をつくり、見守りながら、食品以外のさまざまな支援へ つなげることを目的としています。

# 食を伝える

#### 食育活動

子ども、学生、社会人、高齢者など、さまざまな人が食 に関心をもち、健康を意識するきっかけづくりとして、 食べ物や栄養についての知識を深める機会を提供す る取組み。テーマも、食文化の継承、地産地消、行事 食、調理方法、子どもの健全な成長・生活習慣病予防・ 介護予防に向けた食生活など多様です。また、実施形 態もさまざまで、栄養知識や調理技術向上のための調 理実習・教室のほか、食事を自分で作れるようになる ことを目的に、子どもや若者を対象とした調理機会を 設けている居場所活動などもあります。



# 食へのアクセスを支える

#### フードパントリー、フードバンク

困窮状態の人や支援団体が寄付された食品を直接受け 取れる仕組みや、必要とする人が訪れて食品を受け取る ことができる場所。地域の多様なリソースの活用など、そ れぞれ団体の特性を生かした取組みをおこなっています。



地域の状況によっては、食へのアクセスが困難なエリア もあります。そのようなエリアに、移動販売などの手段を 用いて、食が届く仕組みを工夫している活動です。また、 食をともなう居場所への送迎や移動費の軽減などをお こなう移動支援の取組みもあります。



**そ**の他 活動の中に「食」を取り入れているものや、「食」をきっかけにアウトリーチを実施しているもの。

**学習支援** 学習の前後に食事の提供を実施している 活動もあります。

就労支援 衣食住を包括的にとらえ、安定して就労す るうえで必要な能力を身につける訓練に合わせて、 食事の支援を実施している活動もあります。

# 引きこもりなど若者支援

孤立しがちな引きこもり状態の人や家族を対象とし たコミュニティカフェや居場所での食事提供を実施し ている活動もあります。また、カフェの食事提供など に引きこもり当事者が関わることで、出番を提供する 機会としても活用されています。

-76-

# いま何が問題か

琉球大学人文社会学部 専任講師 田中将太

#### 「食」に関連した活動と包括的な支援システム

地域を見渡せば、なんと「食」に関連した活動の多いことでしょう。料理教室や会食会、健康増進を目的とした食生活改善活動に通いの場や縁がわでの茶話会、孤食や低栄養の人々への配食活動や地域・こども食堂、フードバンク等々、サークル活動から支援の場まで、全国各地、地域の中では食を通じて人々が交流し支え合う活動がバリエーション豊かに見受けられます。

そこからは、「食」そのものが生活の一部であり、生きがいであり、活動のもつ取り組みやすさや豊富な関わり方などから「食」に関連した活動は入り口も奥行きも広い活動として地域に存在しているといえるでしょう。さらにこれらの活動は単なる食事の提供にとどまらず、健康や食生活支援、介護予防、見守り、交流、まちづくりなど地域に多様な価値をもたらしています。

特に支援の場では、孤独・孤立が社会問題として取りざたされる中で、これらの食を通じた活動が希薄化した社会関係の再構築のためのツールや場として用いられるなど、行政や専門職、地域住民のみならず飲食店や企業等、多様な主体が交差する結節点としても再評価されています。

我が国では、人口減少と少子高齢化を背景に「地域共生社会の実現」、「地域包括ケアシステムの推進・深化」が掲げられていますが、その基底には制度の狭間を超えその人が置かれている状況やライフステージに応じた包括的な支援システムの必要性があることを示しています。また、血縁や地縁だけでなく、多様な「社会の縁」を活かした「新しい支え合い」の仕組みづくりとしてその基盤整備を市町村が中心となって推進されることとなりました。このように支援の連携を前提とした制度福祉の運用と住民主体による「新しい支え合い」づくりの一体的な取り組みは、より包括的で効果的な支援体制の構築に向けた重要な一歩といえます。

#### 地域における状況

それでは実際の地域はどうでしょう。地域における包括的な支援体制には、進展と課題が 共存しています。国は市町村を中心に住民主体による介護予防や生活支援の体制整備を目 的に、生活支援コーディネーターの配置や協議体の設置が全国の市町村で進められている のは周知のとおりで、これらは、地域の実情に即した包括的な支援を提供するための基盤 整備であり、多機関・多職種連携による「地域完結型」の流れが地域包括ケアのもとで推進 されているといえます。

しかし、一方で停滞している課題も存在します。縦割り行政により各々の領域で類似する活動やネットワークが同じ地域内で存在していることもあり、互いの存在を知る機会を持たずに地域の限られた社会資源を求めて時に競合し葛藤する姿や「地域完結型」の施策が進められるが所以に生活圏域が分断され、小さな地域内の限られた担い手や財源だけでは運営資源が確保できないと苦悩する市町村行政や地域住民の姿があります。また、支援が必要な最中にある人々は、社会からの自己責任という厳しい眼差しにより、受援力が削がれたり地域社会から遠ざけられたりするなかで孤立せざるを得ない姿もあります。

多様な食支援の場においても、行政でも専門機関でもない住民主体による活動は、生きづらさを抱えている人々にとって「利用のハードルの低さ」や「関わりのもちやすさ」などから行政や専門職によって重宝される一方で、各領域においてこれらの活動を財源や物資供給、担い手育成、ネットワークづくり等の面で下支えする仕組みが充分に整えられているとは言えません。

私たちは日常的に地域や市町村、県境をまたいで生活しています。範囲を定めて計画的に構築していく地域完結型の利点を活かしつつも、地域横断的で既にあるアセット(資源)を持ち寄る「相互補完の場」づくりとその場を「運営する人とその役割」の創出が今日重要な局面を迎えているのではないでしょうか。

## 「食支援プラットフォーム」のもとに集う

本ガイドブックでは、これらの課題に対して、地域の中に存在する「食」を通じたバリエーション豊かな活動に着目し、それらの多様なプレイヤーが地域や制度、領域をまたいで相互理解を図り協力関係づくりを促すこと、合わせて、それらの活動を下支えする仕組みづくりを目指した「食支援プラットフォーム」の形成と醸成のプロセスについて、青森県五所川原市、福岡県北九州市、鳥取県鳥取市の実践をご紹介します。

3地域では食を通じて人々が交流し支え合う営みを真ん中に据えることで、地域を超え領域を超えて地域住民、NPO、企業、行政各部署、専門職等が「食支援プラットフォーム」という一つの大きなテーブルを囲みました。そして、その実践のプロセスからは地域内の活動を支援するだけでなく、地域間での連携や資源の共有を促進することで、資源の不均衡や地域差を補おうとする姿をみることができます。

皆さんも未完のプロジェクトである「食支援プラットフォーム」のもとに、一緒に集いませんか。

-77-

# 「2023年度「食」をともなう居場所づくりの支援にかんする調査」から

千葉大学大学院人文科学研究院 教授 清水洋行

#### 調査の概要

本調査は、「食」をともなう居場所づくりへの支援のスキームを構築するため、食支援活動にかんする支援の実態とニーズ、活動団体および支援団体のネットワーク・価値観などを把握することを目的とし、青森県、福岡県を含む9県(一部その近隣地域を含む)にて、①市町村および社会福祉協議会の居場所づくりに関連する諸部局向けの行政・社協調査と、②「食」をともなう居場所づくりに取り組む団体向けの活動団体調査を実施しました。有効回答は、①行政・社協調査が268活動、②活動団体調査が313活動でした。回答機関・団体の内訳について多い順に3つまであげると、①行政・社協調査は社会福祉協議会が86活動(32.3%)、福祉・介護関係部局が71活動(27.2%)、子ども関係部局が37活動(14.2%)、②活動団体調査は、こども食堂が134活動(42.8%)と大きな割合を占め、続いて地域食堂44活動(14.1%)、フードパントリー33活動(10.5%)でした。

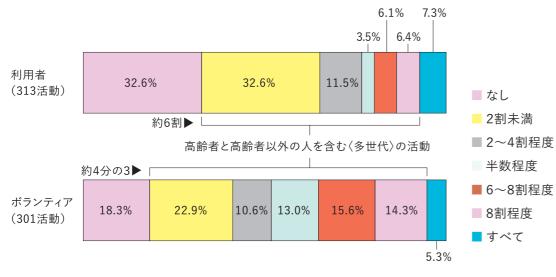
# 2 回答活動の概略

まず、活動団体調査の回答活動の輪郭を簡単におさえておきたいと思います。

活動頻度 …………1か月あたり1回の活動が約半数です。週に1回未満で区切ると約3分の2の活動が含まれます。

利用人数 ……50人未満が約6割です。100人未満で区切ると8割以上の活動が含まれます。

ボランティアの人数…10人未満が約6割です。20人未満で区切ると8割以上の活動が含まれます。なお、ここではボランティアがいない活動(7%)を除いています。



「図表1] 高齢者(65歳以上)の人の割合

高齢者との関係について少し詳しくみておきましょう[図表1]。回答活動がこども食堂など子ども関係が中心であることもあり、利用者に65歳以上の人がいない活動が約3分の1を占めています。また、高齢者向けの居場所や会食会等からの回答もあることから、利用者すべてが65歳以上の活動も7%ほどあります。全体からこれらを除いた約6割が利用者に65歳以上の人を含む活動です。同様にボランティアでは、65歳以上の人がいない活動が2割弱、全員が65歳以上の活動が5%ほどで、全体からこれらを除いた約4分の3がボランティアに65歳以上の人を含む活動です。すなわち、利用者とボランティアのいずれについても、高齢者を含む多世代の活動が大きな比重を占めていることがわかります。

# 3 行政・社協から活動への支援について

「食」をともなう居場所やそれに関連する活動に対する行政・社協による支援について、活動団体調査と行政・社協調査で共通する10項目についてたずねました。[図表2]は活動団体における課題感や支援のニーズ状況、行政や社協における活動支援状況を集約した表の一部です。ここで注目したい点は次の3点です。

#### 1 資金の確保に関する支援

活動に課題があり、支援を受けた活動も一定程度ありつつ、今後も受けたい割合が高く、行政・社協も取り組んでいる傾向にあります。つまり資金の確保に関する支援は、活動の継続のため今後も引き続き必要な支援といえるでしょう。

#### 2 先行事例の紹介や活動のやり方に関する支援

活動に課題がややあったが、今後は支援を受けたい割合が小さい傾向にあり、立ち上げ支援として必要と考えられます。この支援は、行政・社協が取り組んでいる傾向にあることから、 今後も支援の継続が求められます。

#### 3 担い手募集に関する支援と活動の備品に関する支援

これらの支援の特徴は、活動団体は今後支援を受けたい傾向がみられるのに対して、行政・ 社協が取り組んでいる割合が小さいことです。このうち活動拠点の備品に関する支援は、行政・

		活動団体				
	ここ3年間、 課題がなかった	ここ3年間に 行政や社協から 支援を受けた	活動の継続や発展に 向けて、今後、行政や社協 から支援を受けたい	取り組んでいる		
資金の確保に関する支援	26.2	44.1	59.4	61.3		
先行事例の紹介や活動のやり方に関する支援	37.1	31.3	22.0	51.7		
担い手の募集に関する支援	38.7	18.8	46.0	33.3		
活動拠点の備品に関する支援	41.2	17.3	45.0	19.9		
利用者への支援の質的向上や量的拡大	42.5	20.4	25.9	43.7		

11

「図表2〕活動の課題と、行政や社協による活動支援

-78-

社協によって取り組まれていない傾向がより強いといえます。支援の提供が行政・社協で難しい場合は、食支援関係の中間支援組織などとの連携も有益と考えます。「**図表2**〕

# 4 ネットワークについて

いずれもここ3年間について、活動団体には「支援を受けたり、連携・協力したりした」相手、 行政・社協には「支援や、支援のあり方・進め方の検討にあたり、日頃、かかわりをもっている」 相手を選んでもらいました。ネットワークの相手について、17の団体・個人をあげ、それぞれ が「市町村内」「県内」「県外」の3つのスケールの内のどこにあてはまるのかもたずねました。 図表を簡略化するため、ここでは行政・社協についてはスケールの区別を省略しました。図 表3は、活動団体からの回答について相手と連携や関わりのあった割合の多いものから順 に並べた表の一部です。ここでは、3点ほど指摘したいと思います。

- **1 社協と行政は、活動団体、行政・社協の双方ともに関わりのある傾向が強い**。特に行政・ 社協どうしはその傾向がより強いといえます。
- 2 食支援の中間支援団体・ネットワーク、フードバンク、企業、NPOセンター、生協・農協・ 漁協は、他の選択肢と比較して、市町村外の団体とつながっている傾向がみられます。
- **3** 図表で太文字にしてある団体は、行政・社協よりも活動団体の方がそれらと関わりをもっている傾向にあります。

以上のことから、活動団体は行政・社協と比べて上記**2**にあるような市町村外の団体との関わりを通じて市町村外の資源を市町村内に導入している傾向がみられます。市町村内に十分にない資源を補完するうえで、行政・社協が市町村外の団体と連携していくことも有益であると考えられます。[図表3]

		団体 (N=257)						
	市町村内	県内の 他の市町村	県外	いずれかあり	いずれかあり			
社会福祉協議会	57.6	13.6	1.2	63.8	< 76.7			
行政(行政は自課以外の 部局や機関について)	54.9	14.4	1.2	61.1	< 73.0			
食支援の中間支援団体・ ネットワーク	37.7	23.7	10.5	61.1	> 36.3			
フードバンク	40.1	24.5	4.7	59.9	> 39.1			
企業	40.5	14.4	7.4	51.0	> 25.6			
小中学校·高校、PTA	34.6	4.3	0.4	48.6	> 27.4			
NPO センター	34.6	15.6	4.7	47.1	> 36.3			
生協·農協·漁協	28.4	11.3	1.9	36.6	> 21.4			
まちづくり協議会、 コミュニティ協議会	28.4	2.7	0.0	30.7	32.6			

[図表3]【活動団体】支援を受けたり、連携・協力したりした相手【行政・社協】支援や、支援のあり方・進めた方の検討にあたり、日頃、関わりをもっている個人・団体(複数回答。政令市を除く)

# 5 活動がもつ価値について

[図表4]は、活動団体に対しては活動が「担い手」にとってもつ価値を、行政・社協に対しては「市民」にとってもつ価値をたずねた結果です。2点ほど指摘します。

1 活動団体と行政・社協の両方が多くあげている項目は「他の人と交流できる」です。これは、「食」をともなう居場所づくりにあたり活動団体と行政・社協との連携・協力の基盤となる価値と考えられます。2 他方で、「出番や役割を得られる」「学びの機会になる」という項目は、活動団体が比較的多くあげている一方で行政・社協は少ない傾向にあります。反対に、「孤立解消のきっかけ」や「栄養を摂ることができる」という項目は行政・社協の方が多い傾向にあります。これらのギャップの背景を考えると、いずれの項目においても行政・社協が「市民」として「利用者」を念頭において回答されたものと推察されます。したがって「食」をともなう居場所づくりにあたり活動団体と行政・社協が連携・協力を進めるうえで、食支援の活動が利用者に対してとともに担い手にとっても価値を有している点を共有していく必要があると考えます。[図表4]

最後に「活動が地域や社会にとって持つ価値」についてまとめたものが図表5です。こちらは活動団体調査と行政・社協調査で同じ質問をしています。この中で「住民同士のつながりができる」という項目が、活動団体と行政・社協のいずれも数値が比較的大きくなっています。住民参加によって「食」をともなう居場所を地域に広げていくうえで活動団体と行政・社協の共通の基盤となる価値となると考えます。「図表5〕

	団体 (N=301)	行政・社協 (N=268)
他の人と交流できる	67.8	61.2
出番や役割を得られる	42.5	14.2
学びの機会になる	30.6	8.6
心のよりどころになる	27.9	25
食事を楽しむことができる	23.9	25.4
「孤立解消」のきっかけとなる	20.6	45.5
食育の機会になる	19.6	8.6
地域や社会の情報を得られる	18.3	8.6
困りごとを相談・発信できる	11.3	28.7
経済的な支援になる	6.6	17.9
栄養を摂ることができる	5.6	30.6
望ましい生活リズムや 生活習慣が身につく	3.0	6.0

[図表4]活動が担い手にとってもつ価値、 活動が市民とってもつ価値(3つまで選択)

	団体 (N=312)	行政·社協 (N=268)
住民どうしのつながりができる	47.4	48.9
子どもが健やかに成長できる	43.6	18.3
多世代が交流できる	42.3	25.0
活動を通じて孤立解消につながる	31.1	48.9
行政では対応できないニーズに 対応できる	27.9	24.6
困りごとのある人とつながれる	23.7	20.1
地域の課題を発見する機会になる	18.3	22.4
食生活の改善になる	14.7	17.2
引きこもりや生きづらさをかかえた 人とつながる	13.5	10.1
食品ロスが減らせる	12.2	6.7
高齢となっても 住み慣れた地域で暮らせる	10.3	31.7
経済的格差が減少する	3.5	1.5

[図表5]【活動団体、行政・社協】活動が地域や社会に とってもつ価値(3つまで選択)

# 食支援活動を通じて浮き彫りとなる自治体職員のあり方

立教大学コミュニティ福祉学部 教授 原田晃樹

#### つながりの弱さがもたらす社会課題

新型コロナウイルス感染拡大以降、つながりの 希薄化が社会的なトピックになっています。その 今日的な課題は、介護、子育て、リストラ、疾病な ど、人々にふりかかるさまざまな困難が個人化さ れがちなことです。個人化された社会とは、個人 が求める生き方を自由に追求できるようになった 反面、その決断によって自らが責任を負うことが 求められる社会です。従来、家族、近隣、企業と いったコミュニティとして対処してきた生活上のリ スクを個人が被るようになったのです。

リスクの個人化は、一人親世帯の子どもの発育 や教育、独居高齢者の孤独な生活環境、働き世代 の生活苦などのように問題が可視化されにくく、 往々にして当事者に差し迫った危機に陥っている という自覚が乏しいため、支援する側とされる側 を一律に線引きしにくいという特性を持ちます。 それゆえ、従来型のサロン運営や縦割りの行政 サービスでは効果的に対応することが難しい面が あります。

「食支援プラットフォーム」は、人の生活に不可 欠な「食」を基盤として、誰もがその人の関心や 必要に応じてつながり、双方向の関係を築きなが ら、必要な支援を効果的に提供するための仕組み といえるのです。

#### 自治体の課題

こうした仕組みは、行政機関、特に福祉給付や も大きな意味があります。自治体はここ四半世紀

の間に組織が変容し、現場で活動するさまざまな アクターと協働する機会が激減しているからです。 その理由は、第一に現場を持つ業務の多くが外 部化されていることです。もはや介護や保育の内 情に精通する職員はいません。第二に、国の職員 定数管理の厳格化を背景として、業務量の増大に 比して正規職員を増やせなかったために、専門職 の一般行政職への職種換えや非正規化が進んで いることです。そして、第三にこれらの結果や近 年の国・都道府県からの権限移譲もあいまって、 正規職員が抱える業務量は著しく増加しているこ ともあげられます。どの自治体の担当者に聞いて も、ここ20年ほどの間に業務量は体感的に2~3 割程度増えたという答えが返ってきます。

#### 求められる自治体職員のあり方

今回の調査において、 先駆的と思われる自治 体には次の二つの特徴が確認できました。一つは、 自らの部署とは直接関係ないと思われる場合でも、 まずはそれを正面から受け止め、庁内で共有する 仕組みがつくられていたこと。もう一つは、困難 を抱える人とつながっている地域のさまざまなア クターと日常的に接触し、彼らから直接情報を キャッチする実践があることです。常に現場から 情報を拾い上げようとすることで、問題の「勘どこ ろ | がつかみやすくなるだけでなく、一緒に解決 に向けて動いてくれる「同志 | を庁外にもつくるこ とができます。また、そうした実践が下敷きにある からこそ、庁内での問題の共有が図られやすくな 地域支援の最前線に立つ(基礎)自治体の職員に るのです。こうした職員こそが、これからの自治体 にとって強く求められているように思います。

# 外に開くことで生まれる可能性

琉球大学人文社会学部 専任講師 田中将太

地域社会を支え、豊かにする「食」の力は、私 たちが日常的に享受する以上のものがあります。 本稿では、「食」を通じて広がる協力の可能性と、 地域の支え合う力を生み出す新たな展望につい て皆さんと共に考えていきたいと思います。

私たちが地域で直面する課題は、庁内連携の難 しさ、地域の支え手不足、複雑化したネットワーク 間の協力関係構築への苦労など、多岐にわたりま す。これらは一見、個別の問題と思われがちですが、 「食」を通じて解決策を見出すことが可能です。地 域の食堂やフードバンクが提供するのは、単に食 事だけではありません。異なる世代や背景を持つ 人々が集い、交流する「居場所」として機能し、地 域社会のつながりを深めるのです。

しかし、これらの取り組みが組織の壁や縦割り 行政の壁に阻まれることも少なくありません。異 なる領域や主体が協力する場面では常にやりづ らさが伴い、予算や人員の制約、意思決定のプロ セスの違いなどが障壁となります。せっかくの活 動が組織や固定された人間関係の中に限定され たり、連携の機会を見逃したりと意図せず地域の 持続可能な発展を妨げる要因となってしまってい るのです。これらの課題を乗り越えるためには、「で きないこと | に固執するのではなく、「できること | に焦点を合わせ、既存の活動が持つ強みを組織 や限られた人間関係の中から地域へと開放し、新 たな協力の舞台を積極的に探し、創造していく必 要があります。

人々の交流や支え合いをひろげ、持続可能な

発展を促進するための鍵は、地域社会に多様な 価値をもたらしている「食」を軸にした協力関係 です。行政職員と民生委員、社協職員とこども食 堂等の運営者が連携し、地域の担い手を増やす 取り組みは、具体的に社会参加を促します。高齢 者向けの居場所活動とこども食堂の運営資源を 共有することで世代間の交流を促進し、フードバ ンクが地域の飲食店やスーパーと協力して余剰 食材を有効活用する、これらを行政と社協が下支 えすることは、地域社会の持続可能性と活性化に 大きく寄与します。

このような取り組みを促進するための一歩として、 「食支援プラットフォーム」の立ち上げがあります。 このプラットフォームは、地域のさまざまな組織や 個人が集まり、食に関する活動や資源を共有し合 う場を提供します。情報共有や連携を促進するだ けでなく、新たなアイデアや取り組みの創出を目 指します。地域の課題に対して一緒に考え、共に 行動することで、地域社会全体の発展に貢献する ことが可能となるのです。

あなたの経験、知識、そして熱意をもって、「食 支援プラットフォーム | に参加し、地域の未来を共 に築いていきましょう。地域社会のつながりをひ ろげ、新たな協力の舞台を創出することで、より 豊かで持続可能な未来へと進むことができます。 すべての人に役割があります。あなたの参加が、 地域社会の変化をもたらし、新たな展望を開く第 一歩となるでしょう。

-80-

# 食支援プラットフォームとは何か?



## 食支援プラットフォームの位置づけ

本ガイドブックにおいて、「食支援活動」(配食サービス・会食会・地域食堂・こども食堂・フードパントリー・食育 活動など)の創出と地域展開に向けた環境整備を目的に、人・場・モノ・資金・情報といった社会資源を開拓・活用・ 循環させる複合的な機能を有する会議体(協議体)を「食支援プラットフォーム」と位置づけます。

# 背景と意義

地域で実施される食支援活動が生み出す効果は、単 に食べ物を提供し、栄養状態を改善することにとどま るものではありません。孤独・孤立を予防し、互助を 促すとともに、生活支援、介護予防の効果をもつなど、 多面的な価値を有しています。

ところが、こども食堂や多世代型地域食堂が全国的 に広がりをみせる一方で、高齢者を対象とした活動 の多くが、担い手不足をふくめた継続のための資源 の不足を課題としており、多くの地域で食支援活動の 継続が危ぶまれる状況にあります。生活支援体制整 備に関わる協議体においても、活用する社会資源は 地域内のものにとどまっており、資源不足ゆえに多様 なアイデアが活動に生かされにくいという課題を抱え ています。

こうした課題に対して、支え合いの活動創出に関わる 行政所管・社会福祉協議会・生活支援コーディネー ターなどがその力を発揮し、協議体の活動、ひいては 地域の食支援活動を活性化していくことが期待され ます。しかし、そのためには多様な分野からの資源調 達を図っていく必要があります。そこで、企業・協同組 合・商工会など、福祉分野に限らない多様な機関・団 体や、地域外の広域ネットワークとの有機的な連携が カギとなります。

福祉・保健・まちづくりといった行政関連所管間の価 値観の共有、食支援活動団体同士の連携の促進、地 域外や他分野の資源の活用などを促す仕組み=プラッ トフォームの構築・活性化が、地域における諸課題の 解決策のひとつになると考えます。

### 食支援プラットフォームが解決をめざす社会課題の射程

食支援活動は、個人の食生活に対する課題を解決す ることはもちろん、孤独・孤立を予防し、地域における 万助をうながす効果も期待できます。そして、食支援 プラットフォームは、そんな食支援活動を創出し支え る機能をもち、結果として多様な社会課題の解決に 寄与することができるものと考えます。

食支援プラットフォームがどのように社会課題の解決 に与するか、具体的にみていきましょう。まず、プラッ トフォームを構築することにより、食支援活動が個人 に対する食生活支援が継続・活性化されることで、地 域住民の栄養状態の改善や心身の健康増進へとつ ながり、介護予防や地域の担い手となりうる人材の増 加に寄与します。

また、食支援活動が活性化されると、地域住民が活動 の担い手となる機会も増えます。地域において出番 や役割が増えるということは、孤独・孤立の解消へつ ながり、それは介護予防にも寄与します。

さらに大きな射程でとらえると、活動に参加することで、 地域住民のなかの自治意識・社会参画意識が醸成さ れ、助けあいのあるまちになります。また、課題が見 える化されることで、多様なサービスが増え、さらなる 介護予防の充実へとつながります。食支援プラット フォームの構築をきっかけに、自発的な活動を通じて 支え合いが広がることで、暮らし続けられる地域づく りに寄与できるのです。

食支援活動およびプラットフォームの効用

#### 対象範囲 おもな課題

コミュニティ 全体

# 地域活性化•

# まちづくり

交流・つながり

- 活動への参加にともなう 自治意識・社会参画意識の醸成
- ・食支援活動によって生まれる住民同士の交流
- プラットフォームによって生まれる 機関・団体同十のつながり
- 出番・役割づくり
- ・食支援活動の活性化にともなう 担い手となる機会の増加
- ・出番や役割の機会が増えることによる孤独・孤立の解消
- 見守り・相談
- ・食支援活動が果たす地域の見守り・相談機能

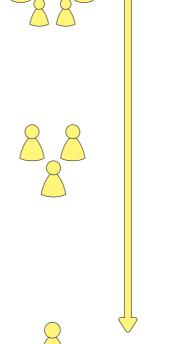
介護予防

食生活支援

- ・食支援活動による心身の健康増進
- ・地域活性にともなう多様なサービス増による \_ 介護予防への寄与

食支援活動の継続・活性化とそれにともなう

- ・栄養状態の改善
- ・心身の健康増進

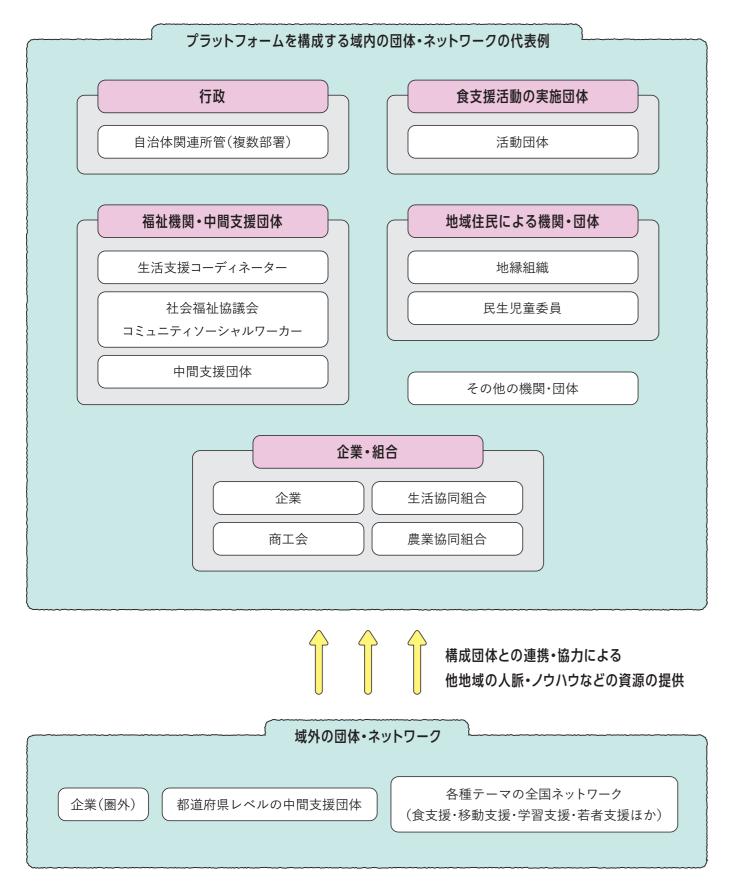


個人

-81-

#### プラットフォームの構成メンバー相関図

食支援プラットフォームは、福祉分野に限らないさまざまな分野の機関・団体などによって構成されます。 また、地域外の機関・団体や広域ネットワークとの連携も重要な要素です。下図に示したように、多様な 機関・団体・ネットワークが有機的に連携する基盤として、食支援プラットフォームは機能します。



#### 食支援プラットフォームに期待される効果

食支援プラットフォームに参画することで、構成団体にとってもよい効果・循環が起こることが考えられます。

#### 活動団体•地域

- 活動継続・安定のためのノウハウ・ 支援者獲得
- 安定的な食材の確保
- 担い手の増加
- 活動リソースの充実にともなう 新たなアクションの創出

#### 社会福祉協議会

地域課題に取り組む団体が連携する ことによる、多様な福祉ニーズの充足

#### 行政

- 部署を横断した協働や民間団体との 連携による、地域課題の解決に向けた 協働の促進
- 活用できる社会資源の拡充

#### 企業など

- 地域課題を把握した、自社の強みを生かせる地域づくりへの参加
- 商材、人的資源、ノウハウなどの貢献
- 活動との適切なマッチング

#### 食支援プラットフォーム形成・醸成の実践モデル

行政・社協の所管、地域団体の連絡組織などが、次のようなプロセスで形成・醸成することを想定しています。

#### 現状の確認

#### 課題の把握

- 活動団体へのアンケートやヒアリング調査の実施
- 行政・社協の福祉計画を確認

#### 仕組みづくり



#### 会議体(協議体)の設置

- 情報交換(現場視察含む)や地域資源の可視化を試みる
- 福祉分野に限らない機関・団体や広域ネットワークも参画

# 課題に応じた協議・ 参加の場づくり





# 課題の共有/解決策の検討

● 抽出された課題を共有し、向かうべき方向性や解決策を協議する

## 基盤の醸成

#### 資源の開拓・活用と循環

■ ステークホルダーとなりうる多様な関係者に参画を呼び掛け、連絡会・イベント・会議などを通じて情報共有を図る

! 域内外のステークホルダーが協力関係を構築し、 既存資源の運用や資源循環を促すことがポイント

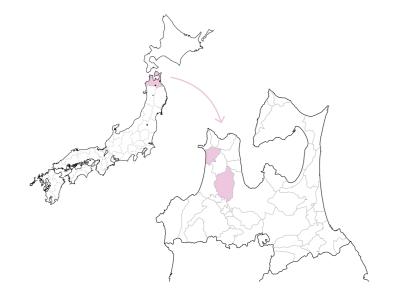
-82-

モデル事例



点在する活動団体をつなぎ地域のつながりと 活動を促進するプラットフォームを立ち上げる

# 青森県五所川原市



#### 自治体情報

- 住民人口=50,869人
- 高齢化率=37.0%

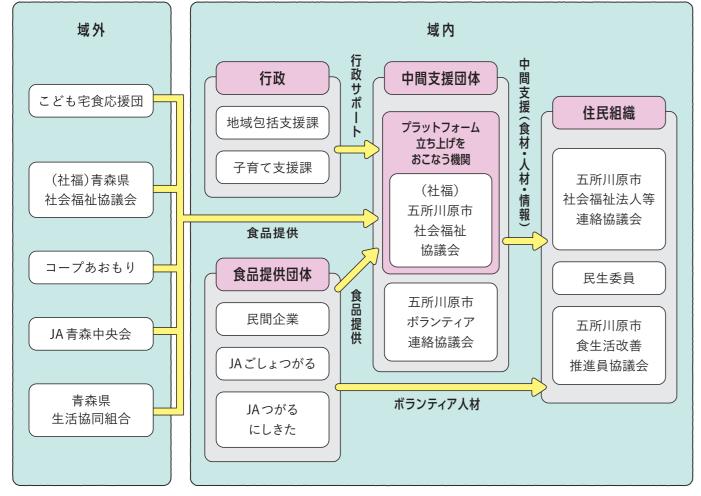
青森県の津軽平野のほぼ中央に位置する自 然に恵まれた市

### プラットフォーム形成・成熟状況

域内外の多様な社会資源を共有し ネットワーク化を目指すフェーズ

#### 

## プラットフォームの構成メンバー相関図



#### プラットフォーム形成前の状況・課題

市の人口は年々減少しており、高齢化率、特に高齢者単独世帯や高齢者夫婦世帯の比率は大幅に増加しています。また、住まい方の変化によって、共働き世帯や単身高齢者が増加し、子育てや介護の支援がこれまで以上に必要となっています。特に青森県は、自殺率が高く、糖尿病罹患者も多いという状況です。各地の協議体が未成熟な状況であることなどから、生活支援体制整備事業が滞留している現状があります。

上記のような地域課題に対して、「食」をキーワードに活動している団体が複数存在しています。たとえば、五所川原市社会福祉協議会が中心となり実施している「五所川原こども宅食おすそわけ便」では、JAや民間企業から食品提供を受け、地域の社会福祉施設などと連携して市内全域の食品

を必要とする子育で世帯へ配布しています。この活動の運営には、民生委員や企業のボランティア人材も関わっており、チラシ配布に関して学校との連携もおこなっています。また、高齢者自主サロン活動や三好みんなの家をはじめとする居場所でも、調理や食事提供などを実施しています。五所川原市地域包括支援課では、食生活改善推進委員などと連携し、通いの居場所未実施地域において市主導の「お昼ごはんの会」を開催しています

社会福祉協議会、NPO、自治体など、「食」をともなう活動をおこなっている団体は地域内に存在しています。しかし、それぞれが点として活動をおこなっており、連携できていないという状況がありました。

#### プラットフォーム形成のねらい

五所川原市における食支援プラットフォーム形成の ねらいは以下の3点です。

# 食や居場所に関する団体の情報共有や連携

今まで個別で活動をしていた団体同士をつなげることで活動の課題解決や発展を促し、 支援の幅を広げていく。

# **2** 食を通じて多世代が集う居場所や地域のつながりの創出

「食」を通じて子どもや高齢者に限らず、地域の誰もが参加できるような居場所をつくることで、 人と人とのあたたかなつながりをつくり、地域の交流を促進する。

# 3 合意形成の場づくり

行政各課、社協、NPOなど、食に関する活動の支援団体が一堂に会し、 政策検討を目標とした合意形成をはかる。

# プラットフォーム形成に向けたアクション

五所川原市では本事業をきっかけに、食支援プラットフォーム形成・拡大に取り組んでおり、現在形成 の準備をしている段階です。準備段階である現時点で実施したのは次のようなアクションです。

-83-

#### 食に関わる活動を行っている団体へのヒアリング

プラットフォームの立ち上げをおこなう五所川原市社会福祉協議会は、食支援プラットフォーム形成 にあたり、日頃から連携・協力している食に関わる活動団体へあらためて活動内容や課題などのヒア リングをおこないました。

## 食支援プラットフォーム形成に向けた会議体への参加依頼

上記ヒアリング時に本事業と食支援プラットフォームの概要について説明をおこない、五所川原市社 会福祉協議会を中心とした食支援プラットフォームへの参加を依頼しました。

## 「食でつながるプラットフォームづくり五所川原市研修会 | の開催

五所川原市内で食に関する活動をおこなう団体が情報を共有し、ゆるくつながるプラットフォーム形 成のきっかけとなることを目的に、研修会を開催しました。自治体、社会福祉協議会、NPOなどの関 係者55名が参加し、市内における食に関する活動紹介やワークショップなどを通じて相互理解を深め ました。また、先進事例の紹介として、鳥取県鳥取市におけるプラットフォーム形成の過程についての 講演も実施し、今後の発展について地域の関係者でイメージを共有しました。

#### 研修会の参加者からは、次のような感想が寄せられました。

いろいろな取組みを組み合わせることで、さらに効果的 に事業を展開していける可能性を感じた。

> 地域のネットワークづくり、地域運営組織の必要性に ついて考えさせられた。また、後方支援のタイミングに ついて知ることができた。

(五所川原市内の)各地域で(活動団体の)みなさまが 頑張っている様子を知ることができてよかった。





#### アクションによって起こった変化と今後の展開

ヒアリングや研修会の後、「お昼ごはんの会 | や「通いの場(サロン) | への食品寄贈がおこなわれるなど、活 動団体に対する関係機関の支援と協力が強化されました。行政、社協、ボランティア、食生活改善推進員など、 それぞれの役割と活動を共有し、顔の見える関係が構築されました。

五所川原市では、食支援プラットフォームの構築・展開へ向けて、次の3つのアクションを予定しています。

- 食への関心を入り口にしたつながり、相談のきっかけの気軽さ、アウトリーチ的な活動を考えていく。
- 食のパワーを活かした居場所やつながりの場、集いの場を広げ、 誰もが参加できるような働き掛けをしていく。
- 食の魅力を提供し続けられる情報提供や物資支援、人材の連携の拡大と啓発。

#### プラットフォームにおけるキーパーソンの声



# 平山博文

社会福祉法人五所川原市社会福祉協議会 常務理事兼事務局長

本調査を通じて、まだ構想図が描けた段階ではありますが、すでに食品寄贈や人的協力についての 申し出も受けました。いよいよレールがつながり、列車が走り出す準備が整いつつあるなと感じてい ます。この什組みを動かし続けられるよう、(前百の「今後の展開」に記載された)3つのアクションを 予定しています。

#### この事例から見えること



#### 日﨑智恵子

高崎市第1層生活支援コーディネーター 主管課高崎市福祉部長寿社会課

五所川原のヒアリング調査では、食を通じた実践活 動の中で、2つの課題発見につながりました。一つは、 生活支援コーディネーターの活動が滞留していること。 もう一つは、自治体、社会福祉協議会、NPO、民生地域で暮らす活動者は、多様なアイデアやヒントを 委員等、地域で食を伴う活動をしている団体が各々 たくさん持っています。そのアイデアやヒントを持ち 「点 | で活動していることでした。その「点 | で活動し ている団体の中には、情報共有の不足、資源のマッ チング、持続可能な運営と成長等の課題もありまし た。ですが、その中でも、おすそわけ便の活動は、 圏域を超えた多様な社会資源とのネットワークを活 用し、活動を継続、発展させていました。

このような重層的活動の関係図を明示し、地域内外 の多様な社会資源を共有し、ネットワーク化するこ フォーム形成へ向けたきっかけづくりの研修会を実 活動団体や、人、場、モノ、情報等が、横でつながるうか。 ことで、多世代が集う居場所づくりや、地域課題の

早期発見、介護予防・社会参加等につながり、地域 課題の解決にもつながっていきます。

寄って、お互いさまで助け合うまちづくりを進めてい くにはどうしていったらいいかを考える会議体(協議 体)が、プラットフォームです。食支援プラットフォー ムを活用することで、食支援活動が活性化し、住民 の介護予防、出番・役割・つながり作りへと展開して いきます。

既存の活動を活かし、資源開発を行うプロセスの中 で、推進役として力を発揮できるのが生活支援コー とを目的に、食に関する活動団体等が、お互いの活 ディネーターです。そして生活支援コーディネーター 動を知り、情報を共有し、ゆるくつながるプラットを組織的に補完するのが協議体です。五所川原の プロセスを参考に、みなさんの市町村でも食支援の 施しました。この研修会をきっかけに、今後食支援プラットフォームづくりを始めてみてはいかがでしょ

23

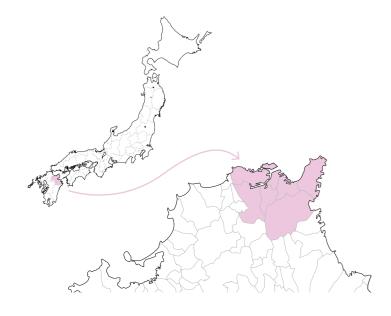
-84-22

モデル事例

2

既存の小学校区単位での支え合いを基盤に 「地域の大きなテーブル」を創出する

# 福岡県北九州市



#### 自治体情報

- 住民人口=915.951人
- 高齢化率=31.2%

1963年2月10日に5市の対等合併により誕 生した九州初の政令指定都市

### プラットフォーム形成・成熟状況

多様なネットワークが持つ強みを横断し 各活動の中に活かし合うフェーズ

プラットフォームの構成メンバー相関図 活動•中間支援団体 域外 域内 ノウハウ提供食品・情報・ (社福)北九州市 支援 社会福祉協議会 行政 (生活支援CO) (一社)全国 プラットフォーム 食支援活動協力会 立ち上げを NPOなど(抱樸ほか) (MOWLS) おこなう機関 子ども食堂 地域福祉推進課 ネットワーク北九州 食品提供 各種支援 北九州市 子育て支援課 北九州市食生活 商工会議所 倉 改善推進員協議会 食品部会 健康推進課 (認知症支援・ (NPO)フードバンク 介護予防センター) 民間企業 北九州ライフアゲイン (クラレイ(株)ほか) 循環社会推進課 (一社)コミュニティ エフコープ 地域振興課 シンクタンク北九州 生活協同組合

#### プラットフォーム形成前の状況・課題

地域コミュニティの希薄化、自治会加入率の低下、 地域住民の高齢化等の影響により地縁組織の活動継続・発展について懸念される状況がありました。また、福祉における地域づくりの中心である校(地)区社会福祉協議会と第1層協議体の連携体制が充分とは言えず、個別課題を市域全体の取組みに反映させることが難しいと感じていました。

一方、北九州市食生活改善推進員協議会(ヘルスメイト)は、1000名以上の会員がさまざまな機関と連携しながら多世代への食育・食生活改善活動を実施しています。また、NPOや任意団体などによる新しい活動も活発におこなわれています。子

ども食堂ネットワーク北九州では、こども食堂支援を目的とした研修会の開催や、倉庫貸与・食品提供を通じた市内企業との連携をおこなっています。さらに、子ども食堂ネットワーク北九州やフードバンク北九州ライフアゲインは、全国の食支援に関わる中間支援団体と連携し、全国の企業から寄贈された食品を地域の食支援活動に提供しています。

このように多様な活動が広がる一方、自治会、社会福祉協議会、NPOなど、地域で活動している団体同士がお互いの活動を知らず、連携につながっていないという状況があります。

#### プラットフォーム形成のねらい

北九州市は以下の4つを目標として 食支援プラットフォーム形成に取り組んでいます。

# 食や居場所に関する団体間の情報共有や連携

個別に活動していた団体同士をつなげることで、活動の課題解決や発展をうながし、 支援の幅を広げていく。

# **2** 食を通じた多世代が集う居場所、地域のつながりの創出 (大きな食卓を囲む家族のような地域へ)

「食」を通じて、子どもや高齢者に限らず、地域の誰もが参加できるような居場所をつくることで、 人と人とのあたたかなつながりをつくり、地域の交流を促進していく。

# 3 生活困窮者自立支援、子育て支援、地域福祉などでの行政と民間団体の連携促進

生活困窮者自立支援事業における食料支援の活用、こども食堂などと行政の相談機能の連携など、 行政課題の解決に資する民間団体との連携を促進する。

# 4 食品ロス対策、SDGsの推進

民間企業との連携を図り、フードロス対策で食料が循環していくように、思いやりが循環していく社会を目指す。困っているときほど一人ではないと思える、誰一人取り残されない社会、持続可能な社会をつくっていく。

-85-

#### プラットフォーム形成の流れ

北九州市では、本事業をきっかけに食支援プラットフォーム形成拡大に取り組んでおり、現在、形成した協議体 での課題共有を実施している段階にあります。形成過程では、以下の3つのアクションを実施しました。

## 食に関わる活動をおこなっている団体へのヒアリング

かねてより食支援活動に取り組んできた北九州市地域福祉部地域福祉推進課と一般社団法人コミュ ニティシンクタンク北九州が中心となり、食に関わる活動をおこなっている団体へ活動内容や課題 などのヒアリングをおこないました。

**つ** 食支援プラットフォーム形成に向けた会議体への参加依頼、および会議の実施

ヒアリング時に食支援プラットフォーム形成に向けた会議体への参加を呼びかけ、ヒアリングを実 施した団体を中心に食支援プラットフォーム形成に向けた会議を2023年9月・11月の2回実施しま した。

「食でつながるプラットフォームづくり北九州市研修会」の開催

北九州市内で食に関する活動をおこなう団体が情報を共有し、ゆるくつながるプラットフォーム形 成のきっかけとなることを目的に、2023年11月に研修会を開催しました。自治体、社会福祉協議会、 NPOの関係者など、約60名が参加し、市内で食に関する活動をおこなっている団体の活動紹介や ワークショップなどを通じて相互理解を深めました。また、先進事例の紹介として、鳥取県鳥取市に おけるプラットフォーム形成の過程についての講演も実施し、今後の発展について地域の関係者で イメージを共有しました。









#### プラットフォームを形成したことで起きた変化

こども食堂、食生活改善推進員、フードバンクなど、地域づくりを進める上での地域資源を見える化することが でき、生活支援コーディネーターが中心となった協議体の推進体制の充実に寄与することができました。また、 これまで個別に活動していた団体同士の交流により、今後の連携につながる機運の醸成ができました。

特に食生活改善推進員の活動実績やノウハウは、こども食堂関係者にとって新鮮に映ったとの感想が寄せられ るなど、こども食堂の進化に向けた今後の連携が期待される状況です。 さらに、地域福祉、子育て支援、健康 推進などに関わる行政組織が交流する機会になりました。プラットフォームを通じて定期的に情報交換を実施す ることにより、施策の効果的な連携が進むことが期待できます。

#### 今後の展開

北九州市地域福祉部地域福祉推進課は、 次の4つを目指して食支援プラットフォームの展開を予定しています。

- 行政内での体制の構築(関係課長・係長会議など)
- 研修会、交流会などの開催・個別施策での連携の展開
  - ●こども食堂やふれあい昼食交流会などの連携促進
  - 生活困窮者自立支援事業での食料支援活用に向けたフードバンクとの連携強化
  - ●地域でのフードパントリーの展開
- **3** ふれあい昼食交流会やこども食堂での個別課題の発見、 相談支援などへのつなぎの仕組みづくり
- 4 食や物流に関する民間企業との連携強化(食品□ス対策・SDGs 推進)

プラットフォーム推進のステップ

# STEP 1

行政内連携

#### 行政内での連携体勢構築

関係課長連絡会議設置

地域福祉、地域振興、子育て支援 健康づくり、食品ロス対策など

# STFP 7

プラットフォーム

#### プラットフォーム形成

- ・情報共有(お互いの情報を知る) ・こども食堂と
- ・研修交流会、講演会など
- ・ 行政相談との連携強化

# STEP 3

連携事例創出

#### 個別・具体的な連携の促進

- 食生活改善推進員の連携
- ・多世代型食堂の実施

食料供給体勢の強化(基盤)

フードバンク/地元企業(商工会議所など)/域外団体との連携 など

-86-

### プラットフォームにおけるキーパーソンの声



明石卓也 北九州市保健福祉局 地域福祉部地域福祉課 課長

今後は食を通じた居場所づくり・つながりづくりの量の拡大ならびに質の深化、食料供給体制の強化を目指したいと思っています。各取り組みを通じて、日常的な見守り・支え合いの実現、行政の相談窓口へのスムーズな接続を想定しています。本調査を通じてプラットフォームのメンバーで考えたビジョンやアクションを取りまとめ、発表したいと考えています。目に見える具体的な形で発表し、新たに協力してくれる地域内外の資源と出会うきっかけにします。



西村健司

一般社団法人コミュニティ
シンクタンク北九州 理事

本調査を通じて、地域で活動する食支援活動や中間支援団体について改めて知ることができました。北九州市内ではテーマごとにネットワークが存在し活動をしていますが、各々に課題を感じている状況でした。食支援プラットフォームを立ち上げたことで一同に会することができ、相互に情報共有・交換をしながら具体的な連携へ進めたいと思います。今後は、福岡県・九州圏域・全国の多様な資源とつながり、プラットフォームを芳醇化していきたいと思っています。

#### 研修会参加者の声

# 生活支援コーディネーター

今回の研修で、困った~を相談できる先輩を見つけた人を多く見かけた。参加できて良かった。フードバンクとフードサポート事業やこども食堂などのお話を伺うことで、イメージが変わった。少しでも助けてあげたいという経験者と困っていてどうしたら良いか分からない人をつなげるプラットフォームの必要性、食を通して人と人をつなぐ活動の大切さを学んだ。

#### 困窮者支援 NPO関係者

いろんな団体をマッチングする、コーディネートする人が必要。横のつながりをどう作っていくか。

#### こども食堂運営者

ヘルスメイト(食生活改善推進員)さんと一緒にこども食堂をやってみたい。子ども食堂の調理力、 食の選択力をつけていきたい。



#### この事例から見えること

# 北九州市における食を通じた プラットフォーム形成の取り組みについて



**清水洋行**千葉大学大学院人文科学研究院 教授

北九州市のプラットフォームづくりについて、「横断性」「垂直性」「水平性」という視点からみていきたいと思います。

まず、「横断性」についてです。北九州市における食支援活動は、社会福祉協議会と食生活 改善推進員による活動が軸となってきましたが、近年、こども食堂が広がってきています。こ れらは対象や目的の重点が異なりますが、いずれも住民・市民が主な担い手であり、「食」を 通じて住民・市民の間につながりを作ることを大切にしています。このようなお互いの強み や共通点をふまえつつ、お互いの活動を知るところから始めようという試みが、今回のプラッ トフォームづくりの第一歩です。

「垂直性」という点から連携・協力の場をみると、小さなスケール(規模)では、校区単位でまちづくりの拠点として設置されている市民センターがあります。ここは、食支援活動が利用できる厨房も整備されており、校区社協による地域福祉活動の拠点でもあります。この拠点は、食支援活動が横断的に協働し、まちづくりや地域福祉にかかわる人々も巻き込んでいく可能性をもつ場といえるでしょう。より大きなスケールでは、食支援の活動別に行政区や市域の協議会やネットワークがあり、ノウハウや課題の共有、寄付食材の仲介ほかの中間支援を行なっています。これらが現場の展開に合わせて支援対象の垣根を外し、それぞれの中間支援機能を組み合わせていくこと、そしてそこに、関連する市の各部局も横断的にかかわることが求められるでしょう。

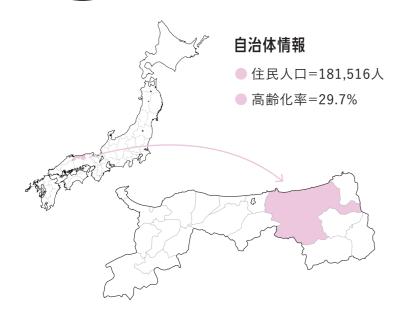
最後に「水平性」という点からみると、プラットフォームには、市外の企業や中間支援組織等から資源を獲得し市内の活動につなぐ役割もあります。横断的、垂直的、水平的に活動団体や行政、企業、中間支援組織等をつなぐプラットフォームには、地域での生活課題に対応する新たな活動を創出する役割とともに、それに伴う住民・市民の新しい出番づくりの役割が期待されます。

モデル事例



地域食堂を基盤に周辺自治体とも連携した「麒麟のまち」の重層的な支援体制づくり

# 鳥取県鳥取市

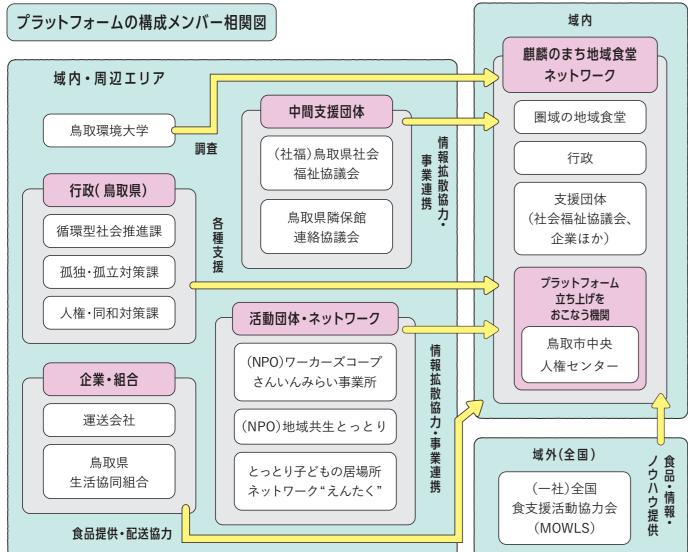


鳥取県の県庁所在地であり、人口が最多の 市中核市に指定されている

麒麟のまち連携中枢都市圏=鳥取市と周辺4町(岩美町、八頭町、若桜町、智頭町)、兵庫県2町(新温泉町、香美町)で形成

#### プラットフォーム形成・成熟状況

多様なネットワークによる相談支援機能付き 地域食堂モデルの域外拡大フェーズ



#### プラットフォーム形成前の状況・課題

鳥取市単独では、地域食堂を基盤としたネットワーク構築がおこなわれており、食支援のみならず、孤独・ 孤立対策などにも対応する体制が整備されています。さらに、ネットワーク活動を実施するなかで下記の課題を確認し、周辺自治体との連携による広域プラットフォーム形成の取組みがはじまっていました。

#### 寄付食品の保管場所と配送

企業や食支援ネットワークと連携が深まることによって、多様かつ大量の寄贈食品が届いており、一時保管場所や配送が課題となっています。民間助成金を活用し、業務用の冷蔵庫・冷凍庫・お米を保管できる冷蔵庫の3点を市町の公共施設に設置しました(運用の経費は、市町が負担)。また、休眠預金事業を活用し、ロジ・ハブ拠点を整備。物流ネットワークを構築し、広域の食支援プラットフォームを形成することで配送問題の解決にも取り組んでいます。

# 2 人口減少・高齢化と食支援活動の維持

急激な人口減少と高齢化が進行するなか、食支援活動を持続可能にする仕組みづくりが必要となっています。

# 3 生活支援コーディネーター同士のつながり

生活支援コーディネーター同士のネットワーク構築・情報交換が難しい状況にあります。近隣市町を含めた麒麟のまち圏域における食支援プラットフォーム形成では、まず生活支援コーディネーターや地域の活動団体、支援企業等を広くつなげ、小さい連携づくりに取り組んでいます。

#### プラットフォーム形成のねらい

鳥取市・麒麟のまち圏域では、以下の4つを目標として 食支援プラットフォーム形成・発展に取り組んでいます。

# まりあるまちづくり

さまざまな機能をもつ地域食堂の取組みを、住民の生活圏域において展開することによって、高齢者、障がい者、子どもをはじめ、 多様な人たちが住みやすい魅力あるまちづくりをおこなう。

# 2 効果的な支援の仕組みづくり

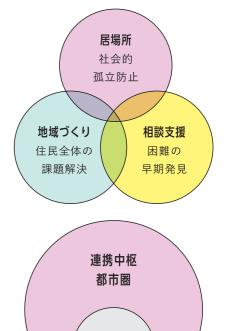
中枢中核都市に集中する企業をはじめとした社会資源によって得られる支援などを広域的に活用し、近隣町のそれぞれの強みを生かした効果的な支援の仕組みづくりをおこなう。

# 3 縦割り・分野を超える

分野が違っても同じ地域課題を把握しているため、巧みな制度設計に苦心するよりも、分かり合う努力をすることが大切である。線引きしない支え合いづくりを実現する。

# 4 強み、知見、経験の共有

モノとカネだけでなく、つながることで解決できる課題も多いため、 ノウハウなどの共有もおこなう。

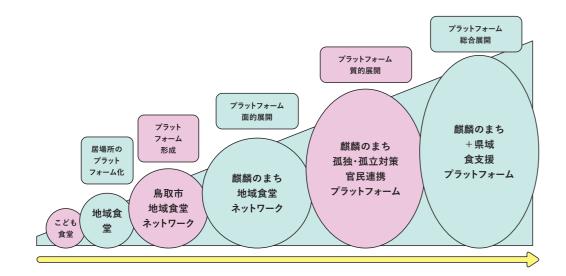


鳥取市

-88-

#### プラットフォーム形成・発展の流れ

麒麟のまち圏域では、鳥取市中央人権センターを中心に、以下の5つの 段階を経て、食支援プラットフォームを形成・発展させてきました。



#### 居場所のプラットフォーム化に向けて

子どもを中心に、地域のさまざまな人が集う居場所、多様な人や社会資源がつながる場として、地域食堂を推進する取組みを鳥取市内で開始しました。その取組みは近隣地域にも広がり、現在は、麒麟のまち圏域で展開されています(後述)。地域の多様かつ多世代の人の交流拠点となっており、困難を抱える人・世帯に関わっていくことを基本としながら、地域の誰もが気軽に行ける「だれでも食堂=地域食堂」として展開しています。高齢者の孤独防止や子どもの貧困を防ぎ、社会的弱者の尊厳の確保を図るという点で、地域のコンパクトなベーシック・サービスの基盤となり得ると考えられています。現在、小学校区における地域食堂の充足率は70%に達しており、100%を目指して取組みを継続しています。

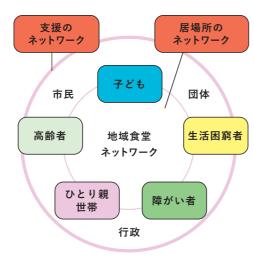
# 2 プラットフォーム形成

運営団体、支援団体、行政が連携し、互いに支え合う仕組みを構築することで、地域食堂を継続的・安定的に運営し、地域共生社会の実現に寄与することを目的に、2017年11月に鳥取市地域食堂ネットワークを設立しました。社会福祉法人鳥取福祉会(支援団体)・河原共助会(運営団体)・鳥取市(行政)の三者が共同代表を務め、運営・支援各団体と共同代表による運営委員会を設置して事業を推進しています。2019年11月に麒麟のまち圏域での活動展開を開始し、2023年7月に麒麟のまち地域食堂ネットワークへ改称しました。2023年11月時点で、運営団体41食堂、支援団体55団体、行政7市町がネッ

トワークに参加しています。

#### 鳥取市地域食堂ネットワークの主な活動内容

- 寄付や提供食材等の共同管理、 ボランティア等の人材確保の支援
- ●情報交換会の開催及び活動の情報発信
- 衛生管理に関する情報や衛生用品の 無償提供や講習会の開催
- 感染防止、衛生管理ガイドラインの作成
- 立上げに関する支援 ほか



# 3 プラットフォームの面的展開

2019年11月より、鳥取市と周辺4町(岩美町、八頭町、若桜町、智頭町)、兵庫県2町(新温泉町、香美町)で「麒麟のまち連携中枢都市圏」を形成し、圏域全体の地域食堂の支援・推進体制を構築してきました。2022年からは、麒麟のまち地域食堂等推進のための「食のネットワーク」整備プロジェクトの一環として、圏域にロジ・ハブ拠点(※)の整備を開始。各ロジ・ハブ拠点には、市町の負担で大型冷蔵・冷凍庫を設置し、生鮮品や冷凍品を保管できる体制を整えています。ロジ拠点において、毎月約3トンの食材などを集荷し、各ハブ拠点を通じて地域食堂のみならず母子支援施設、更生支援施設などへも提供しています。2023年7月、「鳥取市地域食堂ネットワーク」から「麒麟のまち地域食堂ネットワーク」に改称しました。

(※)全国食支援活動協力会が推進する「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム(MOWLS)」における、物流に関する拠点の名称。MOWLSは、すべての人が食事を得られる環境をめざす食品の物流・保管・シェアの仕組みです。ロジ拠点は、冷凍・冷蔵設備を整備し、寄付食品のマッチングコーディネート機能を担う拠点を指します。一方のハブ拠点は、活動団体が寄付食品を受取りに行くブランチ拠点を指します。

# 4 プラットフォームの質的展開

2023年2月、鳥取市孤独・孤立対策官民連携プラットフォームを立ち上げました。2023年11月より、麒麟のまち連携中枢都市圏事業として、すでに実施している地域食堂事業を基盤に、圏域の6町(岩美町、八頭町、若桜町、智頭町、新温泉町、香美町)と連携しながら、孤独・孤立対策官 民連携プラットフォーム推進事業を進めています。

# 5 プラットフォームの総合展開

2023年10月、「食支援プラットフォーム形成に向けた情報交換会」を実施し、麒麟のまちおよび鳥取県中部・西部のロジ・ハブ拠点を、フードドライブ拠点として活用することを決定しました。さらに「麒麟のまち+県域食支援プラットフォーム推進会議(仮称)」を立ち上げることを確認し、準備を進めています。

#### プラットフォームを形成したことで起きた変化

鳥取市・麒麟のまち圏域で形成した食支援プラットフォームを県域で展開するため、県域で食に関する活動をおこなっている自治体、社会福祉協議会、NPOなどの職員、生活支援コーディネーターなどを対象に、「食でつながるプラットフォームづくり麒麟のまち研修会」を開催しました。食支援プラットフォームについての理解促進と団体同士の連携を生み出すことを主たる目的に開催したこの研修会には、約50名が参加。各団体の活動紹介やワークショップを通じて、相互理解が深まり、新たな連携も生まれました。

また、2023年12月、食支援活動団体が集い、社会課題の把握と活動の継続・発展に向けたノウハウを得ることを目的に、「食でつながるフェスタin鳥取2023」を開催しました。同イベントは、鳥取市地域食堂ネットワークと鳥取市が主催となり、食支援プラットフォー

ムのメンバーなどによる実行委員会を編成し、食支援 プラットフォームの芳醇化をテーマにしたシンポジウムなどを実施しました。自治体職員、社会福祉協議会 職員、大学生など、約30名が参加し、食支援プラットフォームの芳醇化について理解を深めました。



-89-

#### 今後の展開

鳥取市では、食支援プラットフォームのさらなる展開に向けて、農林水産省の食品アクセス確保対策推進事業を活用し、麒麟のまち圏域+鳥取県域での食支援プラットフォーム芳醇化を進め、食支援プラットフォームがあらゆる地域課題の解決に寄与できる仕組みづくりを継続していく予定です。さらに、鳥取県と隣接する島根県、岡山県への拠点整備に向けた動きも進展中です。

#### プラットフォームにおけるキーパーソンの声



川口寿弘 鳥取市総務部人権政策局 次長 兼 中央人権センター 所長

はじめから大きな構想をイメージしていたわけではなく、日々目の前の課題を解決したいと思い走り続けた結果、現在のような形へと変遷しました。広域化することで効果的・効率的な仕組みを実装し、食品の提供のみならず「線引きしない支え合い」を実現するための縦割り・分野を越えた取り組みが実施できています。今後は麒麟のまち圏域・鳥取県内全域を併せた食支援推進プラットフォーム(地域協議会)の立上げや食支援をテーマに横串をさし地域課題解決に向けた効果的な連携づくりに取り組みたいと考えています。この取り組みを通じて私が大切にしていることは、「早く行きたければ一人で行け。遠くへ行きたければみんなで行け」ということわざです。

形だけでもつくろうと思えばすぐできると思うのですがリーダーが崩れたら終わってしまう。時間がかかっても地域住民と議論をし、作りあげた結果はずっと続く結果になると考えています。



平澤佐知子

社会福祉法人新温泉町社会福祉 協議会地域福祉課 課長補佐 兼 生活支援コーディネーター

本事業を通じて、自分たちがやらなければという意識 の強さが大切だと感じました。そういった人や団体を 社協等が支えていきたいと考えています。新温泉町 ではまだ地域食堂はありませんが、ネットワークを通じて冷蔵庫など保管機能を整えたことが影響し、「食」をきっかけとする様々な支援機関との連携が実現できています。地域食堂が必要なのかを住民のみなさんと一緒に考えることが大切です。話し合う場をつくっていきたいと思います。



川瀬亮彦

社会福祉法人鳥取県社会福祉 協議会地域福祉部 生活福祉資金室 室長

すでにプラットフォームの役割を担っている、あるいは担いつつある地域食堂との連携は、今まで福祉分野ではなかなか出会えなかった人ともつながっていける可能性を感じました。また、市や県を超えて繋がっていくことの重要性について、その知見も得ることもできました。

#### この事例から見えること

# 麒麟のまち圏域における食を通じたプラットフォーム形成について



中島智人 産業能率大学経営学部 教授

鳥取市を中心とした「食支援プラットフォーム」は、鳥取市でのこども食堂の取り組みから始まり、歴史や文化を共有した古くからの生活圏である県境をまたいだ麒麟のまち圏域、さらには鳥取県全域へと、拡大しているところに特徴があります。さらに、地域的・量的な広がりだけではなく、中核となる活動がこども食堂から多世代・多様な人たちが集う地域食堂へ、また、食堂の運営主体から支援団体、企業、行政を含む多様な地域資源の連携へと、質的な充実も伴い発展してきています。

このプラットフォームの形成を取り組みのひとつが、ロジ・ハブ拠点の整備です。麒麟のまち 圏域の事例では、ロジ・ハブ拠点を市町の施設内に設置し施設職員が管理したり、冷蔵庫等 の経費を市町が負担したりと、行政が主要な役割を担っています。目に見えるかたちで行政 がかかわることが、企業や市民活動団体など多くの関係者の積極的な参加を促しています。 さらに、物理的なハード整備とそれにかかわる多様な利害関係者による推進会議が、麒麟の まち圏域を超えて県内全域への展開というモデルを提供し、プラットフォームの広域化を可 能にしています。

食支援プラットフォームには、それを支える多くの主体がかかわっています。鳥取市を中心とした取り組みでは、特に、地域食堂の活動を担う現場運営団体とそれを支援する行政や社会福祉協議会、地域食堂とつながる人たちや地域の課題解決や地域の支え合いを支援する専門職といった、現場にかかわる人たちが、このプラットフォームを活用して相互にコミュニケーションをとり、情報交換をしながら課題の解決を行っていることが特徴的です。プラットフォームが、「支援」に必要なモノや情報を届けるだけではなく、現場や地域の情報を共有するための双方向のコミュニケーションの場となっています。

プラットフォーム(platform)とは、もともと平な(plate)かたち(form)を意味します。様々な立場にある人たちの共通の「場」としてのプラットフォームへの参加を促すことにより、地域にある多様な資源を結びつけ、地域やそこに暮らす人たちの課題解決を行う、地域の主体的な取り組みを促す原動力として重要な役割を果たしているのではないでしょうか。

# 食支援でつながる多様な協議体による プラットフォーム形成とその未来

一般社団法人全国食支援活動協力会 専務理事 平野覚治

#### Ⅰ 高齢者を主体とした活動の変容について

今日の社会課題に共通する少子高齢化に伴う「人口減少社会」「地域格差」「格差の拡大」の解決には、経済循環の枠組みづくりだけでなく、「互助」による社会とのつながりづくり、出番づくりといった人づくりを中心とした仕掛けが必要です。高齢者を主体とした支援活動は、新型コロナウイルスの影響を受け「つどう」活動を取りやめ、お弁当の提供など、コミュニティ活動から一線を期して生活支援の色合いを兼ね備える活動へと変遷しました。こども食堂や地域食堂の活動団体においても、「コミュニティ」から生活支援へ軸足が移され、フードパントリーなどの生活支援に着目した取組みが広がりました。

5類感染症へ移行後も、物価高騰が重なり、経済、情報格差が広がり、孤立・孤独感増、生活や将来に対する不安が助長されるとともに、食支援ニーズの増加も顕著となっています。加えて、担い手不足/高齢化や資金不足を課題としており、その活動継続が困難な状況にあることも過去の調査により明らかとなっています。

# 2 支援の輪を広げるために/中間支援機能の拡充と連携について考える

本事業では、「食支援プラットフォーム」に着目し、五所川原市、北九州市、鳥取市にて高齢者を含む食支援活動に関わる関係行政課・団体への訪問ヒアリングを実施しました。互いにつながり連携するための協議体機能の設置、研修会の開催、ならびに食支援プラットフォームの醸成を予定している地域にてアンケート調査も展開しました。

調査を通じて、ボランティアやNPOなどの地域の小さな団体を支援するために市域・県域・全国域の重層的なつながり、企業・行政・NPOの横断的な連携による支援の必要性を改めて確認できました。食支援プラットフォームが芳醇化することにより、人口や首都圏からの距離に関係なく多様な資源やアイデアを獲得することができます。これにより、地域の活動団体の相談役や伝播役となっている中間支援的な存在、「コーディネーター」「インフルエンサー」機能はより一層その力を発揮できるのではないでしょうか。

インフルエンサーは活動団体の求めに応じて支援をつなぎ、地域資源を開発する役割を

担うキーパーソンとして地域にとって大切な存在です。調査からも食支援活動団体が地域や テーマを越えた中間支援団体と連携をおこなっていることが明らかとなりました。

当会ではこれまで取り組んできた食の居場所の全国的なつながりを生かして、「こども食堂サポートセンター」を2019年4月から開設しています。サポートセンター登録団体は物資の寄贈が増え、活動頻度・利用者が多くなったと答えています。例えばこども食堂サポートセンターおおさか(事務局:一般社団法人こどもの居場所サポートおおさか)がおこなった調査から、登録団体1団体につき平均3.7か所のこども食堂と日頃から連絡の取り合える状態にあり、団体同士が横でつながりあうきっかけづくりに「インフルエンサー」として貢献していることがわかっています。また企業からの食品寄贈を全国につなげるために「ミールズ・オン・ホイールズロジシステム」として各地の団体と連携し、食糧支援拠点の設置を進めています。

サロンや配食サービス、多世代食堂や地域の居場所づくり団体の食品供給機能の充実と、ソーシャルワーク機能のベースアップ、そしてつなぐ機能の充実を図るためには、それぞれの機能に応じて自治体の枠にとどまらず、広域で活動を展開している中間支援組織と連携することで全国域の重層的な社会資源につながり、さらには食品提供を通じて企業・行政・NPOの横断的な連携による支援が必要とされています。中間支援組織やインフルエンサーが充実すること、そして活動団体が地域とのつながりに着目した支援の輪を広げていくことは、やがて高齢者のみならず全世代・誰もが地域でこころ豊かに暮らし続けるための環境整備につながると考えています。

# 3 食支援プラットフォームのこれから

今日の社会課題を解決するためには、子ども、高齢者、そして障がい者、外国人など、あらゆる地域住民を包摂する、今後の人口減少・超高齢社会や新たなリスクにも対応できる強靭な循環型のコミュニティ/ネットワークのモデル再生成が急がれています。生活において欠かすことのできない「食」をキーワードに、エリアやテーマ・部署の垣根を越えて横断するプラットフォームの構築。その重層的なネットワークを活用しながら、多様な関係者と継続的な対話をおこない、住み続けたいまちづくりのビジョンの共有を図り、「互助」のモデル形成を創造するプラットフォームの拡大・芳醇化が求められています。

令和6年3月吉日



-91-



# 段階別でわかる! 食支援プラットフォームの 形成・醸成に関わってほしい団体リスト

このページでは、プラットフォーム形成の段階に合わせた、アクション案とそのアクションの対象・連携先として考えられる関係者・団体の候補をまとめました(プラットフォーム形成の各段階はp.19参照)。プラットフォーム形成に、ぜひご活用ください。



# 現状確認の段階

「食」に関連した取組みは多岐にわたります。福祉・保健・まちづくりなどの関連部署をはじめ、地域の食支援活動に関わるさまざまな方へヒアリングを実施し、概況や課題を確認しましょう。主なヒアリング先の候補は、次のとおりです。

#### 食支援活動・団体

- ・高齢者を主な対象とする会食会、食の提供があるサロン・居場所
- ・地域食堂、多世代食堂、こども食堂
- ・配食サービスこども配食、こども宅食
- ・食育活動、フードパントリー、フードバンク
- ・食べ物の調達や移動のサポート
- ・学習・就労・引きこもりなど若者支援における 食支援や食を用いたアウトリーチをおこなう団体

#### 関連行政課

- ・福祉、介護、長寿、地域包括支援センター、保健、孤立孤独、人権
- ·総務、環境、防災
- ・地域振興、農林水産、こども、教育

#### 中間支援団体、ネットワーク団体

- 社会福祉協議会
- ・ボランティア協議会、NPOセンター
- ・活動団体のネットワーク組織
- (在宅福祉・移動サービスの連絡組織、
- こども食堂ネットワークなど)
- ・地域住民による機関・団体

#### その他の機関

- •教育機関
- ・社会福祉施設(児童福祉施設、児童養護施設、 高齢者福祉施設、介護施設など)
- ・まちづくり協議会
- 更生保護施設

#### 地域住民、専門職

- ・生活支援コーディネーター、地域福祉コーディネーター
- ・民生委員、児童委員
- 社会福祉士
- ·精神保健福祉士
- ·介護福祉士
- ・ケアマネージャー
- 認知症サポーター
- ・介護予防サポーター
- ·食生活改善推進員
- •医師
- ·看護師
- ・保健師
- •栄養士
- ·研究者

# 2

# 仕組みづくりの段階

ヒアリングなどで課題やニーズを把握したら、キーパーソンになり得るメンバーへ会議体への参加協力を要請します。多様な分野からリソースを集めるためにも、福祉分野に限らず幅広い分野の機関との連携を検討しましょう。食支援プラットフォーム会議体のメンバーとして考えられる主な候補は次のとおり。

#### 関連行政課

- ・福祉、介護、長寿、地域包括支援センター、保健、孤立孤独、人権
- 総務、環境、防災
  - ・地域振興、農林水産、こども、教育

#### 中間支援団体、ネットワーク団体

- •社会福祉協議会
- ・ボランティア協議会
- ・NPOセンター
- ・生活支援コーディネーター、地域福祉コーディネーター
- ・活動団体のネットワーク組織
- (在宅福祉・移動サービスの連絡組織、こども食堂ネットワークなど)
- ・地域住民による機関・団体

#### 企業・組合

- 生活協同組合
- ・農業協同組合
- ・商工会
- ・地域経済団体(ライオンズクラブ、ロータリークラブ、青年会議所など)

· 商店

- ・物流 ・スーパー
- ・倉庫・薬局
- ・郵便局

・銀行

・コンビニ ほか



# 協議・参加の場づくり、および基盤醸成の段階

課題解決・支援を実現・充実させるために、テーマやエリアを横断し得意分野を生かした協力ができる機関・団体に参画を呼びかけましょう。食支援プラットフォームをさらに豊かに醸成するために声をかけたい主な機関・団体は次のとおり。

#### 他地域の関連行政課

- ・似た課題を抱えた地域の行政課
- ・近隣の地域の行政課
- ・先進的に食支援プラットフォームを形成している地域の行政課

#### 全国域、都道府県レベルで活動する 中間支援団体、ネットワーク団体

- •都道府県社会福祉協議会
- ・テーマ別の全国ネットワーク・中間支援 (食支援、移動支援、学習支援、若者支援、居場所づくり支援、

(良又族、惨動又族、子首又族、石有又族、店場所つくり 地域の助け合い活動立ち上げ支援など)

#### 全国域、複数圏域で活動する企業

- ・食品メーカー食品商社、 食料品小売業
- ……食料の寄付など
- ・倉庫関連の企業

·物流企業、運輸企業

- ……倉庫の貸し出しなど
- ◆小哥*士(*/宝椒)
- ……食料配布(運搬)の サポートなど

-92-

#### 協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に関する調査研究事業

## 委員構成

#### 委員長

内藤佳津雄 日本大学文理学部 教授

委員

秋山由美子 特定非営利活動法人日本地域福祉研究所 監事

荒井崇宏 稲城市福祉部高齢福祉課高齢福祉係 係長

 石田惇子
 一般社団法人全国食支援活動協力会 代表理事

 日下直和
 社会福祉法人香川県社会福祉協議会 事務局長

近藤博子 一般社団法人ともしび at だんだん 代表理事

清水洋行 千葉大学大学院人文科学研究院 教授

隅田耕史 特定非営利活動法人フェリスモンテ 事務局長

高橋良太 社会福祉法人全国社会福祉協議会地域福祉部 部長

田中将太 琉球大学人文社会学部 専任講師

中島智人 産業能率大学経営学部 教授

原田晃樹 立教大学コミュニティ福祉学部 教授

平野覚治 一般社団法人全国食支援活動協力会 専務理事

**目崎智恵子** 高崎市第1層生活支援コーディネーター主管課高崎市福祉部長寿社会課 川口寿弘 鳥取市役所総務部人権政策局 次長 兼 鳥取市中央人権福祉センター 所長

明石卓也 北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課 課長

平山博文 社会福祉法人五所川原市社会福祉協議会 常務理事 兼 事務局長

#### [作業部会]

部会長

平野覚治 一般社団法人全国食支援活動協力会 専務理事

委員

清水洋行 千葉大学大学院人文科学研究院 教授

中島智人 産業能率大学経営学部 教授

原田晃樹 立教大学コミュニティ福祉学部 教授目崎智恵子 高崎市第1層生活支援コーディネーター

主管課高崎市福祉部長寿社会課

田中将太 琉球大学人文社会学部 専任講師



-93-

令和5年度 厚生労働省 老人保健健康増進等事業 協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に 関する調査研究事業

# 生活支援体制整備を促進する「食」でつながる 支援プラットフォーム形成ガイドブック

一般社団法人全国食支援活動協力会 編 発行日 2024年3月31日

#### ガイドブック編集チーム

伊藤浩巳、谷山麻衣子、小嶋百合子 (一般社団法人全国食支援活動協力会) 沼上純也(イヰマ)

#### アートディレクション・デザイン

大西隆介、沼本明希子(direction Q)

#### イラストレーション

fancomi

一般社団法人全国食支援活動協力会 〒158-0098 東京都世田谷区上用賀6-19-21 ☎03-5426-2547 https://www.mow.jp/

本ガイドブックに掲載した記事・写真等の無断転載を禁じます。



#### 【資料集】

- 1 アンケート調査票 (行政・社会福祉協議会向け)
- 2 アンケート調査票(活動団体向け)
- 3 アンケート調査票 集計結果一覧
- 4 研修会チラシ (鳥取会場)
- 5 研修会チラシ(北九州会場)
- 6 研修会チラシ (五所川原会場)
- 7 研修会資料(鳥取会場)
- 8 研修会資料(北九州会場)
- 9 研修会資料(五所川原会場)
- 10 成果発表会チラシ(オンライン)
- 11 成果発表会資料(オンライン)

#### 「食」をともなう居場所づくりの支援に関する調査(アンケート)へのご協力のお願い

皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、表記のアンケート調査を実施することになり、行政所管及び社会福祉協議会など中間支援組織の皆様、また食のある居場所づくり活動に取り組む団体様に本事業の周知について、ご協力を賜りたく、よろしくお願いいたします。

本事業は、生活支援コーディネーターがプラットフォーム(協議体を含む)形成に向けたコーディネート力を発揮できるようになることを目的に、食支援活動の継続を支援するための体制整備に至るプロセスを調査・分析する際の調査研究事業「協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に関する調査研究(令和5年度老人保健健康増進等事業)」における基礎資料とさせていただきます。

また、「多世代が食でつながるコミュニティづくり(令和4年度休眠預金事業)」の助成を活用し、各地の実行団体と連携することで、少子高齢化に伴う「人口減少社会」「地域格差」「中山間地支援」などの課題解決に向けて必要なリソースをつなげる、居場所支援の関係機関や団体から構成される協議体などの多様なネットワークが連携する食のある居場所づくり支援のモデルを構築する際の基礎的な資料に活用させて頂ければと考えております。

つきましては、以下にてご協力を賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

#### 【アンケート調査計画】

- ◆時期:2023年8月4日~10月下旬 \*期間を延長いたしました。
- ◆目的:食のある居場所づくり支援のスキームを構築するために、現状と課題を把握する
- ◆実施方法:WEB 回答によるアンケート
- ◆調査対象:活動団体側・支援機関側2方面より実施いたします。
  - ①対支援機関…自治体の居場所づくり支援に関連する部局※、地域包括支援センター、 社会福祉協議会他

※市民自治、協働推進、NPO促進、地域福祉関係、介護保険関係、 子育て支援・子ども関係学校教育・社会教育・生涯学習関係、 環境関係(消費リサイクル含む)、地域振興・街づくり等の部局

②対活動団体…食を通じた居場所づくりに取り組む活動団体

#### ◆調査結果の活用について:

①厚生労働省の令和5年度老人保健健康増進等事業「協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に関する調査研究(実施:全国食支援活動協力会」において、生活支援コーディネーターがプラットフォーム(協議体を含む)形成に向けたコーディネート力を発揮できるようになることを目的に、モデルとして取り上げた地域において、食活動の継続を支援するための体制整備に至るプロセス、とくに多様な機関・団体・ネットワーク等との関係構築のプロセスを中心に調査・分析し報告書にまとめる際の基礎資料に用います。

https://mow.jp/cn1/2023-06-13.html ※老健事業について(当会 HP へのリンクです)

②各地域の休眠預金事業実行団体の事前評価に活用し、今後のSCやCSW、地域包括支援センターが食のある居場所づくり支援を推進するための基礎資料に用います。

https://mow.jp/cn1/kyumin2022 ※休眠預金助成事業の概要について(当会 HP へのリンクです)

- ③また国・自治体、各種中間支援組織等に対して、食支援活動への支援・協力を提案する際の資料として、また大学など教育機関の学術研究に用います。
- ◆実施主体:一般社団法人全国食支援活動協力会

調査協力:

清水洋行研究室(千葉大学人文科学研究院)、原田晃樹研究室(立教大学コミュニティ福祉学部)

#### 【ご依頼したい内容】

- ①食のある居場所づくり支援に関連する貴課のご担当者様に、本アンケートへご回答いただきたくご協力 のほどお願い致します。
  - ※別添「アンケート調査回答協力のご依頼(都道府県・政令指定都市・市町村・社会福祉協議会ご担当者 様)」をご参照くださいませ。
- ②県下市町の関係する部署のご担当者様に、アンケート調査への協力依頼をお願い致します。
  - ※別添「アンケート調査回答協力のご依頼(都道府県・政令指定都市・市町村・社会福祉協議会ご担当者様)」の周知にご協力くださいませ。
- ③食を通じた居場所づくりに取り組む活動団体のご担当者様に、アンケート調査への協力依頼をお願い致します。【配食サービス、会食会、地域食堂・多世代食堂、コミュニティカフェ、こどもの居場所、フードパントリー等】 ※別添「アンケート調査実施協力のご依頼(活動団体のご担当者様)」の周知にご協力くださいませ。

何かご不明な点がございましたらご連絡いただければ幸いです。

お忙しい中、お手数をお掛けいたしますがどうぞよろしくお願い申し上げます。

【お問い合わせ先】

一般社団法人全国食支援活動協力会 TEL03-5426-2547 FAX03-5426-2548

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀 6-19-21

Mail: <u>infomow@mow.jp</u> (平野・事務局)

都道府県(政令指定都市)、市町村、社会福祉協議会、中間支援組織のご担当者様

#### 「食」をともなう居場所づくりの支援に関する調査(アンケート)へのご協力のお願い

皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、表記のアンケート調査を実施することになり、行政所管及び社会福祉協議会他中間支組 織の皆様に本事業の周知・回答についてご協力を賜りたく、よろしくお願いいたします。

本事業は、生活支援コーディネーターがプラットフォーム(協議体を含む)形成に向けたコーディネート力を発揮できるようになることを目的に、食支援活動の継続を支援するための体制整備に至るプロセスを調査・分析する際の調査研究事業「協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に関する調査研究(令和5年度老人保健健康増進等事業)」における基礎資料とさせていただきます。

また、「多世代が食でつながるコミュニティづくり(令和4年度休眠預金事業)」の助成を活用し、各地の実行団体と連携することで、少子高齢化に伴う「人口減少 社会」「地域格差」「中山間地支援」などの課題解決に向けて必要なリソースをつなげる、居場所支援の関係機関や団体から構成される協議体などの多様なネットワークが連携する食のある居場所づくり支援のモデルを構築する際の基礎的な資料に活用させて頂ければと考えております。

つきましては、食を通じた居場所づくりを支援されている行政・社会福祉協議会の皆様に、活動の現状、居場所支援のために活用している地域資源の現状について調査を実施させていただきたいと考えております。

#### 【アンケート調査】

○時期:23 年 8 月 4 日~**10月下旬 \*期間を延長いたしました。** 

○目的:食のある居場所づくり支援のスキームを構築するために、現状と課題を把握する

○対象:自治体の居場所づくり支援に関連する部局\*、地域包括支援センター、

社会福祉協議会他

\*市民自治、協働推進、NPO促進、地域福祉関係、介護保険関係、 子育て支援・子ども関係学校教育・社会教育・生涯学習関係、 環境関係(消費リサイクル含む)、地域振興・街づくり等の部局

#### ○アンケート回答方法

以下の URL または QR コードを読み取っていただき、ご回答をお願いします。

URL: アンケート

https://form.run/@saposen-L4uwOjhpiygEhkYMkfnz QR = F:



#### ○調査結果の活用について:

①厚生労働省の令和5年度老人保健健康増進等事業「協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に関する調査研究(実施:全国食支援活動協力会」において、生活支援コーディネーターがプラットフォーム(協議体を含む)形成に向けたコーディネート力を発揮できるようになることを目的に、モデルとして取り上げた地域において、食活動の継続を支援するための体制整備に至るプロセス、とくに多様な機関・団体・ネットワーク等との関係構築のプロセスを中心に調査・分析し報告書にまとめる際の基礎資料に用います。

https://mow.jp/cn1/2023-06-13.html ※老健事業について (当会 HP へのリンクです)

②各地域の休眠預金事業実行団体の事前評価に活用し、今後のSCやCSW、地域包括支援 センターが食のある居場所づくり支援を推進するための基礎資料に用います。

https://mow.jp/cn1/kyumin2022 ※休眠預金助成事業の概要について(当会 HP へのリンクです)

③また国・自治体、各種中間支援組織等に対して、食支援活動への支援・協力を提案する際 の資料として、また大学など教育機関の学術研究に用います。

実施主体:一般社団法人全国食支援活動協力会

調查協力:清水洋行研究室(千葉大学人文科学研究院)

原田晃樹研究室(立教大学コミュニティ福祉学部)

#### 【お問い合わせ先】

一般社団法人全国食支援活動協力会 〒158-0098 東京都世田谷区上用賀 6-19-21 TEL03-5426-2547 FAX03-5426-2548

Mail: <u>infomow@mow.jp</u> (平野・事務局)

# 2023 年度 「食」をともなう居場所づくりの支援に関する調査 自治体・社協向けアンケート

A 貴課の概略について

はじめに貴課についておたずねします。

- 問1 貴課の所在地(都道府県)を1つ選んでください。 {フォームには選択肢を入れます}
- 問2 貴課の所在地(市町村)を記入してださい。 市 町村名 記述
- 問3 ご回答いただいた方の所属と連絡先を教えて下さい \*任意 貴課の名称 ご回答者のお名前 連絡先電話・メール
- B 支援対象及び内容について

「食」をともなう居場所づくりへの支援の対象と内容についておうかがいします。

- 問1 次の中で、貴課が支援対象としている<u>「食」をともなう居場所や関連する活動</u>をすべて 選んでください。
  - 1 こども食堂
  - 2 こども配食、こども宅食
  - 3 子どもの居場所(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 4 学習支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 5 就労支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 6 引きこもりなど若者支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 7 フードパントリー
  - 8 配食サービス
  - 9 会食会
  - 10 地域食堂、多世代食堂、コミュニティカフェ
  - 11 高齢者を主な対象とする居場所(サロンを含む)(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 12 移動サポート(「食」をともなう居場所の送迎)
  - 13 その他の「食」をともなう居場所や「食」に関する支援 (具体的に:

自治体	▶・社☆	協向け調査用紙
問 2	次の	中で、このアンケートで回答される支援対象の活動を1つ選んでください
	(選択	肢は問1と同じです)。
	1	こども食堂
	2	こども配食、こども宅食
	3	子どもの居場所(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
	4	学習支援 (「食」にかかわる取り組みを含むもの)
	5	就労支援 (「食」にかかわる取り組みを含むもの)

- 6 引きこもりなど若者支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
- フードパントリー 7
- 配食サービス
- 9 会食会
- 10 地域食堂、多世代食堂、コミュニティカフェ
- 11 高齢者を主な対象とする居場所(サロンを含む)(「食」にかかわる取り組みを含む)
- 12 移動サポート(「食」をともなう居場所の送迎)
- 13 その他の「食」をともなう居場所や「食」に関する支援 ) (具体的に:
- 問3 問2で選んだ支援対象の活動(以下、「この活動」)について、2022年度にその活動を実 施した団体数を記入してください。

合計( )団体

- 問4 2022 年度、どのような団体がこの活動を運営していましたか。次の中であてはまるもの をすべて選んでください。
  - 1 町内会、まちづくり協議会などの地縁をベースとした組織
  - 2 地域住民の自主的な活動(任意団体)
  - 3 N P O 法人 · 一般社団法人
  - 4 社会福祉法人・上記以外の公益法人
  - 5 その他(具体的に: )

#### 自治体・社協向け調査用紙

問5 この活動の立ち上げや継続・発展への支援として、貴課ではどのような支援を実施していますか。次のア〜シについて、それぞれ1〜4の中からあてはまるものを選んでください。

	1 壬上	0 Hay	2 + +	4 Ha h
	1 重点	2 取り	3 <i>b</i> s	4 取り
	的に取	組んで	り取り	組んで
	り組ん	いる	組んで	いない
	でいる		いない	
ア 活動の先行事例の紹介や活動のやり方に				
関する支援				
イ 団体づくりや団体の運営のやり方に関す				
る支援				
ウ 担い手の募集に関する支援				
エ リーダーの育成に関する支援				
オ 活動拠点の確保に関する支援				
カ 厨房や食料保管庫などの備品の整備に				
関する支援				
キ 利用者の募集に関する支援				
ク 利用者への支援の質の向上や利用者の				
量的な拡大に関する支援				
ケ 資金確保に関する支援				
コ 行政や社協からの理解の促進に関する支				
援				
サ 住民や地域の団体からの理解の促進に関				
する支援				

問 5SQ	その他に、	貴課で重点的に取り組んでいることがありましたら、	記入してください	0
	(		)	

問 6 貴課が、この活動への支援や、この活動への支援のあり方や進めた方の検討にあたり、 日頃、どのような個人や団体と関わりを持っていますか。次のアートについて、それぞれ、 1~4の中で、あてはまるものを選んでください。

ウ NPOセンター (ボランティア、市民活動センター含む)         エ 食支援にかかわる団体のネットワーク・連絡会・中間支援団体         オ フードバンク         カ コミュニティ協議会、まちづくり協議会など地区・校区を単位とする協議会         キ 社会福祉施設(児童福祉)         ク 社会福祉施設(高齢者福祉・介護関係)         方 社会福祉施設(社会的養護関係)         コ 在宅福祉サービス活動団体         サ 地域包括支援センター (在宅介護支援センター含む)         シ 生活困窮者支援に取り組む団体
オ フードバンク カ コミュニティ協議会、まちづくり 協議会など地区・校区を単位とす る協議会 キ 社会福祉施設(児童福祉) ク 社会福祉施設(高齢者福祉・介護 関係) ケ 社会福祉施設(社会的養護関係) コ 在宅福祉サービス活動団体 サ 地域包括支援センター(在宅介護 支援センター含む) シ 生活困窮者支援に取り組む団体
カ コミュニティ協議会、まちづくり 協議会など地区・校区を単位とす る協議会 キ 社会福祉施設 (児童福祉) ク 社会福祉施設 (高齢者福祉・介護 関係) ケ 社会福祉施設 (社会的養護関係) コ 在宅福祉サービス活動団体 サ 地域包括支援センター (在宅介護 支援センター含む) シ 生活困窮者支援に取り組む団体
協議会など地区・校区を単位とす る協議会 キ 社会福祉施設(児童福祉) ク 社会福祉施設(高齢者福祉・介護 関係) ケ 社会福祉施設(社会的養護関係) コ 在宅福祉サービス活動団体 サ 地域包括支援センター(在宅介護 支援センター含む) シ 生活困窮者支援に取り組む団体
る協議会       キ 社会福祉施設(児童福祉)         ク 社会福祉施設(高齢者福祉・介護関係)       関係)         ケ 社会福祉施設(社会的養護関係)       コ 在宅福祉サービス活動団体         サ 地域包括支援センター(在宅介護支援センター含む)       シ 生活困窮者支援に取り組む団体
キ 社会福祉施設(児童福祉)         ク 社会福祉施設(高齢者福祉・介護 関係)         ケ 社会福祉施設(社会的養護関係)         コ 在宅福祉サービス活動団体         サ 地域包括支援センター(在宅介護 支援センター含む)         シ 生活困窮者支援に取り組む団体
ク 社会福祉施設(高齢者福祉・介護 関係) ケ 社会福祉施設(社会的養護関係) コ 在宅福祉サービス活動団体 サ 地域包括支援センター(在宅介護 支援センター含む) シ 生活困窮者支援に取り組む団体
関係)  ケ 社会福祉施設(社会的養護関係)  コ 在宅福祉サービス活動団体  サ 地域包括支援センター(在宅介護 支援センター含む)  シ 生活困窮者支援に取り組む団体
コ 在宅福祉サービス活動団体 サ 地域包括支援センター(在宅介護 支援センター含む) シ 生活困窮者支援に取り組む団体
サ 地域包括支援センター (在宅介護 支援センター含む) シ 生活困窮者支援に取り組む団体
支援センター含む) シ 生活困窮者支援に取り組む団体
シ 生活困窮者支援に取り組む団体
スー商工会議所
セ企業
ソ 生協・農協・漁協などの協同組合
タ 小中学校、高校やその PTA
チの研究者・専門家
ツ その他

問 6 SQ	その他に、	日頃、	関わり	を持っ	ている作	固人や団	体があ	りまし	たら、	記入	してく	、ださ	· 120
	(				)								

- C 居場所支援に関する体制について
- 問1 <u>この活動の支援として</u>、貴課が課題と感じているものを次の中からすべて選んでください。
  - 1 活動の先行事例の紹介や活動のやり方に関する支援
  - 2 団体づくりや団体の運営のやり方に関する支援
  - 3 担い手の募集に関する支援
  - 4 リーダーの育成に関する支援
  - 5 活動拠点の確保に関する支援
  - 6 厨房や食料保管庫などの備品の整備に関する支援
  - 7 利用者の募集に関する支援
  - 8 利用者への支援の質の向上や利用者の量的な拡大に関する支援
  - 9 資金確保に関する支援
  - 10 行政や社協と活動団体との理解の促進に関する支援
  - 11 住民や地域の団体からの理解の促進に関する支援
  - 12 特に課題と感じているものはない
  - 13 どのような課題があるかわからない
  - 14 どのような支援を実施したかわからない
  - 15 支援は実施していない
  - 16 その他の支援(具体的に:
- 問2 <u>この活動の支援を継続するうえで</u>、貴課が課題と感じているものを次の中からすべて選んでください。

)

- 1 直接的な成果(客観性)が見込みにくいので予算の確保が困難
- 2 NPOのような市民活動団体と関係を作る機会に乏しい
- 3 さまざまな行政部局との調整が煩雑
- 4 行政内部で現場の問題を共有しにくい
- 5 地域のさまざまな団体との連携が難しい
- 6 現場のニーズを把握することが難しい
- 7 特にない
- 8 その他

#### 自治体・社協向け調査用紙

問 3 この活動を支援するにあたり、要望を伝えたり、情報を得たりしている部局はありますか。 (担当者への訪問、メール、電話等)

		1 貴課 と同じ自 治体の他 の部局	2 他の 市間の 部局(政 を お で お は は く く く	指定都市	4 国	5 なし
ア	市民自治、協働推進、NPO促進に					
	関する部局					
イ	地域福祉関係の部局					
ウ	地域包括支援センター					
エ	介護保険関係の部局					
才	子育て支援・子ども関係の部局					
カ	学校教育・社会教育・生涯学習関					
	係の部局					
丰	環境関係(消費リサイクル含む)の					
	部局					
ク	地域振興・まちづくりの部局					
ケ	その他の部局(					

問3SQ	その他の部局を選択された方は具体的な名称を教えてください。	
	(	)

- D 評価(価値) について
- 問1 この活動が、市民にとって重要だと考えられる価値として、あてはまるものを3つまで 選んでください。
  - 1 望ましい生活リズムや習慣が身につく
  - 2 学びの機会になる
  - 3 食育の機会になる
  - 4 食事を楽しむことができる
  - 5 栄養を摂ることができる
  - 6 他の人と交流できる
  - 7 心のよりどころになる
  - 8 出番や役割を得られる
  - 9 経済的な支援になる
  - 10 困りごとを相談・発信できる
  - 11 地域や社会の情報を得られる
  - 12 「孤立解消」のきっかけになる

- 問2 この活動が、地域や社会にとって重要だと考えられる価値として、あてはまるものを 3つまで選んでください。
  - 1 住民どうしのつながりができる
  - 2 活動を通じて孤立解消につながる
  - 3 多世代が交流できる
  - 4 子どもが健やかに成長できる
  - 5 引きこもりや生きづらさをかかえた人とつながる
  - 6 高齢となっても住み慣れた地域で暮らせる
  - 7 困りごとのある人とつながれる
  - 8 経済的格差が減少する
  - 9 食品ロスを減らせる
  - 10 食生活の改善になる
  - 11 地域の課題を発見する機会になる
  - 12 行政では対応できないニーズに対応できる
  - 13 地域の経済に貢献できる
  - 14 その他( )

#### 自治体・社協向け調査用紙

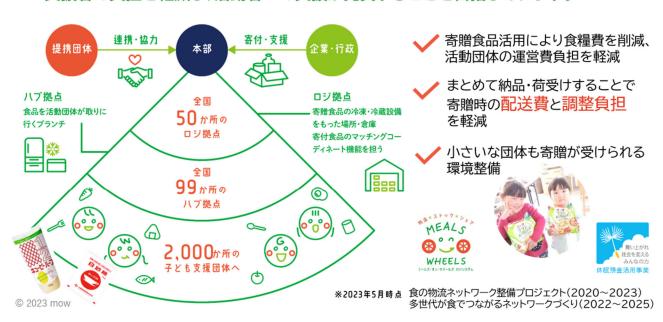
最後に、各地の食支援活動を応援するために当会が取り組んでいる「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム (MOWLS) | について、ご紹介させていただきます。

全国食支援活動協力会では、食を通した地域の居場所づくり活動が安定的に持続可能なかたちで全国に広がることを目指し、こども食堂や高齢者向けの配食サービスほかの食支援活動団体に対して、各種の支援を行っています。

その一つとして、近年では、子どもから高齢者まで、すべての人が食を得ることができるよう、 寄付食材の流通ネットワークとして「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム」の整備に取 り組んでいます。

この取り組みでは、企業や社会福祉団体など地域の中核となる団体と連携することで、2022 年度は全国 33 県に点在する 50 のロジ拠点(大量の食品を保管できる冷凍冷蔵設備を備えた拠点) と 99 のハブ拠点(ロジ拠点の支店。食支援団体が取りに行ける距離に設置)を通して、約 2000 団体の居場所づくり団体に食品を届けることができました。

## 「MOWLS」は支援者からの寄贈が効率的に運搬・仕分け・分配されることで支援者の負担を軽減し、活動者への支援が充実することを目指しています。



よろしければ、以下のアンケートにもお答えください。

問1 貴団体では、上記のロジスステムに関心がありますか。

- 1 関心がある
- 2 条件などを聞きたい
- 3 関心はない

#### 自治体・社協向け調査用紙

- 問2 問1で1または2を選択された方におうかがいします。この取り組みについて、貴課でご協力いただけるものについて、次の中からをすべて選んでください。
  - 1 寄贈食糧を受取り、利用者へ配布する仕組みに関する支援
  - 2 寄贈食糧を受取り、近隣エリアの子どもの居場所等へ配布する仕組みに関する支援
  - 3 倉庫等を用いた食糧保管に関する支援
  - 4 寄贈食糧を配送する物流業者のご紹介
  - 5 取り組みに関連する他の部局へのご紹介
  - 6 取り組みに関連する他団体へのご紹介
  - 7 現時点で協力できることはない
  - 8 その他( )
- 問3 今後、本アンケートの内容について、ヒアリング調査をさせていただけますと幸いです。 当会(全国食支援活動協力会)よりご連絡をさせていただいて宜しいでしょうか。
  - 1 連絡を希望する
  - 2 連絡を希望しない
- 問4 問3で1を選択された方は以下のご回答をお願いします。アンケート内で回答済みの方は 入力不要です。
  - A メールアドレス
  - B 団体名
  - C ご担当者のお名前

#### 食を通じた居場所づくりに取り組む活動団体 ご担当者 各位

#### 「食」をともなう居場所づくりの支援に関する調査(アンケート)へのご協力のお願い

皆様におかれましては益々ご清栄のこととお喜び申し上げます。

この度、表記のアンケート調査を実施することになりました。食を通じた居場所づくり活動に取り組まれている団体の皆様にアンケート調査にご協力を賜りたく、よろしくお願いいたします。

本事業は、生活支援コーディネーターがプラットフォーム(協議体を含む)形成に向けたコーディネート力を発揮できるようになることを目的に、食支援活動の継続を支援するための体制整備に至るプロセスを調査・分析する際の調査研究事業「協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に関する調査研究(令和5年度老人保健健康増進等事業)」における基礎資料とさせていただきます。

また、「多世代が食でつながるコミュニティづくり(令和4年度休眠預金事業)」の助成を活用し、各地の実行団体と連携することで、少子高齢化に伴う「人口減少社会」「地域格差」「中山間地支援」などの課題解決に向けて必要なリソースをつなげる、居場所支援の関係機関や団体から構成される協議体などの多様なネットワークが連携する食のある居場所づくり支援のモデルを構築する際の基礎的な資料に活用させて頂ければと考えております。

つきましては、以下にてご協力を賜りたく、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

#### 【アンケート調査】

- ○時期:23 年 8 月 4 日~10月下旬 \*期間を延長いたしました。
- ○目的:食のある居場所づくり支援のスキームを構築するために、現状と課題を把握する
- ○対象:「食」を伴う居場所づくり活動(団体)
- 1 こども食堂
- 2 こども配食、こども宅食
- 3 子どもの居場所(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
- 4学習支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
- 5就労支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
- 6引きこもりなど若者支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
- 7 フードパントリー
- 8 配食サービス
- 9 会食会
- 10 地域食堂、多世代食堂、コミュニティカフェ
- 11 高齢者を主な対象とする居場所(サロンを含む)(「食」にかかわる取り組みを含むもの)

- 12移動サポート(「食」をともなう居場所の送迎)
- 13その他の「食」をともなう居場所や「食」に関する支援

#### ○アンケート回答方法

以下の URL または QR コードを読み取っていただき、ご回答をお願いします。

URL: アンケート

QR コード:

https://form.run/@saposen-86q7PdR46iCpS4f9Yciy



#### ○調査結果の活用について

①厚生労働省の令和5年度老人保健健康増進等事業「協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に関する調査研究(実施:全国食支援活動協力会」において、生活支援コーディネーターがプラットフォーム(協議体を含む)形成に向けたコーディネート力を発揮できるようになることを目的に、モデルとして取り上げた地域において、食活動の継続を支援するための体制整備に至るプロセス、とくに多様な機関・団体・ネットワーク等との関係構築のプロセスを中心に調査・分析し報告書にまとめる際の基礎資料に用います。

https://mow.jp/cn1/2023-06-13.html ※老健事業について (当会 HP へのリンクです)

②各地域の休眠預金事業実行団体の事前評価に活用し、今後のSCやCSW、地域包括支援 センターが食のある居場所づくり支援を推進するための基礎資料に用います。

https://mow.jp/cn1/kyumin2022 ※休眠預金助成事業の概要について(当会 HP へのリンクです)

③また国・自治体、各種中間支援組織等に対して、食支援活動への支援・協力を提案する際 の資料として、また大学など教育機関の学術研究に用います。

実施主体:一般社団法人全国食支援活動協力会

調查協力:清水洋行研究室(千葉大学人文科学研究院)

原田晃樹研究室(立教大学コミュニティ福祉学部)

#### 【お問い合わせ先】

一般社団法人全国食支援活動協力会 TEL03-5426-2547 FAX03-5426-2548 〒158-0098 東京都世田谷区上用賀 6-19-21

Mail: infomow@mow.jp (平野・事務局)

## 2023 年度 「食」をともなう居場所づくりの支援に関する調査 活動団体向けアンケート

A 団体の概	略
--------	---

はじめに貴団体についておたずねします。

- 問1 貴団体の種類は、次の中のどれですか。あてはまるものを1つ選んでください。 1 町内会、まちづくり協議会などの地縁をベースとした組織 2 地域住民の自主的な活動(任意団体) 3 NPO法人・一般社団法人 4 社会福祉法人・上記以外の公益法人 5 その他(具体的に:
- 問2 貴団体の所在地(都道府県)を1つ選んでください。
- 問3 貴団体の所在地(市町村名)を記入してください。 ( )
- 問4 ご回答いただく方の所属と連絡先を教えて下さい \*任意

団体名 ご回答者のお名前 連絡先電話・メール

- 問 5 貴団体が設立されたのはいつですか(わかる範囲で結構です)。 西暦 ( ) 年
- 問 6 貴団体の 2022 年度の支出額は、どれくらいでしたか。回答欄に記入してください。 ( ) 万円
- 問7 貴団体では、下記の書類を外部に向けて公開していますか。

	はい	いいえ
ア 活動計画(事業計画・事業報告など)		
イ 理事会運営(理事会や運営委員会、総		
会・評議員会など、団体運営に関する会議の		
議案・議事録)		
ウ 定款や規約		
工 会計書類(収支計算書、決算報告)		
オ 代表者・理事・監事などの役員情報		

#### B 活動の概略

続いて、貴団体が、住民参加で実施している「食」をともなう居場所や関連する活動について おたずねします。

- 問1 次の中で、「食」をともなう居場所や関連する活動として、貴団体が実施しているものを すべて選んでください(複数回答可)。
  - 1 こども食堂
  - 2 こども配食、こども宅食
  - 3 子どもの居場所(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 4 学習支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 5 就労支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 6 引きこもりなど若者支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 7 フードパントリー
  - 8 配食サービス
  - 9 会食会
  - 10 地域食堂、多世代食堂、コミュニティカフェ
  - 11 高齢者を主な対象とする居場所(サロンを含む)(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 12 移動サポート (「食」をともなう居場所の送迎)
  - 13 その他の「食」をともなう居場所や「食」に関する支援 (具体的に:
- 問2 次の中で、このアンケートで回答される活動を1つ選んでください。 (選択肢は問1と同じです)。
  - 1 こども食堂
  - 2 こども配食、こども宅食
  - 3 子どもの居場所(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 4 学習支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 5 就労支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 6 引きこもりなど若者支援(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 7 フードパントリー
  - 8 配食サービス
  - 9 会食会
  - 10 地域食堂、多世代食堂、コミュニティカフェ
  - 11 高齢者を主な対象とする居場所(サロンを含む)(「食」にかかわる取り組みを含むもの)
  - 12 移動サポート(「食」をともなう居場所の送迎)
  - 13 その他の「食」をともなう居場所や「食」に関する支援

(具体的に:		)
問3-1 問2で選んだ活動(以下、 月に(平均) (	「この活動」)の活動回数を )回	と記入してください。
問3-2 この活動の1回あたりの利 1回の利用者数(平均) (		, y <sub>o</sub>
問3-3 この活動の利用者の人数 登録利用者数 ( )		<b>ごさい</b> 。
問3-4 この活動の1回あたりのオ 1回のボランティア数(平均)		してください。
問3-5 この活動のボランティアの 登録ボランティア数 (		してください。
問4 この活動が実施されている都	道府県名を記入してくださ	γ <sub>2</sub> °
	都・道府・県	
問5 この活動が実施されている市 町村で実施されている場合は、		
	市·区 町·村	
	市·区 町·村	

問6 この活動が開始されたのはいつですか(わかる範囲で結構です)。

西暦 年

- 問7 この活動の利用者のうち、65歳以上の方が占める割合はどれくらいですか。次の中で最 も近いものを1つ選んでください。
  - 1 なし
  - 2 2割未満
  - 3 2~4割程度
  - 4 半数程度
  - 5 6割~8割程度
  - 6 8割以上
  - 7 すべて
- 問8 この活動に参加されているボランティア(無償・有償)のうち、65歳以上の方が占める 割合はどれくらいですか。次の中で最も近いものを1つ選んでください。
  - 1 なし
  - 2 2割未満
  - 3 2~4割程度
  - 4 半数程度
  - 5 6割~8割程度
  - 6 8割以上
  - 7 すべて
  - 8 ボランティア (無償・有償) はいない
- 問9 この活動が実施されている中心となる拠点を1つ選択してください。
  - 1 自前の拠点(借りているものを含む)
  - 2 コミュニティセンター、人権センター、公民館(行政が設置した施設)などの公共施設
  - 3 自治会・町内会や集落など地域の施設(団地の集会場を含む)
  - 4 社会福祉施設(母子生活支援施設、隣保館、福祉施設(高齢者・児童・保育など)
  - 5 商店や個人宅など民間の施設など民間の物件
  - 6 会員や知人などの個人宅
  - 7 その他()
- 問 10 この活動では、食品を保管するため、の倉庫や冷蔵庫・冷凍庫を持っていたり、借りたりしていますか。次のア~カについて、あてはまるものをそれぞれ 1~3 の中から選んでください。

		1	持って	2	借りて	3	なし
		いる		かる			
ア	常温の食品を保管するスペース						
イ	常温の食品を保管する倉庫						

ウ	冷蔵庫(1000 リットル以上)		
エ	冷蔵庫(1000 リットル未満)		
オ	冷凍庫(500 リットル以上)		
カ	冷凍庫(500 リットル未満)		

#### C 課題と支援

問1 この活動では、この3年間に、どのような課題がありましたか。また、その課題について 行政や社協から支援を受けましたか。次のア〜サの課題について、それぞれ $1\sim3$ のなかで あてはまるものを1つずつ選んでください。

		1 課題はな い	2 課題があ り、行政 や社協か ら支援を うけた	3 課題があったが、 行政や社 協から支 援を受け なかった
ア	活動の先行事例の紹介や活動のやり方につい			
	7			
イ	団体づくりや団体の運営のやり方について			
ウ	担い手の募集について			
エ	リーダーの育成について			
才	活動拠点の確保について			
カ	厨房や食料保管庫などの備品の整備について			
丰	利用者の募集について			
ク	利用者への支援の質の向上や利用者の量的な			
	拡大について			
ケ	資金確保について			
コ	行政や社協からの理解の促進について			
サ	住民や地域の団体からの理解の促進について			

	1	11以下1	上脚かりの连座	中の促進について			
	サ	住民や均	地域の団体から	の理解の促進に	ついて		
•							
問 1 :	SQ	その他、	この活動につ	いての課題があ	りました	ら記入してく	ださい。
	(						)

- 問2 今後、この活動の立ち上げや継続・発展に向けて、行政や社協から受けたい支援や必要と 考える支援をすべて選んでください
  - 1 活動の先行事例の紹介や活動のやり方に関する支援
  - 2 団体づくりや団体の運営のやり方に関する支援
  - 3 担い手の募集に関する支援
  - 4 リーダーの育成に関する支援
  - 5 活動拠点の確保に関する支援
  - 6 活動拠点の備品の整備に関する支援
  - 7 利用者の募集に関する支援
  - 8 支援の質の向上や量的な拡大に関する支援
  - 9 資金確保に関する支援
  - 10 行政や社協からの理解の促進について
  - 11 住民や地域の団体からの理解の促進について
  - 12 支援は必要ない
- 問2SQ その他に、この活動の立ち上げや継続や発展に向けて、行政や社協から受けたい支援 や必要と考える支援がありましたら記入してください。 ( )
- D 行政との連携について
- 問1 この活動にかんして、過去3年以内に担当者と会って、要望を伝えたり、情報を得たりした部局はありますか。次の中であてはまるものをすべて選んでください。
  - 1 市民自治、協働推進、NPO促進に関する部局
  - 2 地域福祉関係の部局
  - 3 介護保険関係の部局
  - 4 子育て支援・子ども関係の部局
  - 5 学校教育・社会教育・生涯学習関係の部局
  - 6 生活困窮関係の部局
  - 7 環境関係(消費リサイクル含む)の部局
  - 8 地域振興・まちづくりの部局
  - 9 なし
  - 10 その他の部局(

問 2 この活動にかんして、過去 3 年以内に、行政や社協から支援を受けたり、連携したりしましたか。次のアイについて、1~4 の中からあてはまるものを選んでください。

	1 活動エリアの	2 活動エリ	3 他の県、政令	4	なし
	ある市町村内に	アの県内・政	指定都市にある		
	あるもの(政令	令指定都市内	もの		
	指定都市は除	にあるもの			
	<)				
ア 行政					
イ 社会福祉協議会					
(校区・地区社協含					
む)					

問3 この活動にかんして、過去3年以内に、下記のネットワーク・中間支援組織や協議体から 支援を受けたり、協力・連携したりしましたか。次のア〜エについて、1〜4の中からあて はまるものを選んでください。

	1 活動エリアの	2 活動エリア	3 他の県、政	4 な
	ある市町村内にあ	の県内・政令指	令指定都市にあ	L
	るもの(政令指定	定都市内にある	るもの	
	都市は除く)	\$ O		
ア NPOセンター				
(ボランティア、市民				
活動センター含む)				
イ 食支援にかかわる				
団体のネットワーク・				
連絡会・中間支援団体				
ウ フードバンク				
エ コミュニティ協議				
会、まちづくり協議会				
など地区・校区を単位				
とする協議会				

問3SQ	さしつかえなければ、	上記の中で主な団体の名前を記入	.してください。 >	k 任意
(		)	)	

問4 この活動にかんして、過去3年以内に、下記の施設や団体・機関から支援を受けたり、協力・連携したりしましたか。次のア~カについて、1~4の中からあてはまるものを選んでください。

		0 7551 77.5	0 11 ==1	
	1 活動エリアの	2 活動エリア	3 他の県、政	4 な
	ある市町村内にあ	の県内・政令指	令指定都市にあ	L
	るもの(政令指定	定都市内にある	るもの	
	都市は除く)	もの		
ア 社会福祉施設(児				
童福祉)				
イ 社会福祉施設(高				
齢者福祉・介護関係)				
ウ 社会福祉施設(社				
会的養護関係)				
エ 在宅福祉サービス				
活動団体				
オ 地域包括支援セン				
ター(在宅介護支援セ				
ンター含む)				
カ 生活困窮者支援に				
取り組む団体				

問5 この活動にかんして、過去3年以内に、下記の団体や機関・個人から支援を受けたり、協力・連携したりしましたか。次のア~オについて、1~4の中からあてはまるものを選んでください。

	1 活動エリアの	2 活動エリア	3 他の県、政	4 な
	ある市町村内にあ	の県内・政令指	令指定都市にあ	L
	るもの(政令指定	定都市内にある	るもの	
	都市は除く)	\$ O		
ア 商工会議所				
イ 企業				
ウ 生協・農協・漁協				
などの協同組合				
エ 小中学校、高校や				
そのPTA				
オ 研究者・専門家				

問 5 SQ	その他、	協力・連携したことがある個人や団体が	ありましたら、	記入してください。
	(	)		

E 価値について

この活動について注目や評価をしてほしいポイント、課題についておたずねします。

- 問1 この活動が担い手(ボランティア)にとって重要だと考えられる価値として、あてはまるものを3つまで選んでください。
  - 1 望ましい生活リズムや習慣が身につく
  - 2 学びの機会になる
  - 3 食育の機会になる
  - 4 食事を楽しむことができる
  - 5 栄養を摂ることができる
  - 6 他の人と交流できる
  - 7 心のよりどころになる
  - 8 出番や役割を得られる
  - 9 経済的な支援になる
  - 10 困りごとを相談・発信できる
  - 11 地域や社会の情報を得られる
  - 12 「孤立解消」のきっかけになる
  - 13 その他 ( )
- 問 2 この活動が地域や社会にとって重要だと考えられる価値として、あてはまるものを3つまで選んでください。
  - 1 住民どうしのつながりができる
  - 2 活動を通じて孤立解消につながる
  - 3 多世代が交流できる
  - 4 子どもが健やかに成長できる
  - 5 引きこもりや生きづらさをかかえた人とつながる
  - 6 高齢となっても住み慣れた地域で暮らせる
  - 7 困りごとのある人とつながれる
  - 8 経済的格差が減少する
  - 9 食品ロスを減らせる
  - 10 食生活の改善になる
  - 11 地域の課題を発見する機会になる
  - 12 行政では対応できないニーズに対応できる
  - 13 地域の経済に貢献できる
  - 14 その他 ( )

アンケートにご協力いただきまして、ありがとうございました。アンケートはこちらで終わりです。

\* \* \* \* \* \* \*

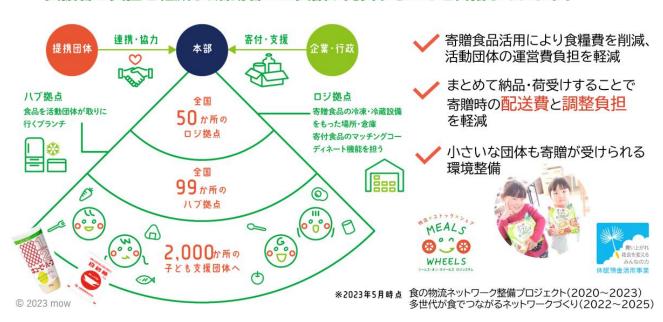
最後に、各地の食支援活動を応援するために当会が取り組んでいる「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム (MOWLS) | について、ご紹介させていただきます。

全国食支援活動協力会では、食を通した地域の居場所づくり活動が安定的に持続可能なかたちで全国に広がることを目指し、こども食堂や高齢者向けの配食サービスほかの食支援活動団体に対して、各種の支援を行っています。

その一つとして、近年では、子どもから高齢者まで、すべての人が食を得ることができるよう、 寄付食材の流通ネットワークとして「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステム」の整備に取 り組んでいます。

この取り組みでは、企業や社会福祉団体など地域の中核となる団体と連携することで、2022 年度は全国 33 県に点在する 50 のロジ拠点(大量の食品を保管できる冷凍冷蔵設備を備えた拠点) と 99 のハブ拠点(ロジ拠点の支店。食支援団体が取りに行ける距離に設置)を通して、約 2000 団体の居場所づくり団体に食品を届けることができました。

## 「MOWLS」は支援者からの寄贈が効率的に運搬・仕分け・分配されることで支援者の負担を軽減し、活動者への支援が充実することを目指しています。



よろしければ、以下のアンケートにもお答えください。

- 間1 貴団体では、上記のロジスステムに関心がありますか。
  - 1 関心がある
  - 2 条件などを聞きたい
  - 3 関心はない

問2.問1で1または2を選択された皆様にお伺いします。企業等から食糧寄付を受けるために、 以下の項目でご関心のあるものをすべて選んでください。

- 1 企業等からの食糧の寄贈を希望する
- 2 地域のこども食堂・多世代食堂、ひとり親支援団体等への食料配布に協力できる
- 3 倉庫等を活用して食糧(常温・冷蔵・冷凍)保管に協力できる
- 4 寄贈食糧の配送に協力できる、または配送のお手伝いしてくれる方をしっている
- 5 現時点で、協力・連携できることはない
- 6 その他( )
- 問3 今後、本アンケートの内容について、ヒアリング調査をさせていただけますと幸いです。 当会(全国食支援活動協力会)よりご連絡をさせていただいて宜しいでしょうか。
  - 1 連絡を希望する
  - 2 連絡を希望しない

問4 問3で1を選択された方は以下のご回答をお願いします。アンケート内で回答済みの方は ご入力不要です。

- A メールアドレス
- B 団体名
- C ご担当者のお名前

#### 「2023年度「食」をともなう居場所づくりの支援にかんする調査」 について

一般社団法人 全国食支援活動協力会

#### 調査協力:

清水洋行研究室(千葉大学人文科学研究院) 原田晃樹研究室(立教大学コミュニティ福祉学部)

#### アンケートの目的

食のある居場所づくり支援のスキームを構 築するために、現状と課題を把握する

#### 実施期間

2023年8月4日~10月15日

#### アンケートの対象

#### ①対支援機関…

自治体の居場所づくり支援に関連する部局※、 地域包括支援センター、社会福祉協議会他

※市民自治、協働推進、NPO促進、地域福祉関係、 介護保険関係、子育て支援・子ども関係学校教育・ 社会教育・生涯学習関係、環境関係(消費リサイクル含む)、 地域振興・街づくり等の部局

食を通じた居場所づくりに取り組む活動団体

青森県、千葉県、香川県、徳島県、高知県、愛媛県、福岡県、宮崎県、長崎県、一部近隣地域

有効回答数 ①行政・社協等から268活動 ②活動団体から313活動

## 「2023年度「食」をともなう居場所づくりの支援にかんする調査」 全調査地域の有効回答について

市	
福祉·介護部局	71
子ども部局	37
福祉・子ども以外の部局	14
社会福祉協議会	86
その他	9
不明	44
合計	261

活動団体	
こども食堂	134
こども配食	16
子どもの居場所	27
学習支援	11
就労支援	1
若者支援	5
フードパントリー	33
配食サービス	4
会食会	6
地域食堂	44
高齢者の居場所	23
不明	9
合計	313

1

## 【活動団体】利用人数(1回あたり)

	9人以下	10~19 人	20~49 人	50~99 人	100~ 149人	150人以 上	合計
こども食堂	7	10	46	51	14	6	134
こども配食	1	2	2	4	3	4	16
子どもの居場所	5	7	9	4	1	1	27
学習支援	4	4	3				11
就労支援	1						1
若者支援	5						5
フードパントリー	10	1	10	8	2	2	33
配食サービス			1			3	4
会食会	1		4	1			6
地域食堂	2	3	13	15	8	3	44
高齢者の居場所	5	11	6	1			23
不明	3		2	1	1	2	9
合計	44	38	96	85	29	21	313

## 【活動団体】活動頻度(1か月あたりの回数)

	1回	2~3回	4~11回	12~19 回	20~27 回	28回以上	合計
こども食堂	79	25	18	4	2	6	134
こども配食	13	1	2				16
子どもの居場所	5	5	8	6	3		27
学習支援	1	1	6	1	1	1	11
就労支援					1		1
若者支援	1	2	2				5
フードパントリー	14	8	5	2	1	3	33
配食サービス	2		2				4
会食会	1		2	2		1	6
地域食堂	34	3	4		2		44
高齢者の居場所	4	4	5		9	1	23
不明	3	1	4	1			9
合計	157	50	58	16	19	12	313

## 【活動団体】ボランティア人数(1回あたり)

	なし	1~4 人	5~9 人	10~ 14人	15~ 19人	20~ 49人	50~ 99人	100 人以上	合計
こども食堂	1	33	44	28	15	13			134
こども配食	4	1	9			2			16
子どもの居場 所	2	15	3	4	2	1			27
学習支援	2	4	3	2					11
就労支援	1								1
若者支援		5							5
フードパント リー	4	16	6	4	3				33
配食サービス	1	1				1	1		4
会食会		1	1	1				3	6
地域食堂	1	10	12	13	6	2			44
高齢者の居場 所	7	7	3	5	1				23
不明		5		2		1	1		9
合計	23	98	81	59	27	20	2	3	313

## 【活動団体】利用者のうち65歳以上の割合

	なし	2割未満	2割~4 割程度	半数程度	6割~8 割程度	8割以上	すべて	合計
こども食堂	45	61	19	2	3	4		134
こども配食	9	5	1			1		16
子どもの居場所	16	4	4	2	1			27
学習支援	10	1						11
就労支援	1							1
若者支援	5							5
フードパント リー	12	13	3	1	2	1	1	33
配食サービス						1	3	4
会食会							6	6
地域食堂	3	15	7	6	11	1	1	44
高齢者の居場所			1		2	11	9	23
不明	1	3	1			1	3	9
合計	102	102	36	11	19	20	23	313

## 【活動団体】ボランティアのうち65歳以上の割合

	なし	2割未 満	2割~ 4割程 度	半数 程度	6割~ 8割程 度	8割以 上	すべて	ボラン ティアは いない	合計
こども食堂	20	39	12	21	24	16	2		134
こども配食	6	3	2		1	3		1	16
子どもの居場所	9	6	4	4	3	1			27
学習支援	2	4		1	1	3			11
就労支援	1								1
若者支援		1	1	1	1		1		5
フードパント リー	6	7	6	4	3	2	3	2	33
配食サービス					1	1	1	1	4
会食会						4	2		6
地域食堂	6	8	6	7	9	5	2	1	44
高齢者の居場 所	2				3	6	5	7	23
不明	3	1	1	1	1	2			9
合計	55	69	32	39	47	43	16	12	313

## 【活動団体】活動拠点の種類

	自前の 拠点	公共施設	地域の 施設	社会福祉 施設	民間の 物件	個人宅	合計
こども食堂	43	61	9	8	5	4	130
こども配食	10	3		2	1		16
子どもの居場所	12	6	4	1		1	24
学習支援	3	7		1			11
就労支援	1						1
若者支援		1	3			1	5
フードパントリー	7	7	3	4	4	2	27
配食サービス	2	1		1			4
会食会		6					6
地域食堂	11	19	6	4	2	1	43
高齢者の居場所	9	8	4	1	1		23
不明	1	6		1			8
合計	99	125	29	23	13	9	298

## 【活動団体】食品の保管設備の状況 (1)常温の食品の保管設備①

		持って いる	借りて いる	なし	合計
こども食堂	スペース	81	28	24	133
ことも良主	倉庫	49	20	65	134
こども配食	スペース	12	4		16
ことも託良	倉庫	10	4	1	16
子どもの居場所	スペース	17	7	3	27
丁ともの店場別	倉庫	7	4	16	27
学習支援	スペース	5	3	3	11
于白又版	倉庫	3	1	7	11
就労支援	スペース	1			1
<b>机力又饭</b>	倉庫			1	1
若者支援	スペース	4	1		5
石白又饭	倉庫			5	5

### 【活動団体】食品の保管設備の状況 (1)常温の食品の保管設備②

		持って いる	借りて いる	なし	合計
フードパントリー	スペース	16	9	8	33
7 1.17.21.7	倉庫	5	7	21	33
配食サービス	スペース	1	1	2	4
癿良り一しへ	倉庫		1	3	4
会食会	スペース	1	5		6
云艮云	倉庫			6	6
地域食堂	スペース	30	8	6	44
地域良王	倉庫	18	7	19	44
高齢者の居場所	スペース	10	9	4	23
同即有り店場別	倉庫	5	9	9	23
不明	スペース	5	2	2	9
119月	倉庫	1		8	9
合計	スペース	183	77	52	312
日前	倉庫	98	53	162	313

【活動団体】食品の保管設備の状況 (2)冷蔵庫①

		持って いる	借りて いる	なし	合計
- レナ 会告	1000リットル未満	67	27	39	133
こども食堂	1000リットル以上	23	13	97	133
こども配食	1000リットル未満	7	3	6	16
ことも能良	1000リットル以上	8		8	16
子どもの居場所	1000リットル未満	18	3	6	27
丁ともの店場別	1000リットル以上	3	1	23	27
<b>☆22</b> +142	1000リットル未満	7		4	11
学習支援	1000リットル以上			11	11
就労支援	1000リットル未満	1			1
机力又饭	1000リットル以上			1	1
若者支援	1000リットル未満	5			5
石包又饭	1000リットル以上			5	5

## 【活動団体】食品の保管設備の状況 (2)冷蔵庫②

		持って いる	借りて いる	なし	合計
	1000リットル未満	13	4	15	32
フードパントリー	1000リットル以上	3	2	28	33
#7 <b>&amp;</b> ## 1477	1000リットル未満		2	2	4
配食サービス	1000リットル以上		2	2	4
A&A	1000リットル未満		4	2	6
会食会	1000リットル以上			6	6
地域食堂	1000リットル未満	22	7	15	44
地域良星	1000リットル以上	5	2	37	44
高齢者の居場所	1000リットル未満	6	3	14	23
同即伯の店場別	1000リットル以上	1	8	14	23
不明	1000リットル未満	2	3	4	9
מאיור	1000リットル以上	1	1	7	9
合計	1000リットル未満	148	56	107	311
Hel	1000リットル以上	44	29	239	312

### 【活動団体】食品の保管設備の状況 (3)冷凍庫①

		持って いる	借りて いる	なし	合計
こども食堂	500リットル未満	67	24	42	133
ことも良主	500リットル以上	23	12	98	133
- V+ m7会	500リットル未満	8	4	4	16
こども配食	500リットル以上	8		8	16
フレナの兄担託	500リットル未満	16	3	8	27
子どもの居場所	500リットル以上	4	1	22	27
₩35 <b>十</b> 45	500リットル未満	6	1	4	11
学習支援	500リットル以上	1		10	11
就労支援	500リットル未満	1			1
<b>从力又恢</b>	500リットル以上			1	1
<del>艾</del> 女士 <sup>按</sup>	500リットル未満	5			5
若者支援	500リットル以上			5	5

### 【活動団体】食品の保管設備の状況 (3)冷凍庫②

		持って いる	借りて いる	なし	合計
フードパントリー	500リットル未満	15	3	14	32
ノートハントリー	500リットル以上	4	1	28	33
配食サービス	500リットル未満	1		3	4
昨長り一し人	500リットル以上	1	1	2	4
会食会	500リットル未満		2	4	6
<b>工</b> 及工	500リットル以上			6	6
地域食堂	500リットル未満	25	4	15	44
地以及主	500リットル以上	8	3	33	44
高齢者の居場所	500リットル未満	5	4	14	23
同断日り心物の	500リットル以上	2	7	14	23
不明	500リットル未満	2	1	6	9
个明	500リットル以上			9	9
合計	500リットル未満	151	46	114	311
口可	500リットル以上	51	25	236	312

【行政・社協】活動に対する支援の取り組み状況

	重点的に 取り組ん でいる	取り組ん でいる	あまり取 り組んで いない	取り組ん でいない	合計
先行事例の紹介や活動のやり方	29	106	58	68	261
団体づくりや団体運営のやり方	19	107	62	73	261
担い手の募集	15	72	68	106	261
リーダーの育成	8	48	77	128	261
活動拠点の確保	14	71	60	116	261
厨房や食料保管庫などの備品整備	5	47	56	153	261
利用者の募集	28	122	39	72	261
利用者への支援の質的向上、量的拡大	17	97	56	91	261
資金確保	47	113	26	75	261
行政・社協からの理解促進	31	128	39	63	261
地域の住民からの理解促進	24	130	44	63	261
合計	237	1041	585	1008	

【活動団体】ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (1)先行事例の紹介や活動のやり方に関する支援

	25	ここ3年間に行政や社協から 支援を受けたか				活動の継続や発展に向けて 行政や社協から支援を受けた い			
	課題が なかった	支援を 受けた	支援を 受けな かった	合計	支援の 必要なし	支援を 受けたい	合計		
こども食堂	59	42	33	134	102	32	134		
こども配食	5	6	5	16	13	3	16		
子どもの居場所	11	8	8	27	19	8	27		
学習支援	3	3	5	11	10	1	11		
就労支援			1	1	1		1		
若者支援	2	1	2	5	5		5		
フードパントリー	13	8	12	33	30	3	33		
配食サービス	2	1	1	4	4		4		
会食会	4	2		6	2	4	6		
地域食堂	12	16	16	44	32	12	44		
高齢者の居場所	5	8	10	23	20	3	23		
不明		3	6	9	6	3	9		
合計	116	98	99	313	244	69	313		

#### 【活動団体】ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (2)団体づくりや団体運営のやり方に関する支援

	55	支援を受けたか				活動の継続や発展に向けて 行 政や社協から支援を受けたい			
	課題が なかった	支援を 受けた	支援を 受けな かった	合計	支援の 必要なし	支援を 受けたい	合計		
こども食堂	66	30	38	134	105	29	134		
こども配食	5	6	5	16	15	1	16		
子どもの居場所	10	9	8	27	24	3	27		
学習支援	5	2	4	11	10	1	11		
就労支援	1			1	1		1		
若者支援	3		2	5	5		5		
フードパントリー	13	8	12	33	31	2	33		
配食サービス	3		1	4	3	1	4		
会食会	4	1	1	6	2	4	6		
地域食堂	19	12	13	44	35	9	44		
高齢者の居場所	7	7	9	23	20	3	23		
不明	1	4	4	9	8	1	9		
合計	137	79	97	313	259	54	313		

#### 【活動団体】ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (3)担い手の募集に関する支援

	ت =					活動の継続や発展に向けて 行政や社協から支援を受けたい			
	課題が なかった	支援を 受けた	支援を 受けな かった	合計	支援の 必要なし	支援を 受けたい	合計		
こども食堂	64	23	47	134	75	59	134		
こども配食	4		12	16	10	6	16		
子どもの居場所	10	5	12	27	18	9	27		
学習支援	2	3	6	11	6	5	11		
就労支援	1			1	1		1		
若者支援	1	1	3	5	2	3	5		
フードパントリー	16	1	16	33	21	12	33		
配食サービス	2		2	4	2	2	4		
会食会	1	5		6	1	5	6		
地域食堂	15	9	20	44	23	21	44		
高齢者の居場所	5	8	10	23	9	14	23		
不明		4	5	9	1	8	9		
合計	121	59	133	313	169	144	313		

【活動団体】ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (4)リーダーの育成に関する支援

			う政や社協 <i>た</i> 受けたか	115	活動の継続や発展に向けて 行 政や社協から支援を受けたい			
	課題が なかった	支援を 受けた	支援を   受けな   かった	合計	支援の 必要なし	支援を 受けたい	合計	
こども食堂	84	6	44	134	109	25	134	
こども配食	7	1	8	16	13	3	16	
子どもの居場所	13	2	12	27	21	6	27	
学習支援	2	1	8	11	8	3	11	
就労支援	1			1	1		1	
若者支援	2		3	5	2	3	5	
フードパントリー	17	1	15	33	27	6	33	
配食サービス	2		2	4	2	2	4	
会食会	1	5		6	2	4	6	
地域食堂	23	3	18	44	34	10	44	
高齢者の居場所	5	7	11	23	15	8	23	
不明	2	2	5	9	4	5	9	
合計	159	28	126	313	238	75	313	

【活動団体】ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (5)活動拠点の確保に関する支援

		ここ3年間に行政や社協から 支援を受けたか				活動の継続や発展に向けて 行政や社協から支援を受けたい			
	課題が なかった	支援を 受けた	支援を   受けな   かった	合計	支援の 必要なし	支援を 受けたい	合計		
こども食堂	86	24	24	134	98	36	134		
こども配食	9	3	4	16	12	4	16		
子どもの居場所	16	5	6	27	24	3	27		
学習支援	4	4	3	11	9	2	11		
就労支援	1			1	1		1		
若者支援		2	3	5	2	3	5		
フードパントリー	17	5	11	33	27	6	33		
配食サービス	3		1	4	4		4		
会食会	2	4		6	1	5	6		
地域食堂	28	6	10	44	33	11	44		
高齢者の居場所	11	5	7	23	16	7	23		
不明	2	3	4	9	4	5	9		
合計	179	61	73	313	231	82	313		

【活動団体】ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (6)活動拠点の備品に関する支援

		3年間に行	受けたか	いら	活動の継続や発展に向けて 行政や社協から支援を受けたい			
	課題が なかった	支援を 受けた	支援を 受けな かった	合計	支援の必要なし	支援を 受けたい	合計	
こども食堂	57	21	56	134	74	60	134	
こども宅食	9	3	4	16	10	6	16	
子どもの居場所	14	5	8	27	16	11	27	
学習支援	4	2	5	11	6	5	11	
就労支援			1	1	1		1	
若者支援			5	5		5	5	
フードパントリー	14	1	18	33	17	16	33	
配食サービス	3	1		4	4		4	
会食会	2	4		6	1	5	6	
地域食堂	13	10	21	44	25	19	44	
高齢者の居場所	11	4	8	23	14	9	23	
不明	2	3	4	9	4	5	9	
合計	129	54	130	313	172	141	313	

活動形態×ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (7)利用者の募集に関する支援

		3年間に行 支援を受	受けたか	から	活動の継続や発展に向けて 行政や社協から支援を受けたい			
	課題が なかった	支援を 受けた	支援を 受けな かった	合計	支援の 必要なし	支援を 受けたい	合計	
こども食堂	71	27	36	134	91	43	134	
こども配食	8	5	3	16	11	5	16	
子どもの居場所	10	7	10	27	20	7	27	
学習支援	6	3	2	11	8	3	11	
就労支援			1	1		1	1	
若者支援	4		1	5	5		5	
フードパントリー	18	5	10	33	31	2	33	
配食サービス	4			4	4		4	
会食会	4	2		6	1	5	6	
地域食堂	16	17	11	44	29	15	44	
高齢者の居場所	9	5	9	23	18	5	23	
不明	3	2	4	9	4	5	9	
合計	153	73	87	313	222	91	313	

活動形態×ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (8)利用者への支援の質的向上や量的拡大

			f政や社協 <i>た</i> 受けたか	から	活動の継続や発展に向けて 行政や社協から支援を受けたい			
	課題が なかった	支援を 受けた	支援を 受けな かった	合計	支援の 必要なし	支援を 受けたい	合計	
こども食堂	64	20	50	134	99	35	134	
こども配食	6	4	6	16	10	6	16	
子どもの居場所	9	6	12	27	21	6	27	
学習支援	5	4	2	11	8	3	11	
就労支援			1	1		1	1	
若者支援	4		1	5	4	1	5	
フードパントリー	16	4	13	33	27	6	33	
配食サービス	3	1		4	3	1	4	
会食会	4	2		6	1	5	6	
地域食堂	14	13	17	44	33	11	44	
高齢者の居場所	7	8	8	23	21	2	23	
不明	1	2	6	9	5	4	9	
合計	133	64	116	313	232	81	313	

活動形態×ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (9)資金の確保に関する支援

	22	3年間に行		から	活動の継続や発展に向けて 行政や社協から支援を受けたい				
	課題が なかった	支援を 受けた	支援を 受けな かった	合計	支援の 必要なし	支援を 受けたい	合計		
こども食堂	43	59	32	134	63	71	134		
こども配食	4	7	5	16	6	10	16		
子どもの居場所	6	11	10	27	11	16	27		
学習支援	1	4	6	11	2	9	11		
就労支援			1	1		1	1		
若者支援	1		4	5	3	2	5		
フードパントリー	10	10	13	33	17	16	33		
配食サービス	3		1	4	3	1	4		
会食会	1	5		6	1	5	6		
地域食堂	8	27	9	44	11	33	44		
高齢者の居場所	5	10	8	23	10	13	23		
不明		5	4	9		9	9		
合計	82	138	93	313	127	186	313		

活動形態×ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (10)行政や社協からの理解の促進について

		3年間に行		から	活動の継続や発展に向けて 行政や社協から支援を受けたい				
	課題が なかった	支援を 受けた	支援を 受けな かった	合計	支援の 必要なし	支援を 受けたい	合計		
こども食堂	64	39	31	134	92	42	134		
こども配食	6	8	2	16	11	5	16		
子どもの居場所	12	9	6	27	16	11	27		
学習支援	6	2	3	11	8	3	11		
就労支援			1	1		1	1		
若者支援	5			5	5		5		
フードパントリー	16	8	9	33	26	7	33		
配食サービス	4			4	4		4		
会食会	2	4		6	2	4	6		
地域食堂	17	16	11	44	37	7	44		
高齢者の居場所	9	6	8	23	19	4	23		
不明	2	4	3	9	4	5	9		
合計	143	96	74	313	224	89	313		

活動形態×ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (11)住民や地域の団体からの理解の促進について

		3年間に行 支援を受		から	活動の継続や発展に向けて 行政や社協から支援を受けたい				
	課題が なかった	支援を 受けた	支援を 受けな かった	合計	支援の 必要なし	支援を 受けたい	合計		
こども食堂	70	25	39	134	91	43	134		
こども配食	7	5	4	16	10	6	16		
子どもの居場所	13	6	8	27	19	8	27		
学習支援	5	3	3	11	7	4	11		
就労支援			1	1		1	1		
若者支援	5			5	5		5		
フードパントリー	17	6	10	33	27	6	33		
配食サービス	2	1	1	4	3	1	4		
会食会	1	4	1	6	3	3	6		
地域食堂	17	10	17	44	37	7	44		
高齢者の居場所	6	8	9	23	18	5	23		
不明	1	3	5	9	3	6	9		
合計	144	71	98	313	223	90	313		

#### 活動形態×過去3年間に会って要望を伝えたり 情報を得たりした主な部局

	市民自治 協働推進 NPO促進	地域福祉	介護保険	子育て支 援・子ども	学校教育 社会教育 生涯学習	生活困窮	環境・消費 リサイクル	
こども食堂	25	56	9	73	35	25	7	14
こども配食	2	5		13	4	8	4	
子どもの居場所	6	14	1	16	12	7	2	4
学習支援	2	3		6	2	3		
就労支援								
若者支援	2							1
フードパントリー	13	13	1	14	5	5	1	6
配食サービス		3	2					
会食会		5						4
地域食堂	12	16	3	19	9	10		10
高齢者の居場所	3	14	6	3	11	4	1	10
不明	2	5		3	4	3		4
合計	67	134	22	147	82	65	15	53

#### 【団体】支援を受けたり、連携・協力したりした相手 【 市 】支援や、支援のあり方・進めた方の検討にあたり、日頃、関わりをもって いる個人・団体 (1) <u>重複回答している団体あり</u>

		市 (N=262)			
	市内	県内	県外	なし	あり
行政 (市は自課以外の部局や機関)	141	80	5	113	161
社会福祉協議会	148	78	3	106	168
NPOセンター	89	66	15	164	81
食支援の中間支援団体・ネットワーク	97	98	32	117	80
フードバンク	103	104	13	118	90
まちづくり協議会、コミュニティ協 議会	73	29		212	72

【団体】支援を受けたり、連携・協力したりした相手 【 市 】支援や、支援のあり方や進めた方の検討にあたり、日頃、関わりをもって いる個人・団体 (2) 重複回答している団体あり

		市 (N=261)			
	市内	県内	県外	なし	あり
社会福祉施設(児童福祉)	58	31	1	229	38
社会福祉施設(高齢者福祉·介護)	53	20	1	242	65
社会福祉施設(児童養護)	27	14	1	274	23
在宅福祉サービス団体	19	9		287	26
地域包括支援センター	35	10	1	271	101
生活困窮者支援団体	45	30	6	241	60

【団体】支援を受けたり、連携・協力したりした相手 【 市 】支援や、支援のあり方や進めた方の検討にあたり、日頃、関わりをもって いる個人・団体 (3)

重複回答している団体あり

		団体(N=313)								
	市内	県内	県外	なし	あり					
商工会議所	34	10	1	271	21					
企業	104	71	24	145	57					
生協·農協·漁協	73	70	7	178	50					
小中学校·高校、PTA	89	36	1	162	62					
研究者·専門家	21	23	7	268	22					

#### 【活動団体】活動が担い手にとってもつ価値 【市】活動が市民とってもつ価値 (3つまで選択)

「い」」「口ま」」「			しっ皿			(5 -						
	つく や生活習慣が身に望ましい生活リズム	学びの機会になる	食育の機会になる	ができる といっこと	栄養を摂ることが	他の人と交流でき	なる 心のよりどころに	れる出番や役割を得ら	る 経済的な支援にな	信できる	を 得られる 地域や社会の情報	けとなる「孤立解消」のきっか
こども食堂	5	36	33	44	10	93	42	56	10	9	20	19
こども配食		8	1		2	9	3	5	1	3	4	3
子どもの居場所	1	11	5	5	1	14	10	10	2	4	1	4
学習支援		7	1	2		6	1	4	1		2	4
就労支援		1				3						
若者支援				1			1	1		2	1	3
フードパント リー	2	8	5	6	2	21	6	10	3	5	7	10
配食サービス		1				3	1	3		1		
会食会	1	2	3			3	3	4			2	
地域食堂		9	7	11	1	37	11	24	3	5	9	9
高齢者の居場所		4	4	3	1	11	5	7		2	6	5
不明		5				4	1	4		3	3	5
団体合計	9	92	59	72	17	204	84	128	20	34	55	62
行政·社協	16	23	23	68	82	164	67	38	48	77	23	122

#### 【活動団体・市】活動が地域や社会にとってもつ価値(3つまで選択)

	ができる	につながる 活動を通じて孤立解消	多世代が交流できる	できる子どもが健やかに成長	がるがえた人とつない。	でう	ながれる。 困りごとのある人とつ	経済的格差が減少する	食品ロスが減らせる	食生活の改善になる	機会になる地域の課題を発見する	ニーズに対応できる	地域の経済に貢献でき
こども食堂	68	36	67	78	12	6	24	6	22	17	22	33	2
こども配食	4	7	4	8	3		6		4	3	4	4	1
子どもの居場所	7	9	9	20	10	2	7	1	1	4	3	7	
学習支援	3	6	3	8	1		2			1	4	3	
就労支援					1			1				1	
若者支援	1	2	1	3	5		1				1	1	
フードパントリー	14	9	8	12	4	1	15	3	7	3	5	12	1
配食サービス	2	2				2	1				2	1	
会食会	4	2	2			3				4			
地域食堂	27	12	34	6	1	6	14		3	3	11	6	1
高齢者の居場所	18	7	2			10	2		1	10	2	14	1
不明		5	2	1	5	2	2			1	3	5	
団体 合計	148	97	132	136	42	32	74	11	38	46	57	87	6
行政·社協	131	131	67	49	27	85	54	4	18	46	60	66	0

# 食でつながるプラットフォームづくり 麒麟のまち研修会

## <日時>

2023年11月6日(月) 13時~16時30分

## く場所>

鳥取市人権交流プラザ 住所:鳥取市幸町151番地

アクセス: JR鳥取駅から徒歩で約1.2km

## くプログラム>

◆趣旨説明、ビジョン共有

「麒麟のまち圏域における食支援プラットフォーム形成・芳醇化について」 鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター所長 川口 寿弘氏

- ◆「ミールズ・オン・ホイールズ ロジシステムについて」
- ◆報告(1)

「事業概要と他地域における食のある居場所づくり支援の事例について」

◆事例報告

「北九州市における食を通じたプラットフォームの取り組みについて」 北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課長 明石 卓也氏

◆報告②

「訪問調査から見えてきた地域の特徴と課題について」

- ◆活動紹介「麒麟のまち圏域で活動する取り組み事例、課題共有」
- ◆意見交換会 (ワークショップ)

「食でつながるプラットフォームをつくるためには」

◆まとめ

一般社団法人全国食支援活動協力会 【主催】

資料取市、鳥取市社会福祉協議会、 【共催】

鳥取県社会福祉協議会

## <開催趣旨>

本事業では、地域で活動する、食のある居場所づくり支援にかかわる団体が一堂に会することで地域のアセットを共有します。他の地域や活動と連携することで関係者(コミュニティソーシャルワーカー、生活支援コーディネーター、包括支援センター、福祉の相談員、社会福祉協議会、行政支援員など)が情報を共有しゆるく連携するためのプラットホーム形成を調査・分析しています。

今回の研修会は以下の2つを目的として開催します。

- ①麒麟のまち圏域で食にかんする活動を行う団体が情報を共有し合い、 ゆるくつながるプラットフォーム形成のきっかけとなる
- ②他地域の食を通じたプラットフォームの事例を共有する

麒麟のまち圏域で食にかんする活動を行う皆様のご参加をお待ちしております。

厚生労働省 老健局補助金事業 老人保健健康增進等事業

### く事例報告>

#### 明石 卓也氏 北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課長

財政局財政課、企画調整局地方創生推進室などを経て、2022年より地域福祉推進課長。生活困窮者・ホームレス支援、生活支援体制整備事業、民生委員制度など福祉の地域づくりを担当。2022年に生活困窮者支援事業の一環として市内NPO法人や市社会福祉協議会などと連携し、フードサポート北九州事業を立ち上げる。食を通じた地域全体での見守りや支え合いの充実を目指す。



### <対象>

- ・麒麟のまち地域食堂ネットワークの団体
- ・社会福祉協議会、社会福祉法人、まちづくり協議会関係者、 生活支援コーディネーター、生活困窮自立支援推進機関、公民館
- ・行政関係者(食支援、地域福祉、地域包括支援センター、隣保館など)
- ・食に関係する民間企業 ほか

く参加費> 無料

<開催方法> 会場とオンラインのハイブリッド形式

**〈お申込〉** 下記リンクまたはQRコードよりお申込ください。 申込フォーム: https://x.gd/5F3Df

お問い合わせ:一般社団法人 全国食気援活動協力会(担当:谷山・小嶋)

TEL: 03-5426-2547 Eメール: saposen@mow.jp

# 食でつながるプラットフォームづくり 北九州市研修会

## <日時>

2023年11月17日(金) 13時~16時30分

## <場所>

北九州国際会議場6階特別会議室 住所:北九州市小倉北区浅野三丁目8-1 アクセス:JR小倉駅から徒歩5分

## **くプログラム>**

- ◆趣旨説明、ビジョン共有 「北九州市における食支援プラットフォーム形成について」 北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課長 明石 卓也氏
- ◆報告① 「事業概要と他地域における食のある居場所づくり支援の事例について」
- ◆報告② 「訪問調査から見えてきた地域の特徴と課題について」
- ●事例報告

「鳥取市における食を通じたプラットフォームの取り組みについて」 鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター所長 川口 寿弘氏

- ◆活動紹介「北九州市内で活動する取り組み事例、課題共有」
- ◆意見交換会 (ワークショップ)
- ◆まとめ

【主催】 一般社団法人全国食支援活動協力会 【共催】 『光光州市

## <開催趣旨>

本事業では、地域で活動する食のある居場所づくり支援にかかわる団体が一堂に会することで、地域にあるアセット(地域にある活動や資源)を共有します。他の地域や活動と連携することで関係者(コミュニティソーシャルワーカー、生活支援コーディネーター、包括支援センター、福祉の相談員、社会福祉協議会、行政支援員など)が情報を共有し、ゆるく連携するためのプラットホーム形成を調査・分析しています。

今回の研修会は以下の2つを目的として開催します。

- ①北九州市内で食にかんする活動を行う団体が情報を共有し合い、 ゆるくつながるプラットフォーム形成のきっかけとなる
- ②他地域の食を通じたプラットフォームの事例を共有する

北九州市内で食にかんする活動を行う皆様のご参加をお待ちしております。 厚生労働省 老健局補助金事業 老人保健健康増進等事業

## <事例報告>

川口 寿弘氏 鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター所長

2015年より生活困窮者支援に従事。同年から民間団体と共同して 鳥取で最初の地域食堂を開始。2017年鳥取市地域食堂ネットワークを 設立。地域食堂を地域で困難を抱える人・世帯にアウトリーチする 社会資源として政策的に位置づけを推進。2022年より重層的支援体制 整備事業の実施機関として社会的孤立防止のための支援に力点を置く。



## <対象>

- ・食にかんする活動を行う団体 (子ども食堂、北九州市食生活改善推進員協議会、フードバンクなど)
- ・地域づくりに関する団体 (北九州市社会福祉協議会、まちづくり協議会など)
- ・ 行政関係者(食支援、地域づくり、地域包括支援センターなど)
- ・食に関係する民間企業 ほか

く参加費> 無料

**<お申込>** 下記リンクまたはQRコードよりお申込ください。 申込フォーム: https://x.gd/C5nly

お問い合わせ:一般社団法人 全国食気援活動協力会(担当:谷山・小嶋)

TEL: 03-5426-2547 Eメール: saposen@mow.jp

# 食でつながるプラットフォームづくり 五所川原市研修会

## <日時>

2023年11月21日(火) 14時00分~17時00分

## <場所>

五所川原市民学習情報センター 住所:五所川原市字一ツ谷503番地5 アクセス:JR五所川原駅から徒歩12分

## **くプログラム>**

- ◆開会挨拶
- ◆報告「本事業の概要と訪問調査から見えてきた地域の特徴と課題」
- ◆ビジョン共有 「五所川原市の今後の展望について」
- ●事例報告
  - 「鳥取市における食を通じたプラットフォームの取り組みについて」 鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター所長 川口 寿弘氏
- ◆来賓挨拶 厚生労働省老健局認知症施策・地域介護推進課 地域づくり推進室 室長補佐 岸 英二氏
- ◆来賓挨拶 五所川原市市長 佐々木 孝昌氏
- ◆活動紹介「五所川原市内で活動する取り組み事例、課題共有」
- ◆意見交換会 (ワークショップ)
- ◆まとめ

【主催】一般社団法人全国食支援活動協力会 【共催】五所淵源市、五所川原市社会福祉協議会

### く開催趣旨>

本事業では、地域で活動する、食のある居場所づくり支援にかかわる団体が一堂に会することで地域にあるアセット(地域にある活動や資源)を共有します。他の地域や活動と連携することで関係者(コミュニティソーシャルワーカー、生活支援コーディネーター、包括支援センター、福祉の相談員、社会福祉協議会、行政支援員など)が情報を共有しゆるく連携するためのプラットフォーム形成を調査・分析しています。

今回の研修会は以下の2つを目的として開催します。

- ①五所川原市内で食にかんする活動を行う団体が知り合い、情報を共有し合うことで、ゆるくつながるプラットフォーム形成のきっかけとなる。
- ②他地域の食を通じたプラットフォームの事例を共有する。

五所川原市内で食にかんする活動を行う皆様のご参加をお待ちしております。 厚生労働省 老健局補助金事業 老人保健健康増進等事業

### <事例報告>

川口 寿弘氏 鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター所長

2015年より生活困窮者支援に従事。同年から民間団体と共同して 鳥取で最初の地域食堂を開始。2017年鳥取市地域食堂ネットワークを 設立。地域食堂を地域で困難を抱える人・世帯にアウトリーチする 社会資源として政策的に位置づけを推進。2022年より重層的支援体制 整備事業の実施機関として社会的孤立防止のための支援に力点を置く。



### く対象>

- · 五所川原市役所、五所川原市社会福祉協議会
- ・五所川原市近隣の自治体職員、社会福祉協議会
- ・近隣や県内で食に関する活動を行う団体(おすそ分け便拠点、 子ども・みんなの居場所、フードバンクなど)
- ・地域づくりに関する団体(近隣の市社会福祉協議会)
- ・食に関係する民間企業 ほか

く参加費> 無料

**<お申込>** 下記リンクまたはQRコードよりお申込ください。 申込フォーム:https://x.gd/IZCtK

お問い合わせ:一般社団法人 全国食気援活動協力会(担当:谷山・小嶋)

TEL: 03-5426-2547 Eメール: saposen@mow.jp

### 食でつながるプラットフォームづくり 麒麟のまち研修会

# 麒麟のまち圏域における食支援プラットフォーム形成・芳醇化について

2023(R5).11.6 / A



## 地域食堂の推進と拠点の整備

### 麒麟のまち創生戦略会議(首長会議)

圏域で地域食堂を推進していくことを決定 ·2019(R1)年11月5日

·2022(R4)年 2月8日

麒麟のまち地域食堂等推進のための「食のネットワーク 整備プロジェクト事業」によりロジ・ハブ拠点を整備することを確認 地域食堂事業を基盤に、孤独・孤立対策を圏域で推進していくことを決定 ·2022(R5)年11月2日

中枢中核都市に集中する企業をはじめとする社会資源により 得られる支援等を広域的に活用し、さらに、近隣町のそれぞ

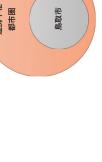
効果的な仕組みづくり

### 魅力あるまちづくり

さまざまな機能をもつ地域食堂の取り組みを住民の生活圏域 において展開することで、高齢者・障がい者・子どもをはじ め多様な人たちが住みやすい魅力あるまちづくりへ!

KIRINJISHIB れの強みを生かした効果的な支援の仕組みづくりへ! 連携中枢 都市圏 鳥取市





 $\sim$ 

# **包括的相談支援体制の構築(地域福祉推進計画**)



鳥取市では、地域共生社会の実現に向けた 域福祉推進計画」において、包括的支援体制 取組の推進と体制づくりについて定めた「地

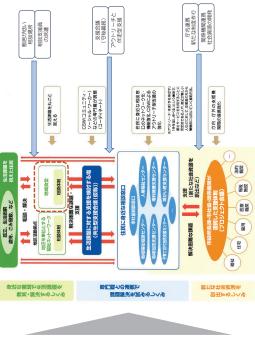
軽に相談できる場として活用していくことと

しています。

4



この包括的支援体制構築にあたって、住民 に身近な圏域で生活課題を発見・解決する仕 個みとして、「地域食堂」を位置付け、生活 課題を抱えた住民にとって敷居が高くなく気 の構築を重点取組に規定しています。



### 麒麟のまちの地域食堂

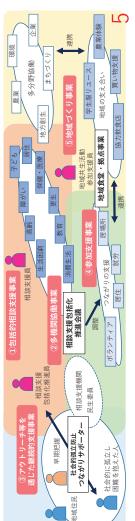
**「地域食堂」:子どもを中心に地域の様々な人が集う居場所、 多様な人や社会資源が繋がる場地域食堂は、地域の多様かつ多世代の交流拠点となっています。** 困難を抱える人・世帯に関わっていくことを基本としながら、地域の誰もが気軽に行ける**「だれでも食堂」=「地域食堂」**として展開しています。





# 重層的支援体制整備事業(地域食堂の活用

相談支援員 增員1名	相談支援包括化推進員新規 1名		地域共生活動参加支援	新規1名
相談支援員の増員やSNS等を活用した支援環境の整備により、相談者の属性や世代、相談内容に関わらず包括的に相談を受け止める。	多機関協働の調整役を担う相談支援包括化推進員を配置し、市全体の体制 として支援の進捗状況等の把握と伴走支援ができるように支援する。	アウトリーチ支援員の配置と社会的孤立防止サポーター養成を行い、支援 が届いていない者・世帯を早期に支援につなげていく。	既存の社会参加に向けた支援では対応できない本人や世帯のニーズに対応するため、地域資源等を活用し社会との繋がり作りに向けた支援を行う。	地域食堂を拠点にした地域の支え合いと多様な主体の参画により、住民が 主体的に地域課題の解決を試みる活動を創出するための支援を行う。
①包括的相談支援事業	②多機関協働事業	③アウトリーチ等を通 じた継続的支援事業	(4)参加支援	⑤地域づくり事業
	相談支援		参加支援	地域づくりに 向けた支援



## 地域食堂拠点・困りごと解決支援

住民が主体的に地域課題の解決を試みる活動を創出するための支援を実施 地域食堂を拠点にした地域の支え合いと多様な主体の参画により、

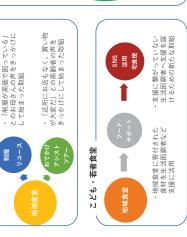
『すごい! 地域食堂 地域包括連携協定』

河原 ふれあい食堂

きりん こども食堂

OIII(

接員



### ・小学生が店長をつとめ 子どもたちが運営する カフェ (例)・中学生がアシストする 高齢者の買物支援 高幣者の出番をつくる 困腸所づくり 等々、地域共生に資する 活動の促進 <地域課題の解決> '連携の力"

### 事業を基盤にした孤独・孤立対策官民連携 | 地域倒彈|

麒麟のまち地域食堂ネットワーク (官民連携プラットフォーム)

地域食炉 ネットワーク



麒麟のまち連携中枢都市圏事業として既に実施している「地域食堂」事業を基盤に、圏域の 6 町と連携しながら「孤独・孤立対策官民連携プラットフォーム推進事業」を進めています。 〇孤独・孤立対策官民連携プラットフォームの構成団体の拡充

〇「つながりサポーター」養成研修の共同実施

〇物流業界との包括連携による「フードサポート」事業を、

※なまだまな養配が適合的な鍵題を抱える世間の支援について語し合う会議 開発用 悉宣春出 しながりナボーター 社会福祉協議会 会業・国体 · 記 記 住民の困りごと・ ニーズ共有、強み、 リソースの共有 住民 官民連携プラットフォーム 個別支援 临同組合 社会福祉法人 **詹斯女振包括化推准法会验** NPO 法人

配送・一時保管の課題→「食支援プラットフォーム推進会議」を立上げへ 【食支援プラットフォーム形成に向けた情報交換会】(2023.10.12) 【麒麟のまち孤独・孤立対策市町担当者会】 (2023.10.30) 県内ロジ・ハブ拠点→フードドライブ拠点として活用 麒麟のまち圏域におけるロジ・ハブ拠点整備 moore 兵庫県

ロジ・ハブ拠点整備と食支援プラットフォームの形成

広域連携】

「麒麟のまち圏域+県域 食支援プラットフォーム推進会議」とすることへ 経済的食品アクセス確保のための「地域協議会」機能

> ●ロン拠点 トプ拠点

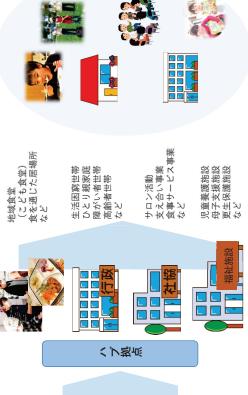
鳥取県

1頭部 結核町 36米號 智智 島取市 Ö 無問題 東伯郡。北米町 人自無公 伯春町 日野田 日吉津 日野港 后他田

### 拠点設置後の冷蔵庫等の経費(電気代等)は市町負担 ロジ及びハブ拠点は、いずれも市町設置の施設内 拠点間及び配分先間の車移動は概ね30分以内 3つの幹線道路(国道)沿いに整備 [ロジ・ハブ拠点の特徴]

→効率的に冷凍・冷蔵品の配送、配布が可能

資料 050



ロジ拠点

6

地域の食資源を活用した生活困窮者への支援など福祉目的の食料支援を行うための体制の構築

食支援

孤独・孤立対策

地域食堂推進 官民連携 食品事業者、生産者、物流会社、地域住民団体、地域食堂運営団体、 社協、行政など地域の食に関する関係者が連携

鳥取駅 遊業原設 至 国府町 市投所本庁舎 イオン鳥取店 産業体育館 ●

至 行徳

至 R9

部 大権 プラザ

鳥取市中央人権福祉センター 〒680-0823 鳥取市幸町151 人権交流ブラザ内 TEL/0857-24-8241 FAX/0857-24-8067 Email:jin-chuo@city.tottori.lgjp

### R 5 年度 老人保健健康增進等事業

### に関する調査研究」について 協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成

専務理事 平野 覚治 全国食支援活動協力会 

## 老人保健健康増進等事業での取り組み

無解

「闘弾ボランア・アの派遣」活動を 創出して、地域サロン応援 サロンの関盟ボランティア (########## こんなるの と記事のの第ピンシックを記むし、他が選 しまますシットでも言葉しています。 表 ×出路·设制



▲食を通じた居場所をめぐるアセットに着目。 各地でヒアリング調査を実施し、ガイドブックとして発行

### \*\* Company Control Con 議員>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>> 「多様な食支援サービスとその可能性」 千葉大学人文科学研究院教授 清水 洋行 氏 ファシリテーター 日本大学文理学部教授/本事業研究委員会委員長 内藤 佳津雄 氏 議職>>>>> 「集団収益からの学び」 総域市高齢福祉関係等権社関係等 生活支援コーティネーター研修 食のちからで地域を豊かに 事例から考える「食」のアクションプラン ショント「食のアクションブランを考える」 4年信告人会報告報告報告2月日子子子・ターによる信託司券の(他)関係引加額申請支援を 定文施しサイキーターによる信託司券の(他)関係を を支援方施と本売の取り事業実施・施算に関する課金部内。

▲行政・生活支援コーディネーターを対象に 事例紹介やディスカッションを行う研修会の実施

### 全国食支援活動協力会とは

35年間にわたり積み上げた食でつながるネットワーク組織

赤い羽根福祉基金 **○ ことと言の第1全国リアー** 

1986年

高齢者配食サービス・会食会の 連絡会組織として設立

2016年9月

「広がれ、こども食堂の輪!全国ツアー」 事務局

休眠預金活用事業「子ども食堂サポート機能設置事業」(2019~2022)

2019年11月~

- 多世代が食でつながるコミュニティづくり」(2022~2025) 「食の物流ネットワーク整備プロジェクト」(2020~2023)

食を通じた地域の支え合いを広げよう

こどもから高齢者まで、すべての人が「食」を通してつながり住まい続けられる地域を目指し産される場でなりなりない。 産官学民、多様なセクターとの連携により活動に取り組んでいます

© 2023 mow

### R 5 年度 老人保健健康增進等事業

関する調査研究 「協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に

食支援活動を支え・芳醇化させるプラットフォーム形成についての調査研究を実施。モデル地域として、鳥取市、北九州市、五所川原市を調査。

### ■実施内容

・研究委員会/ワーキング部会の運営 ・調査の実施 モデル地域「て食支援ブラットフォームの構築プロセス、 関係構築のプロセスをヒアリング調査を実施

・研修の実施 食支援プラットフォーム構築・拡大のため、事例共有やワークを実施 成果発表会の実施、研修ツールの作成 モデル地域の事例紹介、導入に向けたツールを掲載。

構成委員 ■研究委員会

稻城市福祉部高齡福祉課高齡福祉係 係長 一社)全国食支援活動協力会 代表理事 千葉大学大学院人文科学研究院 教授 特非)フェリスモンテ 事務局長 全国社会福祉協議会地域福祉部 部長 一社)ともしぴ at だんだん 代表理事 琉球大学人文社会学部 専任講師 香川県社会福祉協議会 事務局長 委員長 内藤 佳津雄氏 日本大学文理学部 教授 教山 由美子氏 特非)日本地域福祉研究所監事 産業能率大学経営学部 教授 荒井崇宏氏 石田惇子氏

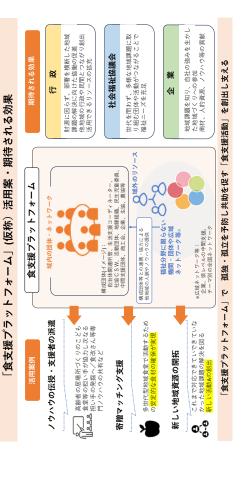
一社全国食支援活動協力会 專務理事 高崎市長寿社会課(主管課) 平野覚治氏

## |食支援プラットフォーム| (仮称) 形成の背景と意義



### 見守り 相談 交流 つながり 出番 役割 の選手部 支え合いの活動創出に関わる生活支援コーディネーター等がその力を発揮して活動を活性化していた人がしには、参様なリソースからの資源調達を図っている必要がある。 そこで、企業や協同組合、商工会など福祉分野に 限のない会様な機関の 旧体や、地域外の広域ネット アークとの有機的な場場によるプラットフォーム構 築が、解決策の一つと考える。

### 食生活支援が活性化・継続されることにより、 栄養状態の改善、心身の健康へつながり、 担い手の増加へ寄与。 活動の活性化に伴い、担い手となる機会増。 出番や役割の機会が増えることにより孤独孤 立の解消へ 「食支援プラットフォーム」で 孤独・孤立を予防し共助を 促す「食支援活動」を創出し支える 食支援プラットフォーム(仮称)とは: 実施院院制度における職体にのみとらわれず、既存資産の選用や資源循環を目述 とした連絡会や支援体(協議体)から構成される、負支援に着目されたの広様の会 議体をプラットフォームと位置しげる。 自治意識、社会参画意識の醸成 多様なサービス増による介護予防へ寄与。 「食支援プラットフォーム」(仮称)が解決を目指す社会課題の射程: 地域活性 まちづくり









# 「食支援プラットフォーム」(仮称) 形成・醸成の実践事例



### 北九州市の自己紹介

## 九州第2位の規模を誇る

政令指定都市!

北九州市における食を通じたプラットフォームの

取り組みについて

◇人口:約93万人

◇発足:昭和38年2月10日 (1963年)

昭和39年に国連が調査団を派遣するほどの、 5 市の対等合併により誕生。 世界でも類のない試み

7 し 行 政区 小倉南区 北九州市



卓在

明石

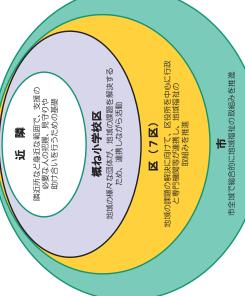
北九州市保健福祉局 地域福祉推進課長

令和5年11月6日



## 支え合いの圏域と地域活動

# 地域の支え合いは近隣や概ね小学校区から



市民センター(地域の活動拠点)

市民センター 校(地)区社会福祉協議会 民生委員の重委員協議会 まちろくり協議会 自治会(連合会など) 地域包括支援センター(24圏域)

【概ね小学校区】 ※155(社協)

町内会・自治会 管理組合(マンションなど) 民生委員・児童委員 福祉協力員

【市】 障害福祉センター 精神保健福祉センター 認知症支援・介護予防センター 子ども総合センター 障害者基幹相談支援センター

【区(7区)】 社会福祉協議会(区事務所) 地域包括支援センター(統括) 高齢者・障害者相談コーナー

(保健福祉センターの専門的・技術的支援拠点)

(保健所と福祉事務所の統合)

保健福祉センター

区へベル

※ 平成17年1月から「市民センター」に改称 市民福祉センター(地域住民の活動拠点)

お扱フベラ (小学校区)

「まちづくり協議会」を設置

[保健·医療·福祉·地域連携推進協議会]を設置

保健福祉局(保健局と民生局の統合)

市フベア

総合保健福祉センター

ウェルとばた(主に民間の地域福祉活動の拠点)

北九州市の地域福祉のネットワーク

本市では、平成5年から「地域フベル(小学校区)」

三層構造による地域福祉のネットワークづくり

こ取り組んできた。

「行政区フベル」「市フベル」の三層からなる

# 地域活動の担い手の減少(北九州市)

### 民生委員

	減少			高幣化
R 4	1,512人	81人	94.9%	67.5歳
R 1	1,526人	<b>Y</b> 59	92.9%	66.7歳
H 2 8	1,534人	48人	%0'.26	65.9歳
	配置数	欠員数	充足率	平均年齡

### 福祉協力員 2

		1
	減少	增加
R 4	6,450人	132,844世帯
R 1	个830人	119,846世帯
H 2 8	6,941人	120,149世帯
	人数	見守り対象

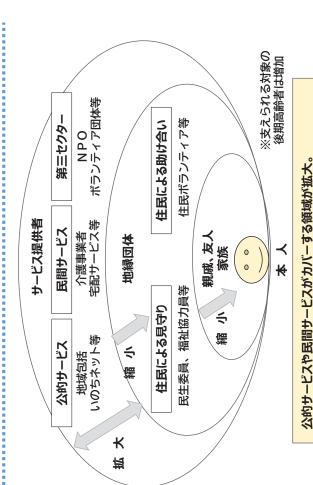
### 自治会加入率

ന

	減少
R 3	62.5%
H20	75.9%
Н4	%2'96
	加入率

4

# 公的サービス等と住民主体の助け合いの関係性



# 地域活動への意識の変化(北九州市高齢者等実態調査)

### 1 地域での支え合い

	<b>一个</b> 質
R 4	22.4% 減少
H 2 8	30.1%
H 2 2	36.5%
	「何か困った時に助け合える人」が 近所にいる人の割合(一般高齢者)

### 地域活動への参加状況

	減少
R 4	<b>少</b> 館 8.02
H 28	31.8%
H 2 2	40.9%
	この1年間で地域活動に参加した人の 割合 (一般高齢者)

### 3 困ったときに相談する相手

	4.7% 減少人	增加
R 4	4.7%	6:6
H 28	%0.9	%8'6
H 2 2	8.6%	2.3%
	民生委員や地域の役員 (一般高齢者)	地域包括支援センターや区役所の人 (一般高齢者)

### (食を通じた地域づくり) 北九州市の地域資源

6



 $\Theta$ 

社会福祉法人 北九州市社会福祉協議会

4

ふれあいネットワーク活動 女え合いの地域づくり



・子ども食堂

一方で、住民主体の助け合い活動は縮小傾向にある。









・フードバンク事業

00

# 地域づくり(ふれあいネットワーク活動)



社会福祉法人 北九州市社会福祉協議会



(社会福祉協議会の自主事業、H5~) ◇ふれあいネットワーク活動

地域で援助の必要な人への見守り、支え合いを行っている。 見守り」「助け合い」「話し合い」の仕組みをつくり、

・実施校区数:155の市内全ての校(地)区

活動内容:

ニーズ対応チームによる助け合い など 民生委員や福祉協力員による見守り

年間活動件数:65万件

⇒地域支援コーディネーター (16人) が、

地域での話し合いや計画づくりをサポート

0

## 食のつながり(高齢者)



(4) 北九州市食生活改善推進員協議会



◇設立 昭和47年

○会員数 1,053人(令和5年度)

◇ふれあい昼食交流会

高齢者が食を通して他世代と交流することで、 高齢者が生きがいを見出し、食生活の改善を 図っていくことを目的として開催。 ・対象: 65歳以上の一人暮らし・夫婦のみ世帯

・場所:公民館・市民センター等

·頻度: 毎月1回

東施数:市内96会場

(市民センター131館中)

# 北九州市の協議体(小地域福祉活動計画) イメージ図



目指す地域像の共有、地域の生活支援ニーズ・地域資源の把握 それぞれの特性を活かした生活支援の仕組みづくり

住み慣れた地域で安心して暮らせるための作戦

(R4年度末) 策定/155校区 地域福祉活動計画 95校[

◇福祉の地域がくり計画

事業者・NPO等による 生活支援サービス なべべ 乗り合いタクシー・バス 移動販売等の買い物支援 サービスグくり シルバー人材センター

> ご近所さんによる 訪問支援 助け合い活動 見守り訪問

いきがい・健康づくり 交流の場

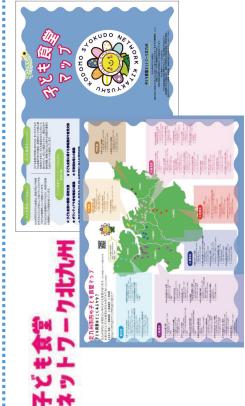
通いの場づくり

ボランティアによる生活援助 助け合いづくり なべべ

高齢者サロン 認知症カフェ 地域でGOIGOI健康ブイン

なべべ

食のつながり(子育て世帯)



◇目的:孤食の防止、地域の子どもと大人が安心して過ごすことができる 「子どもの居場所」「地域の居場所」とCて実施。(H28~)

◇実施件数:市内約50ヶ所で実施

## 食のつながり(困窮世帯)





物価高騰等で支援が必要な世帯に食料を配布。

①拠点型:NPOや市、社協などの相談支援

②地域交流型:地域の見守りネットワーク につなげ、継続的な見守りを行う。

令和4年度実績

①北九州市孤独・孤立対策等連携協議会のNPO等

14団体と実行委員会を設置。

2回実施。1,200人に食料配布。

②校区社会福祉協議会、NPO法人と連携し、

3地域で実施。1,000人に食料配布。

## 食のつながり (フードバンク)

# LIFEAGAIN フードバンク北九州ライフアゲイン

## 「もったいない」を「ありがとう」へ



市場で流通できなくなった食品を、 企業や個人から客贈してもらい、 ②施設や団体、食べ物に困っている人に無償で配る活動。 フードバンクとは ①品質に問題がないにもかかわらず、

フードバンク 年間で646万トンもの 可食部・未使用の食品

が廃棄されている

新しい流通の仕組みを作ることで、<mark>生活国窮者</mark> 新たな命を吹き込み 廃棄される食品に

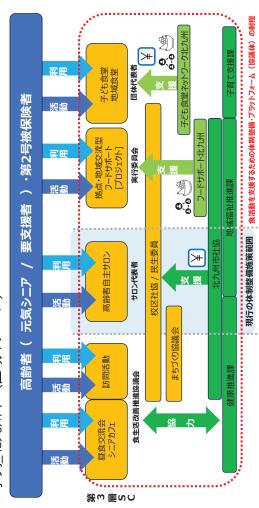
・チども・シングルマザー

貧困問題

たくさんの人々の命をつなぐ

## 食を通じたプラットフォームのイメージ②

事例\_北九州市 (区域イメージ)



LIFEAGAIN

7-FYYYAWS-17PY-12

地域の大きなデーブル

タ子ども食堂 ネットワーク北九州

フードサポート北九州

令和 5 年度老人保健事業権進費等補助金 「協議体を中心とした食支援ブラットフォーム形成に関する調査研究 第 4 回研究委員会 J資料から引用

**4** 

地域活動 まちづくり

出番役割

负育

見守り 相談支援

地域の価値を創出 食を通じた





食を通じたフラットフォームのイメージ

※ 北九州市食生活改善推進員協議会 くんメイト北七州

4 社会福祉法人 北九州市社会福址協議会

「協議体を中心にした食支援プラットホーム形成に関する調査研究」 食でつながるプラットホームづくり 麒麟のまち研修会 令和5年老人保健健康增進等事業

を目指す居 「あるへて居心地のよい 子どもが中心にいる らなな記憶」 場所.

実現できる

令和5年11月6日



大門 康裕 「ふれあい食堂」代表・「河原共助会」事務局長 河原人権福祉センター所長

鳥取市第2層SC 鳥取市社会福祉協議会 「河原共助会」会員

かったこと 当初やりた

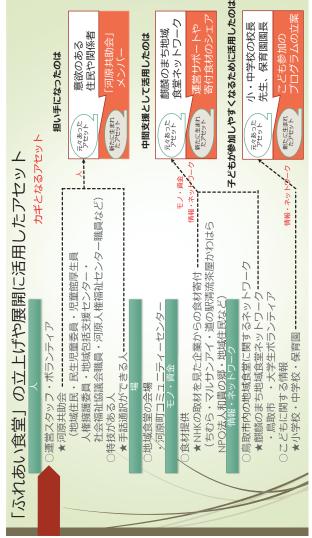
誰で参加、地域食堂(こども食堂)

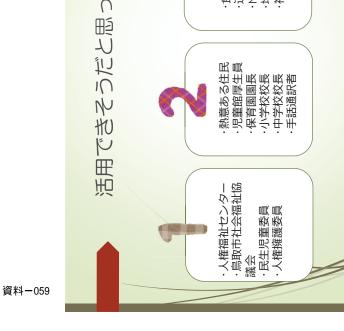
多世代交流の地域の居場所であり、 住民の通いの場にしたい

孤独 プラットフォームを活用し、 孤立のない地域にしたい

相談支援をしたい







# 「ふれあい食堂」の立上げや展開に活用したアセット



意欲のある 住民や関係者 河原共助会」 元 たプセッ トプセッ

職員・民生委員・児童館厚生員・SCに声をかけ、食堂の調理、会職設営、企画を行うボランディアグループ「河原共助会」を結成。 ・ 困難を抱える人のアウトリーデの場とする場には掲載が成ができる人が、必要です。民生委員や社協・SCも加わり、手話通訳者も参加しています。 ・参加する人には役割や出番がある食堂です。調理には90歳代の人やう つ者の方も参加しています。

鱗のまち地域食堂ネッ

「ふれあい食堂」のネットワーク

○遊び支援

河原共助会

モノつくり支援の相談支援

○困りごと解決支援 つながりサポータ.

食事支援 ○学習支援

コリイカ(大学生ボランドィア回体)

生活困窮者

河原人権福祉センタ

NPO法人和貴の郷

マルサンアイ、河原道の駅

小学校、中学校、保育園

支援

知症のある人

原证

父子・母子 **11年のある** 

### 中間支援として活用したのは

食堂ネットワーク 麒麟のまち地域 元々あった アセット

ボート、情報共有、寄付金の分配などの支援を受けています。 ・鳥取学のサークル「ユリイカ」もネットワークの構成団体で、学習・遊びや調理型ボランティアとして「ふれむい食堂」に毎回参加しています。 WINで「ふれあい食堂」が取り上げらがたことをきっかけに、住民や地元の弁当会社や食品メーカーからの寄付もあります。 「麒麟のまち地域食堂ネットワーク」に加盟し食品の寄贈や運営のサ

### 子どもが参加しやすくなるために活用したのは

プログラムの立案 小・中学校の校長 先生、保育園園長 元々あった アセット

・保育園園長・小学校校長に子どもに参加してもらうための相談することもあります。 「モノづくり教皇」のアイデアなどが出ています。 ・中学校校長に「ふれるい食堂」に毎回参加、中学生の職場体験として 「ふれあい食堂」の参加を計画しています。

[SCの役割①(個別ケース)]

囚「ひとりで寂しいだが、」という高齢者に対して食堂の紹介・参加の (アウトリーチの中での発見) 声掛けを促す

囚元気な高齢者には食堂のボランティアへの参加を促す 0







地域で孤立している方(高齢者等)を地域社会の一員として参画できるような 環境を整えて、関係者や地域住民の方の協力を得ながら後押しを行うこと・



【自己紹介】 所属:鳥

地域支え合い推進員(生活支援コーディネーター/SC) 地区担当:国府・河原・用瀬・佐治・鹿野・青谷 地域支え合い支援課 属:鳥取市社会福祉協議会 鳥取市社協】

平成16年11月に1市6町2村(鳥取市・国府町・福部村・河原町・ 用瀬町・佐治村・気高町・鹿野町・青谷町)の市町村合併に伴い、 市社協も合併。

1市に本庁、8町には、総合福祉センター(支所)が存在します。

令和元年7月…河原町総合福祉センター所長から声かけがある。 地区担当として試験開催時より参加。

河原共助会のメンバーとして参加する 令和2年9月…「ふれあい食堂」が本格スタート

地域課題や福祉ニーズも発掘できることから、 河原共助会のメンバーに参加することを決意しました ※調理も担当します。 「ふれあい食堂」は地域や人を知る場所であり、



(3.)

資料 060

地域資源や専門機関を居場所へとつなげること(コラボレーション)で、新しい発想が SCの役割②(地域とつなげる)

生まれ、できることも増えていく。



囚近くで開催している認知症カフェの参加者にも声をかけ、 活動の中でのひらめま

一緒に食事をするという取り組みができるのでは?と提案



☑ SCとして認知症カフェとの「つなぎ」を行う

一緒に食事をするだけではなく、認知症カフェからの参加者には、調理や配膳など できる範囲で手伝ってもらうようにお願いしています!(役割・出番を作る!)

個人とつながり、地域とつながっていくと、地域の課題が見えてきます。 地域課題の解決に向けて、

河原町地域包括ケアシステム推進連絡会(第2層協議体)

	立   令和3年12月20日(月)〔準備会:令和3年10月28日(木)〕	的 地域包括ケアシステムの構築、地域共生社会の実現に向けて、町内関係機関(相談機関)等を参集 して、横のつながりの強化(縦割り解消)を行い、ネットワーク作り、情報共有等を図りながら、 地域住民の取り組みとの連携、融合、協働作業を視野に入れて今後の河原町の地域づくりを進めて いく話し合いの場となるように目指していきます。 なお人権福祉センター参画のもと、必要に応じて生活困窮者自立支援法第9条に基づいた支援会議
רויין י	設立	

機能を有して開催する場合があります。	
	• 保健師)
	課(課長・
	〇総合支所市民福祉課(課長
	総合支所
0ます。	Ö
の機能を有して開催する場合があります。	所長)
間催する場	社センター(ア
を有して厚	I IUO
の機能を	〇河原人権
	構成

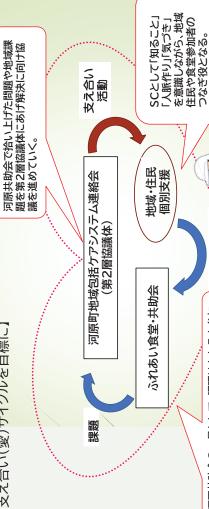
〇総合支所市民福祉課(課長·保健師)	〇南部地域包括支援センター(所長) 〇第1層協議体関係者(必要に応じて)	・ 地域支え合い推進員(第2層SC)
〇河原人権福祉センター(所長)	〇南部地域包括支援センター(所長)	(事務局) 市社協総合福祉センター
構成	組織	

する検討

将来的には地域住民の参画を目指していきます。 かの街

061

支え合い(愛)サイクルを目標に】



## ①しながりサポーター活動

「河原共助会」の取組

深刻化する「社会的孤立」に対応するため、まずは「つながる」ことが支援の第 歩になる。

問題を深刻化させない、あるいは問題を抱えながら生きていくためには、つなが る=ひとりにしないことが重要です

**大を** "つながりサポーター"の取組は、個人に対する支援の一環であるとともに、 孤立させない= ひとりぼっちをつくらない地域社会の創造を目指します

### しながりサポーター養成研修内容

(午前) 講義

○「地域共生社会の実現と"助けて"と言えない人への支援」日本福祉大学 社会福祉学部 教授 原田 正樹 氏

奥田 知志 「"ひとりにしない"という支援」 NPO法人 抱撲 理事長 東八幡キリスト教会牧師

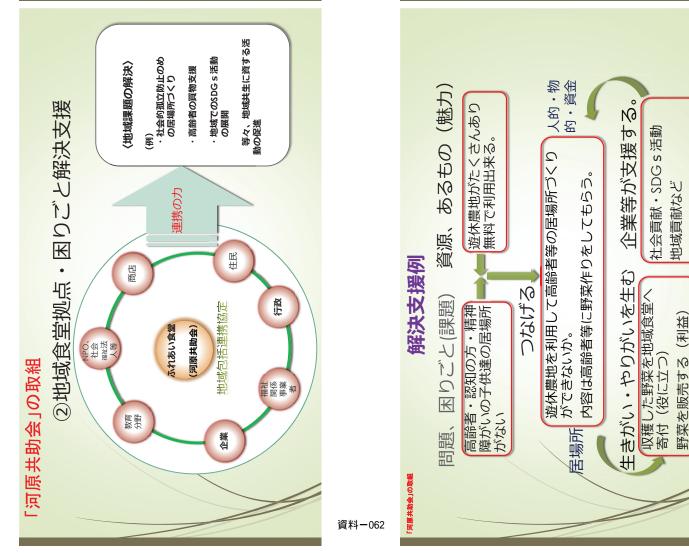
出

・伴走型支援の理解を深める。身近にある多様な孤立ケースについて・事例検討から考える。チームワークと社会資源とのつながりについて

(午後) グループワーク

つなぎの意識

河原共助会の一員として、調理はもちろん参加者、ポランティアの話しを聞きながら、ふれあい食堂が地域の居場所となり、心休まる場所となるよう、バックアップする。



令和5年老人保健健康増進等事業 「協議体を中心にした食支援ブラットホーム形成に関する調査研究」 食でつながるブラットホームづくり 麒麟のまち研修会

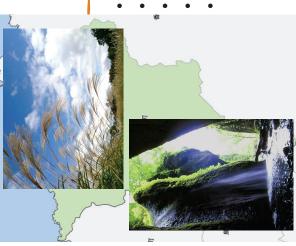
帝和5年11月6日子どもが中心にいる「ゆるくて居心地のよい小さな空間」を目指す居場所づくり

い満聴もりがとりびばいました。

~つながることで実現できる~

「ふれあい食堂」代表・「河原共助会」事務局長 河原人権福祉センター所長 大門 康裕 鳥取市社会福祉協議会 鳥取市第2層SC 「河原共助会」会員 西尾 宏美





## 新温泉町について

- •人口 13,170人 (R5.10.1現在)
- 高齢化率 41.89%
- •後期高齡化率 23.04%
- 自治会数 113 (浜坂81 温泉32)
- 町内の端の集落(旧浜坂町)から端の集落(旧温泉町)まで 木体25~28kmかかります。



第1層 生活支援コーディネーター





令和2年2月、社協と住民で「みんなげの食堂 きにゃ~な」を開催するために鳥取人権福祉センター 主催の研修会に参加。そこで川口所長と山根共同 代表と出会う。

しかし新型コロナウィルスが日本に上陸し、学校が 体校になるなど緊急事態宣言が発令され、開催2 日前に中止決定。



新温泉町の 新温泉町の 新温泉町の 新温泉町の括支援センター STAFF #22

第2層 生活支援コーディネーター

生活支援コーディネーター 社協 小松 歩来

地域福祉課長補佐兼 生活支援コーディネーター **社協 平澤 佐知子** 

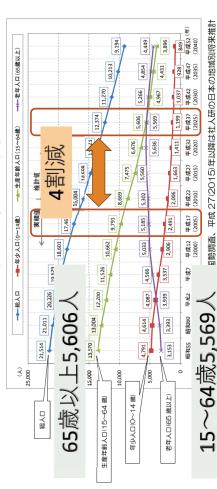
資料-063

# 麒麟のまち地域食堂ネットワークとの出会い

鳥取市と周辺4町、兵庫 県2町で「麒麟のまち連携 中枢都市圏」を形成し、圏域における地方創生の充実・ 発展を図り、圏域全体の活性化・持続的発展を目指した取り組みから、全国食支援 活動協会様が展開されているパブ拠点を鳥取県以外の地域にも広げる活動でした。

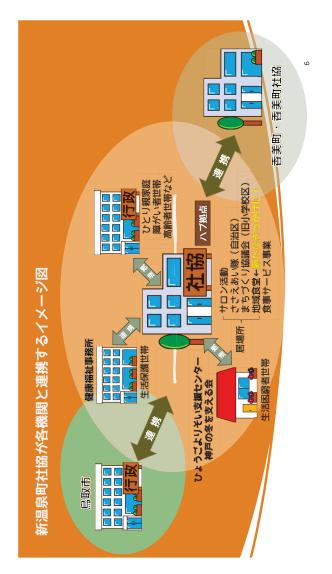


### 年齢3区分別人口の推移



平成27年10月発行 新温泉町人口ビジョンより抜粋

人口 (HZ5,3,2,1,公表)







ありがとうによい来した

新温泉町 社会福祉協議会



## フレイル予防の3本柱

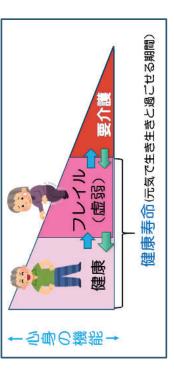
運動、社会参加 栄養・口腔、



図出典:東京大学高齢社会総合研究機構・飯島勝矢 フレイル予防ハンドブックより

社会的フレイルは、将来的に閉じこもりや社会的孤立を促すだけでは なく、確実に身体的フレイルやサルコペニアにつながる

### フレイルとは



- ・健康と要介護の中間の状態・フレイルは身体的、精神・心理面、社会面の三つの側面に関連
  - ・フレイルは予防や回復が可能な状態であり、フレイルを予防 することが健康寿命を延ばすために重要

# 2022年度健康なくらしの調査結果概要

の対象を対して、	9.9% 35.1%	8% 35.2% 位) (42位)
が記録		4% 11.8% 位) (61位)
77.43		19.4% 1) (56(12)
<b>■</b> り つき	% 4.9%	% 4.9% (1.0%)
3280	5 27.8%	29.1% (46位)
報告の	49.0%	43.6% (65(tt))
	华	馬取市

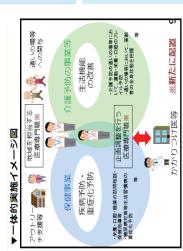
	SC海点: 居け西い	: 延建型 機構機	SC都点: 社份會計	無	四個	無
仲	196.1点	160.1点	49.1点	1.9%	20.8%	3.6%
鼻攻市	194.9点 /210点 (54位)	151.3点 /240点 (65位)	49.7点 /350点 (40位)	2.5% (70位)	20.1% (29位)	4.0% (51 <b>位</b> )

※( )の順位は、鳥取市が全国75市町村との比較(年齢調整後)。 ※SC=ソーシャル・キャビタル:社会や地域における、人々の信頼関係・結びつき

用資料:鳥取市HPより令和4年度健康と

# 本市におけるフレイル予防の取り組み

保健事業」と「介護予防の事業」一体的実施の内容と評価



『図出典:厚生労働省HP高齢者の保健事業と介護予防の一体的な実施に 関する有識者会議報告書より一部抜粋』

「事業の企画・調整・分析・評価などを行う人材と、通いの場などへの関与や個別訪問などの支援を行う医療専門職が必要になる」として、保健師や管理栄養士、歯科衛生士などの医療専門職も加わり、取り組みの充実を図る

- 方法 ①高齢者に対する個別支援(ハイリスクアプローチ) ・低栄養防止・重症化予防の取組 ・健康状態が不明な高齢者の状態把握、必要なサー ピスへの接続等 ②通いの場等への関与 (ポピュレーションアプローチ) ・フレイル予防の普及啓発活動や運動・栄養・口腔等の
  - フレイル予防などの健康教育・健康相談を実施・フレイル状態にある高齢者等を把握し、低栄養や筋力低下等の状態に応じた保健指導や生活機能向上に向けた支援等
    - ①②の双方を行う

### 主な取り組み内容

(日孙核区) 令和4年度の事業対象圏域は18の日常生活圏域中11圏域

### 圖型水瓶







レフイルリスクの恒

CNS・RD · DT/0T・DH 等

ナース (CNS) 等によ

理康と暮らしを考える会

地域の健康福祉課題 について住民主体が 話し合って解決して いく場づくりを行う

レイル予防に取り組 めるよう支援(フレ イル状態の把握と数 サロント舗能した 育・相談支援)

-067

# これまでのファイル予防について

・・現在の一体的実施のアプローチ

### 現状

• 2040問題に対応できない 効果が限定的



・・フレイルハイリスク者、

(鳥取市全域) 🚽

或いは行政の健康福祉 部門の専門職のみで 健康づくり支援に向か 浜来の イリスクアブ ローチ型高齢者支援、 ことな…

鳥取市全域にて全体的な取り組みが必要

## 一体的実施事業で把握した問題

### 問題①

フレイル中重度者が適切な早期支援につながっていない。

### 問題(2)

•必要な支援対象者\*の約5%しか介入できていない。



## 問題解決に向けた主な具体策

# 鳥取市フレイル予防ネットワーク推進会議の設置

ねんりんピックを通じた連携・協働的支援 [官学民連携]

主にグループワークを通して、 課題を検証し、具体的取組につ

多職種・多機関で活発な意見交換が繰り広げられている。

## 企画検討を行った結果.

- ▶「若い世代からのフレイル予防。多世代間交流の重要性\_
- ▶ 「社会参加率の向上と誰一人とりこぼさない支援と地域のキーパーソン の人材育成」



多様な人や社会資源が繋がる場、 との連携ができないか 恒敛 子どもを中心に地域の様々な人が集う居場所、 地域の多様かつ多世代の交流拠点となる

会議メンバーの声「地域食堂の活動をもっと知りたい」「一緒に何かできないか」

# 地域食堂×フレイル予防つなげる意義

### 共通点

居場所づくり×社会参加の場とした社会的フレイル予防

栄養の整った食の提供×口腔・栄養面でフレイル予防の関心个

多様な人々との交流×・参加者同士の新たな役割の創設 ・若い世代からのフレイル予防 ・地域愛着や自己肯定感を育む

参加者のつぶやき×・専門職へ早期フレイル対象者への介入 ・簡単なフレイルチェックから

栄養・運動・社会的フレイル~ アプローチが可能



### まてめ

- 地域食堂等で活躍する高齢者による世代間交流もまた住民主体の介護予防事業として厚生労働省より勧奨
- ○「ソーシャルキャピタル(社会や地域における、人々の信頼関係・結びつき)を活用したまちづくりの結果としての健康増進」へ

(右図にその特徴を示す)

- ・「フレイル予防」はあくまでツール(切り口)であり、こどもへ伝える時等には、「フレイル」や「社会参加」の説明からはいるのではなく、そうしたエッセンスが伝わればよい
- ・地域食堂にはフレイル予防の要素が多く、参加者に付加価値を気づいてもらっことも重要
- ・ハイリスクの住民を可能な限り増やさない ポピュレーションアプローチも同時に構築する ことが有効

\*ステークホルダー:利害関係者

### 大切にしているのは 連携から協働 そして地域づくりへ

・安心して幸せに暮らせる地域社会を目指す真の地域共生社会の実現を目指していく

・一緒にできることはないですか?お気軽にお声掛けください。 そしてこちらからもお声掛けします。

ご静聴ありがとうございました。

### [活動紹介]

# 地域食堂×大学生の取り組み、調査結果報告

食でつながるプラットフォームづくり麒麟のまち研修会の鳥取市人権交流プラザ 2023年11月6日(月) 13:00~16:30/報告時間10分 報告者:菰田レエ也(鳥取大学地域学部地域創造コース 講師)

資料-070

# 地域食堂×大学生の取り組み



© FE



·2019年2月発足

ユリイカ」 - 「こども食堂に取り組む学生の会

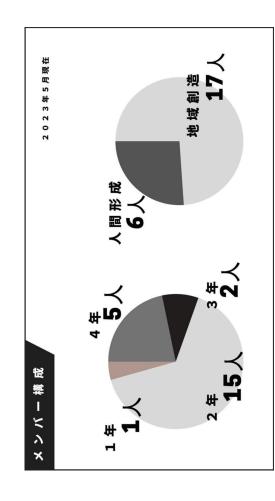
※鳥取大学や鳥取環境大学の学生ら21名

·活動内容

食堂でイベント企画・実施etc.. 子どもの話し相手、 - 学習支援、

※例:すなばこども食堂(第2火曜日17 時~)・けたかくるリ子ども食堂(第1・3金曜日16時半~)・河原ふれあい食堂(第4土曜日10時~)

参考資料:朝日新聞 2019年5月18日



引用資料:2023年6月27日 鳥取大学地域学部地域創造コース「大学入門ゼミ」での講義資料

### IJ た r Ŕ 4 ۲ 甘い に参 Ŧ して 私がユ

لد

- ①自主的に食堂に行くスタイルや代表に就任したことで、自分自身の成長に繋がった
- ②地元や鳥取のアパート、サークルなどどれにも当てはまらない新しい自分の場所
- ③県外出身のただの大学生が、食堂を通して知らない地域に入ることができた

引用資料:2023年6月27日 鳥取大学地域学部地域創造コース「大学入門ゼミ」での講義資料

# 地域調査プロジェクト×教員の発見

①そもそも学生が貧困

②買い物・移動困難者が生まれやすい地域

③積み上げたつながり(社会関係資本)の行く末は?



てくる食事の方が良かった」。これは、今回の調査で私が一番印象に残っている出来事で、 調査にいった学生が、振り返りの際に発した一言です。限られた食材とはいえ、地域の皆 さんが一生懸命に考えた食事に、ワイワイと人々が集まって食べている風景。。。 学生の 「大学やバイトから帰宅してリンゴをかじって終わる自分の夕飯よりも、この食堂でで 本音がポロリと出た瞬間であり、地域食堂という鏡を前にして、学生側=調べる側が窮乏 している現状が垣間見えた時でもありました。おそらく、「地域の人は課題や困りごとを 抱えている、それをなんとか支援する人々がいる(そして、それらとは関係なく、調べる 側の「わたし」は別のどこかにいる)」という構図は、様々な機会を通して、ある種自明 学生の反応のように、「わたし」も地域の当事者として関係していたというものだったよ うに思います。また、今回調べた地域食堂では、活動を支援するために参加していた人々 のものになりがちです。ですが、今回の地域食堂の方々が教えくれたことは、上に挙げた が、実際には支援を受けているような場面も多々、目撃しました。地域(食堂)のために 支援=提言したいという思いは大事ではありますが、「わたし (たち)」を取り巻く日々 の生活の中に、地域食堂が体現していたもの(相互扶助)が埋め込まれているかもしれま せん、もしくはそうした価値をベースに日常の活動を再出発させることが関係者への恩返 しになるのではないかと思います。

最後に、お忙しい中にも関わらず、稚拙な私や学生に向き合ってくれた方々全員にこの 場を借りて心より御礼申し上げます。本当にありがとうございました。

引用:2023年度地域調査プロジェクト報告書240頁

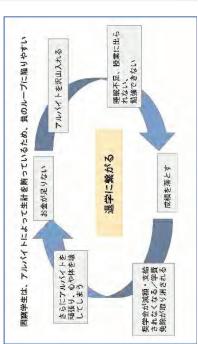
(文責: 菰田レエ也)

図出典:『たべものカフェってなに?』

図出典:佐藤・松浦「誰もが学び続けるために-私たちの活動報告-」24頁『教育・ジェンダー・共生~コースの視点から見直そうこれからの日本〜2021年に藤・松浦「誰もが学び続けるためにも必えたからが発生協会主催公開シンポジウム資料(https://leuw.org/aboutlauw/books/archives/2023s/mposium.pdf)

# ①余裕のある支援者ばかりでない大学生

大学内に 食支援は







**◎フードバンク:食材を発送 ⑥字生:受付メールに添付されたGoogleフォームへの記入 ※このGoogleフォームに耐りことや生活のことについて記入して頂きます。** このような「食べ物を受け取りたいけど、学校に来るのが難しい」 という学生の思いに答えるため、宅配のたべものカフェを開始 11月から1か月に2回ペースで「ふじのくにフードバンク」様と 連携して宅配のたべものカフェを開始しました! ○学生:たべものカフェのGoogleフォームに申し込む ②津富先生:ふじのくにフードバンク様へ申し込み情報の共有 学生へ受付メールを送信 ③ボラセン:Googleフォームの内容確認 その後、津富先生と相談し、困っている人 や支援が必要な人に連絡をとる このように缶や乾麺などの加工食品中心に フードバンクに集まった食材を頂いています! **<宅配のたべものカフェの流れ>** <なぜ宅配をはじめたの?> 食事の内容: よりバラン: 食料の提供 □ Cyf9番れている □離れていな □ 電さかに高さきらかしまい 必要か否か?

たべものカフェ利用者シート

「大学部の場合」「大学のでは、「大学部の場合」 「大学部の場合」「大学会社」「大学会社」

DRA - 28864

等数等プログログラス・フェントを、 1 を対する 2 を対する 1 を対する 2 をがえる 2 を

## N=23(1~4回生.各授業の受講生に対して実施): 2023年10月23~30日

# 鳥取大学学生にアンケートしてみた

・自己負担:「<mark>生活費のみ(16/23)</mark>」、「家賃と生活費と学費」(1/23)、「家賃と生活費」(1/23) 「負担しているものはない(全て親からの仕送り)」(4/23)

・1日の食事回数: 「1日1食(2/23)」、「1日2食(10/23)」、「1日3食(11/23)」

現在のバイトの状況: 「3つ以上掛け持ち (2/23)」、「2つ (2/23)」、「1つバイト (14/23)」

# **【自由回答欄(1周間相当の食材提供を大学生に配る仕組みについて必要だと思うかという質問)】**

1日の食事回数 生活習慣の乱れや節 約のために、半分以 上の学生が1日2食 以下です。

1日3食

1日2章

2) 1日の食事回数について教えてください(ここ最近のあなたの生活に近い回数で構いません) 28中20ms

● 1日3族 ● 1日2族 ● 1日1歳

1日1歳

●長期体職のバイトの給料 で一部を負担●負担しているものはない (全で親等からの仕送り で賄えている) 12-

本語書

158.88

FIRE ABLICAGES

华東. 北京東. 東京

1) 現在 (2023年度)、あ… \*

家賃,生活費

個数/1)現在(2023年度)、あなたが自己負担している費用について教えてください。

家賃,生活費,学費

世児湯

- ・1回生の4月~8月までの買い物や消費期限の知識など生活が安定しない時期に必要
- 奨学金やバイトの給与が振り込まれる直前の1週間
- ・テスト週間に近い時期。怪我や災害に直面した時など
- ・Googleフォームで申請をして対応してくれると助かる

②買い物・移動困難者が

生まれやすい地域





(https://www.youtube.com/watch?v=DJ-ISWpSC7A)

閉店 住民主体で 買い物ツアー 実施へ

# 

・次なる活動の「スープの源」にもなる可能性

※生活クラブ生活協同組合の班(サークル)活動から生まれた多様な市民活動や新しいNPO・協同組合などの起業 ※韓国マウル共同体政策:近隣で活動に参加する主体や協力活動の形成×当事者へのアクセス(+ 地域課題の発見)

:回答政策:近隣で活動に参加する王体や協力活動の形故×当事者へのアクセス(= 地域蹂躙の発見) 参考文献:藤井敦史「私たちが韓国社会的経済から学んできたことは向か」『地域で社会のつながりをつくり直す社会的連帯経済』(2022)

・学生サークル(ボランティア集団)と同じ消滅する宿命か

※「泡のように勝手にブクブクと泡立ち、また消えていくような」(田尾 2011:157頁)存在 参考文献: 田尾雅夫 『市民参加の行政学』(2011)

資料-072

# 地域食堂× えんくるり事業 🚳

~ 社会福祉法人の地域公益的取組 ~

### 令和5年11月6日 (月)

## 社会福祉法人 鳥取県社会福祉協議会

生活福祉資金室室長 兼 地域福祉部副部長 川瀬亮彦

## 3 1.えんくるり事業とは

## 人と人、人と地域、人と鉛織、ご縁の輪をくるりとつなく

## えんくるり事

- ・制度の狭間でお困りの方を支援する仕組みとして平成29年1月25日より事業開始。
- ・参画法人には相談員を必置とし支援が必要な場合は各法人が支援判断。

趣旨に賛同する社会福祉法人 (47法人 / 112法人)

· 県内19市町村社協が参画。 (全市町村をカバー)



財源は参画法人が拠出する分担金

1. えんくるり事業とは

事業の内容

目指す方向性 **~** 

## えんくるり事業の目的

社会福祉法人に期待される公益性・非営利性に鑑み、制度内の取組み に終始せず、多様化・複合化する地域課題に積極的に対応していく。



けて」や「困った」にいち早く気付き、支援するしくみをつくることで、 県内の社会福祉法人が種別の枠を超えて協働し、さまざまな人の「助 **人と人、人と地域、人と組織をしなぐ。**  m

# えんくるり事業で実施する事業

①総合相談・支援機能強化事業

②社会資源開発事業

③ひきこもりの状態にある方等の就労体験事業

現物給付による経済的支援状況

6年2ヵ月で **531件** (5,887,768円) の支援

【内訳】			H29.1~R5.3
項目	割合	件数	金額
光熱水費	78%	150件	1,961,189円
ガンリン	18%	94件	461,869円
食料費	15%	77件	438,872円
携帯電話	%6	48件	940,358円
家賃	2%	29件	954,300円
その他	25%	133件	1,131,180円
小計	100%	531件	5,887,768円

光熱水費 18% 食料費 15% その他 25%

9 生活困窮者自立相談や生活保護相談、生活福祉資金貸付相談や日常生活自立支援事業相談からのニーズキャッチが多い。

# ①総合相談・支援機能強化事業

- 題・生活課題を把握し、利用可能な制度につないだり既存の資源を活用 参画法人は相談・支援員を配置し、利用者家族や地域における福祉課 して課題の解決に努める。
- ・他に支援する手段が無く、制度の狭間で緊急・逼迫した状況にある場 合においては、現物給付による経済的支援を行うことで、要支援者の地 域での自立に向けて継続的に支援する。
- 自法人で即決して現が給付を行うことができる ⇑

**経済的援助**による支援**限度額** 

000円以内 1つの支援につき50,



「麒麟のまち地域食堂ネットワーク」が提供の食料も利用

4

Ŋ

## 2社会資源開発事業

参加法人が日ごろの実践から生じた「気づき」を圏域ごとに持ち寄り、 法人連絡会にて話し合い、地域に求められる資源を練る。

課題を共有

固別支援の

対策を協議しくりだす

船側で対応

実施された取組みについては「えんくるり基金」で対応

実施企画書提出 ⇒ 審査・交付決定 ⇒ 請求・交付 ⇒ 実施報告書提出

田0000 上限年350,

(喧削) 最長3年

## 社会資源開発による支援状況

# 【おたべ食堂】 ※新型コロナの影響でR2から弁当配布形式で実施中

主体:鳥取こども学園

協力;鳥取県厚生事業団、鳥取市社協、鳥取県共同募金会、鳥取県社協

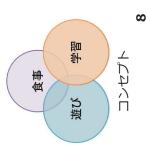
**刮製ボルソドィア** 

開催日:毎週第4木曜日17:00~19:00 ※R4.7月より毎月第2・4木曜日

※「麒麟のまち地域食堂ネットワーク」ご提供の食料も利用

会場:鳥取市修立公民館

年度	参加人数(延べ人数)
H29年度	25人 (児童18人、大人7人)
H30年度	227人(児童145人、大人82人)
R元年度	476人(児童309人、大人167人)
R 2年度	663人(児童332人、大人331人)
R 3年度	832人(児童467人、大人365人)
R 4年度	1,352人(児童711人、大人490人)
+	3,575人(児童1,982人、大人1,442人)



## 社会資源開発による支援状況

## 【子ども服等リユース事業】

・各法人のイベント等との併催実施

こうほうえん、あすなろ会、敬仁会、倉吉愛児園 うわなだ福祉会、立石会、さとに会、伯耆の国、 祥和会、三朝町社協、北栄町社協、琴浦町社協、 境港市社協、八頭町社協



子ども服リユースとして単独実施

子ども服リユース譲渡会

南部町社協(服の収集は町内法人による協力あり)

巡回型 子ども服リユース

境港市社協(市子育て支援センターと連携)



## <br /> 《おたべ食堂の特徴》

- ・「子ども家庭支援センター」を運営する法人として相談機能等のノウハウを活かす。
- ・えんくるり事業でストックしている子ども服を活用し子ども服りユースコーナーを設置。
- ※ 各法人で実施した子ども服リユース事業の在庫
- 鳥取市社協実施の「ランド セルリユース事業」のチランを配架。



## 大切にしていること

こどもに対しては

集団の中でも個を尊重した1対1の関わり

保護者に対しては

困り事や悩み等を傾聴できる体制・環境

10

### 15

# ③ひきこもりの状態にある方等の就労体験事業

えんくるり相談員研修にて相談員意見を基に整理

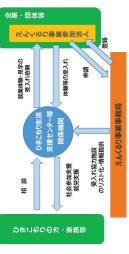
Ж.

就労体験 例】

・施設内パトロール

### 【就労体験事業の内容】

ついて、えんくるり事業に参画し ている社会福祉法人による受入れ ① ひきこもりの状態にある方等に を行い、対象者の状況に応じた **就労体験**等を実施。



- ② 対象は社会参加や就労に向けた職場体験等を必要としている方
- 体験者に対し「応援金」として1日の体験につき ③ 受け入れた施設等は、 1,000円 左統。
- 「応援金」を含む体験等に要した経費 (上限**3,000円**)をえんくるり事業基金より支給

※ 行政又は他の団体の補助・委託又は助成制度が利用できる場合はそちらを優先。

を意識 ⑤ 相談員は「本人を理解しようとする姿勢」や「本人に寄り添う姿勢」 ※ 体験者は「役割があること」にやりがいを体感する方が多い

12

### 方向性 6 皿滿

### 意識したいこと



見過ごさない (アンテナを張る)

「気づきが暮らしを支える原点」

### 「保育園の気づきから社協と連携」

ひとり親家庭の子が通う保育園より、生乾きの服を着て登園されたり、園の服を貸し出しても返却が無いなど、こどもの生活状況を心配し、社協に連絡があり一時的に子ども服を提供し支援。

離婚成立直後で精神的にも不安定

離婚前も生活がギリギリの状態で「滞納携帯電話代・滞納電気代」をえんくるり事業で支援あり

早期発見により住民の暮らしを支える

法人間連携の強化

しなぐ



(発見からつなぎへ)

児童分野 ☞ 生活困窮



### デイサービス、いきいきサロン、高齢者宅訪問 ・体操グループの見学 ・ボランティア活動 (見学→ボランティア) 工作・カードゲームなどを一緒にする 食事やおやつを一緒に食べる ・好きなことをするスペースの提供 ・相談員と一緒に利用者の話を聞く ・施設にジュースを買いに来る 得意なものがあれば教える ・タイムカードを押してみる ·納涼祭、敬老祭、運動会、 ・施設内の清掃、洗車 ・遊具・玩具の消毒、整理 ・園児や利用者との交流 お菓子を買いに来る ・広報誌のお手伝い ・町内行事への参加 ・汚物入れづくり・消耗品準備 ・花壇の手入れ ・給食等の配膳 ·施設見学 ・草取り 施設職員との交流 人の集う場に参加 利用者との交流 個人の取組 他設等 に慣れる

段階的な体験

### 事業運営の基盤 物物

事業全般の方針決定等(規程改廃や分担金設定や新規事業の採択など) ① 運営委員会(委員13名)※大学関係者、県・市町村行政の参画あり

② 企画委員会 (委員7名)

新規事業(案)の検討や検証、研修企画検討

相談員研修等による相談スキルアップ、地域課題提起 ③ 相談員連絡会(参画法人相談員95名)

※ 鳥取県社会福祉施設経営者協議会と共催 4 地域貢献ヤニナー

えんくるり参画外法人も対象とした地域公益的取組啓発

## 取組のきっかけ①

### AIM3階D展示場 音学の方)は、どなたでもご参加できます。 ひみのこ利用も可能です。 日々のくらしに不安や悩みはありませんか? ひとりで抱えこまずに、気持ちを言葉にしてみませんか? 内にお住まいの方(強難、通学の方)は、どなたでもご参加! が大 ·· 令和5年3月19日® 公九. 美形保健語 社局基準監視 # # 1282-2060 報告音音: 第一個服 8:30-17:15 フードサポート北九州実行委員会のスラードウのおれまプラティン。社会を選ぶる 食料品等無料配布 無料配布 コーナー 北九州市内にお住ま

レードセポートポ化学 -食を通じて、つながりを-

北九州市における食支援フラットフォーム形成

物価高騰対策、生活困窮者支援として

令和4年度から実施。

○事業内容

食料配布をきっかけとして、

卓也

地域福祉推進課長 明石

令和5年11月17日 北九州市保健福祉局

②地域の見守りネットワーク(地域交流型) ①いのちネットなどの相談支援 (拠点型)

こつなげる。

事業への思い

◇「食」を通じて、人と人との温かなつながりを しくりたい。も其の外消促補。

(ふれあいネットワーク活動の基盤づくり)

- ◇困っている人が、安心できる誰かとつながれる ような場をつくりたい。
- ◇フードロス対策で食料が循環していくように、 (困っているときほど、一人ではないと思える社会) 思いやりが循環していく社会を目指したい。

地域の見守のネットワーク (民生委員、福祉協力員 校(地)区社協 NPO法人等)

地域交流型 フードサポート (食料配布を通して 地域とつながる)

地域で食料を必要としている人 (低所得世帯、単身高齢者 ひとり親世帯、外国人市民、 大学生など)

权

しながり先

ワーク(民生委員、福祉協力員等)につなげる。

②生活に困窮している世帯を、地域の見守りネット

### =SDGsの財組

○実施地域:小倉北区社協、八幡東区社協、高須

○対象世帯:約1,000人が利用

(誰一人取り残されない社会、持続可能な社会)

地域交流型フードパントリー事業(令和4年度

◇地域での小規模な食料配布を通して、 ①地域住民の交流を深めるとともに、

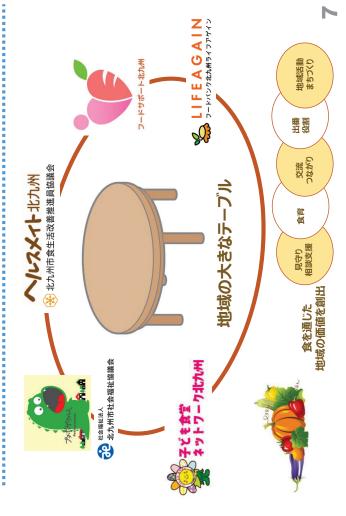
# 地域交流型フードサポートの実施状況







# 食を通じたプラットフォームのイメージ



## 取組のきっかけ2

# 全国食支援活動協力会調査研究事業への参加

全国食支援活動協力会 令和5年度老人保健健康増進等事業協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に関する調査研究

### 事業の背景

・一方、こうした「食」関連の居場所活動においては、場所・物資の確保や衛生管理・感染症対策、担い手の確保、利用者への広報、 資金の調達といった活動を継続させるための方策など様々な課題がある。 ・「食」を通じた高齢者の居場所づくりに取り組む活動は、世代や属性を問わずニーズが高く、取り組みたいという住民も多い。

### 事業の目的

生活支援コーディネーターがブラットフォーム(協議体を含む)形成に向けたコーディネート力を発揮できるようになることを目的に、モデルとして取り上げた地域において、食活動の継続を支援するための体制整備に至るブロセス、とくに多様な機関・団体・ネットワーク等との関係構築のブロセスを中心に調査・分析し支援方策を示す。

### 想定するプラットホーム形成の事例

・企業や生協、農協・漁協や学校など多様な機関と連携し活動を発展・持続させている活動・体制整備における協働を見据えた地域の企業・協同組合、中間支援組織、コミュニティ財団等との関係構築を

図っている活動 ・自地域ヘリソースをもたらすことを目的に全国的なネットワークや取組にアクセスし連携を図っている活動

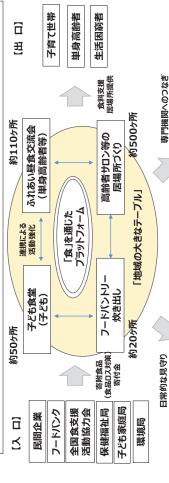
4

6

# 食を通じたフラットフォームのイメージ② 未定稿 一

②食を通じて多世代が集う居場所、地域のつながりをつくる。(大きな食卓を囲む家族へ) 狙い:①食や居場所に関する団体が情報共有や連携を行うことができるプラットフォームを作る。

③食品ロス対策、SDG sの推進に寄与する取組みとする。



日常的な見守り

まが 地域の見守り・支え合いの輪 ・ふれあいネットワーク活動(校区社協) ·自治会、まち協 ·民生委員児童委員、福祉協力員

令和7年度(連携実施)
・ふれあい昼食会・子どち食堂・フードバントリー等の相互参画
・地域や専門機関へのつなぎの仕組みづくり

まが

行政やNPO等の相談支援・いのちネット(生活困窮者自立支援)・地域包括支援C、子ども総合C・NPO等の相談支援・重層的支援体制・NPO等の相談支援・重層的支援体制

令和5年度(準備) ・プラットフォームづくり準備 ・研修会の開催

(事業計画)

令和6年度(交流) ・プラットフォーム形成 ・講演会、研修交流会の開催

資料-078

### R 5 年度 老人保健健康增進等事業

に関する調査研究」について 協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成

専務理事 平野 覚治 全国食支援活動協力会 

### 老人保健健康増進等事業での取り組み

無解

表 ×出路·设制

「闘弾ボランア・アの派遣」活動を 創出して、地域サロン応援 サロンの関盟ボランティア (##########





▲食を通じた居場所をめぐるアセットに着目。 各地でヒアリング調査を実施し、ガイドブックとして発行

### \*\* Company Control Con 議員>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>> 「多様な食支援サービスとその可能性」 千葉大学人文科学研究院教授 清水 洋行 氏 ファシリテーター 日本大学文理学部教授/本事業研究委員会委員長 内藤 佳津雄 氏 議職>>>>> 「集団収益からの学び」 総域市高齢福祉関係等権社関係等 生活支援コーティネーター研修 食のちからで地域を豊かに 事例から考える「食」のアクションプラン ショント「食のアクションブランを考える」 4年信告人会報告報告報告2月日子子子・ターによる信託司券の(他)関係引加額申請支援を 定文施しサイキーターによる信託司券の(他)関係を を支援方施と本売の取り事業実施・施算に関する課金部内。

▲行政・生活支援コーディネーターを対象に 事例紹介やディスカッションを行う研修会の実施

### 全国食支援活動協力会とは

35年間にわたり積み上げた食でつながるネットワーク組織

赤い羽根福祉基金 **○ ことと言の第1全国リアー** 

1986年

高齢者配食サービス・会食会の 連絡会組織として設立

2016年9月

「広がれ、こども食堂の輪!全国ツアー」 事務局

休眠預金活用事業「子ども食堂サポート機能設置事業」(2019~2022)

2019年11月~

- 多世代が食でつながるコミュニティづくり」(2022~2025) 「食の物流ネットワーク整備プロジェクト」(2020~2023)

食を通じた地域の支え合いを広げよう

こどもから高齢者まで、すべての人が「食」を通してつながり住まい続けられる地域を目指し産される場でなりなりない。 産官学民、多様なセクターとの連携により活動に取り組んでいます

© 2023 mow

### R 5 年度 老人保健健康增進等事業

関する調査研究 「協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に

### ■実施内容

・研究委員会/ワーキング部会の運営 ・調査の実施 モデル地域「て食支援ブラットフォームの構築プロセス、 関係構築のプロセスをヒアリング調査を実施

・研修の実施 食支援プラットフォーム構築・拡大のため、事例共有やワークを実施

成果発表会の実施、研修ツールの作成 モデル地域の事例紹介、導入に向けたツールを掲載。

### 構成委員 ■研究委員会

食支援活動を支え・芳醇化させるプラットフォーム形成についての調査研究を実施。モデル地域として、鳥取市、北九州市、五所川原市を調査。

稻城市福祉部高齡福祉課高齡福祉係 係長 一社)全国食支援活動協力会 代表理事 千葉大学大学院人文科学研究院 教授 特非)フェリスモンテ 事務局長 全国社会福祉協議会地域福祉部 部長 一社)ともしぴ at だんだん 代表理事 琉球大学人文社会学部 専任講師 香川県社会福祉協議会 事務局長 委員長 内藤 佳津雄氏 日本大学文理学部 教授 教山 由美子氏 特非)日本地域福祉研究所監事 産業能率大学経営学部 教授 高崎市長寿社会課(主管課) 荒井崇宏氏 石田惇子氏

一社全国食支援活動協力会 專務理事 平野覚治氏

こども宅食応援団HPより抜粋

## 食支援プラットフォーム」(仮称)形成の背景と意義

「食支援プラットフォーム」どうやって取り組もうとしているか

解決方策:

文会心の活動側に関わる生活支援コーデイ ネス会いの力を発揮して活動を活性化してい くためには、多様なリソースからの資源調達を図っ ている整式がある。 でしたの数がある。 でしたの数がある。 でしたの数がある。 アープをの情報的で連携によるプラットフォーム構 整が、解決策の一つと考える。

### 地域課題を知り、自社の強みを生かし た地域づくりへの参加 商材、人的資源、ノウハウ等の貢献 財源に因らず、部署を横断した地域 課題の解決に向けた協働の促進 他地域の行政や民間とつながり創出 活用できるリソースの拡充 世代を問わず、多様な地域課題に取り組む団体や活動がつながることで福祉ニーズを充足 社会福祉協議会 「食支援プラットフォーム」で 孤独・孤立を予防し共助を促す「食支援活動」を創出し支える 行 伯 8域外のリソース 幕成団体イメージ): 自治体関連所能、社工技型コーディネーター、 社協 C S W、活動団体、地線組織、民生児童委員、 中間支援団体、商工会、企業、土協、農路等 食支援プラットフォーム 90 福祉分野に殴らない。機関・団体や広域・ネットローク等。 域内の団体・ネットワーク \*広域ネットワーク等: 企業、県レベルの中間支援、 テーマ別の全国ネットワーク 構成団体等との連携・協力によ 他地域の人脈やノウハウの提供 これまで対応できていなかった地域課題の解決を図る 新しい活動Aの創出 ノウハウの伝授・支援者の派遣 多世代型地域食堂で活動するため の<mark>安定的な食材の確保が実現</mark> 高齢者の居場所づくりやこども 食堂等の担い手が協力し次なる 担い手の発掘へ/専門ノウハウ の共有など(食生活改善推進算等) 新しい地域資源の開拓 寄贈マッチング支援 Φ(<del>0</del>



活動団体へのアンケートや ヒアリング調査の実施 行政・社協の福祉計画を確認

課題の把握



「食支援プラットフォーム」(仮称) 形成・醸成の実践モデル

立ち上げを行う機関

## 食支援プラットフォーム」(仮称) 形成・醸成の実践事例



鳥取県鳥取市:重層的な相談支援とサービスの見える化 近隣自治体を含む広域連携にて、ロジハブ機能や支援ネットワークの共有



1855B △推進会議庁ることへ 経済的食品アクセス確保のための「地域協議会」機能 配送・一時保管の課題「食支援プラットフォーム推進会議立上15人 ₫ C.ByR 【麒麟のまち孤独・孤立対策市町担当者媼 (2023.10.30)

処点設置後の冷蔵庫等の経費(電気代等)は市町負担

総点間及び配分先間の車移動は概ね30分以内3つの幹線道路(国道)沿いに整備

## 休眠預金を活用して取り組む社会課題

全国食支援活動協力会では、2019年度通常枠事業・2020年度通常枠事業・新型コロナウイルス緊急支援助成枠を活用して、以下の課題解決に取り組んできました。この度、22年度通常枠では新たに食を通じた参加型のまちづくりを推進するプラットホーム形成を通じた地域課題の解決を図ります。





物流・ストック・シェア 企業等からの寄贈食品の

こども食堂等居場所の充実



社会」「地域格差」「中山間 少子高齢化に伴う「人口減少 R存の地域福祉、まちづくり 地支援」などの地域課題

推進に関わる機関との連携

特非)ワーカーズコレクティブういず(千葉) 特非)D. grandma Japan (敏媛) 一社) たなかパイプ(商名) 特非)いるか(福岡) 一社)ひとり親繁廃福社・扱ながさぎ(長崎) 社協 - 善素県社会福社協議会(青蕪) 社協 - 上 LALASOCIAL(宮崎)

## 食支援プラットフォーム」(仮称) 形成・醸成の実践事例





•

(a CB)

•

食を通じた 地域の見守リ・支え合い ガイドブック

### ィグへ ıト H Ч " П 多世代が食でつながる ■事業名

### ■事業概要

対象者別制度や枠組みに囚われない食に関する居場所の機能及び地域住民のエンパワーメントに着目し、利用者と担い手を越境する「共助」モデルを創出する。本事業では居場所の伴走・中間支援機能を果たし、行政・企業・社協他まちづくり団体等との協働促進を担うほか、居場所に関わる既存の地域福祉人材(生活支援コーディネーター・地域福祉コーディネーター)が充実するための研修活動を広域的(複数市域)に行うことで、持続可能な居場所づくりのためのプラットホームを構築する。

■実行団体

想定する事業活動

食支援環境の整備 MOWLS推進 情報発信ニーズ調査 担い手がくり 関係人口の創出

非 政治 被被 被

運営ガイドブック類の提供 モデル事例の紹介/研修開催支援 支援のルート開拓・企業との連携強化

資料-081

# 調査から見えてきた地域の特徴と課題

食でつながるプラットフォームづくり 北九州市研修会 2023年11月17日(金) 清水 洋行(千葉大学人文科学研究院)

## [活動団体]利用人数(1回あたり)

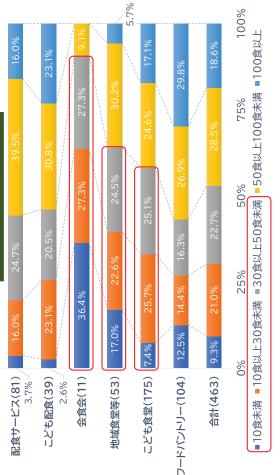
	9人以 10~ 20~ 30~ 40~ 50~ 60~ 80~ 100~150人 下 19人 29人 39人 49人 59人 79人 99人 149人 以上	10∼ 19人	20∼ 29人	30∼ 39人	40∼ 49人	50∼ 59人	~09 ~09	80~ 766	100∼ 149人	150人 以上	恒
こども食堂			4	<b>—</b>	_	c	4				13
子どもの居場所										<del></del>	<del></del>
学習支援	<del>-</del>										<del></del>
<b>会</b> 会 会				2	<del></del>			<del></del>			4
地域食堂							2				2
高齢者の居場所			<del></del>								<b>—</b>
合計	-		2	ო	2	ო	9	-		-	22

# 「2023年度「食」をともなう居場所づくりの支援にかんする調査」北九州市の有効回答について

	こども値	子どもの	学習支持		1 2 2 2	地域食	高齢者(	1
	c	0	1	_		<del></del>	9	
æ	地域福祉関係の部局	个華华的地名		学校教育·社会教育·生涯学習 關係の如目		地域振興・まちづくり関係の部局	合計	

活動団体	
こども食堂	13
子どもの居場所	<b>—</b>
学習支援	_
会食会	4
地域食堂	2
高齢者の居場所	<del></del>
不過	3
合計	25

(参考) 活動形態別・1回あたりの提供食数 【実施中の活動のみ】 (2021年度 コロナ禍における食支援活動の現状と食材支援に関する調査」) — 会食・食堂型<配達・配布型



(注)フードパントリーは1回あたりの利用人数

# 【活動団体】活動頻度(1か月あたりの回数)

	<u> </u>	2~3回	4~11回	12~19 ©	20~27 ©	2~3回 4~11回 12~19 20~27 28回以上	告
こども食堂	œ	4				_	13
子どもの居場所	<b>—</b>						<del></del>
学習支援			_				_
<b>会食</b> 杂			7	<b>—</b>		<del></del>	4
地域食堂	7						7
高齢者の居場所						<del></del>	<del></del>
合計	11	4	ო	1		က	22

# 【活動団体】利用者のうち65歳以上の割合

	なしな	2割未満	2割~4 割程度	半数程度	6割~8 割程度	8割以上 すべて	すべて	恒
こども食堂	2	7				<del></del>		13
子どもの居場所		<del></del>		65歳	65歳以上の割合は	台		<del></del>
学習支援	<b>—</b>			多 マ マ ジ 多 で で り	多くはないが、** 者が多世代。	<b>里</b>		<b>-</b>
会食会							4	4
地域食堂		<b>—</b>	<b>—</b>					2
高齢者の居場所							<del></del>	<b>Γ</b>
合計	9	6	_			-	2	22

# 【活動団体】ボランティア人数(1回あたり)

	なしな	$\& 1 \sim 4 \lambda$ $5 \sim 9 \ 10 \sim 15 \sim 20 \sim 50 \sim 100 \lambda$ $\& 14 \lambda = 19 \lambda = 49 \lambda = 99 \lambda = 100 \lambda$	5~9 √	10∼ 14人	15∼ 19人	20∼ 49人	50∼ 99人	100人 以上	福
こども食堂			2	2	2	4			13
子どもの居場所				<del></del>					<del></del>
学習支援		<b>—</b>							<b>—</b>
<b>会食</b> 会			<del></del>	<del></del>				2	4
地域食堂	<del></del>	<b>—</b>							2
高齢者の居場所				<b>—</b>					_
合計	-	2	က	<sub>∞</sub>	2	4		2	22

(参考) 活動形態別・利用者に占める65歳以上の人の割合 【実施中の活動のみ】(2021年度 コロナ禍における食支援活動の現状 と食材支援に関する調査」) いずれの活動も「なし」「すべて」ばかりではない傾向



# 【活動団体】ボランティアのうち65歳以上の割合

	なし	2割未満	2割~4 割程度	非 群 強 競	6割~8 割程度	8割以上	すべて	ポラン 割程度 8割以上 すべて ティアは いない	福
こども食堂	<b>—</b>	c	7	<b>—</b>	2	m	_		13
子どもの居場所		<b>~</b>							<b>-</b>
				<del>\</del>	ゴンドィ	ボランティアでは、多世代の	<b>参</b> 甘代(	8	
学習支援		<del></del>		寧	傾向が明確になる	館になる			<del></del>
<b>会食会</b>						m	~		4
地域食堂	<b>—</b>							_	2
高齢者の居場 所					<b>—</b>				<b>-</b>
合計	2	2	2	-	က	9	2	<b>-</b>	22

## 【活動団体】活動拠点の種類

公共施設や地域の施設の利用か一定の比重を占める	)施製の利		/)比重を占	900 1			
	自憲の	公共施設	地域の施設	社会福祉 施設	民間の 物件	個人宅	ф Т
こども食堂	4	9		2			12
子どもの居場所			<b>-</b>				<del></del>
学習支援		<del></del>					<del></del>
分食分		4					4
地域食堂			<b>-</b>		<b>—</b>		2
高齢者の居場所		<b>-</b>					٢
마	4	12	2	2	-		21

(参考) 活動形態別・ボランティアに占める65歳以上の人の割合 【実施中の活動で、ボランティアがいる活動のみ】(2021年度 コロナ禍における食支援活動の現状と食材支援に関する調査」)

100% 4.4% 6.3% 5.6% 20.0% 6.3% 3.8% 1.1% ● 利用者についてよりも、「65歳以上」の割合が高い活動が多い傾向 ■8割以上 ■すべて 75% ● いずれの活動も「なし」「すべて」ばかりではない傾向。 ■6割~8割程度 ■2~4割程度 ■半数程度 4.8% 17.8% ■なし ■2割未満 10.0% 合計(407) 地域食堂等(48) フードパントリー(90) 会食会(10) こども食堂(160) 配食サービス(63) こども配食(36)

### [活動団体]食品の保管設備の状況 (1)常温の食品の保管設備

### 【活動団体】食品の保管設備の状況 (2)冷蔵庫

		持っている	借りて いる	なし	ሞ
アントの	1000リットル未満	9	cc	4	13
J J J	1000リットル以上			12	12
1年日 ラーベート	1000リットル未満	<b>.</b>			<del></del>
丁Cもの西海門	1000リットル以上			<b>—</b>	<b>—</b>
# H H	1000リットル未満	<b>—</b>			<del></del>
子百又饭	1000リットル以上			<b>—</b>	<del></del>
<b>4</b>	1000リットル未満		2	2	4
ለ አ	1000リットル以上			4	4
幸本	1000リットル未満	2			2
北城民王	1000リットル以上			2	2
光 計 四 )	1000リットル未満			_	<del>-</del>
同都有りが占物が	1000リットル以上		<b>~</b>		_
† <u>=</u> ♥	1000リットル未満	10	2	7	22
Ξ	1000リットル以上		_	20	21

## [市]活動に対する支援の取り組み状況

	重点的に 取り組ん でいる	取り組ん でいる	あまり取 り組んで いない	取り組んでいない	恒
先行事例の紹介や活動のやり方	<b>-</b>	_	m	_	9
団体づくりや団体運営のやり方	0	2	2	2	9
担い手の募集	<b>-</b>	1	2	2	9
リーダーの育成	1	3		<b>-</b>	9
活動拠点の確保	<b>~</b>	_	2	2	9
厨房や食料保管庫などの備品整備	Γ-	_	2	2	9
利用者の募集	0	0		5	9
利用者への支援の質的向上、量的拡大	0	2	1	3	9
資金確保	_	4	0	_	9
行政・社協からの理解促進	<b>—</b>	ĸ	0	2	9
地域の住民からの理解促進	<b>—</b>	8	0	2	9
中計	∞	21	14	23	99

### 【活動団体】食品の保管設備の状況 (3)冷凍庫

		持って いる	借りて いる	なし	恒
ゆ ル ル ト ト	500リットル未満	10	2	_	13
A 以 以 は は は に り に の に の の に の の に の に の に の に の に の	500リットル以上			12	12
岩里田 ラ 州	500リットル未満	<del>-</del>			_
ナトもの石を	500リットル以上			_	_
1	500リットル未満	<del></del>			_
十四大版	500リットル以上			_	<u></u>
<b>4</b>	500リットル未満		<b>-</b>	m	4
R R R	500リットル以上			4	4
本本	500リットル未満	2			2
北京城区王	500リットル以上			2	2
2年30年4年	500リットル未満			_	_
同都有りが占物が	500リットル以上			_	_
†=∀	500リットル未満	14	က	2	22
	500リットル以上			21	21

## 【活動団体】ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (1)先行事例の紹介や活動のやり方に関する支援

	H	.3年間に行政や社 支援を受けたか	ここ3年間に行政や社協から 支援を受けたか	S.C	活動の総 行政や社協	幼の継続や発展に向けて や社協から支援を受けたい	こ向けて を受けたい
	課題が なかった	支援を受けた	攻 援 か い か し た	中	支援の必要なし	支援を受けたい	恒
こども食堂	7	4	2	13	10	m	13
子どもの居場所		<b>-</b>		<b>—</b>		<b>—</b>	<del></del>
学習支援			<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>		<del></del>
<b>会食</b> 会	2	2		4		4	4
地域食堂			2	2	2		2
高齢者の居場所		<b>—</b>		<b>—</b>	<b>—</b>		<del></del>
合計	6	8	2	22	14	8	22

## 【活動団体】ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (2)団体づくりや団体運営のやり方に関する支援

	13	ここ3年間に行政や社 支援を受けたか	r政や社協 <i>t</i> 9けたか	5,0	活動の総 行政や社協	幼の継続や発展に向け や社協から支援を受け	こ向けて を受けたい
	課題がなかった	支援を受けた	支援を 受けな かった	中	支援の必要なし	支援を受けたい	中二
こども食堂	9	ĸ	4	13	6	4	13
子どもの居場所		<b>—</b>		_	<b>—</b>		_
学習支援			<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>		_
公食会	2	<b>-</b>	<b>—</b>	4		4	4
地域食堂			2	2	2		2
高齢者の居場所		<b>~</b>	0	<del></del>	<b>—</b>		<b>-</b>
中	8	9	8	22	14	8	22

## 【活動団体】ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (4)リーダーの育成に関する支援

	13	ここ3年間に行政や社 支援を受けたか	概	から	活動の総 行政や社協	±続や発展に向 3から支援を受	や発展に向けて ら支援を受けたい
	課題が なかった	支援を受けた	支援を 受けな かった	合計	支援の必要なし	支援を受けたい	恒
こども食堂	<sub>∞</sub>	<del></del>	4	13	<del></del>	2	13
子どもの居場所	<del>, -</del>			<b>—</b>	<del></del>		<del></del>
学習支援			<del></del>	<b>—</b>		<b>—</b>	<del></del>
<b>分食</b> 分		4		4		4	4
地域食堂			2	2	<b>—</b>	<b>—</b>	2
高齢者の居場所		<b>-</b>		<b>—</b>		<b>~</b>	<del></del>
合計	6	9	7	22	13	6	22

## 【活動団体】ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (3)担い手の募集に関する支援

担い手募集には、やや課題感がある傾向

	13	ここ3年間に行政や社 支援を受けたか	行政や社協から 受けたか	ũ	活動の総 行政や社協	活動の継続や発展に向けて 5政や社協から支援を受けたい	展に向けて 援を受けたい
	課題が なかった	支援を受けた	支援を 倒けな かった	合計	支援の必要なし	支援を受けたい	ᄪ
こども食堂	4	4	2	13	7	9	13
子どもの居場所			<del></del>	<del></del>	<b>—</b>		<del></del>
学習支援			<b>~</b>	<b>-</b>		<del></del>	<b>~</b>
会食会		4		4		4	4
地域食堂			2	2	·	<del></del>	2
高齢者の居場所		<del></del>		<del></del>		<b>-</b>	<del></del>
中計	4	6	6	22	6	13	22
						`	

## 【活動団体】ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (5)活動拠点の確保に関する支援

	11 C	去							
	に向け <sup>-</sup> を受け <i>1</i>	但	13		<u></u>	4	7	_	,
	活動の継続や発展に向けて f政や社協から支援を受けたい	支援を受けたい	m	<del></del>		4	_		c
-ズあり	活動の% 行政や社协	支援の必要なし	10		<del></del>		<del></del>	<del></del>	1,0
一定の二-	GW.	# <u></u>	13	<del></del>	<del></del>	4	2	<del></del>	2,2
ただし、今後の支援にも一定のニーズあり	ここ3年間に行政や社協から 支援を受けたか	女 援 か か っ た			<del></del>				,
し、今後の	- 3年間に 支援を	支援を受けた	4	<b>,</b> —		m	<b>~</b>		c
ただ		課題がなかった	6			_		<del></del>	1,0
拠点確保について	は、課題がないか、 支援を受けている 個向にある	% क्यांना <u>स्थ</u>	こども食堂	子どもの居場所	学習支援	会食会	地域食堂	高齢者の居場所	<b>⊅</b> =1

## 【活動団体】ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (6)活動拠点の備品に関する支援

## 活動拠点の備品については、課題感がある傾向

課題が  なかった 	文援を 受けた					, , , , , , , , , , , , , , , , , , ,
		女 波 か い か し た	型	支援の必要なし	支援を受けたい	型
こども食堂 4	4	2	13	7	9	13
子どもの居場所	<b>-</b>		<del></del>		<b>~</b>	<del></del>
		<del></del>	<del></del>	<del></del>		<del></del>
<b>-</b>	m				4	4
<b>-</b>		<del></del>	2	<del></del>	<del></del>	2
高齢者の居場所 1			<del></del>	<del></del>		<del></del>
7	<b>∞</b>	7	22	10	12	22

## 活動形態×ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (8)利用者への支援の質的向上や量的拡大

	13	ここ3年間に行政や社 支援を受けたか	i政や社協な	510	活動の総 行政や社協	活動の継続や発展に向けて 行政や社協から支援を受けたい	こ向けてを受けたい
	課題が なかった	支援を受けた	女機を 倒けな かった	中二	支援の必要なし	支援を受けたい	恒
こども食堂	9	2	2	13	∞	2	13
子どもの居場所		<del></del>		<b>—</b>	<b>-</b>		<b>—</b>
学習支援			<del></del>	<b>—</b>	<b>-</b>		<b>—</b>
<b>会</b> 会 会	m	<del></del>		4		4	4
地域食堂			2	2	<b>-</b>	<del></del>	2
高齢者の居場所		<del></del>		<b>—</b>	<b>-</b>		<b>—</b>
合計	6	2	œ	22	12	10	22

## 活動形態×ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (7)利用者の募集に関する支援

	l3	.3年間に行政や社 支援を受けたか	ここ3年間に行政や社協から 支援を受けたか	ភ្	活動の総 行政や社協	活動の継続や発展に向けて f政や社協から支援を受けた	こ向けて を受けたい
	課題が なかった	支援を受けた	支援を 受けな かった	中計	支援の必要なし	支援を受けたい	恒
こども食堂	2	4	4	13	∞	2	13
子どもの居場所			<del></del>	<b>—</b>	<del></del>		<del></del>
学習支援			<del></del>	<b>~</b>	<del></del>		<del></del>
分食分	m	<del></del>		4		4	4
地域食堂		2		2	<b>-</b>	<b>—</b>	2
高齢者の居場所	<del></del>			<b>~</b>	<del></del>		<del></del>
合計	6	7	9	22	12	10	22

# 活動形態×ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援(9)資金の確保に関する支援

資金の確保につい て支援を受けてお り、今後の支援に	1)	ここ3年間に行政や社 支援を受けたか		絡から	活動の総 行政や社協	動の継続や発展に向けて や社協から支援を受けたい	こ向けて を受けたい
ついてもニーズが ある。	課題が なかった	支援を 受けた	女と一般を行った。	恒	支援の必要なし	支援を 受けたい	恒
こども食堂	5	9	2 2	13	<sub>∞</sub>	5	13
子どもの居場所		<del></del>		_		<b>—</b>	_
学習支援			-	_		-	_
会食会		4		4		4	4
地域食堂		2		7		2	2
高齢者の居場所		<b>-</b>		_		<b>—</b>	<b>—</b>
中計	2	14	က	22	8	14	22

## 活動形態×ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (10)行政や社協からの理解の促進について

	13	ここ3年間に行政や社 支援を受けたか	政や社協から 引ナたか	51	活動の総 行政や社協	の継続や発展に向けて 社協から支援を受けたい	こ向けて を受けたい
	課題がなかった	支援を受けた	女機を 倒けな かった	中二	支援の必要なし	支援を受けたい	福
こども食堂	6	2	2	13	10	m	13
子どもの居場所		<del></del>		<b>-</b>		<b>-</b>	<b>—</b>
学習支援			<b>—</b>	<b>—</b>	<b>-</b>		<del></del>
会会会	<b>-</b>	cc		4	<b>-</b>	m	4
地域食堂		2		2	2		2
高齢者の居場所	<b>-</b>			<b>—</b>	_		<del></del>
合計	11	œ	က	22	15	7	22

### 活動形態×過去3年間に会って要望を伝えたり 情報を得たりした主な部局

	市民自治 協働推進 NPO促 進	鐘	福祉 介護保険	子育で支 R険 援・子ど も	华校教育 社会教育 任福学習	444	環境・消 地域 活困窮 費リサイ まち- クル	お域振興 まち近くり
こども食堂	2	<del></del>		12		<del></del>		
子どもの居場所				<b>—</b>				
学習支援						<del></del>		
会食会		4						m
地域食堂				<del></del>				
高齢者の居場所								

## 活動形態×ここ3年間の課題と支援の状況、今後受けたい支援 (11)住民や地域の団体からの理解の促進について

	13	ここ3年間に行政や社 支援を受けたか	行政や社協から 受けたか	Č.	活動の総 行政や社協	活動の継続や発展に向けて f政や社協から支援を受けたい	こ向けてを受けたい
	課題が なかった	支援を受けた	女 援を 受けな かった	中	支援の必要なし	支援を受けたい	福
こども食堂	<sub>∞</sub>	2	c	13	6	4	13
子どもの居場所		<del></del>		<b>—</b>		<b>-</b>	<del></del>
学習支援			<b>—</b>	<b>—</b>	<b>—</b>		<b>-</b>
分食分		m	<b>—</b>	4	2	2	4
地域食堂		2		2	2		2
高齢者の居場所		<b>-</b>		<b>—</b>	<del></del>	<b>-</b>	<del></del>
合計	8	6	2	22	14	8	22

【団体】支援を受けたり、連携・協力したりした相手 【 市 】支援や、支援のあり方や進めた方の検討にあたり、日頃、関わりをもって いる個人・団体 (1)

も設との連携は、 √ない傾向	Λ		団体(N=25)		(9=N) <u>中</u>	
		市内	市外・県外	なし	94C)	
社会福祉施設(児童福祉)	福祉)	2		20		
社会福祉施設(高齢者福祉・介護)	者福祉・介護)	9		19		
社会福祉施設(児童養護	養護)	2		23		
在宅福祉サービス団体	14	m		22		
地域包括支援センター	7	7		23		
生活困窮者支援団体	₩	9	<b>—</b>	19	2	

】支援を受けたり、連携・協力したりした相手 】支援や、支援のあり方や進めた方の検討にあたり、日頃、関わりをもっている個人・団体(2) 回体】

(9=N)山 なり 24 9 19 =9 **団体(N=25)** 市外·県外  $^{\circ}$ 市内 15 15 13 LO 企業、協同組合、学校については、 施設よりもつながりがある傾向。 一部は、市外・県外も含まれる。 小中学校·高校、PTA 生協·農協·漁協 研究者·専門家 商工会議所 企業

あり

団体は出番・役割を重視している もつ価値 活動団体】活動が担い手にとって。 (市)活動が市民とってもつ価値 (3つまで選択)

「孤立解消」のきっかけ  $\sim$ となる のに対して、市は重視していない 地域や社会の情報を 得られる (重要度が高くない)傾向 困りごとを相談・発信 できる 経済的な支援になる \_ る出番や役割を得られ  $\infty$  $^{\circ}$ 心のよりどころになる 9 2 \_ 他の人と交流できる 2  $\alpha$ \_ 栄養を摂ることがで 食事を楽しむことが ന 2 るまず 食育の機会になる  $\infty$ \_ 学びの機会になる d  $\infty$ 望ましい生活リズムや 生活習慣が身につく 高齢者の居場 所 子どもの居場 食支援活動 赤枠で囲ん の共通の基 だ項目は、 ども食堂 学習支援 地域食堂 会食会

団体】支援を受けたり、連携・協力したりした相手 市 】支援や、支援のあり方・進めた方の検討にあたり、日頃、関わりをもっている個人・団体(1)

(9=N) <del>山</del>

あり

4

2

2

2

 $\sim$ 

N

 $\sim$ 

 $^{\circ}$ 

2

ない 15 10 10 7  $^{\circ}$ 9 団体(N=25) 市外·県外  $\infty$  $\infty$  $\alpha$  $\infty$  $\overline{\phantom{a}}$ 市区 22 16 9 7 15 7 まちづくり協議会、コミュニティ協議会 食支援の中間支援団体・ネットワーク 一部に市外・県外の団体を含む。 [市は自課以外の部局や機関] 市も支援や、支援の検討を通じ 団体との連携が多いとともに、 て関わりがある傾向が強い。 社会福祉協議会 フードバンク NPOセンタ

(%) コロナ禍における (参考) 活動形態別・利用者に対する活動の効果(3つまで選択) [実施中の活動のみ] (2021年度食支援活動の現状と食材支援に関する調査」)

	につく ズムや習慣が身望ましい生活リ	なる 学びの機会に	なる食育の機会に	ことができる食事を楽しむ	ことができる栄 養 を 摂 る	できる他の人と交流	となる 心のよりどころ	得られる 出番や役割を	になる経済的な支援	る相談・発信でき困り ごとを	る 情報を得られ 地域や社会の
配食サービス (72)	31.9	0.0	15.5	47.2	73.0	36.1	18.1	1.4	18.	19.4	5.6
こども配食(26)	16.0	0.0	15.4	23.1	46.2	38.5	38.5	3.8	65.4	34.6	7.7
会食会(15)	0.0	6.7	26.7	73.3	33.3	66.7	26.7	0.0	6.7	33.3	13.3
地域食堂等 (56)	5.6	12.5	16.1	58.9	25.0	58.9	28.6	17.9	23.2	21.4	8.9
こども食堂 (142)	11.3	14.8	21.8	54.9	28.9	45.1	37.3	4.9	29.6	20.4	7.7
フードパント リー(78)	2.6	5.1	6.4	10.3	42.3	19.2	41.0	1.3	80.8	48.7	10.3
合計(389)	12.3	8.5	16.5	43.7	40.9	40.6	32.9	5.1	38.3	27.5	8.2

マーカーは、活動毎の第一位、第二位、第三位

# 【活動団体・市】活動が地域や社会にとってもつ価値

赤枠で囲んだ項目は、食支援活動が 地域や社会にとってもつ共通の価値

(3つまで選択)

	1	\ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \ \	1	ر ا ا	)	リノハ								
	できる 住民どうしのつながりが	つながる 活動を通じて孤立解消に	多世代が交流できる	きる子どもが健やかに成長で	をかかえた人とつながる引きこもりや生きづらさ	た地域で暮らせる高齢となっても住み慣れ	がれる困りごとのある人とつな	経済的格差が減少する	食品ロスが減らせる	食生活の改善になる	会になる地域の課題を発見する機	ニーズに対応できる 行政では対応できない	地域の経済に貢献できる	
こども食堂	7	m	<sub>∞</sub>	6			m		2	2	_	n	_	
子どもの居場 所		-	-	-										
学習支援		_					<b>—</b>				_			
会食会	2	_	-			2				m				
地域食堂	2		2	<del></del>									<del></del>	
高齢者の居場 所	<b>—</b>		(加)	の部原	引を構	の部局を横断する価値	5価値			<b>-</b>				
HE	4	ю	-			-	-		-	-	-	2	0	
										h				

### まとめ(2/3)

資料-090

## 3. 団体や機関・個人とのつながりについて

- 各種の社会福祉施設とのつながりは、活動団体・市とも少ない傾向にある。活動団体について、パントリーの会場や出前講座先、ボランティアの受け入れなどを通じて社会福祉施設とつながることにより、新しいニーズをつかんだり、担い手づくりに向けて理解を広げたりすることも考えられる。
- 活動団体は、市外のものを含む企業、協同組合、学校と連携している傾向にある。
- ・活動団体とNPOセンター、食支援の中間支援団体・ネットワークとのつながりが一定程度ある。これらは、活動団体どうしの市域での交流や連携のハブとしての役割が期待される。
- 「まちづくり協議会・コミュニティ協議会」との活動団体との連携も一定程度あり、また、 市の多様な部局と関わりがあることから、校区内の活動団体どうしの橋渡しや、活動団体 のニーズを市に伝えるハブとしての役割が期待される。例えば、ふだん別々に活動してい る団体どうしでコラボした食支援活動の創出や、校区の地域福祉計画にかんする情報 交換や協議することなどが考えられる。

### まとめ(1/3)

### 1. 活動拠点と設備・備品について

 活動拠点の確保よりも、活動拠点の備品にかんすることの方が課題感が強い傾向にある。 公共施設や地域の施設を利用している活動も一定の比重を占めることから、例えば市民 センターの厨房や会食用スペース、食材保管等の設備や備品について情報交換や意見交 換をすることも有益だろう。

### 2. 出番づくりについて

- ・活動団体は、自らの活動が担い手にとってもつ価値として「出番や役割を得られる」ことを重視しているが、担い手の募集については一定の課題感をもっている傾向にある。
- 「担い手が出番や役割を得られる」ことは、市があまり重視していない価値でもある。市民の参加による食支援活動が単なる(公共)サービスではないことについて、理解を広げる必要がある。

### まとめ(3/3)

### 4. 食支援活動の共通性

- それぞれの活動の利用者に高齢者(65歳以上)を含むものが少なくなく多世代を対象とする活動となっている。ボランティアについては多世代の傾向がより明確であり、食支援活動は、それぞれで年齢構成の違いはあるが、多世代が集う場となっている傾向がある。
- 「学びの機会となる」「食事を楽しむことができる」「他の人と交流することができる」「心のよりどころになる」「出番や役割を得られる」といった価値は、食支援活動が担い手にとってもつ共通の価値といえそうである。例えば、「学びの提供」「食の楽しみ」について、それぞれの活動がもつ知識やスキル、経験(例えば献立)を出し合うなどした交流も考えられる。

## 5. 食支援活動がもつ地域や社会にとっての価値の実現に向けて

- 「住民どうしがつながる」「活動を通じて孤立解消につながる」「多世代が交流できる」 「子どもが健やかに成長できる」「食生活の改善になる」などは、食支援活動が地域や社会にとってもつ共通の価値といえそうである。これらの価値は外部に向けて共通してアピールできる価値ともいえるが、これらの価値の実現に向けて個々の活動ではやり切れていないと感じている部分を活動団体どうしで出し合ったり、これらの共通の価値のもとでそれぞれの活動ができることを出し合ってみることも有益だろう。
- また、特に「住民同士がつながる」「活動を通じて孤立解消につながる」は、市の複数の部局を横断する共通の価値という傾向が強い。

# 食でつながるプラットフォームづくり北九州市研修会

# 鳥取市における食を通じたプラットフォームの取組について

2023(R5).11.17



## 地域食堂の推進と拠点の整備

### 麒麟のまち創生戦略会議(首長会議)

- ・2019(R1)年11月5日 圏域で地域食堂を推進していくことを決定
- 2022(R4)年 2月8日
- 麒麟のまち地域食堂等推進のための「食のネットワーク 整備プロジェクト事業」によりロジ・ハブ拠点を整備することを確認 地域食堂事業を基盤に、孤独・孤立対策を圏域で推進していくことを決定 · 2022(R5)年11月2日

### 魅力あるまちづくり

さまざまな機能をもつ地域食堂の取り組みを住民の生活圏域 において展開することで、高齢者・障がい者・子どもをはじ め多様な人たちが住みやすい魅力あるまちづくりへ!

得られる支援等を広域的に活用し、さらに、近隣町のそれぞ 中枢中核都市に集中する企業をはじめとする社会資源により

効果的な仕組みづくり

れの強みを生かした効果的な支援の仕組みづくりへ!



連携中枢 都市圏 鳥取市



### $\mathfrak{C}$ KIRINJISHIS A SECO

### 麒麟のまちの地域食堂

「**地域食堂**」:子どもを中心に地域の様々な人が集う居場所、 多様な人や社会資源が繋がる場地域食堂は、地域の多様かつ多世代の交流拠点となっています。 困難を抱える人・世帯に関わっていくことを基本としながら、地域の誰もが気軽に行ける「**だれでも食堂」=「地域食堂」**として展開しています。



食でつながるプラットフォーム

地域食堂

# 地域食堂|事業を基盤にした孤独・孤立対策官民連携

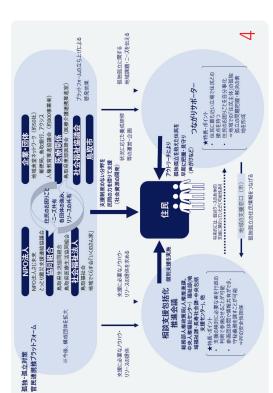
麒麟のまち連携中枢都市圏事業として 既に実施している「地域食堂」事業を フォーム推進事業」を進めています。 基盤に、圏域の6町と連携しながら 「孤独・孤立対策官民連携プラット

〇孤独・孤立対策官民連携プラット

フォームの構成団体の拡充

〇「つながりサポーター」養成研修 の共同実施

「フードサポート」事業を拡充 〇物流業界との包括連携による



# **|広域連携|| ロジ・ハブ拠点整備と食支援プラットフォームの形成**

麒麟のまち圏域におけるロジ・ハブ拠点整備



【ロジ・ハブ拠点の特徴】

- ・ロジ及びハブ拠点は、いずれも市町設置の施設内
- ・拠点設置後の冷蔵庫等の経費(電気代等)は市町負担
  - 拠点間及び配分先間の車移動は概ね30分以内
- →効率的に冷凍・冷蔵品の配送、配布が可能 ・3つの幹線道路(国道)沿いに整備

資料-092

「麒麟のまち圏域+県域 食支援プラットフォーム推進会議」とすることへ 【麒麟のまち孤独・孤立対策市町担当者会】 (2023.10.30) 東伯都 北米町 南部町7 伯希町

【食支援プラットフォーム形成に向けた情報交換会】(2023.10.12) 県内ロジ・ハブ拠点→フードドライブ拠点として活用 配送・一時保管の課題→「食支援プラットフォーム推進会議」を立上げへ

経済的食品アクセス確保のための「地域協議会」機能



## ラットフォーム形成過程で見えてきたこと

9

麒麟のまち+県域

食支援

プットフォーム 総合展開

プラットフォーム 質的展開

食を通じたプラットフォーム形成と

その形成プロセス

食支援プラットフォーム形成へ

プラットフォーム

孤独・孤立対策

官民連携

麒麟のまち 地域食堂

居場所のプラット フォーム化

麒麟のまち

プラットフォーム 面的展開

プラットフォーム

ネットワーク

鳥取市 地域食堂 ネットワーク

地域食堂

こども 険学

巧みな制度設計に苦心するよりも、分かり合う努力をすることが大切 ₩

モノとカネがあるとよいが、つながることで何とかなることも多い \

必要なのは、線引きしない支え合いであり、分野・領域を越境する \ 行政の統合力と、地域の総合力を引き出す

地域食堂推進のポイント

な多世代を巻き込むためのコツ ・「子どものために」という呼びかけ ・役割、出番を準備

公多様な人々を巻き込む ・福祉分野に限定しない

・「当たって砕けない」頼り上手に

公多くの市民、団体が関わる

・フードドライブなどの活動と連動させる、

な社協、生活支援コーディネーターの関わり・社協が培ってきた地域福祉の活動・地域を良く知っている生活支援コーディネーター・地域を良く知っている生活支援コーディネーター

## 居場所のプラットフォーム化

☆ 現在の範囲から少しはみ出してみる(のりしろを拡げる)

去年より今年がより良い地域・ネットワークができるように働きかけてみる ☆

ひとりでは何もできないが、最初のひとり(言い出しっぺ)になる ∜

# いか~で、やらぁ~で、みんなやぁ~で

産業道路 至 国府町 鳥取駅 市投所本庁舎 イオン鳥取店 産業体育館 ● 至 行徳 至 R9

鳥取市中央人権福祉センター 〒680-0823 鳥取市幸町151 人権交流プラザ内 TEL/0857-24-8241 FAX/0857-24-8067 Email:jin-chuo@city.totion.lg.jp

10

6

# 食生活改善推進員の活動



### 「私逹の健康は私逹の手で -oútさ健康毒命っなご郷土の会-」

北九州市食生活改善推進員協議会 会長 小畑 由紀子 食生活改善推進員は当初、人々の中から自発的に生まれ、<u>その活動が社会的評価を受け、国の施策に取り組まれた</u>。今では、国民の健康づくりの担い手として、全国的に活動する不可欠なパワーに成長している。

## 食生活・健康づくりの案内役】

「食生活改善推進員」は、食生活や健康問題を人に教える先生ではない。近隣の方々と「共に勉強し、共に育とう」をモットーに、食生活・健康づくりの案内役として、様々な人や組織・団体等の方々と連携を持ちながら、元気で活力あるまちづくりの推進力になっているボランティアです。

### スローガン

# 「私達の健康は私たちの手で~のばそう健康寿命 つなごう郷土の食~

21世紀における国民健康づくり運動「健康日本51」の実践者として、自分の健康は自分で守り、家族の健康は家族で守り合い、地域の健康は地域の皆で支え合いましょう。

## ★ 食生活改善推進員とは



### 【 食生活改善推進員の誕生

昭和20年代、食糧不足による乳児死亡率が高いという問題に対して、自らが健康生活の実践者になりたいという、意欲的な主婦のグループが誕生。

昭和34年、厚生省(当時)から「栄養及び食生活改善地区組織の育成について」が通達され、保健所を中心に**主婦を対象**とした「栄養教室」が行われるようになった。

昭和58年、厚生省(当時)は「栄養教室」を終了して食生活改善活動を行っている15万人と新たに33万人のボランティアを養成し、45万人に増やすことを計画した。それにより各都道府県では、70世帯に1人の割合で、食生活改善推進員の養成がすすめられた。

平成9年度、地域保健法が施行され、今まで保健所で実施されていた<u>食生</u> 活改善推進員の養成は、市町村で実施されることになった。

### 参画と協働】

\*食生活改善推進員は、「行政機関の行う事業・行事への参画」「住民や他団体との協働」の**2本柱**のもとに、活動をすすめている。

## 「食生活改善推進員の地区組織活動】

\*健康づくりのための地区組織活動を一言でいえば、一人ひとりの健康問題を地域のみんなで協力して解決しようとする活動です。特に食生活の改善は、一人ではなかなか長続きしないものです。お隣さん、お向かいさん同士の"食"と"健康"への共感や様々な体験を共有し合う仲間がいることで実践に移せ、継続する力となる。食生活改善推進員は、このように地区組織活動により、成果を上げてきた経緯がある。

### 活動目標】

\*地域の人々が健康を保持増進するために、健康づくりの3つの柱である**"食生活・運動・休養"**を基本とした、適切な食生活の普及、活力ある地域社会づくりが活動目標である。

- \*活動内容は、地域における普及啓発活動として、各種食生活改善講習会・食生活改善展示会や健康フェスタなどの開催・対話による個別普及・スポーツ、レクリエーション活動・市町村事業への協働。
- 食生活改善推進員研修会 最新栄養情報講習会・交換交流会・リーダー研修会・自己学習 白分の資質を高めるための活動として、 \*







## る食育活動に取り組む。

「食育アドバ

食生活改善

「食育基本法」が施行されたことから、

\*平成17年

食育アドバイザー

推進員は、地域における食育推進の担い手として、

を併名された。子供から高齢者まで、健全な食生活を実

ことの心ま

10 践ず

イザー」

## 食育5つの力

食育アドバイザー

## ☆ 全国食生活改善推進員協議会

- \*昭和45年発足⇔現在51協議会(46道府県と横浜市・大阪市・川崎市
- **北九州市**・福岡市の 5 政令指定都市) 宮崎市で50周年記念大会が開催された。 令和元年50周年を迎え、
- (男性会員 2,197人) \* 令和 4 年度 会員数…103,477人 (名誉会員 936人)
- \* 昭和45年の発足時は会員数:17,490人(ピーク時:平成10年…223,072人)
- 加入市町村…1,283市町村 \* 令和 4 年度
- \* 令和 4 年度**活動実績**
- 60.2人 ・1人当たり活動対象者 14.6回 ・1人当たり活動回数
  - 10.9回 ・1 人当たり自己学習

## ☆ 北九州市食生活改善推進員協議会

- 平成15年福岡県協議会から独立し全国協議会組織へ加入。 福岡県北九州支部から北九州市食生活改善推進員協議会へ改称。 各区協議会も北九州市〇支部から北九州市〇区協議会へ改称。 \*昭和47年発足、
- (男性会員 21人) \* 令和5年度会員数…1,066人(名誉会員20人)
- \*事務局…行政事務局●北九州市保健福祉局健康推進課(栄養士 協議会事務局●小倉南生涯学習センター(会員)
- …会長1名・副会長2名・会計2名・書記2名➡各区会長 蘂 **\*** 篮
  - 常任理事14名▶各区会長、副会長
- 理事21名➡各区会長・副会長2名
- 運動部 部会➡研修部·広報部·HP部·事業部·献立研究部 各部会は委員長と各区1名の部員で構成
  - 会長会、常任理事会、理事会、拡大会議 役員会、 議…総会、 ₩ \*

### 重点目標 0

- 1 会員の増加に努めましょう。
- 2特定検診・がん検診等の受診向上に努めましょう。
- 健康寿命の延伸に努めましょう。 の目標に向って、 [健康日本21(第二次)]
- 食育の推進に努めま 4 食育基本法の趣旨に賛同

### 活動目標 0

- 1組織の強化に努めましょう。
- べ 2特定検診・がん検診を積極的に受診し、地域にも受診を勧めましょ
- 3子どもから高齢者まで各世代に合った食育活動を進めましょ
- 4 ے 4 「健康日本21(第二次)」の目標に向って、うす味習慣の定着を進めま
- 5 食料の自給率向上のために地産地消に努めましょう。
- 10 環境浄化に努めましょ ごみを少なくし、 6 食料資源を大切に、
- 災害に備えた地域づくりを推進しましょ

### ★7区協議会の活動

- 理事 織…役員、 ●
- ▶事務局…区役所保健福祉課 栄養士
- 理事分 役員会、 議…総会、 ⟨¼



- 家庭訪問他 ĺ 地域の市民センタ 活動拠点…区役所、
- 北九州市栄養改善 日本食生活協会事業、 地域事業他 区事業、 (一) 企業事業, 実践活動…自主活動、 事業

### 組織図 も 立くり 協議会 116



・子どち会・婦人会・婦人会・スポーツ推進委員・校区南少年育成会

自治公民館連合会 公園愛騰会 · 河川愛護

〇〇区食生活改善なき人クラブ・健康で

市民始災会

社会福祉協議会

自治会

主工工作的

総務・ 広報 記会

智机

まちづくり協議化

### **食生活改得机的**例 学校・FMなど BANK CHESTAL

### (毎月1回 践活動 **₩**

## 「**ふれあい昼食交流会**」(ふれあい昼食交流会作業マニュアルに沿って開催) \*

平成6年から本事業として安全・安心に開催し、 令和2年度からは、コロナ禍で感染症拡大予防のため開催を多くなりましたが、令和4年度から毎月開催する会場が増え 中止する月が多くなりましたが、 平成5年にモデル事業、 今年で30年。 ています。

- 孤独感も強い高齢者に対し、食を通しての他世代との交流会 高齢者の一人暮らしや夫婦のみの世帯の食生活は 家に引きこも を開催し、ふれあいの中から高齢者が生きがいを見出し、併せ 栄養予防等の食生活の改善を図っていくことを目的とする。 偏りがあり問題が多い。また、 単調になりがちで、 目的…一般的に、 から、
- 対象者…65歳以上の一人暮らし又は夫婦のみの世帯の希望者
- 場…市民センター(令和4年度100会場で879回開催 参加者18,278名) **∜**|1
- 容…食事提供・ふれあいタイム <u>K</u>

女部な道容離、NPO やポランドィア

※ 構成団体には企業や商店連合会、

校区440J/Aの女協登録

各种生涯學習透

名類体育活動

老人クラブ活動

**哈朗' 张赋册案** 

めれあい悪魔交流会

安全・安心パトロール





## 一般財団法人日本食生活協会事業

(対象者…幼稚園児の年長から小学生親子 場所…市民センター) \*おやこの食育教室

・目的…子どもにとって幼児期から小学校低学年期は、人格形成に最も大切な時期であり味覚を始め豊かな感性を培われ、心と身体のバランスのとれた人格を育てるといわれています。「食育5つの力」をテーマに「朝食欠食と供食の大切さ」を知ることを目的に取り組む。食の基本である主食、主菜、副菜を理解させる。また、関心が高まっている食物アレルギーや食品ロスについての情報提供も行う。

生涯骨太クッキング (対象者…成人~高齢の地域住民 場所…市民センター)

・目的…加齢に伴い食欲が低下し、特に単身高齢者世帯では料理を作る意欲も減退していくため、低栄養状態になる高齢者が増加しており、低栄養状態が続くとフレイルから要支援・要介護状態を招きやすくなる事や運動機能の障害(ロコモ)が認知症の要因となることから「生涯骨太クッキング」を実施し予防のための調理実習やロコモ・認知症予防のためにロコトレに取り組み正しい情報の提 めの調理実習やロコモ 供を行う。

### (毎月1回) 健康料理普及講習会

- 食生活の改善 纪  $\blacksquare$
- 地域住民 괚 対級:
- 市民センター他 业 <\| 1
- 会 調理、 *1*61 Н マに沿ったメニ 卜 缈  $\mathbb{K}$











資料

098



# \*男性のための料理教室 (対象者…成人男性 場所…市民センター他)

・目的…男性の単身世帯が多くなり、スーパーやコンビニで食事を済ませる人が多くなってきている。料理を経験したことのない男性を対象に、食の自立支援を行うもので、レシピ集で「生きていくための20の品目」を学び、日常での料理が一通り出来るように伝える。その後、意欲のある人たちには中級・上級とレパトリーを広げて行く。本教室が男性の地域参加や仲間づくりのきっかけともなっている。

# \* やさしい在宅介護食教室(対象者…ヘルスメイト及び一般住民 場所…市民センター#

・目的…日本の高齢化率は平成29年に28.1%となり、平均寿命も男性81.25歳、女性87.32歳(2018年)と更新を続けている。しかし、加齢に伴い食欲の低下や料理を作る気力も減退していくため、低栄養・フレイル状態になる高齢者が増加しており、今後は家庭における食事介護の知識習得が必要と思われることから家庭でできる介護食の学習を目的に実施。

# \*全世代に広げよう健康寿命延伸プロジェク

### | 若者世代]

・目的…*高校生から大学生*までを対象に出前講座を実施し、朝食欠食等の偏った食生活は将来、生活習慣病を発症するリスクが高まる事や健康な身体を維持するためには、バランスの取れた食事を習慣化することが<u>食事の楽しさ</u>に繋がる事等を伝える。

### 働き世代]

・目的…<u>主に就労者</u>を対象に、共働き世帯の増加や働き方が多様化し健康にも不安を感じるようになり、糖尿病や高血圧等の生活習慣病が心配される世代でもあることから、講習会等で定期的な健康診断の薦めと共に体重測定や血圧測定の習慣化を推進し、適正体重の維持や減塩の大切さを伝え、<u>生活習習慣の見直し</u>を推進する。













りにさせない」の閉じこもりの解消を進める。





### ★北九州市栄養改善事業

- ●減塩普及講習会 ■減塩普及月間
- 調理補助等業務
- 高齡者対象調理補助等業務
- 食生活改善推進員による訪問事業
- 食生活改善推進員養成教室 親子ですすめる食育教室
- 食育の普及・啓発活動

## ★北九州市子どもの館 (毎月1回)

●キッズコーナー におや (コロナ 禍 で 休 上 )





・目的…「シニアカフェ」を拡大し、自宅に閉じこもりがちな 一人暮らしの*高齢者*に対し低栄養・フレイル予防と適度な運 動を伝え、認知症予防のためのドリルによる挑戦やご当地体 操によるロコモ予防の普及啓発と「ひとりにしない」「ひと

[ 高幣甘代 ]











# 食生活改善推進員による訪問事業について

• 北九州市食育アドバイザー証とは

訪問活動に従事するためにの「北九州市食育アドバイザー養成 研修」を受講し認定された会員

- ・訪問活動を実施するときは、事前に説明会に参加。
- を身に着 二人一組で「北九州市食育アドバイザー証」 ・訪問は、けて行う。













### ★地域活動

### ▽食育活動

★参加イベント

• 食育キャンペーン •子育ちフェスタ

• 食品衛生の日

- ▶ 減塩普及・啓発

- ▼生き生き子ども講座の料理▼センター祭り(食バザー・活動パネル展示等)
  - ▶ 地域でGOGO健康づくり事業
    - マセンター講座 マ防災訓練(炊き出し)

生き生き子ども講座

- 障害者の料理教室











西日本総合展示場

小倉駅ジャム広場









- •記念大会…北九州芸術劇場大ホール
- 記念祝賀会…リーガロイヤルホテル小倉
- アーブ ・地産地消マルシェ…男女共同参画センター















子ども食堂ネットワーク北九州 令和5年11月17日 事務局 上島 未知人

取り組みについて

### 子ども食堂について

ども食品

[「子ども食堂」とは?]

▶ はっきりとした定義は無い。強いて言えば、

子どもが1人でも安心して来られる、無料または低額の食堂。

- 「地域食堂」や「みんな食堂」という名前のところもあり、子どもだけでなく、お年寄りや学生などが利用者として参加するところもある。
- 食事の前後に、子どもたちとスタッフが一緒に遊んだり、 宿題や勉強をして過ごしたり、企画やイベントを開催したりなど、 単に食事をするだけでなく、<mark>楽しく過ごす居場所になっている。</mark>

N



## 北九州市の子ども食堂についる

【子ども食堂の数】

※R5.11月時点 58ヶ所

【おもな開催頻度】

▶ 月1、2回程度

最初は貧困対策や孤食の防止を目的に実施されることが多かったが

最近では多くが<mark>子どもの居場所づくり</mark>として実施。

スタッフには、子どもたちの親の世代以外にも、大学生や高齢者 なども多く、<mark>多世代の交流拠点</mark>にもなっている。

2012年に東京都大田区にできた子ども食堂で初めて「子ども食堂」

[「子ども食堂」とは?]

子ども食堂について

という名前が使われ、以降、日本全国に広がった。 毎年<u>1千か所程度</u>増えており、現在、全国で<mark>約7,300か所</mark>。

[平均的な参加人数]

ボランティア:15人前後 ▶ 子ども:20~30人前後

【平均的な参加費】

大人: 無對~300円 ▶ 子ども: 無数~100円

က

## 北九州市の子ども食堂についる

### (中な運営回体)

地域の有志のボランティアグループ、NPO法人、 企業・団体、など

### (主な開催場所)

ながバ 自己所有の建物、 ▶ 市民センター、大学施設、

[ボランティアスタッフの役割]

などが ▶ 調理、子どもたちの見守り、学習支援、遊び相手、

## 子ども食堂開催の流れ(例)

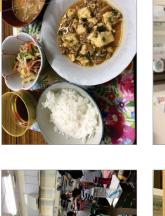
調理や会場の準備開始  $15:00\sim16:00$  子ども食堂の開始(遊びや学習の時間) 17:00

食事開始 (いただきます) 18:00 (ごちそうさま) 食事終了 19:00頃 お迎え~帰宅 遊びや学習の時間、  $\sim 20:00$ 

S











# 子ども食堂ネットワーク北九州」(

## 「子ども食堂ネットワーク北九州」とは?】

- 民間を主体とした子ども食堂の活動が、継続した取組としてさらに 広がるよう、子ども食堂に関心のある個人や団体が横のつながりを 持ち、継続した活動として取り組める環境を整える事を目的に設立。
- 現在は主に市内の子ども食堂が加盟し、子ども食堂同士の意見交換 や情報交換の場の提供、寄付金や寄付食材の分配、衛生管理等の 研修会の開催といった運営サポートを行っている。
- 事務局は市(子育て支援課)と民間団体が共同で担っている。



## [子ども食堂の新規開設や運営の支援]

子ども食堂の立ち上げを考えている方々への相談対応や、 既に子ども食堂を運営されている方々への助言や情報提供など。

## (寄付金や寄付食材の管理・分配等)

- 寄付金や寄付食材等を子ども食堂の希望等に応じて分配、配送。
- 啓発イベントの開催や講演等を通じて、市民や企業・団体の皆<mark>様</mark> に対し、寄付金や寄付食材の提供、ボランティアの派遣など、 子ども食堂への支援を呼びかけ。

<mark>ග</mark>

# 「子ども食堂ネットワーク北九州」 の主な活動

### (衛生管理等の研修会の開催)

「衛生管理研修会」など、子ども食堂が安全・安心に運営される ための各種研修会や、その他運営の参考となる研修会の開催。

### (お問い合わせくの対応)

市民や企業・団体の皆様からいただくボランティアのご希望や、 子ども食堂へのご支援のお申し出等に対し、ご要望に合う子ども 食堂の紹介やマッチングなどの対応を実施。

9

## ありがとうございまし 複数の大学の学生が活動している子ども食堂ネットワーク北九州の学生部会「ちるっく!」と連携し、市内の子ども食堂に学生ボランティアを派遣。 「北九州市立大学」「九州栄養福祉大学」「九州共立大学」など

・子ども食堂ネットワーク北ナートの主な活動

【「学生部会」との連携】

多くの方々に「子ども食堂」を正しく知っていただき、子どもたちや地域の皆様の居場所として子ども食堂を広げていくため、 さまざまな手段により子ども食堂の普及啓発を実施。

【「子ども食堂」の普及啓発】



# 食を通じた地域づくりと支え合い活動

# ~フードバンクとフードサポート事業について~

フードサポート北九州実行委員会 実行委員長 フードバンク北九州ライフアゲイン 理事長 原田昌樹

### 目標:全小学校区へ 子ども食堂設置 話せるまちを 子ども食堂 "2 < 5" 困った時 気軽に 狐立させない共助のまちづくり もちつき大会 トロソロ 顏見知り 生活液 子育て支援 昼食交流会 いれあい朝市 原作1) (4) 10 取り残さない 目標:全小学校区へ 地域型フードパントリー "2 < 2" 雑ひとり まちな ポキドー

## フードサポート事業

## 食を通じた地域づくりと支え合い

- ①食を通じて、人と人との温かいつながりをつくりたい。
- ②ちょっと困っているとき、安心して何でも話せる居場所をつくりたい。
- ③食品口ス対策で「もったいないをありがとう」に変え、食品が循環していくように、
- 「あなたもわたしもお互いさま」と、思いやりが循環していくまちを目指したい。

(困っているときほど、ひとりではないと思えるまち)



1 拠点型 方 条 音 広へ食料を必要としている人 (低所得世帯、単身高齢者 ひとの親世帯、外国人市民、 大学生など)

しながこ先

相互に連携

2 地域型フードパントリー開催

対象 者 地域で食料を必要としている人 (低所得世帯、単身高齢者 ひとり親世帯、外国人市民、大学生など)

 
 地域型
 つるか目先

 フードパトリー (優特配布を通して 地域とつながる)
 (民生委員、福祉協力員、校区社協)

 NPO法人など

資料-106

## 拠点型フードサポート事業



目的1. 相談会につなげる

目的2. 連携ネットワークの強化

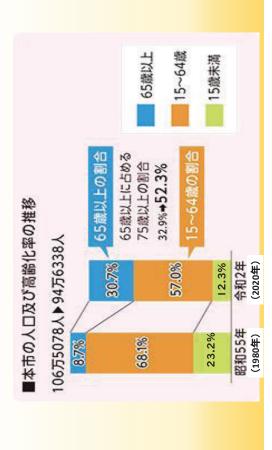
地域の絆が希薄化している現代

## 地域交流型フードサポート事業

めとする地域の見守リネットワークや 各地区の民生委員や福祉協力員をはじ 食品を提供するフードバンクなどの 社会福祉協議会が中心となって

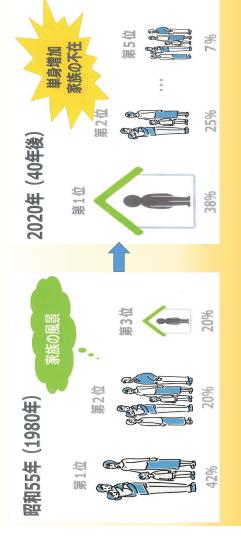
### 関係機関と連携

## 【人口減少と少子高齢化】



## 【増加する単身世帯】

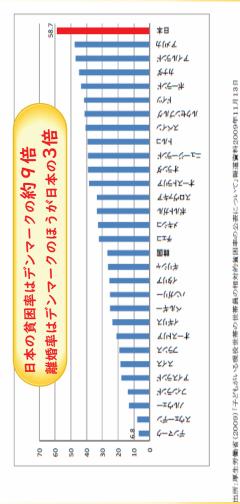
子どもを取り巻く状況



# 自助や公助とともに共助の力が強められていく そんなまちをつくりましょう

ひとり親世帯の貧困率は最下位





資料-108





## 地域交流型のやり方はいろいろ

- ▶フードロス対策を切り口にしてもよい
- ■困っているひとがつながる場所にしてもよい
- ●新しい居場所にしてもよい
- ●いままで行っているイベントと一緒にしてもよい 地域交流型のフードサポート事業は、

食を通じて地域がこれまでやってきた

継続的に続けることができるよう応援するしくみです。 人と人とのつながりやお互いさまの助け合いを



# 校(地)区社協上は~北九州市の社会福祉協議会の構成~

対 法

### 校(地)区社協(155)

地域の福祉課題の解決に向け住民 が主体となって取り組む小地域福祉 活動の中心的役割



社会福祉施設等 地域の施設やボラ ンティアグループ、 NPOなど多様な関 係団体による地域 貢献

支援

食でしながるフラットフォームづくり北九州研修会

いのちをつなぐネットワーク、 地域包括支援センター等 区役所

区社協(7)

お換すボコーディネーター

対 対

校(地)区社協の基盤強化等 のバックアップ

市社協(1)

压减

社会福祉法人 北九州市社会福祉協議会

全市的な範囲で区社協の基盤強化や事業の基盤を整備

## ふれあいネットワーク活動の概要

ふれあいネットワーク活動は、市内すべての155校(地)区社会 福祉協議会が中心となって、「見守り」、「話し合い」、「助け合い」の3つのしくみを進める住民主体の小地域福祉活動です。



福祉協力員(概ね50~100世帯に1人)が<mark>民生委員・児童委員等</mark>と連携し、支援が必要と思われる世帯を見守って



見守りや助け合いで把握した困りごとを共有・解決する ために、校(地)区社協が中心となって関係機関・団 (連絡調整会議) **緒に**話し合いを行います。



見守ので発見した生活の困のごとに対し、<mark>ニーズ対応員等</mark> 地域住民が手助けをしています。<mark>ニーズ対応チーム(おたすすけ隊等)</mark>を立ち上げている校(地)区社協もあります。

## ふれあいネットワーク活動に関わる人たち

### 福祉協力員

支援が必要と思われる世帯を見守る地域のボランティアです。 市社協会長が委嘱します。 校(地)区社協の推薦に基き、

### ■民生委員・児童委員

役」として活動するボランティアで、市内で約1,500名の方が 厚生労働大臣から委嘱されています。 住民の抱える様々な困りごとに対して、地域の「身近な相談

日常簡易な手助けを行う ■二一ズ対応員(チーム)見守りで発見した困りごとに対し、 地域のボランティアです。

## 見守り活動の状況・体制について

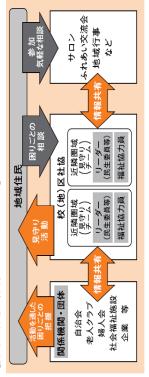
450の福祉協力員が 550校(地)区社協で 6

計132,844世帯を見守っています。



中り活動の体制にしてト(イメージ)】

その他 1.5%





### 腕自慢おまかせサービス等の実施 (生活の困りごとを助け合おう)

お助け隊などのしくみづくり、 ニーズ対応チームや

【K4年度全市の助け合い活動の状況】 74,895世帯〜延べ655,875回

0.5% 0.5% 1.6% 4.6% 0.5% 困りごとの相談 外出時の同行 買い物支援 古紙回収 庭の掃除 ゴミ田し

0.3% 0.4% 布団干し・入れ 薬取り

日常簡易な助け合い

見守り活動などにより発見された困りごとに、 住民のできる範囲で助け合い活動を行います

### しくみを持った助け合い

ボランティアグループ、お助け隊、移動販売など、チームを立ち上げたりしくみをつくったりして、助け合い活動を行っている地域もあります

### コーディペーターの土な活動 **书**真 大 脈

情報共有 ■担当校(地)区における活動状況・課題の把握、

地域包括支援センタ 155の校(地)区の情報収集や課題の整理、 員をはじめとした関係者との情報共有。

■第2層協議体の運営支援

95の重点支援校区の運営支援。

生活支援サービス創出の支援 ■地域の互助の仕組み、 ふれあいネットワーク活動※(見守り・話し合い・助け合い) サロン活動の支援等。 小地域福祉活動の人材育成、

### ィネーターの役割 Ĭト | **书**真大滿 1

- 地域包括ケアシステムの構築に向けて、地域の見守り・支え合い を強化し、住民主体の介護予防・生活支援サービスの創出を促進 するため各区に配置。
- 多様な主体が協働する 校(地)区社会福祉協議会※を中心とした、 2層協議体の活動を支援。

16人の地域支援コーディネーターが155の校(地)区社協を中

\*

心に第2層協議体の活動等を支援しています

### I 加 盆 区 **1** ≻ 八幅西区 ≺ ღ 八幅東区 ≻ 0 岩 松 区 $\prec$ S X $\prec$ 小倉南 小倉北区 ≺ ღ 門司区 ۲ ۵

地域支援コーディネーター活動の特徴

# **公議参加を通じた「顔見知り」の関係づくり**

各種会議に参加し様々な人との「顔見知り」の関係づくりによって、

- サロン活動などの地域の活動や地域の困りごとなどの情報収集
  - 困りごとに対するサービス窓口の紹介など情報発信

を行っています

年度実績 (令和 4 一の会議参加 X 11€  $\overline{\phantom{a}}$ آ ا ★地域支援コ

	校(基)区 社部	医児協	直 連合 会	キロソ	その街	盂
回数	962回	540回	31	348回	653回	2,534回
人数	$18,775_{\star}$	$9,299_{\scriptscriptstyle \perp}$	838	$7,681_{\perp}$	$14,737_{\scriptscriptstyle \perp}$	51,330

### 買い物支援のしくみく ーズ発見から計画づくり、

いままでは「地域のための取組」といって もどうすれいいかわからなかったが、<mark>施設 <u>Nでも防し合う場会</u>が生まれ、地域の一員 として私ために求められている役割を見出 すことが出来た</mark> 小森江東校区(門司区)社会福祉協議会の**小地域福祉活動計画の策定を通じて、**知 的障害者福祉施設(ひかり工芸社)の利用者が担い手として地域の中で活躍する、 施設職員の声 買い物困難者への支援の取り組みを創出 地域支援コーディネーターが、地域の因のC とについて話し合う場(連絡開整会職)で 「最近程度が弱って買い物に因っている人が 増えてきた」と聴いたことを機に、地域の課 題や高齢化率等の情報を見える化し、校区全 体の課題であることへの気づきにつなげた

始めたきっかけ

実践の経過

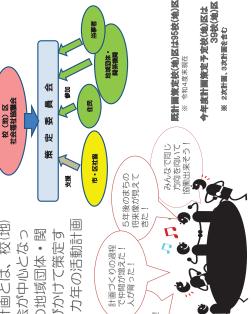
校区では、小地域福祉活動計画づくりに取り 網かていたため、多様な主体の参画を得なが か、地域の因の「ことの解決に向け、団体・施 影等がどのような課わりが出来るのかをしっ くり話し合うことができた

社協職員が留意した点

 ○活動者には一定の負担感が生じること を認識した上で、どう役割を分担するか を考える ○地域の800 ことを具体的に解決することで、地域活動者のやがいにもつなが るという好循環を生み出していく

### 小地域福祉活動計画について

る、校(地)区の5カ年の活動計画 校(地) 区社会福祉協議会が中心となっ て、住民や各種の地域回体・関 **条機関などに呼びかけて策定す** い地域福祉活動計画とは、



取り組みの 優先順位や重点が はっきりしてきた!

54

うちの地域には そんな課題が あったんだ!

### R 5 年度 老人保健健康增進等事業

### に関する調査研究」について 協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成

専務理事 平野 覚治 全国食支援活動協力会 

### 老人保健健康増進等事業での取り組み

無解

「闘弾ボランア・アの派遣」活動を 創出して、地域サロン応援 サロンの関盟ボランティア (########## こんなるの と記事のの第ピンシックを記むし、他が選 しまますシットでも言葉しています。 表 ×出路·设制

.]|||

▲食を通じた居場所をめぐるアセットに着目。 各地でヒアリング調査を実施し、ガイドブックとして発行

### ### SHORD >>>> CONTEST ### TANK = 22/2/1 \*\*\*SHORD ### SHORD ### S 議員>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>>> 「多様な食支援サービスとその可能性」 千葉大学人文科学研究院教授 清水 洋行 氏 ファシリテーター 日本大学文理学部教授/本事業研究委員会委員長 内藤 佳津雄 氏 議職>>>>> 「集団収益からの学び」 総域市高齢福祉関係等権社関係等 生活支援コーティネーター研修 食のちからで地域を豊かに 事例から考える「食」のアクションプラン ショント「食のアクションブランを考える」 4年信告人会報告報告報告2月日子子子・ターによる信託司券の(他)関係引起報告が支票と 能な回口・ディテーターによる信託司券の(他)関係を関係を を対して終めるのは事業機能・整理に関する課金部内

▲行政・生活支援コーディネーターを対象に 事例紹介やディスカッションを行う研修会の実施

### 全国食支援活動協力会とは

35年間にわたり積み上げた食でつながるネットワーク組織

赤い羽根福祉基金 **○ ことと言の第1全国リアー** 

1986年

高齢者配食サービス・会食会の 連絡会組織として設立

「広がれ、こども食堂の輪!全国ツアー」 事務局

2016年9月

休眠預金活用事業「子ども食堂サポート機能設置事業」(2019~2022)

2019年11月~

- 多世代が食でつながるコミュニティづくり」(2022~2025) 「食の物流ネットワーク整備プロジェクト」(2020~2023)

食を通じた地域の支え合いを広げよう

こどもから高齢者まで、すべての人が「食」を通してつながり住まい続けられる地域を目指し産される場でなりなりない。 産官学民、多様なセクターとの連携により活動に取り組んでいます

© 2023 mow

### R 5 年度 老人保健健康增進等事業

関する調査研究 「協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に

食支援活動を支え・芳醇化させるプラットフォーム形成についての調査研究を実施。モデル地域として、鳥取市、北九州市、五所川原市を調査。

### ■実施内容

・研究委員会/ワーキング部会の運営 ・調査の実施 モデル地域「て食支援ブラットフォームの構築プロセス、 関係構築のプロセスをヒアリング調査を実施

・研修の実施 食支援プラットフォーム構築・拡大のため、事例共有やワークを実施

成果発表会の実施、研修ツールの作成 モデル地域の事例紹介、導入に向けたツールを掲載。

委員長 内藤 佳津雄氏 日本大学文理学部 教授 教山 由美子氏 特非)日本地域福祉研究所監事 構成委員 ■研究委員会

稻城市福祉部高齡福祉課高齡福祉係 係長 一社)全国食支援活動協力会 代表理事 千葉大学大学院人文科学研究院 教授 特非)フェリスモンテ 事務局長 全国社会福祉協議会地域福祉部 部長 一社)ともしぴ at だんだん 代表理事 琉球大学人文社会学部 専任講師 香川県社会福祉協議会 事務局長 産業能率大学経営学部 教授 高崎市長寿社会課(主管課) 日下直和氏 近藤 椰子氏 清水 洋行氏 イ 高細 財牧氏 1 高橋 良太氏 1 中 昭 大氏 1 中 昭 一 1 原 原田 兄弟氏 1 原 原田 兄弟氏 1 原 原田 兄弟氏 1 原 原田 兄弟氏 1 荒井崇宏氏 石田惇子氏

一社全国食支援活動協力会 專務理事 平野覚治氏

## 「食支援プラットフォーム」(仮称)形成の背景と意義

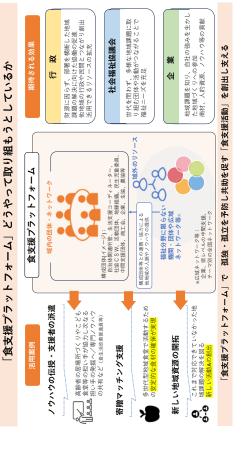
「食」を通じた地域活動は、生活支援、介護子 17、ユニティ 動目において多面的な価値・効 用をもたらずものである。 その一方、高価者を主体とした部場は担じ・手 不足(高齢にどう意子の足を関係していまり、多くの 地域で活動機能ができまったといました。 生活を握体制整備が開発した。まった。 も、多くか地域情報をのできまった。 民活動はからまった。 日本のの出版を表する結構によいて も、多くか地域情報の形偶・整理にとまり、住 民活動の創出や構造機の開催。整理にとまり、住 民活動の創出や構造機が回帰してまり、在 民活動の創出や構造機能の開催。

### 解決方策:

そこで、企業や協同組合、商工会など福祉分野に 図りない会様な機関の 団体や、地域外の広域ネット ワークとの看機的な連携によるプラットフォーム構 築が、解決策の一つと考える。

超十三 支え合いの活動創出に関わる生活支援コーディネーター等がその力を発揮して活動を活性化していくためには、多様なリソースからの資源調達を図っていく必要がある。

### 食生活支援が活性化・継続されることにより、 栄養状態の改善、心身の健康へつながり、 担い手の増加へ寄与。 活動の活性化に伴い、担い手となる機会増。 出着や役割の機会が増えることにより孤独孤 立の解消へ 「食支援プラットフォーム」で 孤独・孤立を予防し共助を 促す「食支援活動」を創出し支える 食支援プラットフォーム(仮称)とは: 実施院院制度における職権にのみとらわれず、既存資産の選用や資源循環を目途 とした連絡会や会議体(協議体)から構成される、食支援に着目されたの広義の会 職体をプラットフォームと位置づける。 自治意識、社会参画意識の醸成 多様なサービス増による介護予防へ寄与。 「食支援プラットフォーム」(仮称)が解決を目指す社会課題の射程: 地域活性 まちづくり 見守り 相談 交流 つながり 田衛 役割



五所川原市社会福祉協議会 平山博文

### 「食」を活かして推進する"つながり"の構築

支援の対象者を迅速に把握 / SC、社協の24時間相談等

心身機能や行動意欲の低迷から、孤立したり支援が届かなくなるリスクが高い人達

独居高齢者・障がい者等

注目移行?

子ども、子育て世帯・生活困窮者等

### 食事がある高齢者のつどい

- 会話しての食事はうまい
- ・参加が多くて会場が狭い
- 会場まで歩けない
- 皆でゆったりしたい・・・

企画は地区社協 /13区域

### 地区社協には、

- ◎日常的に資源が見える
- ◎ネットワークがある
- ・課題に近い多様な地元住民

町内会·施設·福祉関係者·農家· 商店・空き家・技術や趣味持ちの

人・○○の達人など

&

多様な主 体の参加

### こども宅食おすそわけ便

住民が食品、日用品、 労力、資金など提供 【利用者の声】

- ◆届く食品やお菓子で 家族の笑顔が広がる
- ◆食品が少なくなると、 会話も少なくなる

市民ボランティア・団体の社会貢献の連携

社会福祉法人等連絡協議会 ≪市内の全法人が参加≫

- ・民生委員・児童委員
- ・市民、ボランティア連協

行政、市内外・全国の企業 団体の連携支援等

深刻な課題に 関心拡大

### 【 協力者の声 】

- ・子供に限らず、必要な人に役立つこと ならば協力する
- ・今度は、OOさんにも呼び掛けてみる

既存の連携

★社協ボランティアセンター

◎アクティブシニアポイント事業

- ・市民、多様な主体の参加啓発 (奉仕、研修、組織化、保険等)
- ・活動者が楽しめる行動の提案

★青森しあわせネットワーク 食事を含む緊急的な個別支援

★フードバンク等制度

住民等による広い支え合い

★活動支援団体等との連携 (物資、資金、情報等)

- ・困りごと解決に活かせる資源を把握・連携して地域の宝にする
- ・「食」の魅力を活かした"つながり"の継続と孤独・孤立の予防

一人ひとりが持っている 「出来ること」に気付き 持ち寄って、地域に活かそう

お互いに支え合い、

幸せと笑顔があふれる暮らしの実現

資料-115

### ビジョンの共有「五所川原市の今後の展望について」

五所川原市 福祉部 地域包括支援課 笠原美香

### 令和5年度 五所川原市の施政方針 「だれ一人取り残さない」地域づくりを展開する (Inclusion)

高齢者編



令和4年度 五所川原市介護予防・日常生活圏域ニーズ 調査から一部抜粋

### 【対象者】

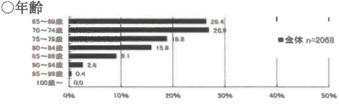
65 歳以上の市民(要介護認定者を除く)3,000人(無作為地出)

【調査方法】郵送配布・郵送回収

【実施時期】令和4年9月 【アンケート回収数】2,068枚(回収率68.9%)

### 結果

○属性 「女性」が 56.1%、「男性」が 40.3%



### ○外出する際の移動手段は何ですか。

「自動車(自分で運転)」が 54.8%と最も高く、次いで 「徒歩」が 38.7%、「自動車(人 に乗せてもらう)」が 28.2%、「自転車」が 21.4%であった。

○どなたかと食事をともにする機会はありますか。

「毎日ある」が 49.9%と最も高く、次いで「ほとんどない」が 16.3%、「年に何度かある」が 12.7%、「月に何度かある」が 12.3%であった。

○「**生きがいあり」が 55.6%**、「思いつかない」が 40.1% であった。

○家族や友人・知人以外で、何かあったときに**相談する** 相手を教えてください。

「そのような人はいない」が 44.1%と最も高く、次いで 「医師・歯科医師・看護師」が 19.4%、「地域包括支援センター・役所・役場」が 15.0%、「社会福祉協議会・民 生委員」が 10.5%であった。

### ○現在のあなたの健康状態はいかがですか。

「まあよい」が 66.1%と最も高く、次いで「あまりよくない」が 19.1%、「とてもよい」が 8.3%、「よくない」が 3.1%であった。

○あなたは、**現在どの程度幸せですか**。(「とても不幸」を 0 点、「とても幸せ」を 10 点として、点数に○をしてください)「5 点」が 24.0%と最も高く、次いで「8 点」が 19.5%、「7 点」が 13.1%、「10 点」が 11.4%であった。回答者全体の平均点は「6.7 点」であった。

### ○介護予防のための通いの場(地域サロン)

「参加していない」が 75.6%と最も高く、次いで「年に数回」が 1.1%、「週 1 回」が 1.0%、「月  $1 \sim 3$  回」が 0.7%であった。

### ○老人クラブ

「参加していない」が 72.4%と最も高く、次いで「年に数回」が 7.1%、「月  $1 \sim 3$  回」が 0.8%、「週  $2 \sim 3$  回」が 0.2%であった。

### 課題と取り組み

共働き世帯の増加や単身高齢者の増加により子育 てや介護の支援がこれまで以上に必要となってい る。また、核家族化、ひとり親世帯の増加、地域の つながりの希薄化等により家族又は地域内の支援 力が低下している。このような状況の中で、地域全 体で支える力を再構築することが求められる。

### 今、地域、介護現場で起きている現状と課題—

○地域の問題の多様化・深刻化・潜在化

- (多様な価値観、多様な住まい方、家族の形、所得
- ・健康格差を背景とした多様な問題)
- ○担い手不足(人手不足)

ヘルパー、ケアマネジャー、医師、看護師を含む 医療と介護人材の不足

地域住民同士のつながりの希薄化→ソーシャル キャピタルの脆弱化

○人口減少による地方税収の減少、現役世代の社会 保障負担の増大など(社会保障の持続可能性の確保)

### ☆新たな健康課題

「孤独と孤立」「生きる希望の喪失」

### 先行研究では

・社会的孤立を経験している高齢者は、死亡リスクは 1.9 倍に、認知症は 1.6 倍に、介護リスクは 1.5 倍に、それ ぞれ上昇することが、3 万人超の高齢者を対象とした調査で、明らかになった。

出典: JAGES プロジェクト、2023 年

・社会活動に参加している高齢者ほど健康状態が「良い」 ・認知症のリスク(相対リスク:抑うつ 1.9、社会的孤立 1.6、糖尿病 1.5、身体不活発 1.4)

地域包括支援センター:市直営包括1カ所、協力機関市内9カ所

介護予防、認知症施策に重点を置き、持続可能な 介護保険制度の維持と、地域高齢者の幸福に寄与 できる支援体制の整備と事業の展開に取り組んで いる。

### 令和5年度の新規事業 社会参加と健康寿命の延伸

- アクティブシニアポイント事業
- •「お昼ご飯の会」の開催。目的は、地域で暮らす独居高齢者の安全や健康状態の確認、社会参加のきっかけづくり、生きがいや楽しみができることである。市内で「通いの場」がない地域など、10カ所を課内で検討し、年2回、昼食会を企画。介護予防に資する講話やレクリエーション、栄養士からの講話を盛り込んだ。食事は、食生活改善推進員の協力を得ている。

### ビジョン keyword: Well-being 市民が元気で夢や生きがいを持ち、幸福を感じ、住み続けたいと思う地域社会の実現

健康を維持できる活動の推進

地域で集い、交流する場の整備

多様な場で活躍できる仕組みづくり

活動を支える地域基盤の充実

- ・健康管理の他、フレイル予防(多様な運動の機会を設定し、PT,OT、栄養士、薬剤 師、歯科医師、保健師等専門職による健康教育)や認知症予防(物忘れ検診の受診) の推進
- ・地域の人が集まったり、交流し、笑顔になれる場所の整備**(食を通した多世代交流の場)**
- ・アクティブシニアポイント事業(ボランティアポイント事業)とのマッチングで高齢者の持つ知識、経験、技能などが人的資源として活用される仕組みを構築する
- ・生活支援コーディネーター、民生委員、町内会、保健協力員、食生活改善推進員、社協、行政が横の**連携をとり、協働しながら**、高齢者の活動ニーズを踏まえながら、社会参加しやすい環境を整備していく。

# 中央人権福祉センター事業概要

### 基本事業 必須事業 隣保事業

	地域福祉事業
任意事業	地域交流促進事業
	相談支援強化事業
報酬用が	自立相談支援事業
20公中米	住居確保給付金支給
	家計改善支援事業
44年	就労準備支援事業
# # # H	学習·生活支援事業
	一時生活支援事業

生活困窮者 自立支援事業

鳥取市における食を通じたプラットフォームの取組について

食でつながるプラットフォームづくり五所川原市研修会

ぎの備品購入、修繕など)

:て支援)

フードサポート委託事業(提供食材の集荷、管理) ・郵便局、ファミリーマートと連携したフードドライブ、他

フードサポート事業

地域食堂ネット ワークへの支援

車両借上料、他 官民連携による地域食堂への支援 ・事務局 人件費 (コーディネーター)、i ・支援団体等拡大のための活動 ・地域食堂への食材配布

認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ (一社)全国食支援活動協力会 MOWLS) ミールズ・オン・ホイールズ システム

重層的支援体制 整備事業

包括的相談支援事業 多機関協働事業 も 減 が へ の 静 採 相談支援

Pウトリーチ等を通じた継続的支援事業 官民連携プラットフォーム

2023(R5).11.21

孤独・孤立対策事業

※ しながりサポーターの織店 ※ 相談支援包括化推進会議 ンポンセムの賦御

## 地域食堂の推進と拠点の整備

### 麒麟のまち創生戦略会議(首長会議)

・2019(R1)年11月5日 圏域で地域食堂を推進していくことを決定

·2022(R4)年 2月8日

【香美町】 人口 15,858 世帯数 6,369 高齢化率 40.6

香美町

新温泉町

人口 181,516 世帯数 81,964 高齢化率 29.7 [鳥取市]

人口・世帯数・高齢化率

麒麟のまち

【新温泉町】 人口 12,438 世帯数 4,878 高齢化率 29.7

【岩美町】 人口 10,454 世帯数 3,926 高齢化率 37.5

麒麟のまち地域食堂等推進のための「食のネットワーク 整備プロジェクト事業」によりロジ・ハブ拠点を整備することを確認 地域食堂事業を基盤に、孤独・孤立対策を圏域で推進していくことを決定 ·2022(R5)年11月2日

魅力あるまちづくり

さまざまな機能をもつ地域食堂の取り組みを住民の生活圏域 において展開することで、高齢者・障がい者・子どもをはじ め多様な人たちが住みやすい魅力あるまちづくりへ!

账

世

共

【八頭町】 人口 15,832 世帯数 6,112 高齢化率 29.1

量建地

智頭町

[智頭町] 人口 6,290 世帯数 2,687 高齢化率 44.3

八頭町

鳥取市

嘭 田 业

得られる支援等を広域的に活用し、さらに、近隣町のそれぞ

中枢中核都市に集中する企業をはじめとする社会資源により

効果的な仕組みづくり

れの強みを生かした効果的な支援の仕組みづくりへ! 困難の 早期発見 相談支援

社会的 も対グヘッ 住民主体の 課題解決

 $\mathfrak{C}$ 

【若桜町】 人口 2,558 世帯数 1,271 高齢化率 49.0

居場所

連携中枢 都市圏 鳥取市

KIRINJISHI

資料-117

### 麒麟のまちの地域食堂

**「地域食堂」:子どもを中心に地域の様々な人が集う居場所、 多様な人や社会資源が繋がる場地域食堂は、地域の多様かつ多世代の交派拠点となっています。** 困難を抱える人・世帯に関わっていくことを基本としながら、地域の誰もが気軽に行ける「**たれでも食堂」=「地域食堂」と**して展開しています。



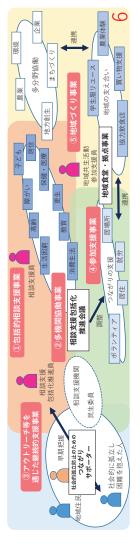




2 ・拠点設置後の冷蔵庫等の経費(電気代等)は市町負担 [ロジ・ハブ拠点の特徴] ・ロジ及びハブ拠点は、いずれも市町設置の施設内 ・拠点間及び配分先間の車移動は概ね30分以内・3つの幹線道路(国道)沿いに整備 ・3つの幹線道路(国道)沿いに整備 →効率的に冷凍・冷蔵品の配送、配布が可能

## 

		①包括的相談支援事業	相談支援員の増員やSNS等を活用した支援環境の整備により、相談者の属性や世代、相談内容に関わらず包括的に相談を受け止める。	相談支援員 增員1名
_	相談支援	②多機関協働事業	多機関協働の調整役を担う相談支援包括化推進員を配置し、市全体の体制として支援の進捗状況等の把握と伴走支援ができるように支援する。	相談支援包括化推進員
		③アウトリーチ等を通 じた継続的支援事業	アウトリーチ支援員の配置と社会的孤立防止サポーター養成を行い、支援が届いていない者・世帯を早期に支援につなげていく。	新規1名
=	参加支援	4参加支援	既存の社会参加に向けた支援では対応できない本人や世帯のニーズに対応するため、地域資源等を活用し社会との繋がり作りに向けた支援を行う。	地域共生活動参加支援員
=	地域づくりに   向けた支援	⑤地域づくり事業	地域食堂を拠点にした地域の支え合いと多様な主体の参画により、住民が 主体的に地域課題の解決を試みる活動を創出するための支援を行う。	新規1名



# 地域食堂|事業を基盤にした孤独・孤立対策官民連携

既に実施している「地域食堂」事業を フォーム推進事業」を進めています。 〇孤独・孤立対策官民連携プラット 〇「つながりサポーター」養成研修 基盤に、圏域の6町と連携しながら 「孤独・孤立対策官民連携プラット フォームの構成団体の拡充 の共同実施 1.78人/ 声帯 55 声 141人 2.56人/ 声 141人 2.56人/ 市 141人 2.56人/ 中 141人 2.56人/ 市 141人 2.56人/

丫99

37世帯

孤独孤立に関する 地域課題・ニーズを伝える

状況に応じた養成研修 等の運営・企画

支援に必要なノウハウ・ リソースの提供を求める

支援に必要なノウハウ・ リソースの提供

(医療介護連携推進室)

医療関係

社会福祉協議会

鳥取市

地域でくらす会「いくのさん家」 鳥取県医療生活協同組合 社会福祉法人

支援制度のない分野を 民間の力を借りて支援

郵便局、鳥取銀行、アクシス 人権教育推進協議会 (約800事業者)

とっとり震災支援連絡協議会 協同組合

※今後、構成団体を拡大

**Y**版ON

官民連携推プラットフォーム

孤独·孤立対策

麒麟のまち連携中枢都市圏事業として

企業·団体



 $\infty$ 

★特長・ボイント ・住民に乗ら近い立場で住民との 接点を持つ・ ・住民のお問リごとを自分事化 ・ 当地域での「住民主体」の高独 高立の問題知識・解決の素 地を形成

★ 地域の支援窓口(市) 将来的には、銀3gケースの具体的 支援に関わっていただく可能性あり

本特長・ボイント ・ 大振の終りに必要な名名で再かり 判断で参加される。 ・ 参加の体間で情報共有ができ ・ 中の安全性目保

総務部人権政策局(人権推進課、 中央人権福祉センター) 福祉部(地域福祉課・長寿社会課・中央包括 支援センター)、他

「フードサポート」 事業を拡充 つ物流業界との包括連携による

**孤独孤立の住民情報をつなげる** 

つながりサポーター

孤独孤立を抱えた住民を

リーチにより

個別支援を実施

相談支援包括化 推進会議









高齢者の孤独・孤立防止支援

高齢化率70%超地域ではじまった地域食堂

鳥取市 佐治町 尾際

住民の新たな居場所に

高齢化率 73%

2005年 2022年

# 広域連携】ロジ・ハブ拠点整備と食支援プラットフォームの形成

【食支援プラットフォーム形成に向けた情報交換会】(2023.10.12) 県内ロジ・ハブ拠点→フードドライブ拠点として活用

配送・一時保管の課題→「食支援プラットフォーム推進会議」を立上げへ

「麒麟のまち圏域+県域 食支援プラットフォーム推進会議」とすることへ 【麒麟のまち孤独・孤立対策市町担当者会】 (2023.10.30)

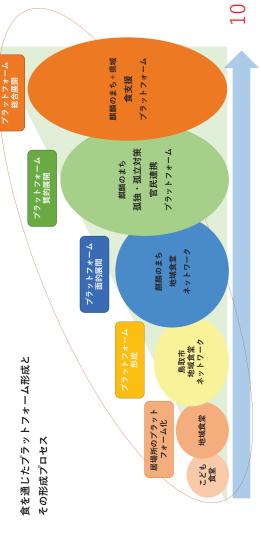
経済的食品アクセス確保のための「地域協議会」機能



食支援プラットフォーム形成に向けた情報交換会 出 席 者 とっとり子どもの居場所ネットワーク"えんたく" NPOワーカーズコープさんいんみらい事業所 麒麟のまち地域食堂ネットワーク 鳥取市中央人権福祉センター 鳥取県 循環型社会推進課 鳥取県 孤独・孤独対策課 鳥取県 人権・同和対策課 鳥取県隣保館連絡協議会 鳥取県社会福祉協議会 NPO地域共年とっとり 鳥取県生活協同組合 有限会社 大塚運送 鳥取環境大学

6

## 食支援プラットフォーム形成へ



# ラットフォーム形成過程で見えてきたこと

- 巧みな制度設計に苦心するよりも、分かり合う努力をすることが大切 ₩
- モノとカネがあるとよいが、つながることで何とかなることも多い <

   <
   \tau
   \
- 必要なのは、線引きしない支え合いであり、分野・領域を越境する ₩

# 行政の統合力と、地域の総合力を引き出す

### 地域食堂推進のポイント

資料-119

な多世代を巻き込むためのコツ・「子どものために」という呼びかけ・役割、出番を準備

- 公多様な人々を巻き込む ・福祉分野に限定しない
- ・「当たって砕けない」頼り上手に
- な多くの市民、団体が関わる ・フードドライブなどの活動と連動させる (郵便局、ファミリーマート、各事業所)
- 公社協、生活支援コーディネーターの関わり ・社協が培ってきた地域福祉の活動
- ・地域を良く知っている生活支援コーディネーター
- **相談担当者会/毎月** 各人権C相談支援員、各包括C認知症地域支援推進員、 <mark>市社協</mark>生活支援コーディネーター ○○町地域共生社会推進会議(2層協議体)/定例 市社協、総合支所、地域包括C、総合福祉センター、 保健センター、各人権C、中央人権C、他 **地域共生推進会職(1層協議体)/每月** 地域福祉課、**市社協、**中央人権((生活因際)、 長春村之課、中央包括C、保健師、協働推進課 県社協、東部医師会
- 各地域「つながりミーティング」/市内9会場 各人権 C、市社協生活支援コーディネーター、 関係機関、民生委員、地域住民、他

居場所のプラットフォーム化

☆ 現在の範囲から少しはみ出してみる(のりしろを拡げる)

去年より今年がより良い地域・ネットワークができるように働きかけてみる ☆

ひとりでは何もできないが、最初のひとり(言い出しっぺ)になる ☆

# いか~で、やらぁ~で、みんなやぁ~で



鳥取市中央人権福祉センター 〒680-0823 鳥取市幸町151 人権交流プラザ内 TEL/0857-24-8241 FAX/0857-24-8067 Email:jin-chuo@city.tottori.lg.jp

14

### 五所川原市社会福祉協議会 活動紹介

### ~五所川原こども宅食おすそわけ便~

社会との接点や交流が不足気味で、困りごとを抱え込んでしまいそうな子育て世帯に、食品のお渡しを通じて出会う機会を増やし、相談しようと思った時には気軽に保育施設や福祉施設、民生委員・児童委員や社協などに声をかけられるよう、つながり続けることが目的です。



食材を選べるパントリー



- ・2 か月に1回、偶数月に定期開催
- ・食材のお渡し方法は3つ
  - ①自宅への配達
  - ② 施設受取(保育施設や福祉施設等)
  - ③ 会場に来て希望品を選ぶパントリー ※時期・内容を特定した臨時開催も!

前日の食材準備や当日の配達を 民生委員・児童委員や団体等がボ ランティアしてくれています

> 市内外の企業団体や市民の皆様など 多くの方々のご協力により、たくさ んのご寄付をいただいています



お米の寄付も



たくさんの寄付品

### **--実績---**

令和 2 年 12 月から 子育て世帯のべ<mark>約 6600 世帯</mark>が 利用し、つながりができています (個別的支援を含まず)

### 近所で集まる楽しみの場所 サロン ありますよ



たとえば、、、 いきいきサロン三好

月2回昼食を提供しながら 地域交流の場を提供

「どこにあるの?」 「集まりの場をつくってみたい」 「どうしたらよいかわからない」 「どこかに加わりたい」

いつでもお気軽にご相談ください 五所川原市社会福祉協議会 TEL 34-3494



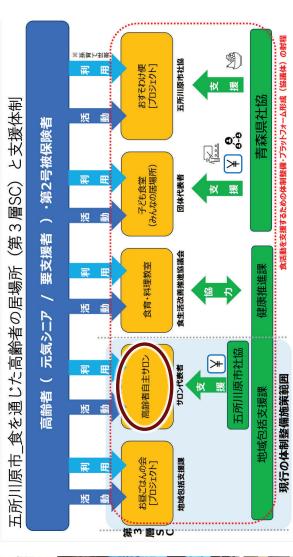
### サロン同士の交流でアイデアも倍増!



「こども食堂」と「高齢者のサロン」で多世代交流も!



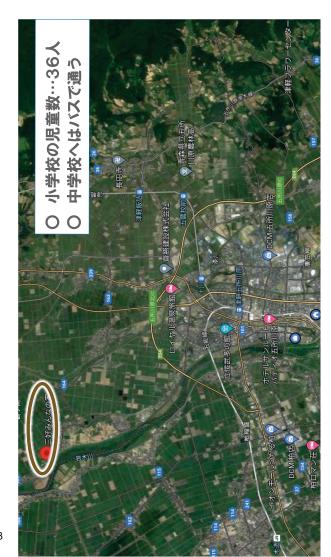




開催に至る経緯



- ・モチベーションの低下による開催頻度の低下
- ・コロナによる、集いの場の消滅
- ・声麗





### 開催目的

身近な場所で気軽に集まり、生きがいづくりや仲間づくりの 輪を広げることで、社会的孤立防止や介護予防を図り、もって 地域福祉の増進に資すること

### 開催概要

名称(法人)	いきいきサロン三好(任意団体)
金田	毎月2回。10:00~15:00 (概ね隔週の日曜日)
祖	無料(昼ごはん、おやつ、飲み物は各自で持参)
場所	三好みんなの家(青森県五所川原市鶴ケ岡字川袋150)
場所の特徴	隣人が鍵を所持し、自由に使える、ベンチを設置
対象	参加したい方全員(平均20人)
支援者	世話人2人がいて、作業を分担する。
広報	チランを掲示(みんなの家、ゴミ集積所)

### 食に関する特徴

関連団体

子育てサロン運営者

・野菜は買ったことがない 漬物、野菜、米etc.

傾聴サロン運営者

せいせい

五所川原市社会福祉協議会

サロン

三好

- ・次回の食べ物はみんなで決める。
- ・段取りはその場で決める。
- ・買い物は世話人が行く。

### 食以外の特徴

## 三好みんなの家の特徴

→隣人が鍵を所持し、自由に使える →ベンチを設置<sup>1)</sup> ・参加者は2割が小学生、8割が介護区分が軽度で自宅で過ごしている人。歩いてこられる方

・チラシはゴミ集積所に掲示

1)引用…「生き心地の良い町 この自殺率の低さには理由がある」岡檀

### 行った影響

# ・見守り機能の醸成に寄与できている

**少照徭以**前

- ・自殺企図者を小学生が防止
- ・
  塩か
  の
  勝手
  に
  収穫
  して
  いた
  独居
  の
  方が
  いた

→現在

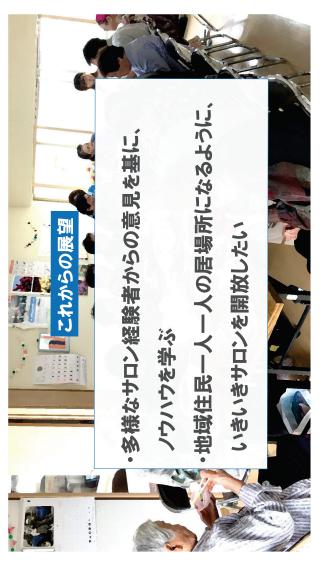
どぶから水を汲んでいる人がいる

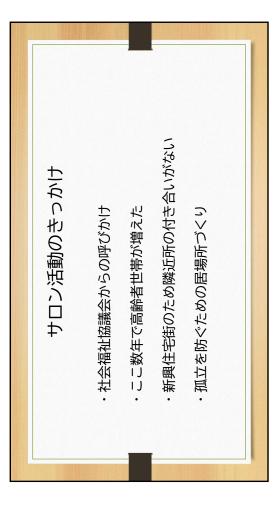
## 海部町の「みせづくり」の画像

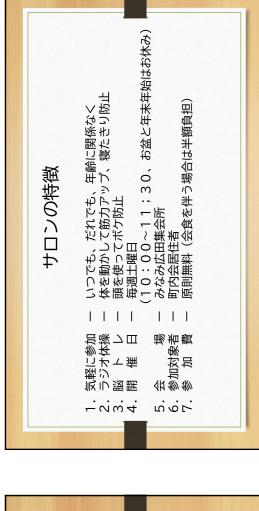


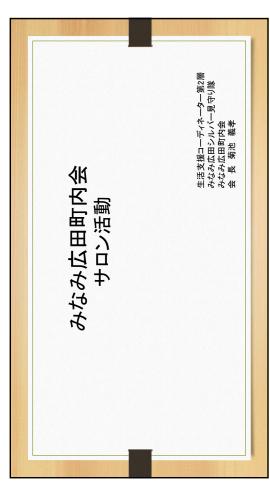
### 課題

- ・参加者が固定されてきているため、
- 新規参加者が限定的になってきている
- ・参加者の居住地が半径400mにとどまっている →交通手段がないために、参加できない方がいる
- →交通手段がないために、休みがちな人がいる









田内会の概要
・みなみ広田町内会は五所川原市南部の広田榊森地区、発足は昭和64年60世帯
・30数年前は周り一面田んぼ、ばかりでしたが現在は7町内会約900世帯が住んでいる新興
住宅街
・平成3年町内会会員が資金を出して集会所を建設(土地50.09坪、建物25,55坪)
・平成3年町内会会員が資金を出して集会所を建設(土地50.09坪、建物25,55坪)
・平成8年地線団体登録を行い五所川原市では町内会として初めて法人組織となった

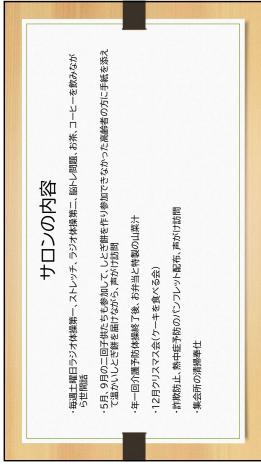
世帯数

世帯数

も5歳以上の一人暮らし世帯
65歳以上の一人暮らし世帯
65歳以上の一人暮らし世帯
65歳以上の一人暮らし世帯
13世帯
65歳大加一人暮らし世帯
13世帯
65歳未満の一人暮らし世帯
13世帯















「協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に関する調査研究」

### 食でつながるプラットフォームづくり

### 全国研修会

- **<日時>** 2024年1月22日(月) 14時~16時20分
- <場所> オンライン開催

### **くプログラム>**

- ◆来賓挨拶 厚生労働省老健局
- ◆本事業概要説明 「食」を伴う居場所づくりの支援に関する調査 結果報告
- ◆報告①

「麒麟のまち圏域における食を通じたプラットフォーム形成について」 鳥取市総務部人権政策局中央人権福祉センター所長 川口 寿弘氏

### ◆報告②

「北九州市における食を通じたプラットフォーム形成について」 北九州市保健福祉局地域福祉部地域福祉推進課長 明石 卓也氏

### ◆報告③

「五所川原市における食を通じたプラットフォーム形成について」 社会福祉法人五所川原市社会福祉協議会常務理事兼事務局長 平山 博文氏 五所川原市福祉部地域包括支援課課長 笠原 美香氏

- ◆情報交換会(モデル地域別にグループに分かれて交流会を実施)
  - ①鳥取県鳥取市(麒麟のまち圏域)
  - ●特徴: 重層的な相談支援とサービスを見える化。近隣自治体を含む広域連携 にて、寄付食品配布システムや支援ネットワークの共有を実施。
  - ②福岡県北九州市
  - ●特徴:子ども食堂ネットワークやフードバンク、食生活改善推進員等の地域内 リソースの見える化と連携。食を通じたプラットフォームの形成、域外 との連携を実施。
  - ③青森県五所川原市
  - ●特徴:青森県社会福祉協議会や全国の団体と通じた宅食支援による参加型の 仕組みづくりを実施。
- ◆まとめ

### 「協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に関する調査研究」とは

「食支援活動」(配食サービス・会食会・地域食堂・こども食堂・フードパントリーなど) の地域展開に向けた環境整備のために、資源の活用や循環を目的とした機能・会議体を「食支援プラットフォーム」と位置づけ、モデル地域での「食支援プラットフォーム」の 形成プロセスを調査・分析しています。

### く食支援プラットフォーム イメージ図>



構成団体等との連携・協力による 他地域の人脈やノウハウの提供

> 福祉分野に限らない 機関・団体や広域 ネットワーク等※

\*\*広域ネットワーク等: 企業、県レベルの中間支援、 テーマ別の全国ネットワーク



中間支援団体、商工会、企業、生協、農協等

※自治体関連所管とは以下のような部局を指します。

市民自治、協働推進、NPO促進、地域福祉関係、介護保険関係、子育て支援・子ども関係学校教育・ 社会教育・生涯学習関係、環境関係(消費リサイクル含む)、地域振興・街づくり等の部局等

### <開催目的>

- ①モデル地域の事例を共有することで、食活動を支援するための体制整備 やプラットフォーム形成に関してのノウハウを全国に広げる。
- ②モデル地域のノウハウを活かし、全国で食を通じたプラットフォーム 形成が推進される。
- ③全国で食に関する活動を行う団体が情報を共有し合う。

### <対象>

- ・行政職員、地域包括支援センター等
- ・社会福祉協議会、生活支援コーディネーター等
- ・中間支援を行うNPO法人等

く参加費> 無料

**<開催方法>** オンライン開催

**<お申込>** 下記リンクまたはQRコードよりお申込ください。 申込フォーム: https://x.gd/21uYg **■** ■ **※ ※ ※ ※ ? !** 

お問い合わせ:一般社団法人 全国食支援活動協力会(担当:谷山・小嶋)

TEL: 03-5426-2547 Eメール: saposen@mow.jp

## R 5 年度 老人保健健康增進等事業

## に関する調査研究」について 協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成

全国食支援活動協力会 専務理事 平野 覚治 

## 老人保健健康増進等事業での取り組み

R3 年度 「新型コロナウイルス影響下における 生活支援体制整備事業の推進に向けた 人材育成に関する調査研究事業」

R4年度「生活支援コーディネーターによる住民主体の「食」関連生活支援サービスの開発支援方策と持続可能な毒業実施・展開に関する調査研究」





▲食を通じた居場所をめぐるアセットに着目。 各地でヒアリング調査を実施し、ガイドブックとして発行

### ファシリテーター 日本大学文理学部教授/本事業研究委員会委員長 内藤 佳津雄 氏 島取市総務部人権政策局 中央人権福祉センター所長 川口 寿弘 氏 ▼▼▼「<u>集倒報告からの学び</u>」 国域市高等福社関係結構社係係長 荒井 崇宏 氏 ±浴支援コーディネーター研修 食のちからで地域を豊かに 事例から考える「食」のアクションブラン 顕微>>>>>>「多様な食文服サービスとその回転体」 下部大学人文科学研究院教授 消水ジ よる住民主体の「食」販送生活支援サービスの ・展実施・展覧に関する資産研究」 グループ ディスカッション▼「<u>食のアクションプランを考える</u>」

▲行政・生活支援コーディネーターを対象に 事例紹介やディスカッションを行う研修会の実施

## 全国食支援活動協力会とは

## 35年間にわたり積み上げた食でつながるネットワーク組織

赤い羽根福祉基金 **○ ことと言の第1全国リアー** 

1986年

高齢者配食サービス・会食会の 連絡会組織として設立

2016年9月

「広がれ、こども食堂の輪!全国ツアー」 事務局

休眠預金活用事業「子ども食堂サポート機能設置事業」(2019~2022)

2019年11月~

- 多世代が食でつながるコミュニティづくり」(2022~2025)

「食の物流ネットワーク整備プロジェクト」(2020~2023)

食を通じた地域の支え合いを広げよう

こどもから高齢者まで、すべての人が「食」を通してつながり住まい続けられる地域を目指し産される場でなりなりない。 産官学民、多様なセクターとの連携により活動に取り組んでいます

© 2023 mow

## 関する調査研究」 「協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に

食支援活動を支え・芳醇化させるブラットフォーム形成についての調査研究を実施。モデル地域として、鳥取市、北九州市、五所川原市を調査。 ■実施内容

・研究委員会/作業部会の運営 ・調査の実施(ヒアリング調査) モデル地域にて食女援ブラットフォームの構築プロセス、 モデル地域にでは女後ブラットフォームの構築プロセス、 関係構築のプロセスをヒアリング調査を実施 ・調査の実施(アンケート調査) 「賃)を伴う居場所づくりの支援に関するアンケート調査を実施。 ・研修会の実施(食でつながるブラットフォームスくり研修会) ・11(6 麒麟のまち・11/17 北九州市・11/21 五所川原市

・成果報告会の実施

アンケート調査結果の報告、モデル地域の事例報告、交流会の実施・田子の作成 モデル地域の事例紹介、食支援ブラットフォーム形成方法の紹介

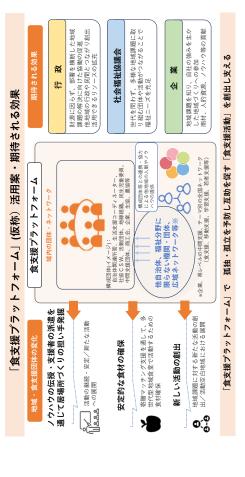
一社全国食支援活動協力会 專務理事

平野覚治氏

稻城市福祉部高齡福祉課高齡福祉係 係長 一社)全国食支援活動協力会 代表理事 千葉大学大学院人文科学研究院 教授 立教大学コミュニティ福祉学部 教授 全国社会福祉協議会地域福祉部 部長 一社)ともしび at だんだん 代表理事 琉球大学人文社会学部 專任講師 香川県社会福祉協議会 事務局長 秋山 由美子氏 特非)日本地域福祉研究所監事 特非)フェリスモンテ 事務局長 産業能率大学経営学部 教授 高崎市長寿社会課(主管課) 日本大学文理学部 教授 ■研究委員会 構成委員 内藤 佳津雄氏 荒井 崇宏氏 石田 惇子氏 清水 洋行氏 日下 直和氏 近藤 博子氏 隅田 耕史氏 高橋 良太氏 田中 将太氏 原田 晃樹氏 中島 智人氏 委員長

# 食支援プラットフォーム」(仮称)形成の背景と意義





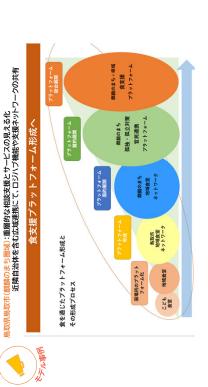




# 「食支援プラットフォーム」(仮称) 形成・醸成の実践事例



# 「食支援プラットフォーム」(仮称) 形成・醸成の実践事例



### 会 (単分のリンース 全国食支援活動協力会、民間企業:食品の寄付 8~8 北九州市地域市保健福祉局地域福祉推進課 子ども食堂ネットワーク北九州 北九州市社会福祉協議会 フードバンク北九州ライフアゲイン ヘルスメイト北九州 「食支援プラットフォーム」(仮称) 形成・醸成の実践事例 域内の団体・ネットワーク 北九州市:地域内リソースの見える化と連携 食を通じたプラットフォームの形成、域外との連携 11/17 北九州市研修会 明石株資料より **ヘルスメイト**北九州 ※ 2九州中央生活交路無道異協議会 也域の大きなテーブル 食を通じたプラットフォームのイメージ

# 「食支援プラットフォーム」(仮称) 形成・醸成の実践事例



## 食でつながるプラットフォームづくり全国研修会 2024年1月22日(月)

## 「2023年度「食」をともなう居場所づくり の支援にかんする調査」 から

## 清水洋行(千葉大学人文科学研究院)

ドンケート 5 女後	①対支援機関: 	目治体の活場所つくり支援に関連する部局※、地域包括支援センター、社会福祉協議会他	※市民自治、協働推進、NPO促進、地域福祉関係、	小護保険関係、ナ肯て支援・ナビも関係学校教育・ 沖合教育・年運営関係 - 福華関係 (消費   井イクル会t))	するだら、十分からで、そんとと、こと、・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	②対活動団体:令や語にない出いない、対象団体のない、これに対している。		有効回答数		①行政・社協等(261か所)から268活動 ②活動団体から313活動
実施主体	一般社团法人 全国食支援活動協力会	調查協力: 清水洋行研究室 (千葉大学人文科学研究院)	原田晃樹研究室(立教大学コミュニティ福祉学部)	アンケートの目的	食のある居場所づくり支援のスキームを構築する ために、現状と課題を把握する	実施期間	2023年8月4日~10月15日		実施地域	青森県、千葉県、香川県、徳島県、高知県、 象商画 治図画 かは画 馬は画 一世が緊地は

## 【活動団体】利用人数(1回あたり)

	9人以下	10∼19 人	9人以下 10~19 20~49 50~99 人 人 人 人	50~99 √	100∼ 149人	150人以 上	中丰
こども食堂	7	10	46	51	4	9	134
こども配食	<b>-</b>	2	2	4	m	4	16
子どもの居場所	2	7	6	4	<b>-</b>	<b>-</b>	27
学習支援	4	4	က				=
就労支援	<b>-</b>						-
若者支援	2						2
フードパントリー	10	-	10	∞	7	7	33
配食サービス			-			m	4
会食会	<b>-</b>		4	<del></del>			9
地域食堂	2	m	13	15	œ	m	44
高齢者の居場所	2	11	9	<del></del>			23
不明	n		2	-	-	7	6
合計	44	38	96	85	59	21	313

## 回答いただいた機関・部局、活動の種類

行政·社協		
	į	ij
届化・小護部局 第一番	-	ij
子ども部局	37	4
留が・イグキ、2外の部局	14	孙
		就
社会福祉協議会	98	抁
その色	6	Ļ
	7	盟
Edit	‡	414
	261	對

Jul Tel Met IIV	
こども食堂	134
こども配食	16
子どもの居場所	27
学習支援	1
就労支援	_
若者支援	2
フードパントリー	33
配食サービス	4
会食会	9
地域食堂	44
高齢者の居場所	23
不明	6
合計	313

## 【活動団体】活動頻度(1か月あたりの回数)

	<u>=</u>	2~3回	4~11回	12~19 20~27 □ □	20~27 ©	28回以上	中計
こども食堂	42	25	18	4	7	9	134
こども配食	13	_	2				16
子どもの居場所	2	2	œ	9	n		27
学習支援	<b>-</b>	_	9	<b>.</b>	-	-	=
就労支援					-		<b>—</b>
若者支援	<b>-</b>	2	2				2
フードパントリー	14	∞	2	2	-	က	33
配食サービス	7		2				4
会食会	<b>-</b>		2	2		<b>-</b>	9
地域食堂	34	m	4		7		44
高齢者の居場所	4	4	2		6	<b>—</b>	23
不明	m	-	4	-			6
合計	157	20	58	16	19	12	313
	然の	%ソソ以	二 调本力	ニ 温布たり1回未満	HE		

【活動団体】ボランティア人数(1回あたり)

134

なし 2割未満 2割~4 半数程度 8割以上 すべて 割程度 割程度 割を まんしょう

19

61

45

こども食堂こども配食

2

0

16

子どもの居場所

学習支援 就労支援 若者支援

【活動団体】利用者のうち65歳以上の割合

16

7

	なし	なし 1~4人 5~9人	2~9√	10∼ 14人	15∼ 19人	20∼ 49人	50∼ 99.√	100人 以上	中丰
こども食堂	-	33	44	28	15	13			134
こども配食	4	-	6			7			16
子どもの居場所	7	15	က	4	7	<b>—</b>			27
学習支援	7	4	က	7					1
就労支援	<b>—</b>								-
若者支援		2							2
フードパントリー	4	16	9	4	က				33
配食サービス	-	_				-	-		4
会食会		_	-	-				m	9
地域食堂	-	10	12	13	9	7			44
高齢者の居場所	7	7	က	2	<b>-</b>				23
不明		2		7		<b>-</b>	-		6
合計	23	86	81	26	27	20	2	က	313
	約7%		約57%	…10人未満が約6割	へ未満力	約6割			
			約84%	4%		20,	人未滞力	20人未満が8割以 ト	_

【活動団体】ボランティアのうち65歳以上の割合

	雪井	134	16	27	=	_	2	33	4	9	44	23	6	7
ロコンドングランジャー	ボランドイアはいない		-					2	-		-	7		7
Š	すべて	7					-	m	-	7	2	2		,
う う 爻	8割以上	16	3	-	3			2	<b>-</b>	4	2	9	7	(
	6編~ 器型 破	24	-	co	-		-	m	-		6	m	-	ļ
`	世 数 数	21		4	-		-	4			7		<b>—</b>	
	2割~ 4割数 破破	12	7	4			_	9			9		_	(
「石地」を「ハン・」	2點米無	39	c	9	4		-	7			œ		_	0
<u></u>	なしな	20	9	6	7	-		9			9	2	3	LL
<b>1.7□3/</b>		こども食堂	こども配食	子どもの居場 所	学習支援	就労支援	若者支援	フードパント リー	配食サービス	会食会	地域食堂	高齢者の居場 所	不明	7=1

## 高齢者(65歳以上)の人の割合

23

7

σ κ

44

=

9

15

ന

地域食堂

会食会

高齢者の居場所

 $_{\odot}$ 

33

m

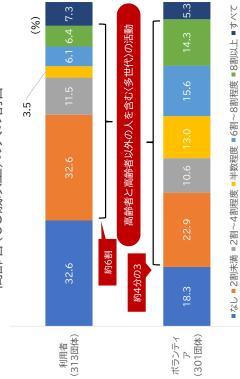
73

12

フードパント リー 配食サービス

2

4 0



# 活動の課題と、行政や社協による活動支援(1/2)

		活動団体		行政·社協
	ここ3年間、 課題がな かった	ここ3年間に 行政や社協 から <b>支援を</b> <b>受けた</b>	活動の総続や発展に向けて、一人後、行政やが、では、かな、では、の大人のが、大政の大人が大人が大人が大人が大人が大人が大人が大人が大人が大人が大人が大人が大人が大	取り組んでいる
資金の確保に関する支援	26.2	44.1	59.4	61.3
先行事例の紹介や活動のやり方に関する支援	37.1	31.3	22.0	51.7
担い手の募集に関する支援	38.7	18.8	46.0	33.3
活動拠点の備品に関する支援	41.2	17.3	45.0	19.9
利用者への支援の質的向上や量的拡大	42.5	20.4	25.9	43.7

【活動団体】支援を受けたり、連携・協力したりした相手 【行政・社協】支援や、支援のあり方・進めた方の検討にあたり、日頃、関わりをもって いる個人・団体(1/2)(複数回答。政令市を除く)

		団体(N=257)	=257)		行政·社協 (N=215)
	市町村内	県内の他 の市町村	県外	いずれか あり	いずれか あり
社会福祉協議会	57.6	13.6	1.2	63.8	< 76.7
行政(行政は自課以外の部局や機関について)	54.9	14.4	1.2	61.1	< 73.0
食支援の中間支援団体・ネットワーク	37.7	23.7	10.5	61.1	> 36.3
フードバンク	40.1	24.5	4.7	59.9	> 39.1
企業	40.5	14.4	7.4	51.0	> 25.6
小中学校·高校、PTA	34.6	4.3	0.4	48.6	> 27.4
トランター	34.6	15.6	4.7	47.1	> 36.3
生協·農協·漁協	28.4	11.3	1.9	36.6	> 21.4
まちづくり協議会、コミュニティ協議会	28.4	2.7	0.0	30.7	32.6

# 活動の課題と、行政や社協による活動支援(2/2)

		活動団体		行政·社協
	ここ3年間、 課題がな かった	ここ3年間に 行政や社協 から支援を 受けた	活動の継続や発展に向けて、今後、行政や社協から支援を対して、の支援をの支援をの支援をの支援をの対策を対して、の支援をの対策を	取り組んでいる
行政や社協からの理解の促進について	26.2	30.7	28.4	6.09
住民や地域の団体からの理解の促進について	37.1	22.7	28.8	29.0
利用者の募集に関する支援	38.7	23.3	29.1	57.5
リーダーの育成に関する支援	41.2	8.9	24.0	21.5
活動拠点の確保に関する支援	42.5	19.5	26.2	32.6

【活動団体】支援を受けたり、連携・協力したりした相手 【行政・社協】支援や、支援のあり方・進めた方の検討にあたり、日頃、関わりをもっている他、1と個人・団体(2/2)(複数回答。政令市を除く)

本町村内 の本町村 位会福祉施設(児童福祉)     中町村内 の市町村 の市町村 の市町村 の市町村 の市町村 の市町村 の大 市工会議所     中域の指 といる で で で で で で で で で で で で で で で で で で で			団体(N=257)	=257)		行政·社協 (N=215)
22.6       5.8       0.4       26.5         17.5       4.7       1.6       21.4         13.6       1.9       0.4       14.4         13.2       1.9       0.4       14.4         8.2       5.4       2.3       13.6         10.5       2.3       0.4       12.1         7.4       1.6       0.0       8.2         20.6       2.7       0.4       5.8		市町村内	県内の他 の市町村	県外	いずれか あり	いずれか あり
17.5     4.7     1.6     21.4       13.6     1.9     0.4     14.4       13.2     1.9     0.4     14.4       8.2     5.4     2.3     13.6       10.5     2.3     0.4     12.1       7.4     1.6     0.0     8.2       20.6     2.7     0.4     5.8	社会福祉施設(児童福祉)	22.6	5.8	0.4	26.5	18.1
13.6     1.9     0.4     14.4       13.2     1.9     0.4     14.4       8.2     5.4     2.3     13.6       10.5     2.3     0.4     12.1       7.4     1.6     0.0     8.2       20.6     2.7     0.4     5.8	生活困窮者支援団体	17.5	4.7	1.6	21.4	27.0
13.2 1.9 0.4 1.1 10.5 2.3 0.4 1.1 10.5 2.3 0.4 1.1 20.6 2.7 0.4	地域包括支援センター	13.6	1.9	0.4	14.4	< 48.4
8.2 5.4 2.3 1 10.5 2.3 0.4 1 7.4 1.6 0.0 2.7 0.4	商工会議所	13.2	1.9	0.4	14.4	9.8
7.4 1.6 0.0 2.7 0.4 1.6 0.0	研究者·專門家	8.2	5.4	2.3	13.6	9.8
7.4 1.6 0.0 2.7 0.4	社会福祉施設(児童養護)	10.5	2.3	0.4	12.1	11.6
20.6 2.7 0.4	在宅福祉サービス団体	7.4	1.6	0.0	8.2	13.0
	社会福祉施設(高齢者福祉・介護)	20.6	2.7	0.4	5.8	< 31.6

(3つまで選択)

14.2 8.6

出番や役割を得られる

他の人と交流できる

団体合計 行政・社協 (N=301) (N=268)

8.7.9 42.5 30.6 27.9 23.9 20.6 19.6 18.3

25.4

25

28.7 17.9 30.6 6.0

11.3 9.9 5.6

地域や社会の情報を 得られる

困りごとを相談・発信できる

「孤立解消」のきっかけとなる

食育の機会になる

食事を楽しむことができる

心のよりどころになる

学びの機会になる

3.0

望ましい生活リズムや生活習慣が身につく

栄養を摂ることができる

経済的な支援になる

8.6 8.6

【活動団体(N=301)】活動が担い手にとってもつ価値 【行政・社協(N=268)】活動が市民とってもつ価値

【活動団体(N=301)】活動が担い手(ボランティア)にとってもつ価値 【行政・社協(N=268)】 活動が市民とってもつ価値 (3つまで選択)

けとなる「孤立解消」のきっか	19	m	4	4		m	10			6	2	2	62	122
を 得られる 地域や社会の情報	20	4	-	7		-	7		7	6	9	m	52	23
信できる 困りごとを相談・発	6	c	4			7	2	_		2	7	က	34	77
る経済的な支援にな	10	_	7	<del>-</del>			m			က			20	48
れる 出番や役割を得ら	99	2	10	4		-	10	c	4	24	7	4	128	38
なる ふのよりどころに	42	က	10	<del>-</del>		-	9	-	ന	=======================================	2	-	84	29
る他の人と交流でき	93	6	14	9	m		21	c	က	37	Ξ	4	204	164
できる 栄養を摂ることが	10	7	_				7			<b>—</b>	_		17	82
ができる食事を楽しむこと	44		2	7		-	9			=======================================	m		72	89
食育の機会になる	33	-	2	<b>—</b>			2		m	7	4		29	23
学びの機会になる	36	∞	Ξ	7	_		<sub>∞</sub>	<del></del>	7	6	4	2	92	23
や生活習慣が身に望ましい生活リズム	2		_				7		_				6	9

フードパントリー

配食サービス

子どもの居場所

就労支援 若者支援 学習支援

こども食堂 こども配食

高齢者の居場所

地域食堂 会食会

団体合計

出出

【活動団体(N=312)、行政·社協(N=268】

	る地域の経済に貢献でき	7	-					<b>—</b>			-	-		9	0
	ニーズに対応できる 行政では対応できない	33	4	7	3	_	_	12	-		9	14	2	87	99
	機会になる 地域の課題を発見する	22	4	က	4		_	2	7		Ξ	7	က	57	09
出	食生活の改善になる	17	m	4	-			m		4	m	10	-	46	46
まで選択	食品ロスが減らせる	22	4	-				7			m	-		38	18
$\cap$	経済的格差が減少する	9		-		_		m						=	4
)価値(3-	ながれる 困りごとのある人とつ	24	9	7	7		-	15	<b>—</b>		7	7	7	74	54
うてもつ	れた地域で暮らせる 高齢となっても住み慣	9		7				_	7	c	9	10	7	32	85
になり	がる さをかかえた人とつなうきごもりや生きづら	12	ĸ	10	-	-	2	4			-		2	42	27
社会	できる子どもが健やかに成長	78	∞	20	<sub>∞</sub>		m	12			9		_	136	49
活動が地域や	多世代が交流できる	67	4	0	ო		<del>-</del>	∞		7	34	7	7	132	67
動形	につながる 活動を通じて孤立解消	36	7	6	9		7	6	7	7	12	7	2	6	131
沢	ができる住民どうしのつながり	89	4	7	က		_	14	7	4	27	18		148	131
		こども食堂	こども配食	子どもの居場所	学習支援	就労支援	若者支援	フードパントリー	配食サーピス	会食会	地域食堂	高齢者の居場所	不遇	団体 合計	行政·社協

つまで選択)
)価値(3-
:ってもし価
とって
社会にと
お抜か
活動が
·社協】活動
、行政、
【活動団体、

	団体 (N=312)	行政·社協 (N=268)
住民どうしのつながりができる	47.4	48.9
子どもが健やかに成長できる	43.6	18.3
多世代が交流できる	42.3	25.0
活動を通じて孤立解消につながる	31.1	48.9
行政では対応できないニーズに対応できる	27.9	24.6
困りごとのある人とつながれる	23.7	20.1
地域の課題を発見する機会になる	18.3	22.4
食生活の改善になる	14.7	17.2
引きこもりや生きづらさをかかえた人とつなが る	13.5	10.1
食品ロスが減らせる	12.2	6.7
高齢となっても住み慣れた地域で暮らせる	10.3	31.7
経済的格差が減少する	3.5	1.5

## 食でつながるプラットフォームづくり 全国研修会

# 麒麟のまち圏域における食を通じたプラットフォーム形成について

2024(R6).1.22

鳥取市 総務部 人権政策局 中央人権福祉センター

### 重層的支援体制整備事業 生活困窮者 自立支援事業 国独・国立 対策事業

## 中央人権福祉センター事業概要

フードサポート委託事業 (提供食材の集符、管理) ・郵便局、ファミリーマートと連携したフードドライブ、他

フードサポート

S因爵世帯への食料提供 ・提供食材の配布 ・生活因窮世帯への食料支援

緊保事業

就労準備支援事業 学習·生活支援事業

時生活支援事業 任意事業 必須事業

立ち上げ支援 (新規立ち上げ食堂の備品購入、 運営補助 (定員、実施回数に応じて支援)

地域食堂 の推進

地域食堂ネット ワークへの支援

2括的相談支援事業 お 減 が の の 一 無 継 相談支援

アウトリーチ筆を通じた総部的支援事業 ※ つながりサポーターの構成 ※ 相談支援包括化推進会議 官民連携プラットフォーム

曾民連携による地域食堂への支援 ・事務局 人件費(コーディネーター)、車両借上料、他 支援団体等拡大のための活動 ・地域食堂への食材配外。 認定NPO法人 全国こども食堂支援センター・むすびえ (一社) 全国食支援活動協力会 (MOWLS) ミールズ・オン・ホイールズ システム

## 地域食堂の推進と拠点の整備

麒麟のまち創生戦略会議(首長会議)

【香美町】 人口 15,858 世帯数 6,369 高齢化率 40.6

香美町

新温泉町

[新温泉町] 人口 12,438 世帯数 4,878 南齢化率 29.7

【岩美町】 人口 10,454 世帯数 3,926 高齢化率 37.5

【鳥取市】 人口 181,516 世帯数 81,964 高齢化率 29.7

뺭

世

共

【八頭町】 人口 15,832 世帯数 6,112 高齢化率 29.1

若接町

智頭町

【智爾町】 人口 6,290 世帯数 2,687 高齢化率 44.3

八頭町

鳥取市

账 田 all.

人口・世帯数・高齢化率

麒麟のまむ

2019(RI)年11月5日 圏域で地域食堂を推進していくことを決定
 2022(R4)年 2月8日 麒麟のまち地域食堂等推進のための「食のネットワーク 整備プロジェクト事業」によりロジ・ハブ拠点を整備することを確認
 2022(R5)年11月2日 地域食堂事業を基盤に、孤独・孤立対策を圏域で推進していくことを決定

中枢中核都市に集中する企業をはじめとする社会資源により 得られる支援等を広域的に活用し、さらに、近隣町のそれぞ れの強みを生かした効果的な支援の仕組みづくりへ!

さまざまな機能をもつ地域食堂の取り組みを住民の生活圏域

魅力あるまちづくり

効果的な仕組みづくり

において展開することで、高齢者・障がい者・子どもをはじ め多様な人たちが住みやすい魅力あるまちづくりへ! 社会的孤立防止

相談支援 困難の 早期発見

KIRINJISHIB 連携中枢都市 鳥取市

4

住民主体の 課題解決 もしてくら

 $\mathfrak{C}$ 

【若桜町】 人口 2,558 世帯数 1,271 高齢化率 49.0

資料-139

 $\infty$ 

★特長・ボイント ・住民に無も近い立場で住民との 接点を持つ・ 住民のお知りことを自分事化 □ 本域での「住民主体」の開始 加立の四個形理・解決の権 地を形成

◆ 地域の支援窓口(市)

将来的には、個別ケースの具体的 支援に関わっていただく可能性あり

本等表示イント 支援の検討に必要な者を行政の 判断で参加されることが回版 参加団体間で誘駆共有ができ、 守犯機器を関すことが回覧 ⇒PFの安全性担保

つながりサポーター

## 麒麟のまちの地域食堂

**「路域食堂」:子どもを中心に地域の様々な人が集う居場所、 多様な人や社会資源が繋がる場地域食堂は、地域の多様かつ多世代の交流拠点となっています。** 困難を抱える人・世帯に関わっていくことを基本としながら、地域の誰もが気軽に行ける「**だれでも食堂」=「地域食堂」**として展開しています。







4 ロン窓点

ハブ拠点



農業体験

学生服リユース 地域の支え合い

居場所 地域食堂・拠点事業

居住 就労

っながりの支援

調整 ボランティア

民生委員

社会的に孤立し 困難を抱えた人

○衛生管理に関する情報や衛生用品の無償提供や講習会の開催

○感染防止・衛生管理ガイドラインの作成

○立上げに関する支援、他

協力飲食店買い物支援

电挑

消費生活

相談支援包括化推進会議

農業環境

子ども 保健・医療

高橋高がい。

相談支援員

相談支援 包括化推進員 相談支援機関

> 早期把握 社会的国立防止のための つながり サポーター

域住民

多分野協働

地方創生

既に実施している「地域食堂」事業を フォーム推進事業」を進めています。 〇孤独・孤立対策官民連携プラット 〇「つながりサポーター」養成研修 基盤に、圏域の6町と連携しながら - 孤独・孤立対策官民連携プラット フォームの構成団体の拡充 の共同実施 55世帯 141人 2:56人/世帯 1.78人/世帯

∀99

37世帯

2005年 2022年 張快盛立に関する 地域課題・ニーズを伝える

状況に応じた養成的 等の運営・企画

支援に必要なノウハウ・ リソースの提供を求める

支援に必要なノウハウ・ リソースの提供

相談支援包括化 <sub>鐵別支遷を実態</sub> 推進会議

社会福祉協議会

A 会福祉法 社会福祉法人 **Y**揽OdN

医療関係 島取市

企業·団体

函独・函立対策 官民連携推プラットフォーム

麒麟のまち連携中枢都市圏事業として

高齢化率70%超地域ではじまった地域食堂

鳥取市 佐治町 尾際 高齢化率 73%





「フードサポート」事業を拡充 〇物流業界との包括連携による

住民の新たな居場所 高齢者の孤独・孤立防止支援

靠 個人商店が地域食堂オープン

資料-140

# 広域連携】ロジ・ハブ拠点整備と食支援プラットフォームの形成

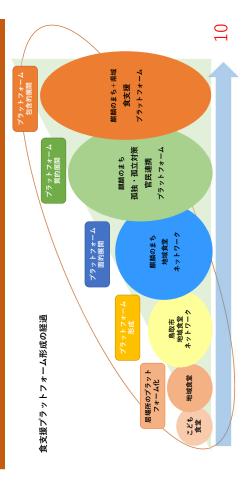
【食支援プラットフォーム形成に向けた情報交換会】(2023.10.12) 環内ロジ・ハブ拠点→フードドライブ拠点として活用 配送・一時保管の課題→「食支援プラットフォーム推進会職」を立上げへ

【麒麟のまち孤独・孤立対策市町担当者会】 (2023.10.30) 「麒麟のまち蜃域+県域食支援ブラットフォーム推進会難」とすることへ

_	女人ダンン・フォーイルがたらい こうもくがか 日本人が大 日本人が大 日本 本
_	鳥取環境大学
_	鳥取県 循環型社会推進課
_	鳥取県 孤独· 孤独対策課
	鳥取県 人権·同和対策課
	鳥取県社会福祉協議会
	鳥取県生活協同組合
_	鳥取県隣保館連絡協議会
	有限会社 大塚運送
_	NPOワーカーズコープさんいんみらい事業所
_	NPO地域共生とっとり
_	とっとり子どもの居場所ネットワーク"えんたく"
	麒麟のまち地域食堂ネットワーク
_	鳥取市中央人権福祉センター

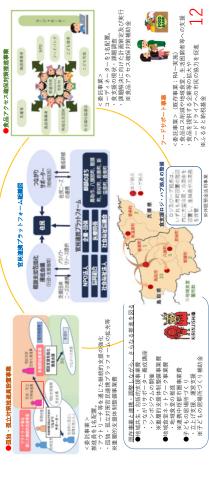
တ

## 食支援プラットフォーム形成へ



### 孤独・孤立対策推進事業

令和6年4月「孤独・孤立対策推進法」施行にあたり、組織体派、取組を強化していく必要がある。 顕線のおよう連集中指統市圏乗業として実施している地域全筆等な基礎に、孤独・孤立対策官連載ガラットフォームの構成団体 の拡大や、コながりサポーター発成研修の共同実施、物流業界との包括連携によるフードサポート事業を顕観のまち 隠垣で連携実施 地域共本社会の実現を推し進めままし



構成団体 ・ 大学 ・ 原収 現社協 ・ 県生協 ・ 県年協 ・ 県年協 ・ 東平ともの居場所ネットワーク ・ 地域を建タットワーク ・ 中央人権福祉センター ・広域連携の拡大と周辺県への展開見込み ・ロジ、ハブ被点をフードドライ ・ロジ、ハブ機能をとして活用 ・大学、物活験業者を含めたプ 食支援推進プラットフォームの形成 麒麟のまや+ 宗域 食支援プラットフォーム 2024年10月 機成団体 2 NPO法人 2 社会福祉法人 3 医療関係 1 医療 関係 所 1 郵便局 競売 IT企業 財政機能強係 (%800) 入機数解析 3 行政 1市6町 ・社会課題解決のためのプラットフォー形成 ・個別支援、つながリサボー を選びなど構造化 ・フードサボート事業拡充を含む 官民連携プラットフォームの 核心化・質的転換 麒麟のまち 孤独・孤立対策官民連携 プラットフォーム 2023月2年 鳥取市、周辺4町、兵庫2町(広域生活圏域)によるプラットフォー 官民連携プラット フォームの広域 化・面的展開 ・ロジ、ハブ拠点の整備 麒麟のまち 地域食庫ネット ワーク 現在 ・地域食堂 41 ・支援団体 59 ・行政 1市6町 2019年11月 ・運営団体、支援 団体、行政の3者 連携によるプラットフォーム <u>鳥取市</u> 地域食堂ネット ワーク 官民連携プラット フォーム形成 設立時 ・地域食業 10 ・支援団体 10 ・行政 1 2017年11月 ・地域の様々な人が 集う居場所、多様 [なんや社会資源が繋 ぎ がるプラットフォートム 居場所のプラット フォーム化 ・地域住民・地元事業者・地元生産者・ボランティア 2015年12月 2016年2月 地域食堂 民間団体と の連携による運営 ・ 市民から 食材等の寄付 こども食堂 関係者 構成団体 開始時期 名称 形態 意義

# プラットフォーム形成過程で見えてきたこと

①食支援ブラットフォーム形成前の課題・地域の特性 。寄付食品が多様かつ大量になってくる中で、一時保管、配送 。急激な人口減少、高齢化が進行する中での、食支援活動の持続可能性を維持する仕組みづくり

②食文援プラットフォーム形成のねらいと具体的な流れ 。より広域化することにより、効果的・効率的な仕組みへ 。線引きしない支え合いをつくるため、縦割り、分野を超える

③食文援プラットフォーム形成後の変化 。分野が違っても、同じ地域課題を把握している →ワみな制度設計に苦心するよりも、分かり合う努力をすることが大切 ・強み、知見、経験の共有 ・モノとカネがあるとよいが、つながることで何とかなることも多い

④今後の展開○食支援推進ブラットフォーム(地域協議会)の立上げ○食支援を横串とし、地域課題解決に向けた効果的な連携づくり

## 「国立社会保障・人口問題研究所」 推計人口/2003.12.22発表

E	総人	総人口(人)	指数
E E	2020年 (A)	2050年 (B)	2050年 (B)/(A)
鳥取市	188,465	142,787	75.8
岩美町	10,799	6,168	57.1
若桜町	2,864	1,092	38.1
智頭町	6,427	2,977	46.3
八頭町	15,937	980'6	57.0

産業体育館 ●

の報酬部 至 国府町

鳥取駅

₩ R9

市投票本币曲 イオン島数店 鳥取市中央人権福祉センター 干680-0823 鳥取市車車1151 人権交流プラザ内 TEL/0857-24-8241 FAX/0857-24-8067 Email: jin-chuo@city,tattorilgjp

14

# 行政の統合力と、地域の総合力を引き出す!

## 北九州市における食を通じたプラットフォーム形成 について

地域福祉推進課長 明石 卓也 北九州市保健福祉局 令和6年1月22日

# 北九州市の地域福祉のネットワーク

本市では、平成5年から「地域フベル(小学校区)」 |三層構造による地域福祉のネットワークづくり| 「行政区レベル」「市レベル」の三層からなる に取り組んできた。



市民センター(地域の活動拠点)

払対フバプ	● 市民福祉センター(地域住民の活動拠点)
(	※ 平成17年1月から「 <b>市民センター」</b> に改称
\ <b>₹</b> +	● 「まちづくり協議会」を設置
区マベル	● 保健福祉センター (保健所と福祉事務所の統合)
	<ul><li>●「保健・医療・福祉・地域連携推進協議会」を設置</li></ul>
市フベル	● 保健福祉局(保健局と民生局の統合)
	<ul><li>● 総合保健福祉センター</li></ul>
	(保健福祉センターの専門的・技術的支援拠点)
	● ウェルとばた (主に民間の地域福祉活動の拠点)

## 北九州市の自己紹介

九州第2位の規模を誇る

◇発足:昭和38年2月10日 ◇人口:約92万人

(1963年)

政令指定都市!

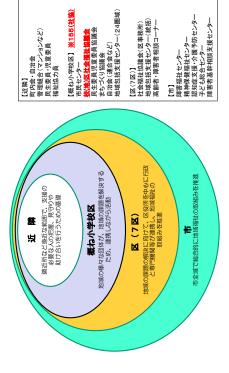
5市の対等合併により誕生。 昭和39年に国連が調査団を派遣するほどの、 世界でも類のない試み

7 り 行 政 区

ผ

支え合いの圏域と地域活動

# 地域の支え合いは近隣や概ね小学校区から



# 課題意識:地域活動の担い手の減少(北九州市)

民生委員	

	減少			高幣化
R 4	1,512人	81人	94.9%	67.5歳
R 1	1,526人	<b>Y</b> 59	92.9%	66.7歳
H 2 8	1,534人	<b>Y8</b> 7	%0'26	學6'99
	配置数	欠員数	充足率	平均年齡

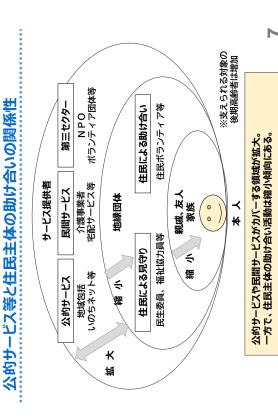
### 2 福祉協力員

		1
	減少	増加
R 4	6,450人	132,844世帯
R 1	个830人	119,846世帯
H28	6,941人	120,149世帯
	人数	見守り対象

### 3 自治会加入率

	減少
R3	62.5%
H20	75.9%
H 4	%2'96
	加入率

4



# 地域活動への意識の変化(北九州市高齢者等実態調査)

## 1 地域での支え合い

9		-		
増加	%6.6	9.8%	2.3%	地域包括支援センターや区役所の人 (対象: -般高齢者)
4.7% 減少~	4.7%	%0'9	8.6%	民生委員や地域の役員 (対象:一般高齢者)
	R 4	Н28	H 2 2	
				3 困ったときに相談する相手
20.8% 減少~	20.8%	31.8%	40.9%	この 1 年間で地域活動に参加した人の割合 (対象: - 般高齢者)
	R 4	H 2 8	H 2 2	
				2 地域活動への参加状況
減少	22.4% 減少	30.1%	36.5%	「何か困った時に助け合える人」が 近所にいる人の割合(対象:一般高齢者)
	R 4	Н28	H 2 2	

# 北九州市の地域資源(食を通じた地域づくり)

**(M)** 

へんスメイト・北九州 ※ 北九州市食生活改善推進員協議会

食のつながり (高齢者)

・ふれあい昼食交流会









### (

# 地域づくり(ふれあいネットワーク活動)



社会権祉法人



◇ふれあいネットワーク活動 (社会福祉協議会の自主事業、H5~) 「見守り」「助け合い」「話し合い」の仕組みをつくり、 地域で援助の必要な人への見守り、支え合いを行っている。

・実施校区数:155の市内全ての校(地)区

活動内容:

民生委員や福祉協力員による見守り

ニーズ対応チームによる助け合い など 年間活動件数:65万件

⇒地域支援コーディネーター (16人) が、 地域での話し合いや計画づくりをサポート **ග** 

# 食のつながり(高齢者)





◇設立 昭和47年 ◇会員数 1,066人(令和5年度) ◇ふれあい昼食交流会 高齢者が生きがいを見出し、食生活の改善を図っていくことを目的として開催。 でないくことを目的として開催。 ・対象: 65歳以上の一人暮らし・夫婦のみ世帯

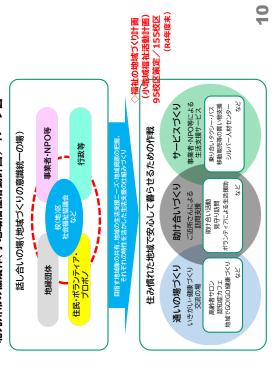
高齢者が食を通して他世代と交流することで、

場所:公民館・市民センター等

場所:公氏館・中月 頻度:毎月 1回 ·実施数:市内100会場 (市民センタ-131館中)

7

# 北九州市の協議体(小地域福祉活動計画) イメージ図



## 食のつながり(子育て世帯)



◇目的:孤食の防止、地域の子どもと大人が安心して過ごすことができる 「子どもの居場所」「地域の居場所」として実施。(H28~)◇実施件数:市内約60ヶ所で実施

## 食のつながり(困窮世帯)





物価高騰等で支援が必要な世帯に食料を配布。 ①拠点型:NPOや市、社協などの相談支援 ②地域交流型:地域の見守りネットワーク

につなげ、継続的な見守りを行う。

○令和4年度実績

①北九州市孤独·孤立対策等連携協議会のNPO等

2回実施。1,200人に食料配布。 14団体と実行委員会を設置。

②校区社会福祉協議会、NPO法人と連携し、 3地域で実施。1,000人に食料配布。

# 食のつながり (フードバンク)

## LIFEAGAIN 7 - FKYDORLAND-LDPF-LD

## 「もったいない」を「ありがとう」へ

フードバンクとは

フードバンクとは の協質に問題がないにもかかわらず、 市場で補富できなくなった食品を、 企業や個人から結盟してもらい。 ②施設や回体、食べ糖に困っている人に無質で配る活動。

年間で646万トンもの 可食部・未使用の食品 が廃棄されている 環境問題

貧困問題

廃棄される食品に 新たな命を吹き込み たくさんの人々の命をつなぐ

15

## フードサポート北九州の様子









◇220世帯 (644人) に食料配布 ◇33世帯が相談支援につながる

4

## 北九州市研修会(令和5年11月17日)



◇プログラム ・調査報告等(全国食支援活動協力会) ・先進事例報告(鳥取市) ・北九州市での活動事例紹介

◇参加者 約60人 ・ワークショップ 等

・行政(地域づくり、健康づくり、子ども食堂等)・ ・社協(生活支援コーディネーター等) ・民間(食生活改善推進員協議会、

子ども食堂、フードバンク等)

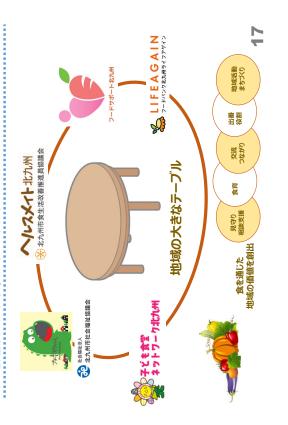
・食生活改善推進員さんの多様な活動内容を知ることができた。今後、何か連携していければと感じた。(子ど白葉堂開係者)・健康づくりの観点から、子ども食堂やフードサボート等業にもも役に立てることがあるのではと思った。(区役所栄養士) ◇研修会の意義 食や地域づくりに関係する団体が一堂に会する 初めての機会となった。

参加者の声

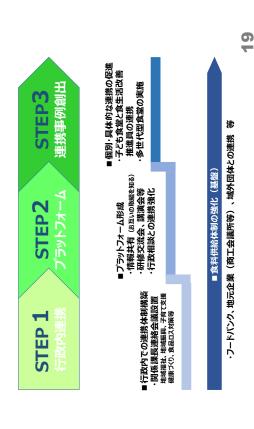
16

資料-146

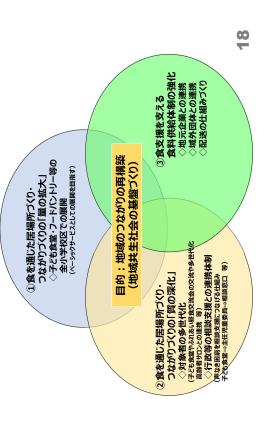
## 食を通じたプラットフォームのイメージ



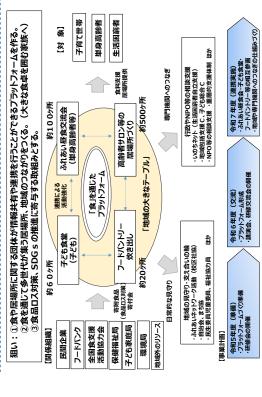
# プラットフォーム推進のステップ



# プラットフォームで目指すもの

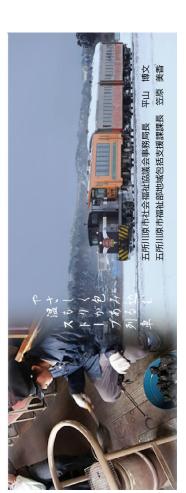


# 食を通じたプラットフォームのイメージ②



「食でつながるブラットフォームづくり 全国研修会」 令和6年1月22日(月) $14:00\sim16:20$ 

## リットフィーム形成にして [五所|||原市における食を通じ] 事例報告



開催 給 料

「食でつながるプラットフォームづくり五所川原研修会」 • 「食でつながるプラットフォームづくり五所川原研修会」

食支援プラットフォーム形成後の変化

食支援プラットフォーム形成のねらいと具体的な流れ

・食支援プラットフォーム形成前の課題

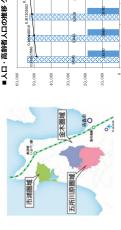
地域の特性

• 社会福祉協議会- 市地域包括支援課の紹介

五所川原市の概要

回

## 五所川原市の概



本市は、中成17年3月、五所川原市・金木 市・浦井付の3市町村が新設合併して誕生 しました。 津軽半島のほぼ中央郎に位置する五所川 東産半島のほぼ中央の北西部にあって 日本第に面する市浦地域からなり、県内40 市町内の中で6番目の広さです。

## ■人口・高齢者人口の推移 グラフ (市全体)

総人口 50,869人 (R5.9.30) 高齢者単独世帯 3,359世帯 (28.8%) 高齢者単独世帯 2,359世帯 (28.8%) 高齢者夫婦世帯 2,781世帯 (23.8%) 一人暮らし高齢者 3,522人 認知症高齢者 (推計) 3,463人 65歳以上の就業者 4,497人 、D ==高齢者人D --高齢化率 [住民基本台帳:各年9月30日現在]

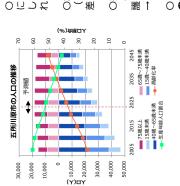
7

食事会を抱き合せることにより、男性の参加者も増えるし、孤食の方の楽しみもできる。 食生活改善推進員にも協力してもらう。 1名(社会福祉士) 議会委託 6名 3・民間 3名) 子育て支援課 地域包括支援事業の実施 地域包括ケアシステムの推進・深化 福祉政策課 介護福祉課 〇生活支援コーディネーター 第1層 地域包括支援課内配置 第2層 五所川原市社会福祉協 -福祉部 生活応援課 五所川原市社会福祉協議会

# 社会福祉協議会・市福祉部地域包括支援課の紹介



## 縮む地域社会 少子高齢化、人口減少が加速、



○市の人口は、令和22年まで年々減少し続け、高齢化率特に、**高齢者単独世帯や高齢者夫婦世帯の比率は、大幅に増加**している。◆高齢者が孤立せず、社会との接点を持ち続けられるよう今後の支援が重要となっている。

○**地域の問題の多様化・深刻化・潜在化** (多様な価値観、多様な住まい方、家族の形、所得・健康格 差を背景とした多様な問題)

○担い手不足(人手不足)の問題が深刻

ヘレパー、ケアマネジャー、医師、看護師を含む医療と介護人材の不足と地域住民同士のつながりの希薄化 →ソーシャルキャピタルの脆弱化。 ○人口減少による地方税収の減少、現役世代の社会保障負担 **の増大**などの課題(社会保障の持続可能性の確保)

## トフォーム形成前の課

### トフォーム形成前の課 食支援プラッ

自治体、社会福祉協議会、NPO法人等、地域で活動している<u>「食」をともなう団体が" 点"で活動</u>している。



支援

# 食でしながるプラットフォームづくり五所川原研修会一

「五所川原市内で食にかんする活動を行う団体が情報を共有し合い、ゆるくつながるプラットフォー ム形成のきっかけとなること」を目的に研修会を開催。 報告(平野氏)「本事業の概要と訪問調査から見えてきた 地域の特徴と課題」

**五所川原市がモデル地域**に選ばれ、自治体内における食を通した実践活動をヒアリングを受ける。 車層的な関係図を明示、課題が明らかとなった。

ー人形成のなのにイ厚

トレメ

般社団法人 全国食支援活動協力会

<mark>明らかとなった課題</mark> ◆生活支援体制整備事業が**生活支援コーディネーターに活動に対する迷いが生じて滞留している**現状がある。 ◆自治体、社会福祉協議会、NPO法人等、地域で活動している**「食」をともなう団体が"点"で活動している。** 

資源のマッチング



地域の

②食を通じて多世代が集う居場所、 持続可能な運営と成長

①食や居場所に関する団体が情報共有や連携を行うこ

とができる。

つながりをつくる。

企業 (黒滝氏)





2023年11月21日 「食でつながるプラットフォームづくり五所川原研修会」開催

**ワークショップ** 60分 「食でつながるブラットフォームをつくるためには」

# 「食でつながるプラットフォームづくり五所川原研修会」

### 市役所・社協が行っている高齢者の居場所作り、各サロンでの活動事例、地域で先頭に立つ人材がいる事が総続に繋がっていると感じた 「これから自分たちのところで何かできることがないかをみんなで話しあって いきたいと 思います。」 「色々な取り組みを更に組み合かせることで、もっと効果的に事業を展開して いける可能性を感じた。」と思うきっかけになった。 **地域のネットワーク作り、地域運営組織の必要性**について考えさせられました。また、後方支援のタイミングについて知ることができました。 **自分達で何かできることを考えて行動してみる**事が大事なのではないか*と* 思いました。 各地域で皆様が頑張っている様子を知ることができて良 E 参加者数:55名 12名 4名 5名 4名 842 5名 3名 允 12名 2名 アクティブシニアボラン ティア 在宅介護支援センター 市長・秘書等 食生活改善推進員 自治体職員 結果 社協職員 民生委員 民間企業 活動団体

地域社会の活性化への関心や支援、地域コミニティ内での協力や連携の重要性について、 それぞれの活動事例から学びが得られていた。

# 食支援プラットフォーム形成後の変化

## をともなう団体が"線"になった。



**考察** 今回、全国食支援活動協力会との関わりを通じて、五所川原市内の食に関心のある人が集い、情報共有と議論をすることにより、地域にある、人、物、情報、ネットワークなど、点在していた資源が結束し、横のゆるいつながり(食支援ブラットフォーム)ができた。食を通じた居場所は、少子高齢化、担い手不足などの地域課題解決に役立つと考えられた。

# 「食でつながるプラットフォームづくり五所川原研修会」結果

### 主催者側が感じた感想 結 無

所川原市社会福祉協議会より、およいの大阪により、プロのにアリンクや研修会を通し、五所川原市社会福祉協議会より、お米とかぼちゃの提供をいただけ、支援と協力が強化され、より持続可能な居場所づくりになってキャッド・\* 「お昼ごはんの会」「通いの場(サロン)」について "食"を通じた事業(場の設定)で、住民は笑顔となり、今回のヒアリングや研修会を通し、 持続可能な居場所づくりになってきたと感じる。

また、市役所、社協、地域ボランティア、民生委員、町内会、保健協力員、食生活改善推進員など、それぞれの役割と活動を情報共有できたことで額の見える関係が築かれ、地域ネットワー クの構築と、今後の連携に手応えを感じた。 ○今回、多様な食に関心のある方が集まり、**地域で食に関する活動を展開していくための熱意や** 意欲、ノウハウを持ち合わせた人材の発掘(人的資源発掘)の機会となった。

○第1層生活支援コーディネーター(包括職員)より 「地域住民全てを把握することは難しいが、昼食会を通して、各地区のキーとなる人とつながりを持つことができた地区も多くあり、事業の目的としていた地域住民の外出の機会や交流のきっかけづくり、通いの場の立ち上げ等だけでなく、第1層SC(包括職員)としてもつながりを持つことができたことも、事業の成果として実感した」と話しており、自信につながっていた。

10

**EMPOWERMENT** 

# 食支援プラットフォーム形成後の変化

★多様な職種や団体と食に関する活動状況を共有することで、**地域内での食に関する点の活動が線となり**、地域全体のゆるくつながるブラット フォームの基盤が形成された。

★今回の研修会を通し、市役所(第1層生活支援コーディネーター)、 社協、地域ボランティア、民生委員、町内会、保健協力員、食生活改善 推進員など、それぞれが横の連携をとり、協働しながら、多世代が交流 し、笑顔になれる場所 (食を通した参世代交流の場)の必要性について 共通認識を持つことができ、今後の地域活動において発展していくこと が期待される。



### 今後の展開

keyword: Well-being 作のアジョン

「市民が元気で夢や生きがいを持ち、幸福を感じ、住み続けたいと思う地域社会の実現」に向け、「食」の魅力を生かしたつながりづくりをすることで、地域が力を合わせて幸せと笑顔あふれる五所川原を目指していく。



び清聴ありがとうびざいました。

令和5年度 老人保健事業推進費等補助金 老人保健健康増進等事業 協議体を中心とした食支援プラットフォーム形成に関する調査研究事業 報告書

令和6年3月発行

内容照会先 一般社団法人全国食支援活動協力会

〒158-0098 東京都世田谷区上用賀 6-19-21

TEL 03-5426-2547

FAX 03-5426-2548

Email infomow@mow.jp

URL https://mow.jp/